

昼間人口の区内の活動と意識に係る
アンケート調査報告書

令和4年（2022年）3月

港区政策創造研究所
（企画経営部）

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

はじめに

新型コロナウイルス感染症による影響は我が国の国民生活全般に多大な影響をもたらしています。港区においても、感染対策の観点から密と接触を回避することが求められているため、在宅勤務の普及や外出自粛などにより、区内で活動する人々の規模（滞在人口）は減少しています。こうした状況が継続すると、港区の都市としての魅力や競争力にも悪影響が懸念されることから、令和2年度、港区政策創造研究所と森記念財団都市戦略研究所は、共同研究として、月次データを活用したコロナ禍による定住人口、滞在人口からなる人の動きと、それによる都市機能への影響を明らかにしました。

本報告書は、その研究成果を引き継いで、こうした動向の詳細と各主体の意識と行動変化の要因を分析するため、令和3年度に事業所、昼間人口、定住人口への意識と行動の実態把握を行った結果を分析し取りまとめたものです。

この研究結果により、区内事業所の活動への影響が大きく、宿泊・飲食業に特に強い影響が出ていること、テレワークが区内事業所に普及しており、コロナ禍収束後に毎日出社を想定している区内の事務所が半数を下回ること、コロナ禍により区民の居住地選択要因において買い物環境、医療機関、治安、通信環境などの重視度が高まっていることなどが明らかとなり、今後のまちづくりにおける様々な示唆が得られました。

テレワークや消費行動のオンライン化など、新型コロナウイルス感染症の影響による人々の生活スタイルの変化はコロナ収束後も一定程度定着する可能性が高く、今後はその影響を踏まえたまちづくりが求められると考えられます。

本調査の結果が、区民や区内で活動する事業者、各種団体など、港区に関わる方々が今後の地域における暮らしやさまざまな活動のあり方を検討する際の一助となれば幸いです。

港区政策創造研究所

所長 大塚 敬

森記念財団 都市戦略研究所 業務担当理事 市川宏雄

目 次

I 調査の概要

1 背景と目的

(1) 各章の背景と目的	1
--------------------	---

2 分析データ

(1) 調査項目	2
----------------	---

(2) 調査実施概要	3
------------------	---

(3) 実施時期	3
----------------	---

(4) 調査対象	3
----------------	---

3 回答者の属性

(1) 性別	4
--------------	---

(2) 年代	4
--------------	---

(3) 雇用形態	5
----------------	---

(4) 世帯員数	5
----------------	---

(5) 世帯内の収支状況の変化	6
-----------------------	---

II 調査結果

1 港区のイメージに関する評価（問 1-1～1-2）

(1) 基本集計結果	7
------------------	---

(2) クロス集計結果	11
-------------------	----

(3) 詳細分析	51
----------------	----

2 引越し可能性と引越しのきっかけ、居住地選択要因の変化（問2-1～問2-2）

(1) 基本集計結果	60
------------------	----

(2) クロス集計結果	66
-------------------	----

(3) 詳細分析	122
----------------	-----

3 港区への来訪頻度（問 3-1～3-3）

(1) 基本集計結果	126
------------------	-----

(2) クロス集計結果	129
-------------------	-----

(3) 詳細分析	164
----------------	-----

4 在宅勤務の動向（問4）

(1) 基本集計結果	168
------------------	-----

(2) クロス集計結果	171
-------------------	-----

(3) 詳細分析	181
----------------	-----

III 昼間人口の動向を踏まえた今後の政策的課題

.....	184
-------	-----

IV 自由記述による回答

.....	185
-------	-----

V	分析手法の解説	
1	平均値の有意差の有無を確認する手法 (t 検定)	187
2	重回帰分析	187
3	因子分析	188
VI	引用・参考文献	
		190
VII	資料	
		191

I 調査の概要

1 背景と目的

(1) 各章の背景と目的

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえたまちづくりのための基礎資料の提供

新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の影響により、港区の昼間人口は質的、量的に大きく変化した。本調査は、こうした変化に的確に対応したまちづくりを進めるため、港区の昼間人口に係る港区への来訪行動や港区のイメージ、在宅勤務の動向、引越し意向など、港区に影響を与える行動や意識の変化と今後の動向を把握し、課題と対応の方向性を検討することを目的として実施した。

昼間人口の抱く港区のイメージを明らかにし、定住人口と比較

感染症の流行に伴い、港区のイメージが変化している可能性があることから、昼間人口の抱く港区のイメージの構造を明らかにする。その際、定住人口の抱く港区のイメージの構造との比較も併せて行う。

なお、定住人口の動向については、令和3（2021）年に港区政策創造研究所が実施した「人口変動要因等に関する定点観測調査」の調査結果を使用した。

「参考」 「人口変動要因等に関する定点観測調査」の概要

1 調査の名称

人口変動要因等に関する定点観測調査

2 調査の実施主体

調査の主体は、港区政策創造研究所であり、調査の設計は港区政策創造研究所において行った。

3 調査の目的

令和元年度に実施した「港区における引越し（転入・転出・転居）に関するアンケート調査」で明らかになった港区における生活環境の問題点や優位性、令和2年度の「港区における人口変動要因等に関するアンケート調査」で明らかになった、競合する他地域との比較による港区の性質を踏まえ、一定期間ごとに同様の設問による調査を実施し、回答傾向の変化を測定することにより、今後の港区の人口動向及び人口の増加傾向を維持するために求められる対応策を分析、検討するための基礎資料とするべく実施。

4 調査の対象および回収数

港区民、600件

5 調査の方法

リサーチ（市場調査）企業が保有する区に在住のインターネットモニターを利用したインターネット調査による。

6 調査票発送日、調査期限及び回答期間

調査票発送日	調査期限（回答期限）	回答期間
令和3（2022）年6月11日	令和3（2022）年6月20日	10日間

昼間人口における引越し意向及びその要因の把握

一極集中であった東京都内の人口は感染症の流行に伴い、転入超過数が大幅に減少している。この背景には、企業における在宅勤務やリモートワークが普及していることから自宅と勤務先の距離がそれほど重要視されなくなったことが影響している可能性が考えられる。

多くの大企業が立地する港区に勤務する人々においても在宅勤務が進み、都市部に居住しなくともこれまで通り勤務できるようになることで住居選択が変化する可能性が考えられる。

そこで、港区へ定期的に来訪する昼間人口を対象に引越しと想定する引越し先、その際に重視度が高まった居住環境などについて把握することとする。

感染症の流行と港区の来訪頻度の関係の把握

令和2（2020）年以降、感染症の感染拡大を防ぐため、一部の地域や一定の期間において、外出を抑制する状況がみられた。外出を抑制されることにより、港区においても昼間人口が減少することとなった。

昼間人口の減少については一般財団法人 森記念財団との令和2（2020）年度の共同研究※の成果から、令和元（2019）年10月の平日10～17時の滞在人口は約110～123万人であったのに対し、令和2（2020）年10月の平日10～17時の滞在人口は約83～93万人で大きく減少していることが明らかになっている。ただし、減少に至った昼間人口の属性については十分に分析できているとは言い難い。

感染症の流行に伴い、港区への来訪回数がどのように変化したのかを明らかにし、さらに感染症の収束後の将来の来訪意向を把握する。それらを踏まえて、今後の港区の昼間人口に対するプロモーション戦略を検討する。

※港区では、互いが有する資源の活用により、感染症の感染拡大に伴う港区への影響を把握・課題の解決に寄与することを目的として、令和2（2022）年12月から、（一財）森記念財団 都市戦略研究所との共同研究を開始している。

感染症の流行に伴う在宅勤務の変化 感染症の流行による新たな潮流「在宅勤務」に着目

感染症の流行により在宅勤務を導入する企業が増加している。在宅勤務の増加は、職場との近接性の重要度に影響を与えることから、引越しに関係がある可能性がある。そこで、新たに昼間人口に対して在宅勤務に対する実状及び今後の動向について確認する。

2 分析データ

（1）調査項目

ア 港区のイメージに関する評価

- ・総合的なイメージ
- ・個別の生活環境に関するイメージ

イ 引越し可能性と引越しのきっかけ、居住地選択要因の変化

- ・今後の引越しの可能性
- ・引越しのきっかけ

- ・ 想定する引越し先
- ・ 感染症の影響により重視度が高まった生活環境

ウ 区への来訪頻度

- ・ 感染症流行前の来訪頻度
- ・ 感染症流行中の来訪頻度
- ・ 感染症流行後の目的別来訪頻度の増減見通し

エ 在宅勤務の動向

- ・ 感染症流行前後の在宅勤務の頻度

(2) 調査実施概要

ア 実施方法

- ・ リサーチ（市場調査）企業が保有する区に在住のインターネットモニターを利用したインターネット調査による。
- ・ 調査の主体は、港区政策創造研究所及び一般財団法人 森記念財団であり、調査の設計等は共同研究の体制のもと行った。

(3) 実施時期

- ・ 令和3（2021）年8月
- ・ 実施時期における感染症の動向として、東京都では新規感染者数の増加傾向は継続しており、8月13日に新規感染者数5,908人で過去最大を記録した時期と重なっている。その後新規感染者数は減少に転じているものの、8月中は高水準が継続していた時期であることに留意が必要である。

(4) 調査対象

- ・ 港区外に居住しており、コロナ前（令和2（2020）年2月以前）又はコロナ禍（令和2（2020）年3月～現在）において港区に1ヶ月に1回以上来訪している20代～70代の男女400人（有効回答370人）

下記の2点のいずれかにあてはまる場合は分析対象外としている。

- 港区に居住している人（定住人口ではなく、昼間人口を対象としているため）
- 港区への来訪頻度について「コロナ前に港区に定期的に港区を訪問することはなかった。」及び「コロナ禍の時期に定期的に港区を訪問することはなかった」の両方を選択した人（「コロナ前に定期的に港区を訪問していたが、コロナ禍の時期には訪問しなかった」というような場合は分析対象とした。）

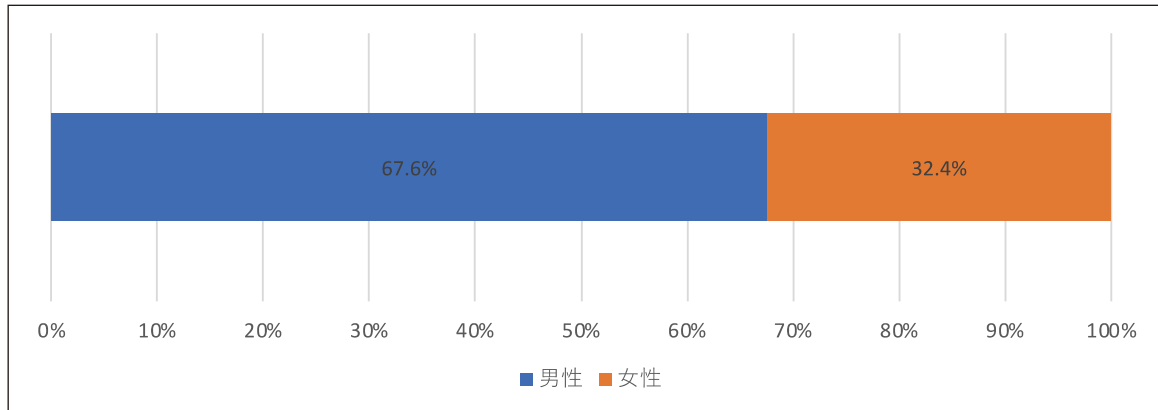
3 回答者の属性

(1) 性別

女性に比較して男性が多い

回答者の性別について男性が67.6%、女性が32.4%で、女性に比較して男性の回答者が多い。

図表 1-1 回答者の性別 (N=370)

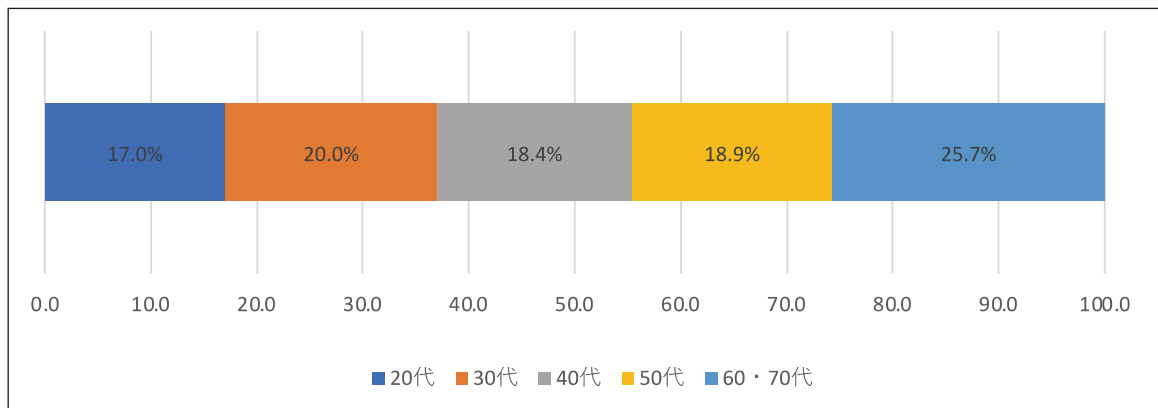


(2) 年代

20代～50代に比較して60・70代がやや多いものの、概ね均等に分布

回答者の年代について、60・70代が25.7%で最も多いが、20代が17.0%、30代が20.0%、40代が18.4%、50代が18.9%であり、概ね均等に分布している。

図表1-2 回答者の年代 (N = 370)

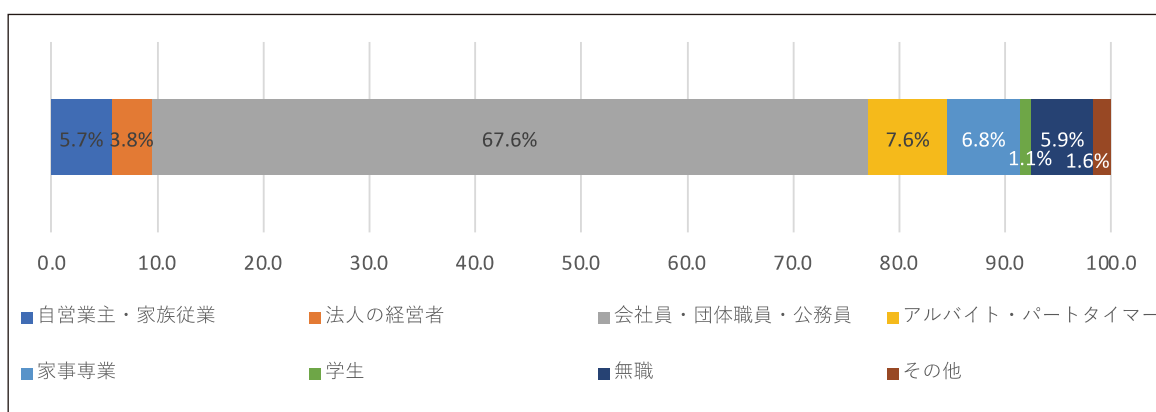


(3) 雇用形態

会社員・団体職員・公務員が67.6%で半数以上を占める

回答者の雇用形態について、「会社員・団体職員・公務員」が67.6%で半数以上を占め、次いで「アルバイト・パートタイマー」7.6%、「家事専業」6.8%、「無職」5.9%、「自営業主・家族従業」5.7%と続く。この他にわずかなが「法人の経営者」3.8%、「学生」1.1%、「その他」1.6%もみられる。

図表1-3 回答者の雇用形態 (N = 370)

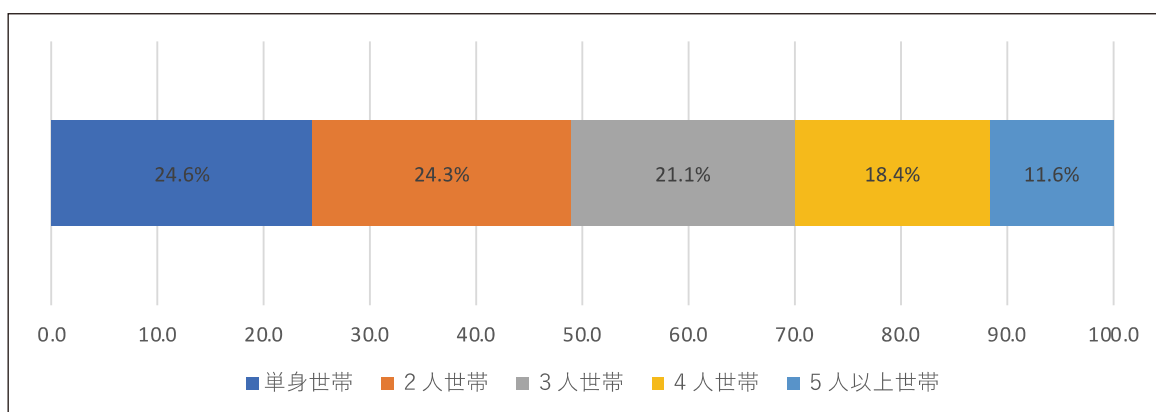


(4) 世帯員数

単身世帯と2人世帯が回答者の半数程度を占める

回答者の同居する世帯員数について、単身世帯が24.6%、2人世帯が24.3%で同等に多く、併せると48.9%で概ね半数を占めている。また、3人世帯21.1%、4人世帯18.4%、5人以上世帯11.6%と世帯員数の多い回答者も一定数みられる。

図表1-4 回答者の世帯員数 (N = 370)



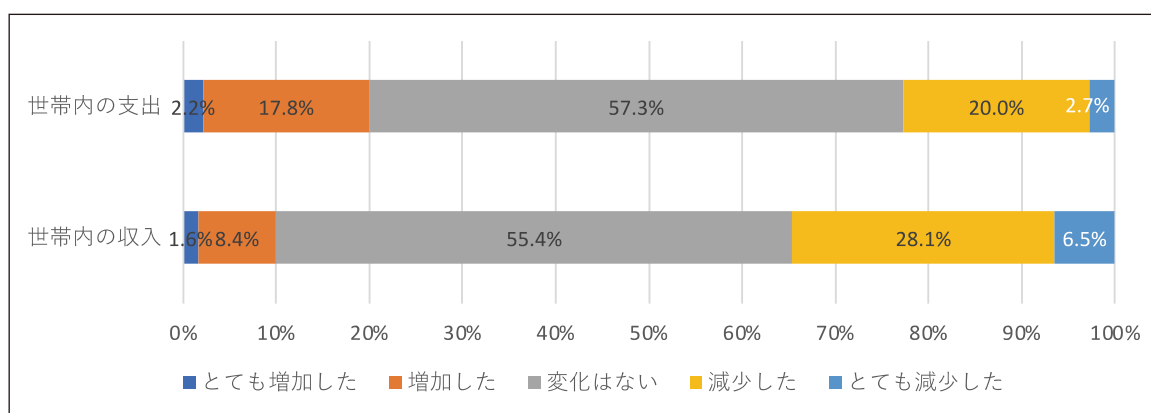
(5) 世帯内の収支状況の変化

支出と収入ともに「変化はない」が半数以上を占め、一部では収入の減少もみられる

回答者に世帯内の収支状況の変化について「感染症の流行以前（令和2（2020）年2月以前）と現在を比較した世帯としての収支状況について収入と支出の変化をそれぞれ選択してください。」と質問し、「とても増加した」から「とても減少した」の選択肢からあてはまるものを選択してもらった。

その結果、支出と収入ともに「変化はない」がそれぞれ57.3%、55.4%で半数以上を占めている。次いで、「減少した」がそれぞれ20.0%、28.1%で多い。感染症の流行に伴い、支出については外出頻度が減少し、交際費等が減少したために支出が減少した回答者がいることが推察され、収入については一部の職種において仕事量が少なくなり、勤務時間数が削られる等の事態に陥っている可能性が考えられる。

図表1-5 回答者の世帯内の収支状況（N = 370）



II 調査結果

1 港区のイメージに関する評価（問1-1～問1-2）

問1-1 あなたの思う「港区」のイメージをお答えください。

1 とてもよい 2 よい 3 どちらとも言えない 4 悪い 5 とても悪い

問1-2 下記の項目について、あなたの抱く港区のイメージをお答えください。

【項目】

1. 住宅価格・家賃の水準、2. 公共交通機関の利便性、3. 道路交通の利便性、4. 防災面における安全性、5. 治安、6. まちのイメージ、7. 景観・街並み、8. 自然の豊かさ、9. 飲食店の充実度、10. 買い物のしやすさ、11. 環境に配慮したまちづくり、12. 地域コミュニティの活動、13. 友人・知人・親族との近接性、14. 通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）、15. IT・先端技術の普及、16. 行政サービスのオンライン化の進展度、17. 子育て支援の充実、18. 教育環境の充実（幼稚園・小学校）、19. 教育環境の充実（中学校）、20. 教育環境の充実（高等学校）、21. 生涯学習の機会の充実、22. 公園の充実、23. スポーツ施設の充実、24. 博物館・美術館など文化施設の充実、25. 医療機関の充実、26. 高齢者・障害者向けの福祉環境の充実、27. 国際性の豊かさ、28. 魅力的な商店街や店舗がある、29. 地場産業が盛んである、30. 歴史的・文化的である、31. 地域の人々のやさしさ、おもてなし、32. 勤務地と居住地の近接性（近さ）、33. 住居における静けさ

1 とてもよい 2 よい 3 どちらとも言えない 4 悪い 5 とても悪い

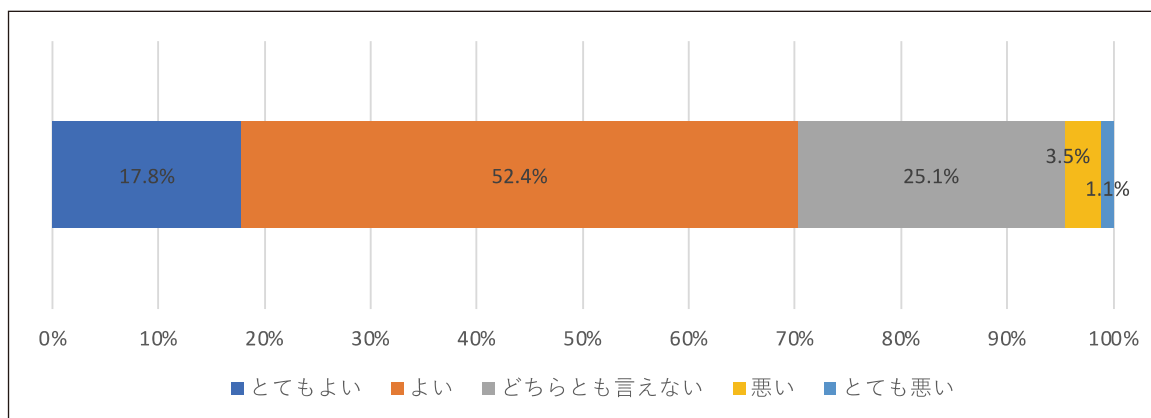
（1）基本集計結果

ア 昼間人口の抱く港区の総合イメージ

昼間人口の港区の総合イメージは「よい」が半数以上

港区の総合イメージは、「よい」が 52.4% で最も多く、次いで「どちらとも言えない」25.1%、「とてもよい」17.8% と続く。「悪い」「とても悪い」は併せても5%に満たず、港区の総合イメージは概ねよいと言える。

図表 2-1-1 港区の総合イメージに対する評価 (N=370)



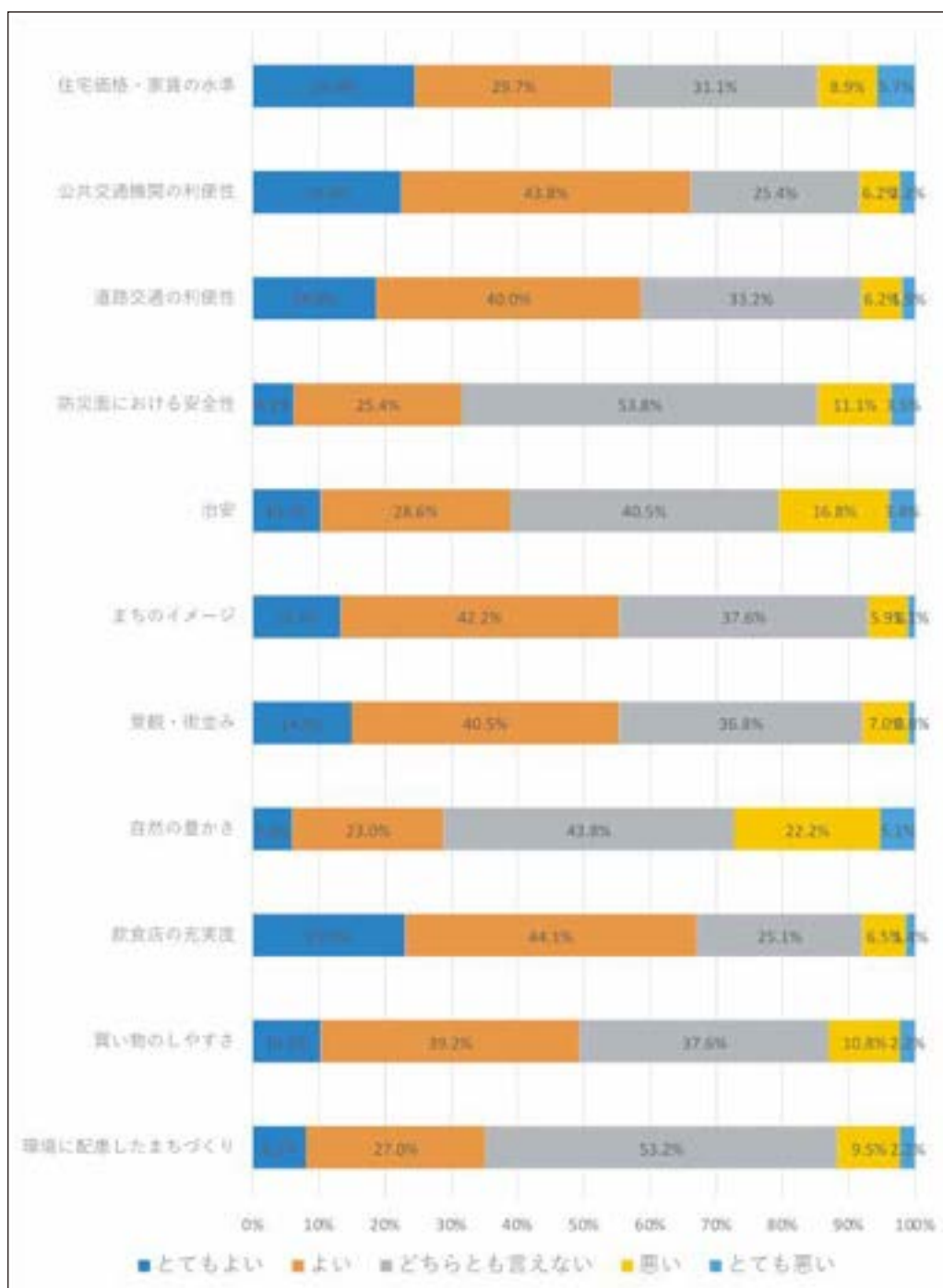
イ 昼間人口の抱く港区の個別イメージ

「住宅価格・家賃の水準」「飲食店の充実」「公共交通機関の利便性」が上位を占める

港区の個別イメージについて「とてもよい」の割合をみると、「住宅価格・家賃の水準」が24.6%で最も高く、「飲食店の充実」23.0%、「公共交通機関の利便性」22.4%と続く。

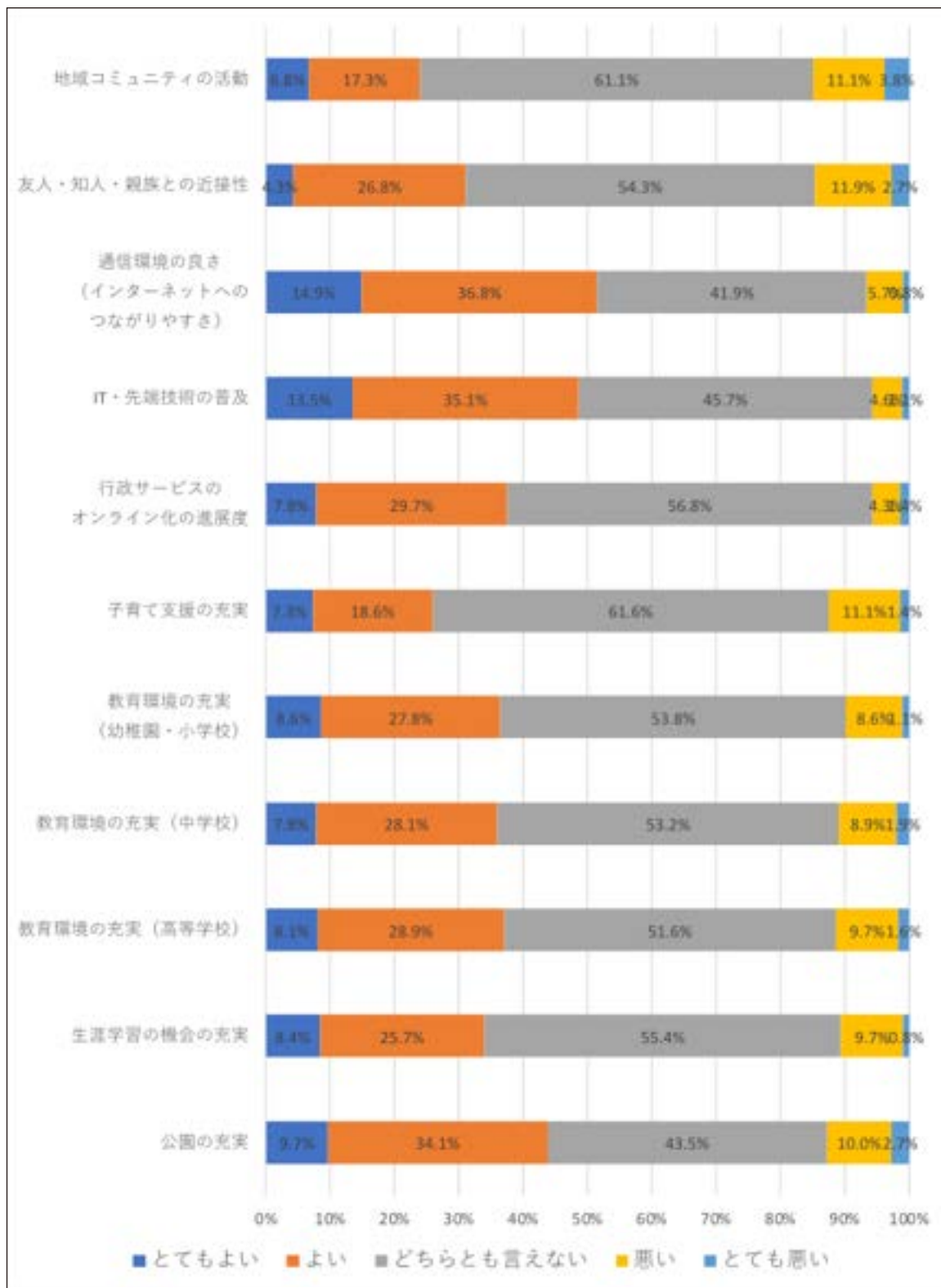
図表2-1-2 港区の個別イメージに対する評価（N＝370）

（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」）



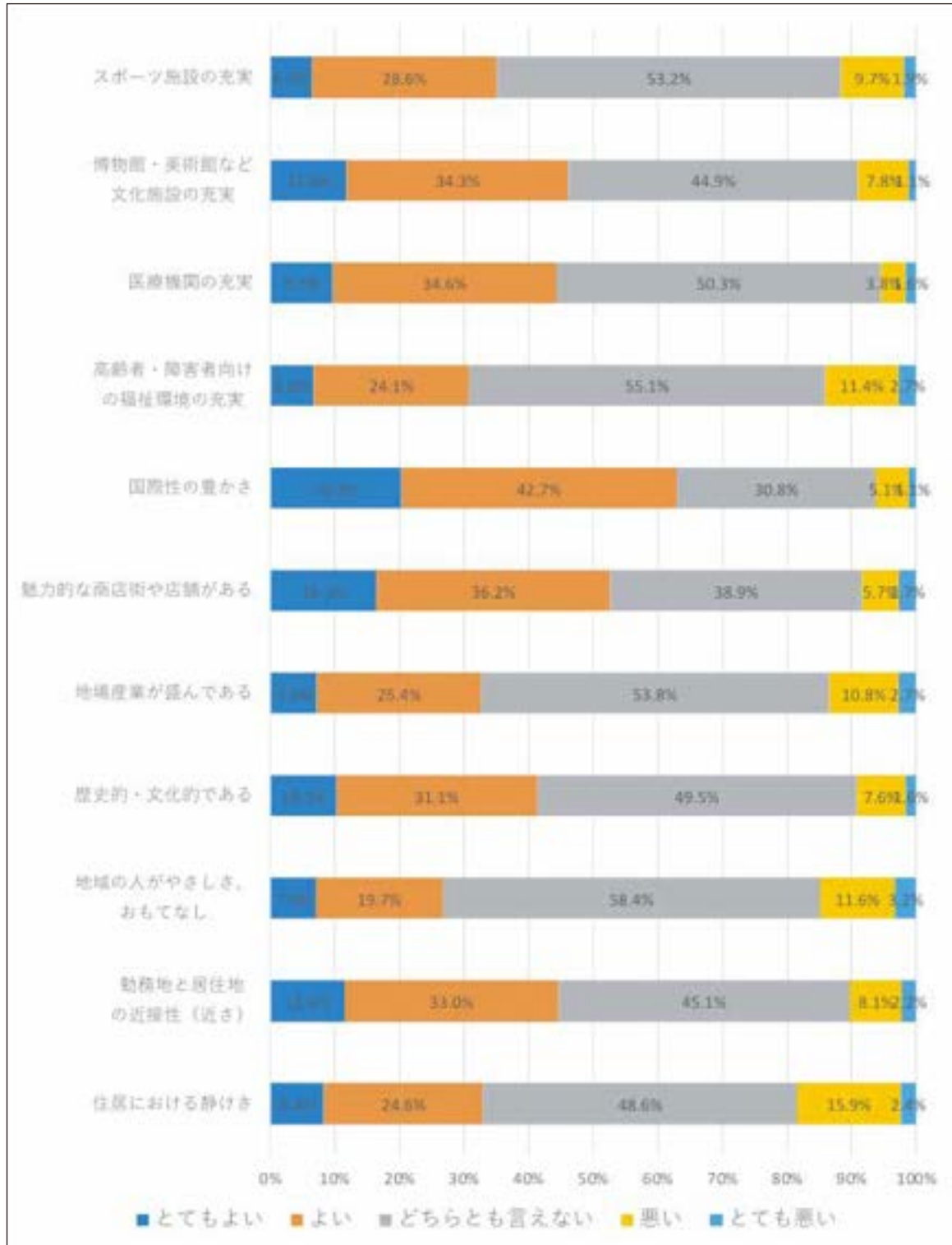
図表2-1-3 港区の個別イメージに対する評価 (N=370)

(「地域コミュニティの活動」「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」「公園の充実」)



図表2-1-4 港区の個別イメージに対する評価 (N=370)

(「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



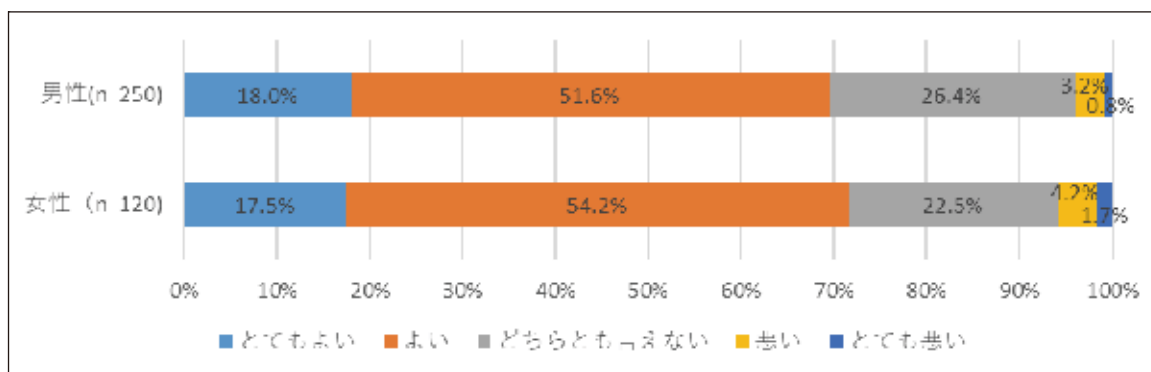
(2) クロス集計結果

ア 港区の総合イメージと回答者属性の関係

性別による総合イメージの違いはほとんどない

性別でみると、男性では「よい」51.6%、「どちらとも言えない」26.4%と続き、女性では「よい」54.2%、「どちらとも言えない」22.5%と続いたことから、性別による違いはほとんどない。

図表2-1-5 男女別にみた港区の総合イメージに対する評価

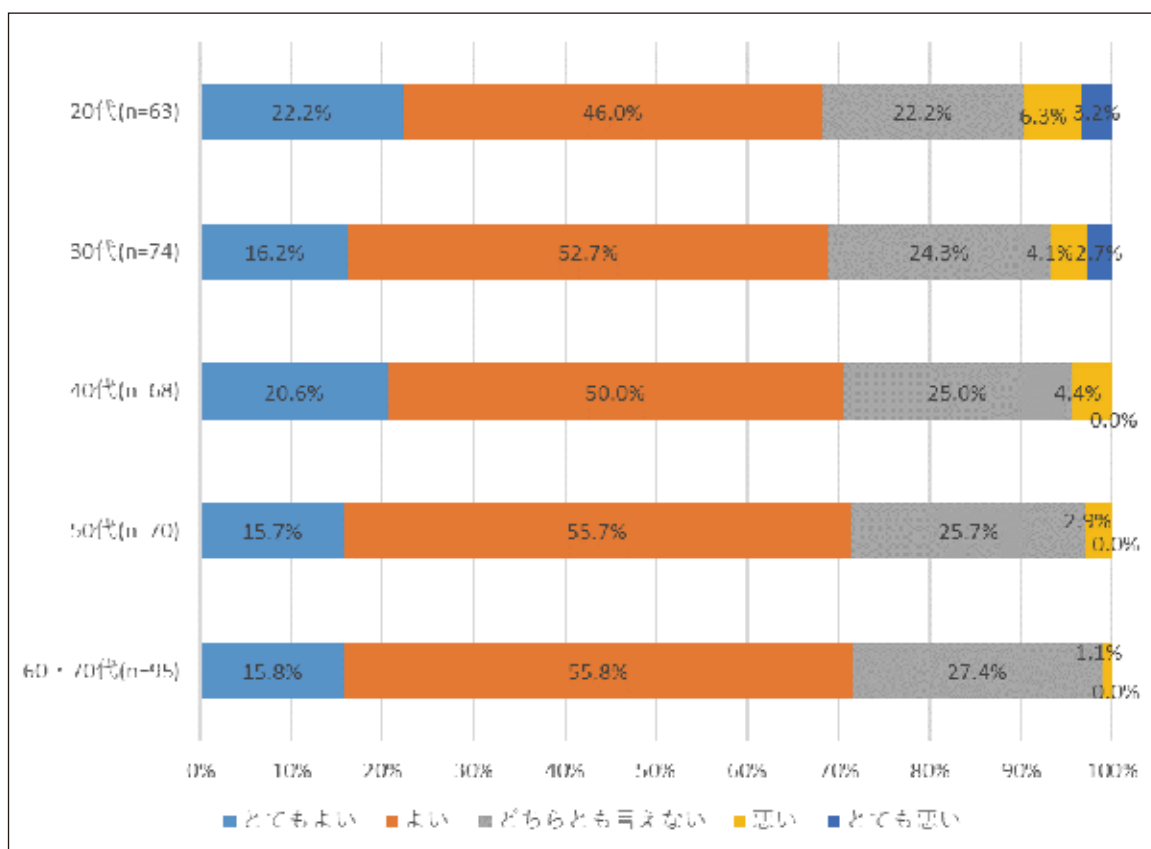


高年齢層ほど悪いイメージの割合が低い

すべての年代で「よい」の割合が50%程度で最も高く、「よい」と「とてもよい」を併せると70%程度であることから、港区の総合イメージは年代にかかわらず概ねよいと言える。

一方、「悪い」「とても悪い」をみると、20代では「悪い」6.3%、「とても悪い」3.2%、30代では「悪い」4.1%、「とても悪い」2.7%とわずかながらも一定数みられるが、60・70代では「悪い」1.1%、「とても悪い」0%であり、高年齢層では悪いイメージがほとんどないといえる。

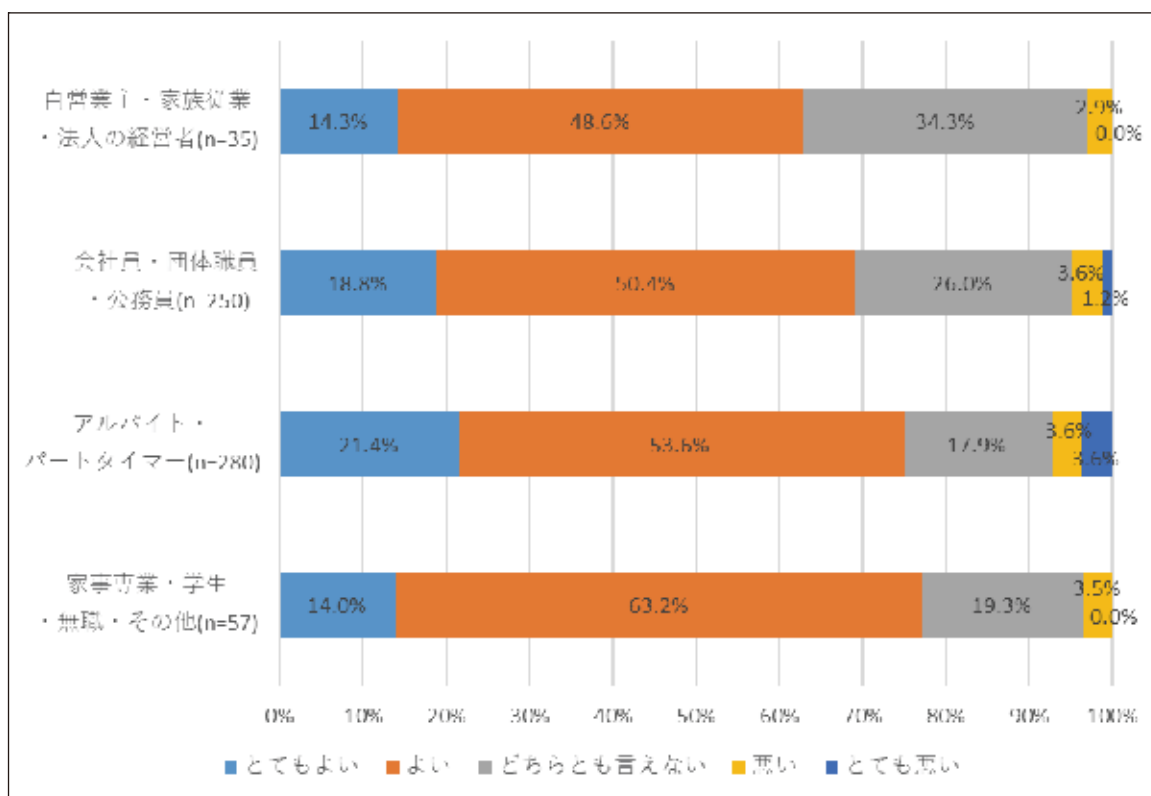
図表2-1-6 年代別にみた港区の総合イメージに対する評価



就業者に比較して、家事専業や学生、無職で港区に対して「よい」イメージの割合が高い

雇用形態別では「家事専業・学生・無職・その他」で「よい」の割合が63.2%で最も高いが、「アルバイト・パートタイマー」では53.6%、「会社員・団体職員・公務員」では50.4%、「自営業主・家族従業員・法人の経営者」では48.6%みられる。このことから、就業者に比較して「家事専業・学生・無職・その他」といった有職ではない人で港区のイメージがよいと評価されている。

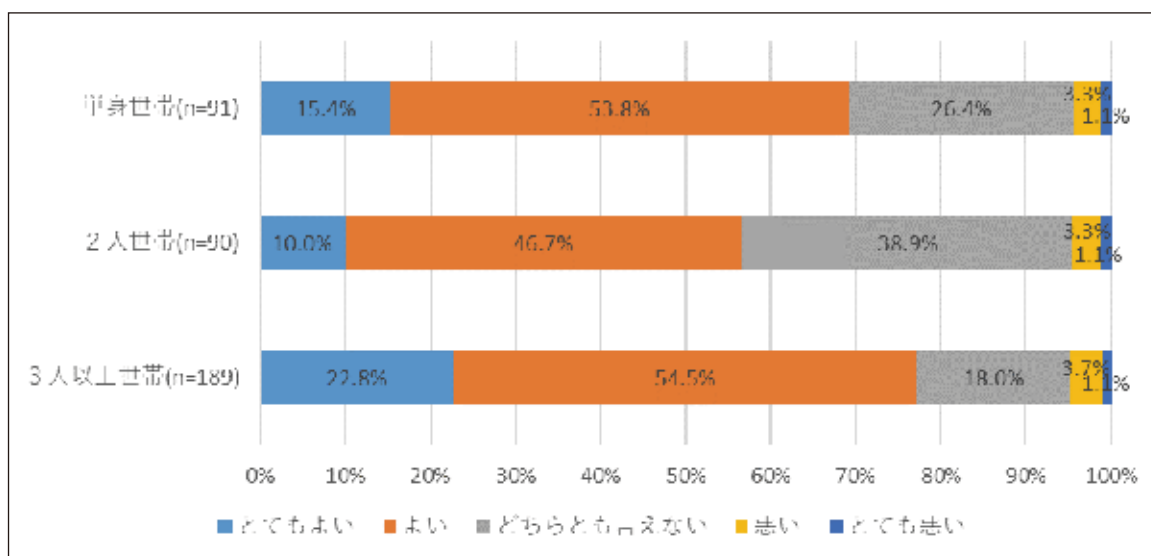
図表2-1-7 雇用形態別にみた港区の総合イメージに対する評価



3人以上世帯と単身世帯でよいイメージの割合が高い

世帯員数別でみると「とてもよい」「よい」を併せた割合が、3人以上世帯で77.3%（22.8%+54.5%）で最も高く、次いで単身世帯で69.1%（15.4%+53.8%）、2人世帯で56.7%（10.0%+46.7%）みられた。

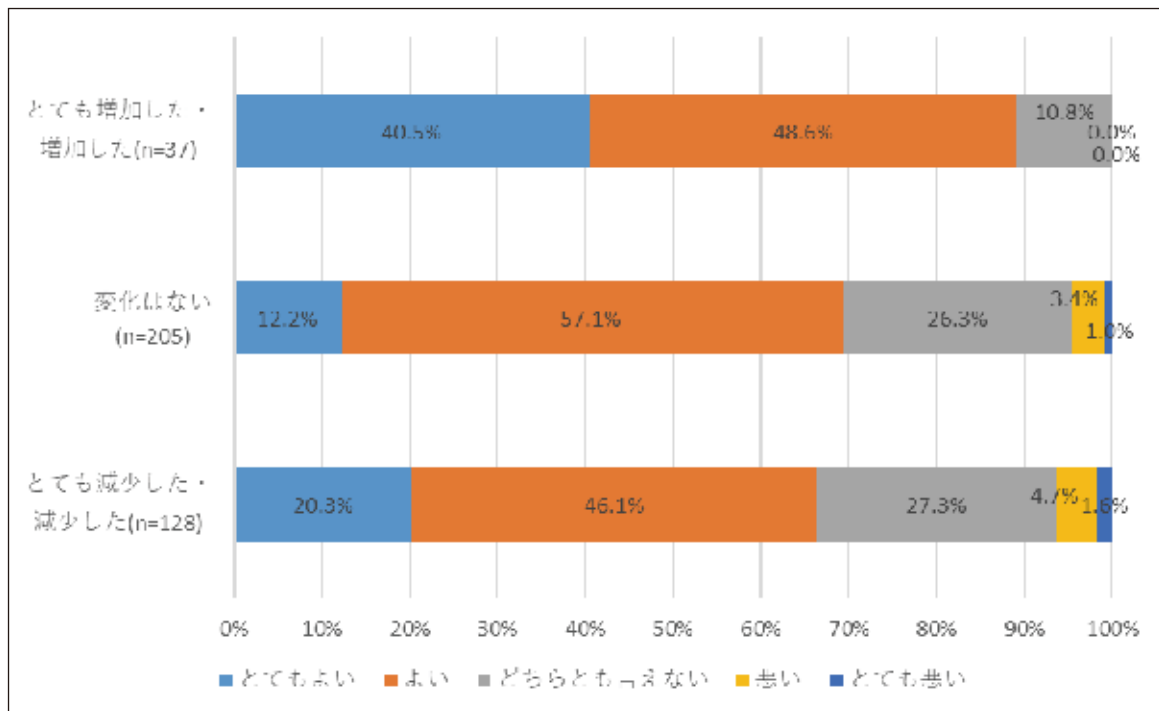
図表2-1-8 世帯員数別にみた港区の総合イメージに対する評価



世帯収入が増加した回答者において港区のよいイメージの割合が高い

コロナ前との世帯収入の変化別でみると、港区のイメージが「とてもよい」「よい」を併せた割合について、世帯収入が増加した回答者では89.1%（40.5%+48.6%）であったのに対し、世帯収入の変化がない回答者では69.3%（12.2%+57.1%）、減少した回答者では66.4%（20.3%+46.1%）であり、世帯収入が増加した回答者はよいイメージを抱いている傾向がある。

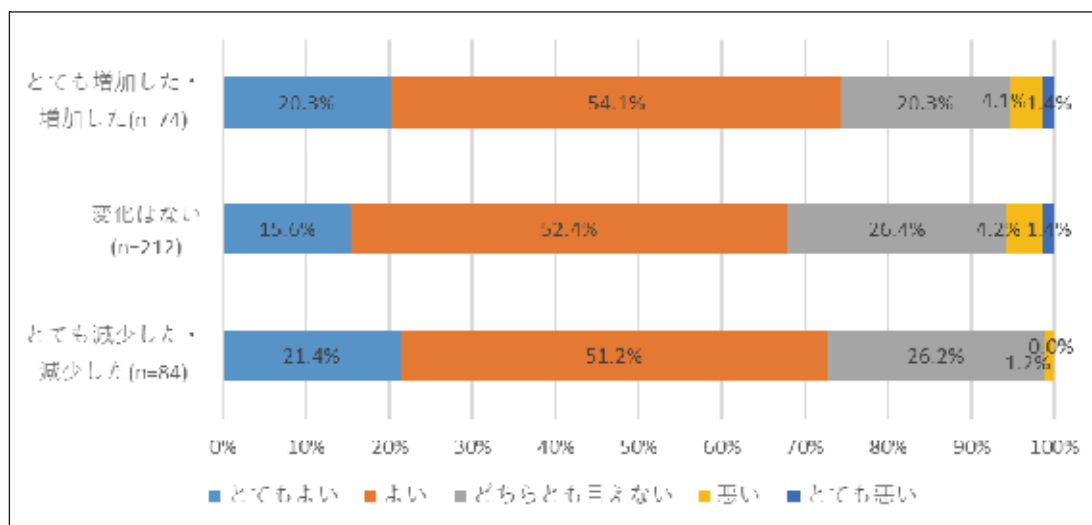
図表2-1-9 世帯収入の変化別にみた港区の総合イメージに対する評価



世帯支出が増加した回答者でよいイメージを抱いている傾向

コロナ前との世帯支出の変化別でみると、港区のイメージが「とてもよい」「よい」を併せた割合について世帯支出が増加した回答者では74.4%（20.3%+54.1%）、変化がない回答者では68.0%（15.6%+52.4%）、減少した回答者では72.6%（21.4%+51.2%）であり、世帯支出が増加した回答者でよいイメージを抱いている傾向がうかがえる。

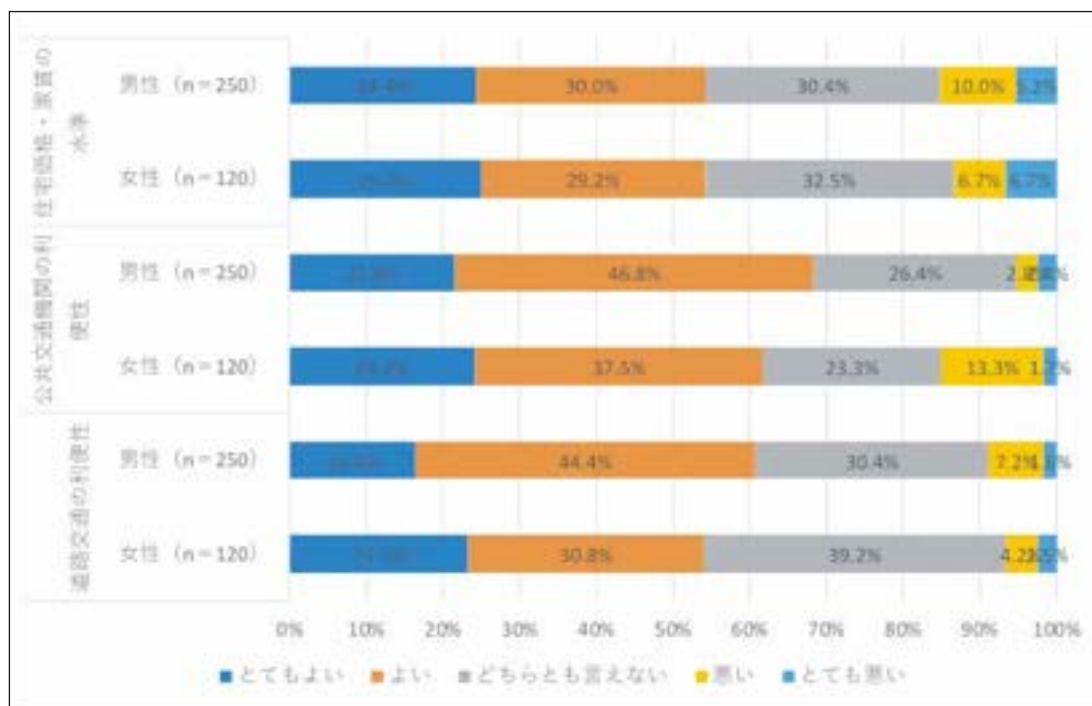
図表2-1-10 世帯支出の変化別にみた港区の総合イメージに対する評価



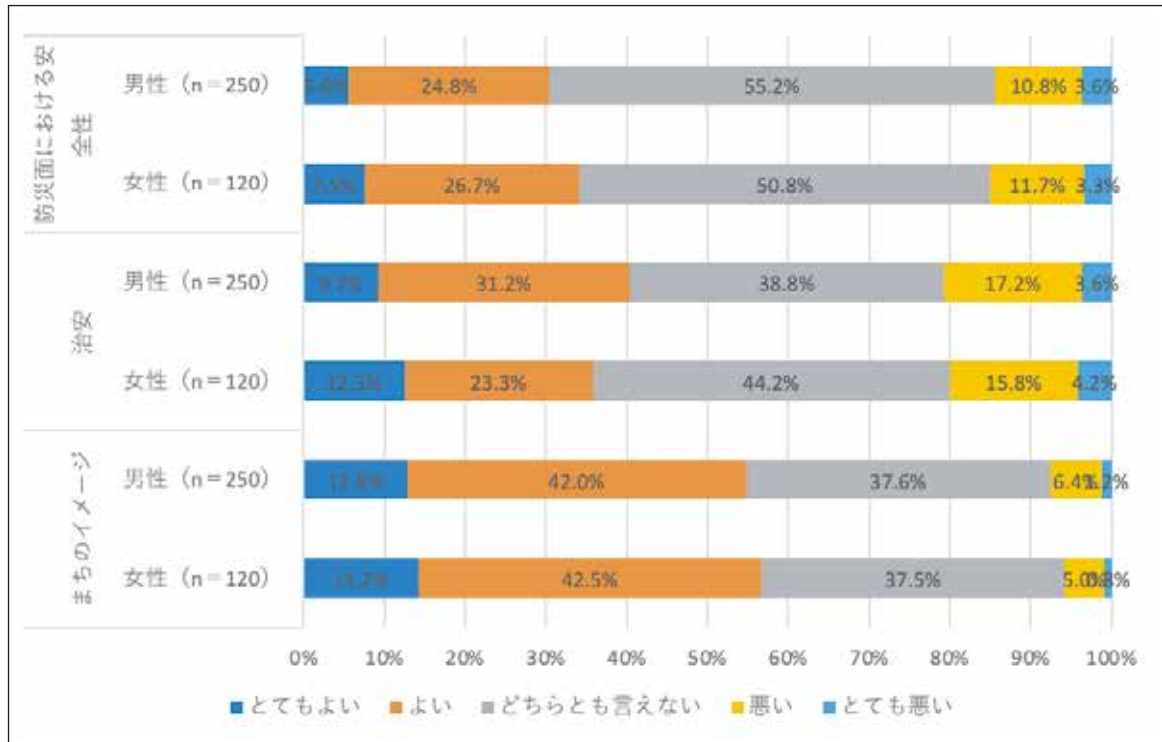
イ 港区の個別イメージと回答者属性の関係

男女別では概ね差は見られないが、飲食店の充実度では女性の評価が高い

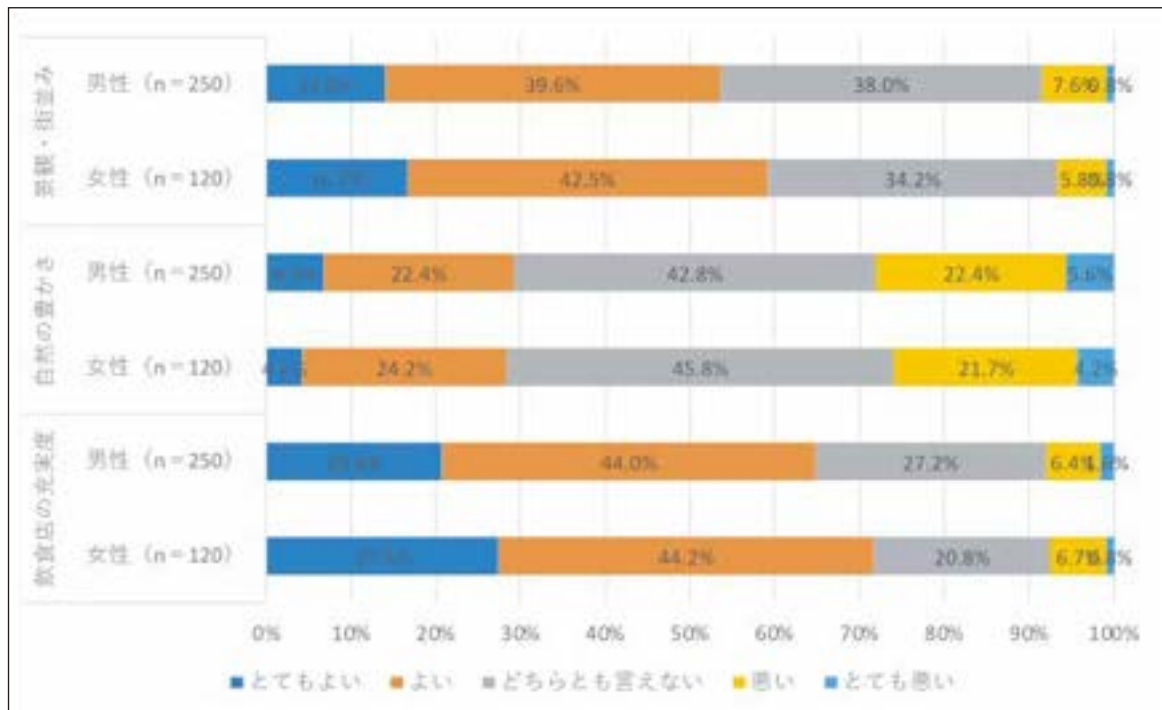
男女別でみると、ほとんどの項目で差がみられない。ただし、図表2-1-13に示した「飲食店の充実度」については、男性の20.8%がとてもよいと感じているのに対し、女性では27.5%であり、6ポイント程度のひらきがみられる。港区の飲食店に対しては男性よりも女性が高く評価していることがうかがえる。

図表2-1-11 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）

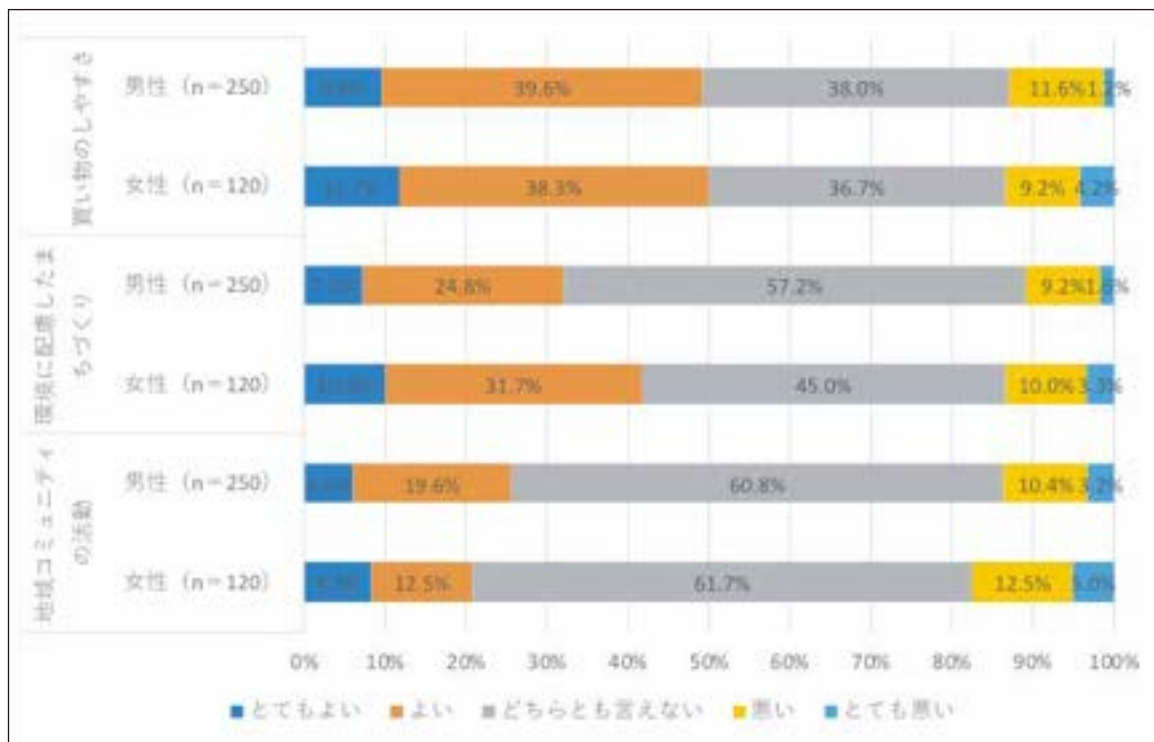
図表2-1-12 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



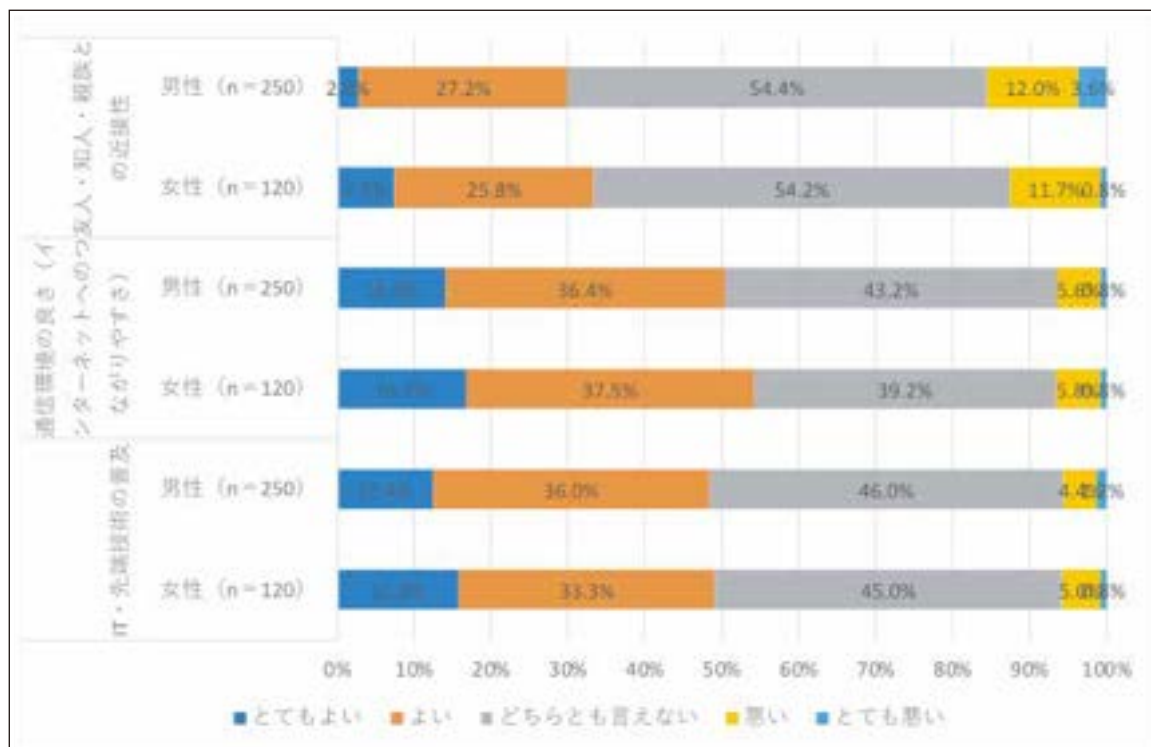
図表2-1-13 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



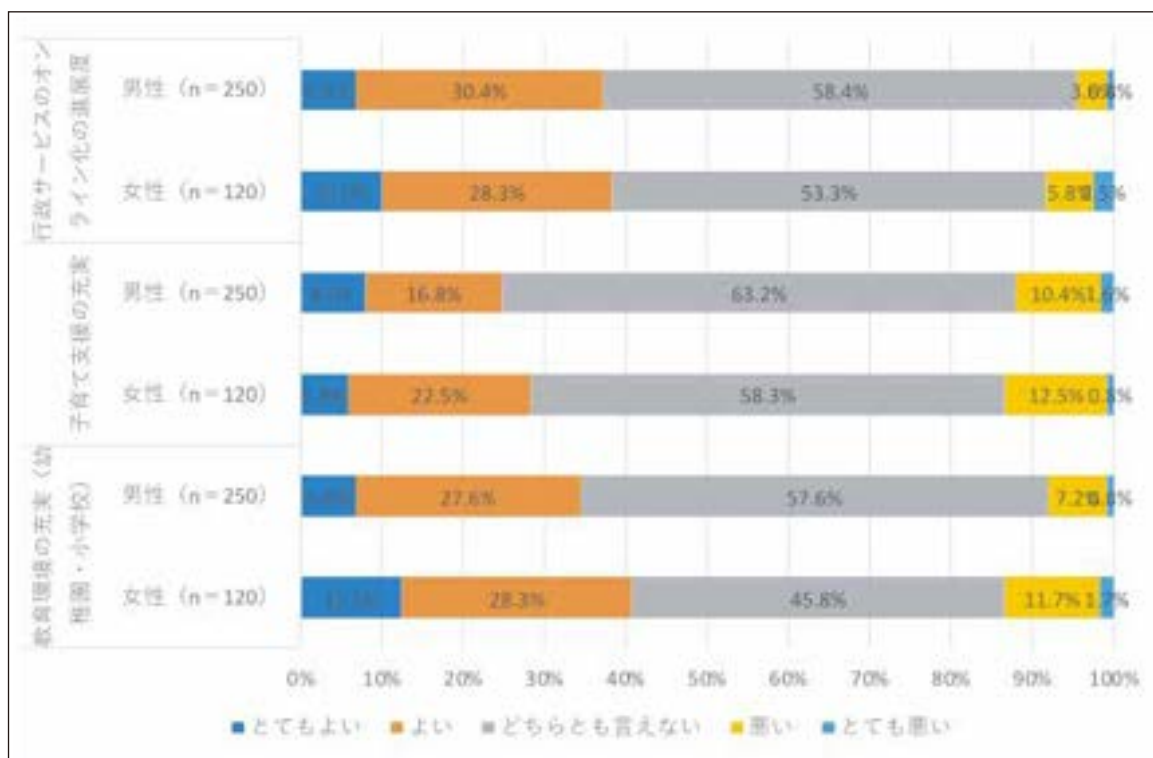
図表2-1-14 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



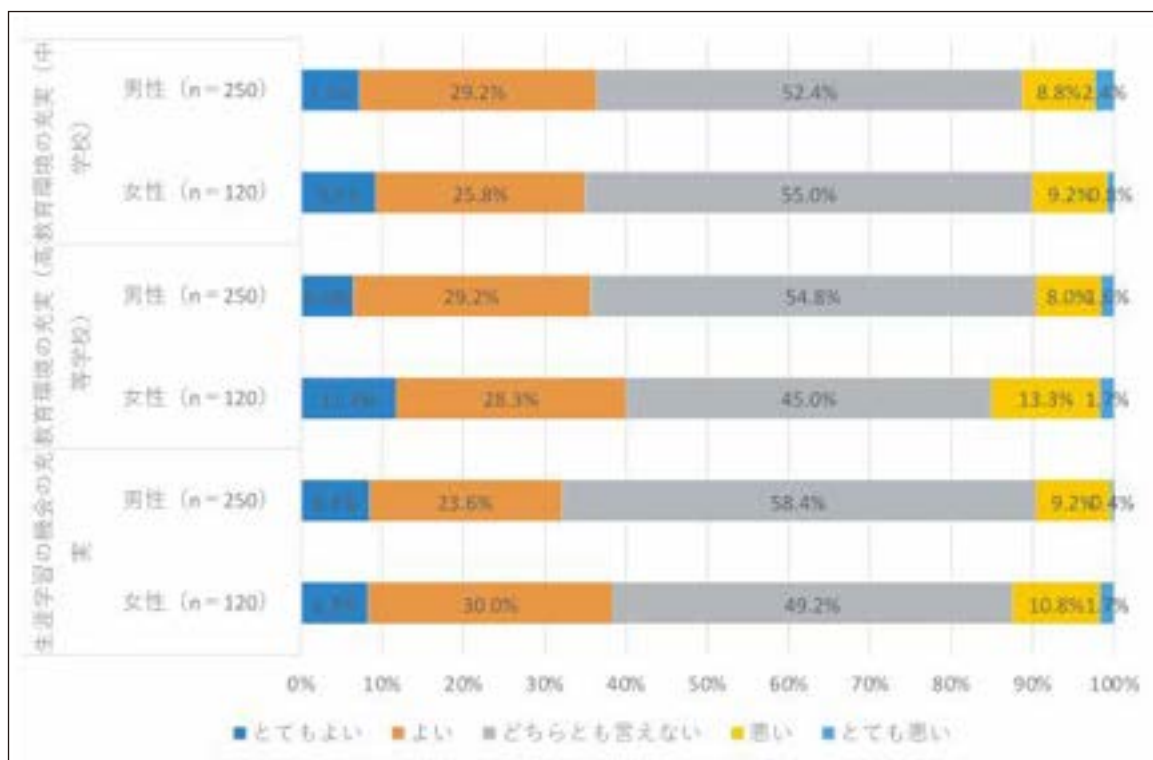
図表2-1-15 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）」「IT・先端技術の普及」)



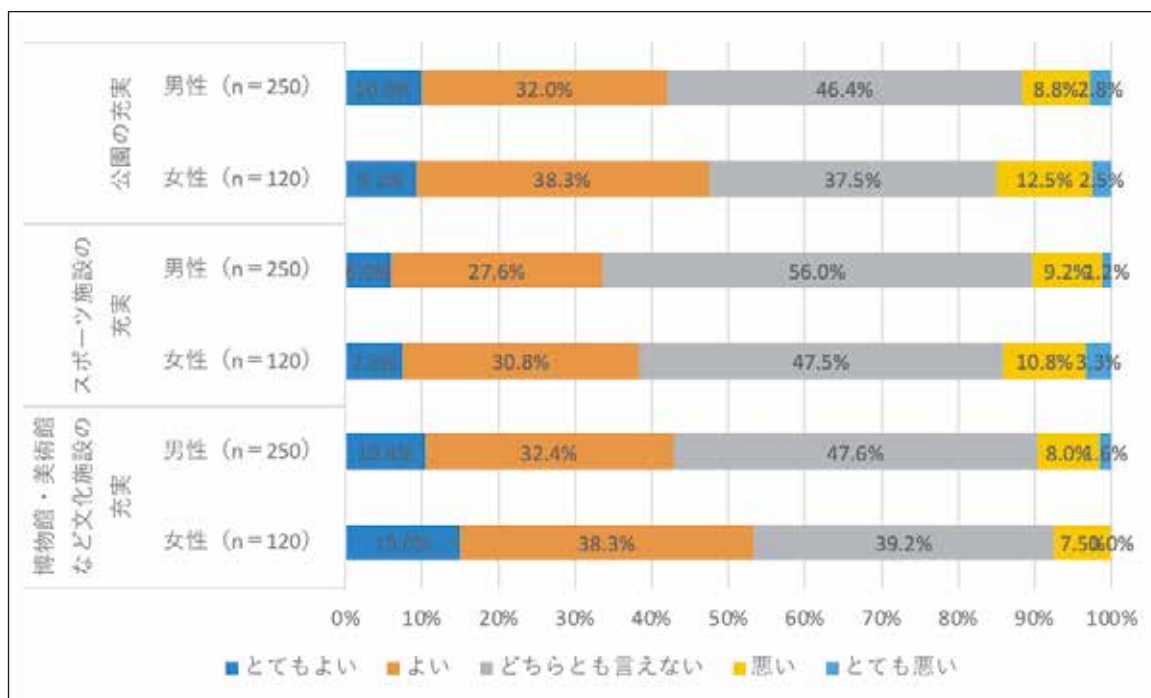
図表2-1-16 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



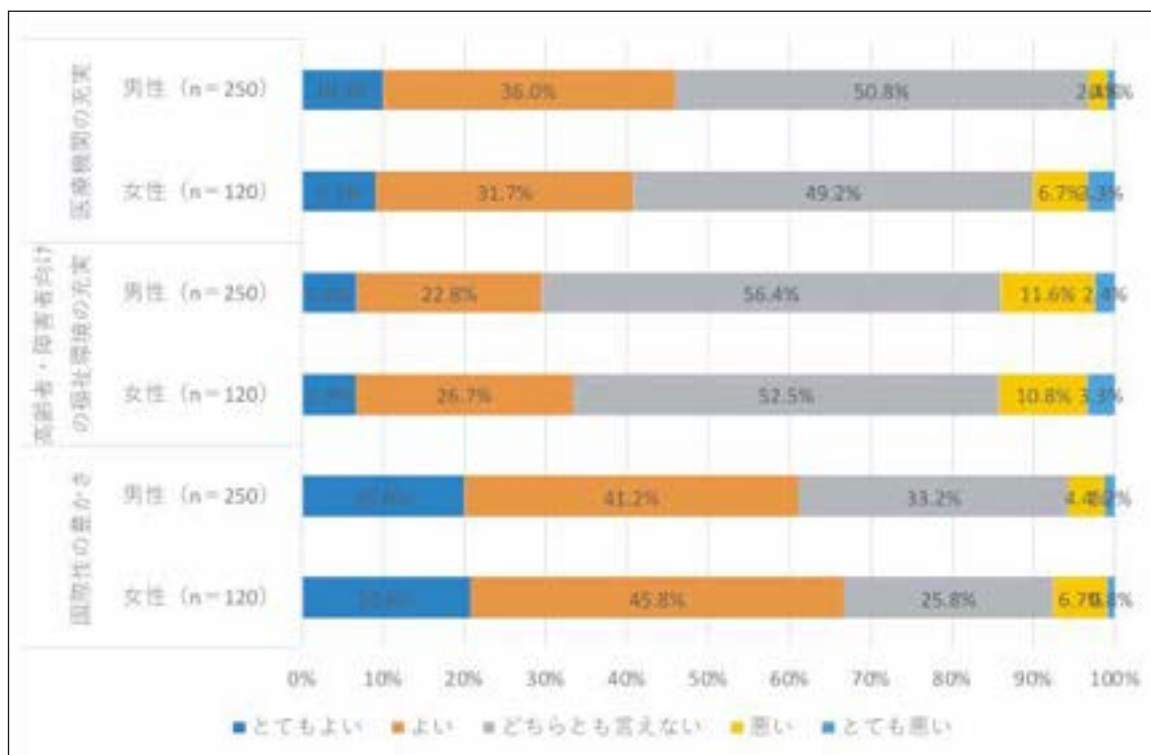
図表2-1-17 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



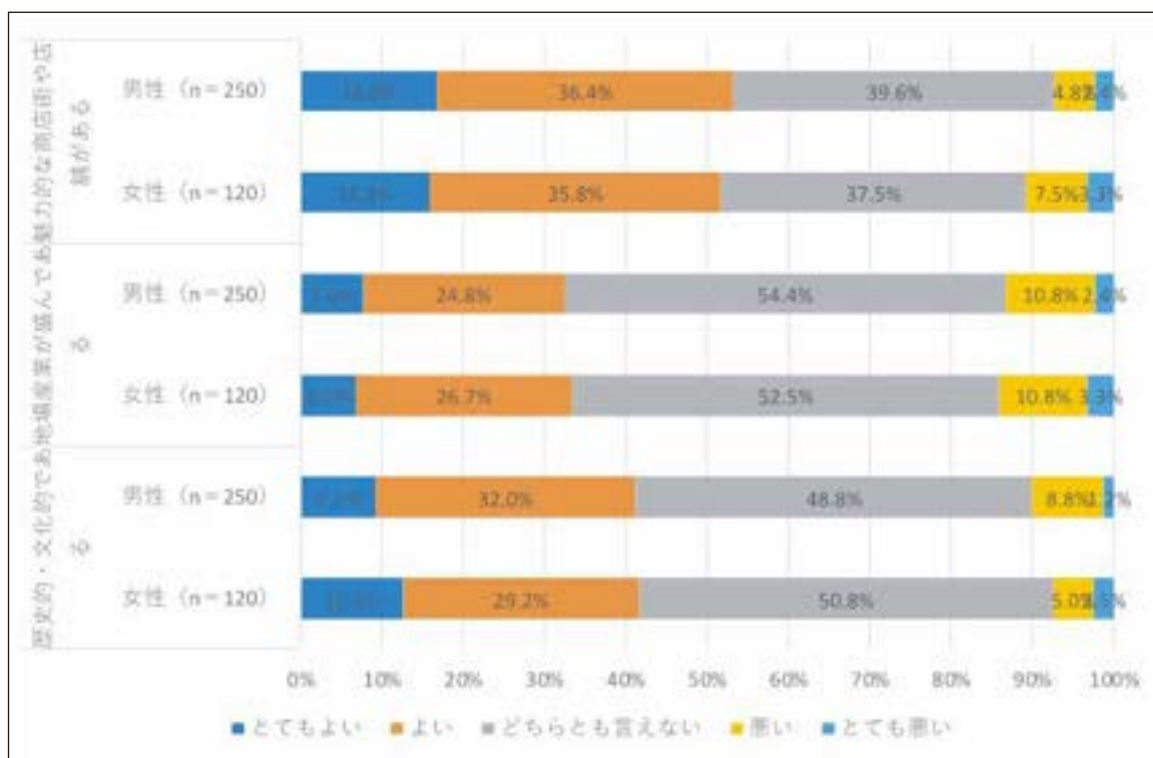
図表2-1-18 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



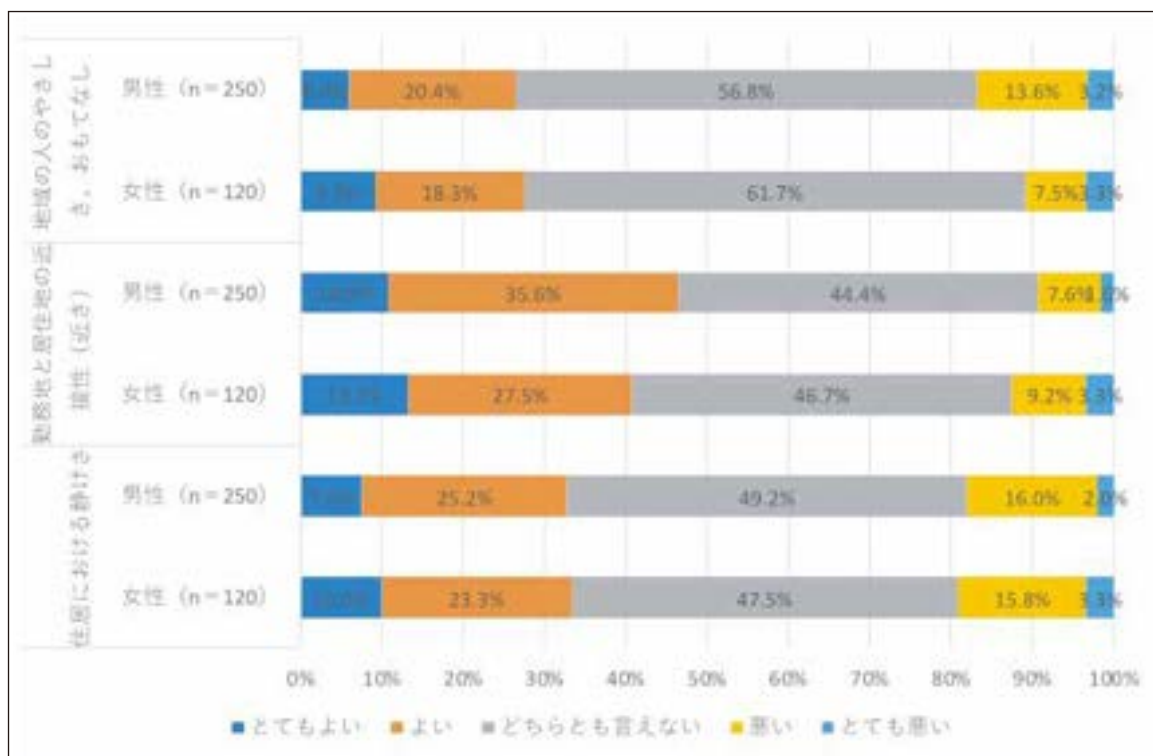
図表2-1-19 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-20 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-1-21 男女別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



「住宅価格・家賃の水準」は若年層、
「飲食店の充実」「公共交通機関の利便性」は高齢層の評価が高い傾向
多くの項目で年代別に評価が異なる

個別の項目について年代別で異なる傾向がみられる。全体でみたときの個別のイメージで、最も評価の高い「住宅価格・家賃の水準」（図表2-1-22）については、20代では「とてもよい（27.0%）」と「よい（38.1%）」を併せると65.1%で半数以上を占めているのに対し、60・70代では「とてもよい（23.2%）」と「よい（24.2%）」を併せると47.4%で半数に満たないことから年代間で差があることが分かる。

次いで評価の高い「飲食店の充実」（図表2-1-24）については、50代が「とてもよい（34.3%）」と「よい（44.3%）」を併せると78.6%で他の年代よりも高い値を示しているのに対し、30代では「とてもよい（16.2%）」と「よい（43.2%）」を併せると59.4%で、前述の「住宅価格・家賃の水準」とは異なり、若年層に比較して高齢層の評価が高いことから、項目別に異なるイメージを抱いていることがうかがえる。

さらに「公共交通機関の利便性」についても、50代が「とてもよい（31.4%）」と「よい（48.6%）」を併せると80.0%で他の年代に比較して高く、30代では「とてもよい（10.8%）」と「よい（40.5%）」を併せると51.3%と評価に差がみられる。

なお、前述の男女別の傾向に比較して年代別では港区の個別のイメージについて傾向が異なるといえる。

図表2-1-22 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



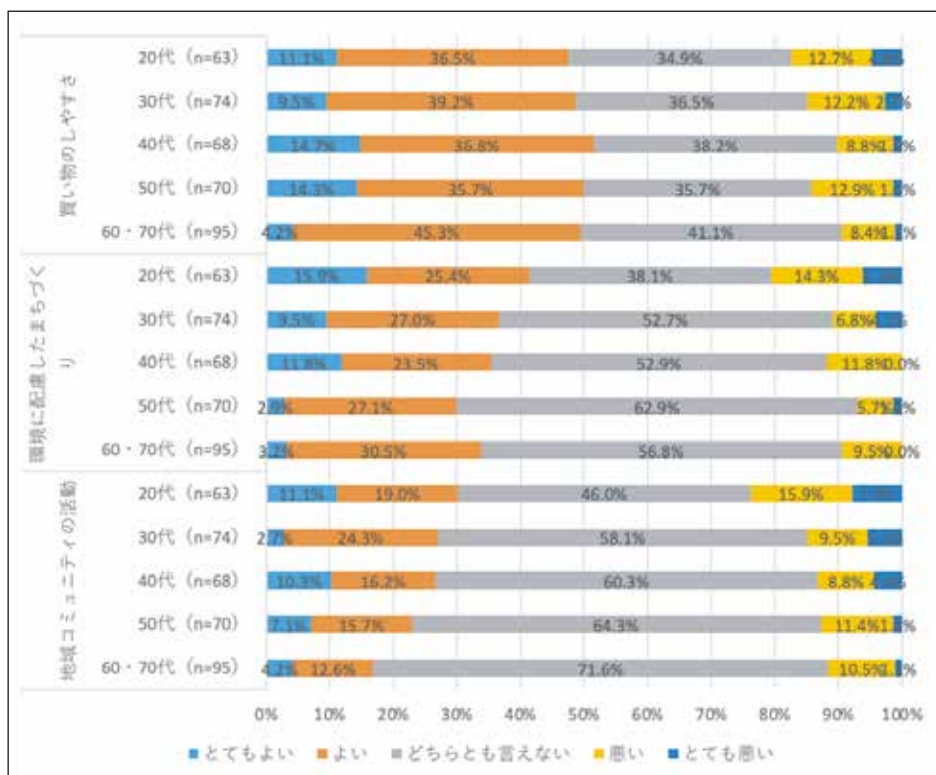
図表2-1-23 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



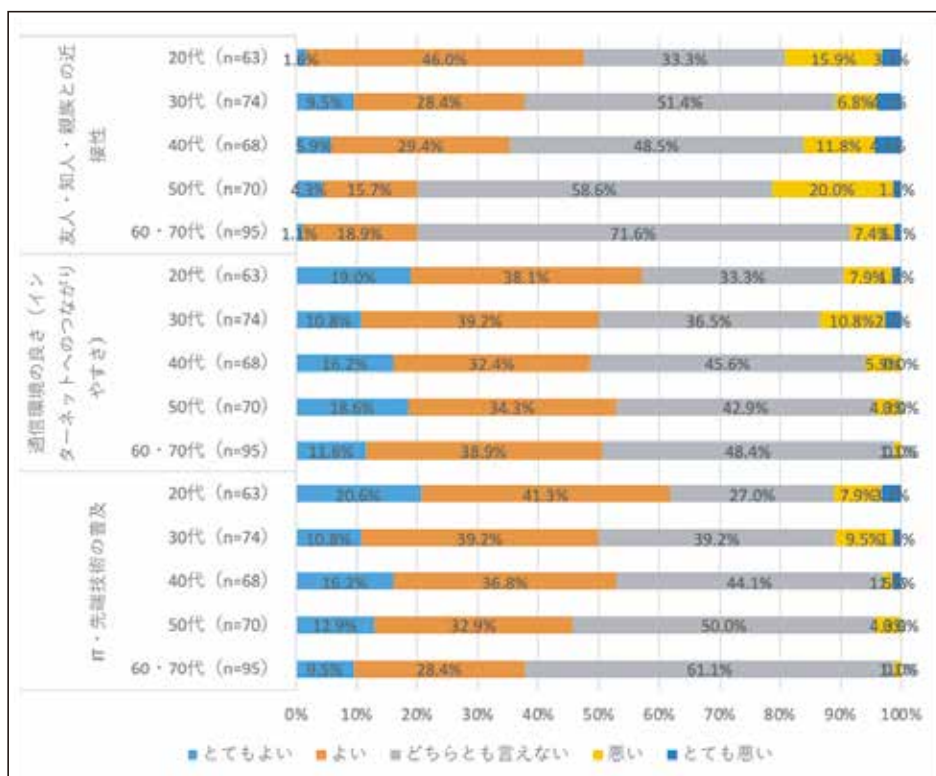
図表2-1-24 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



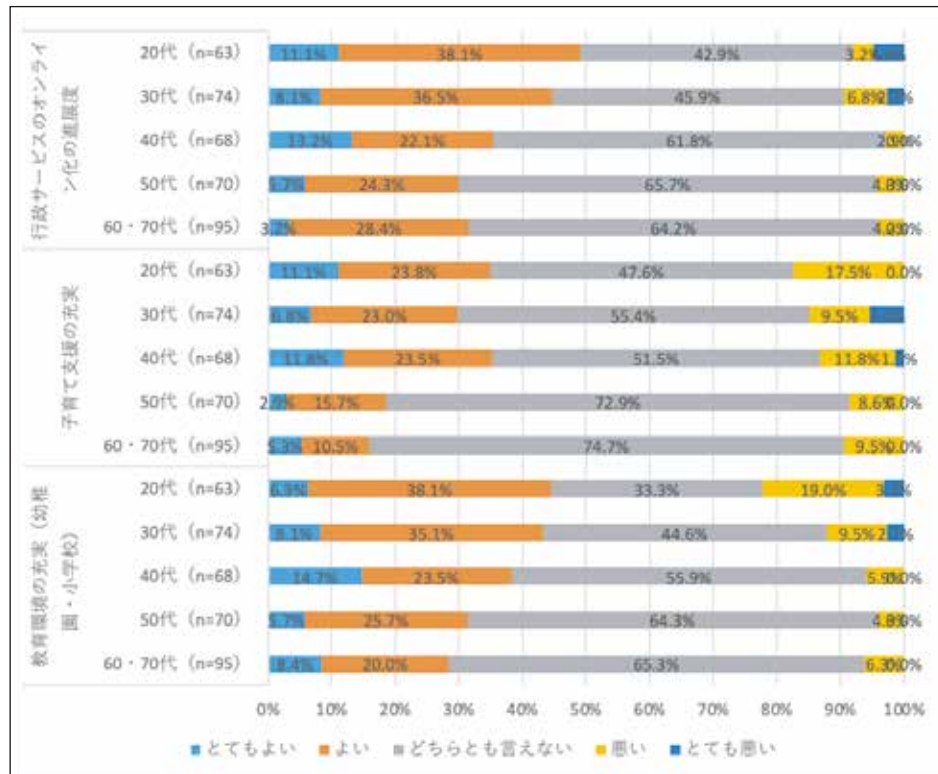
図表2-1-25 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



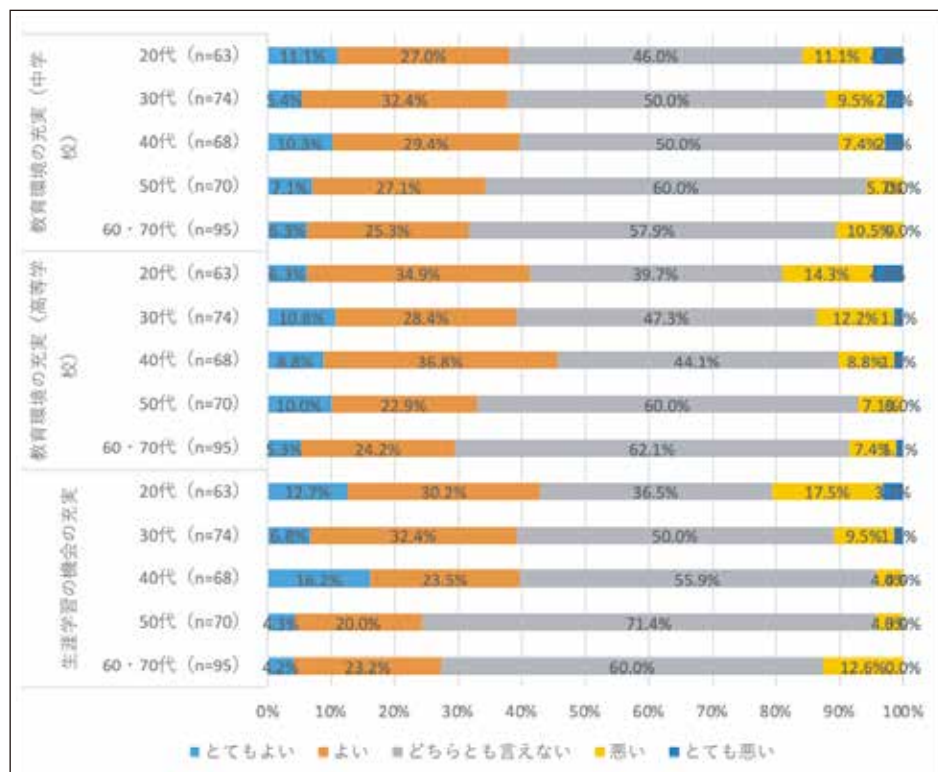
図表2-1-26 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ (インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



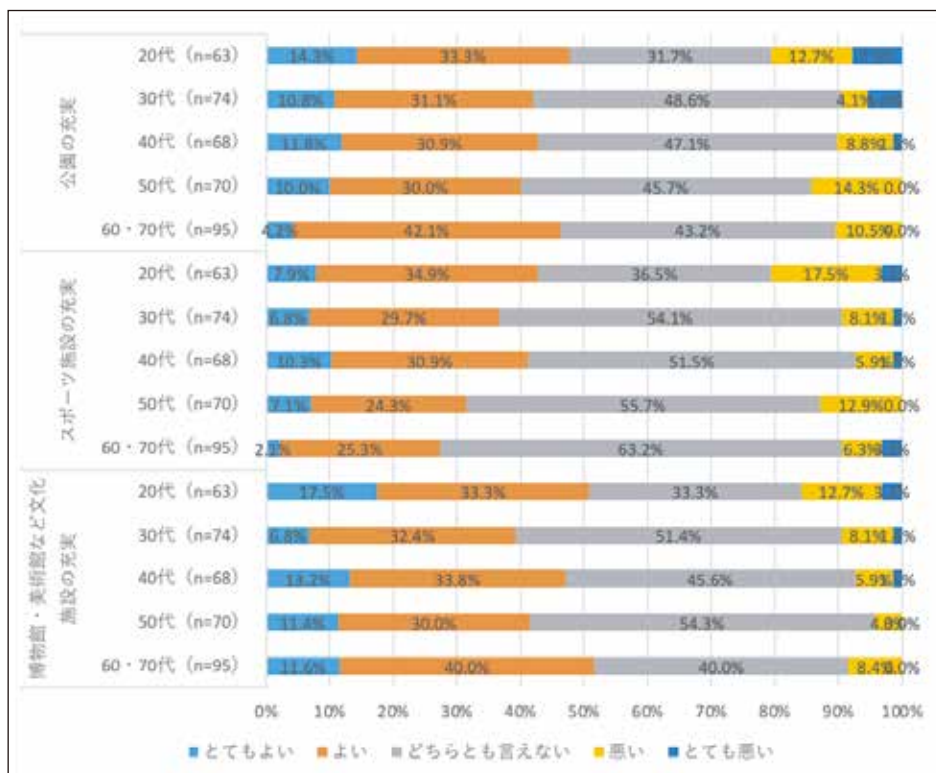
図表2-1-27 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



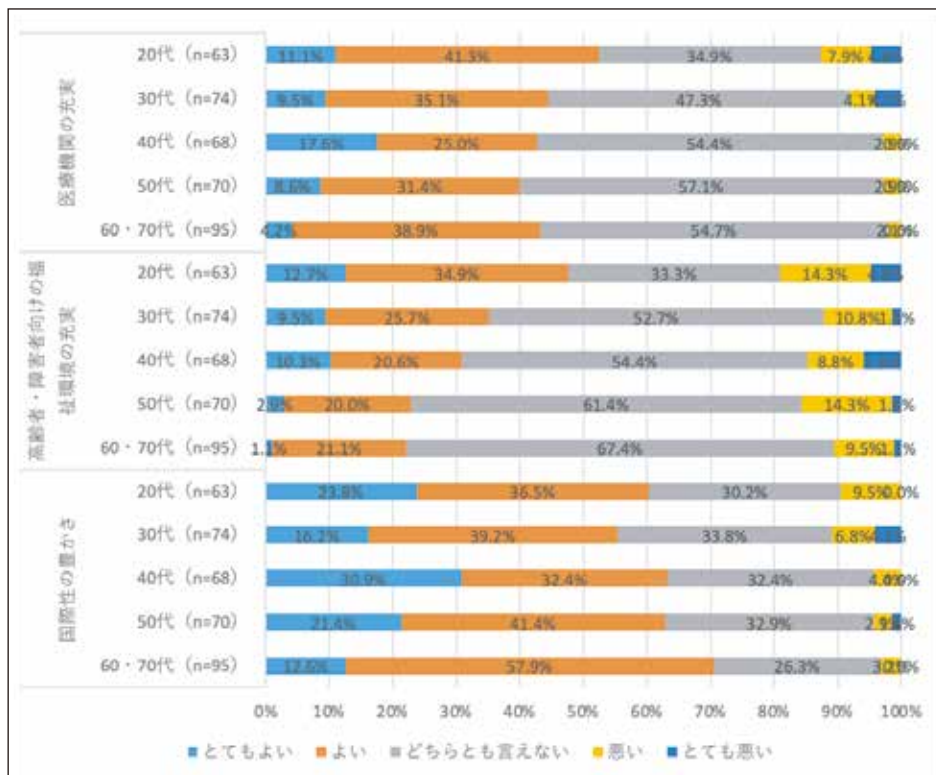
図表2-1-28 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



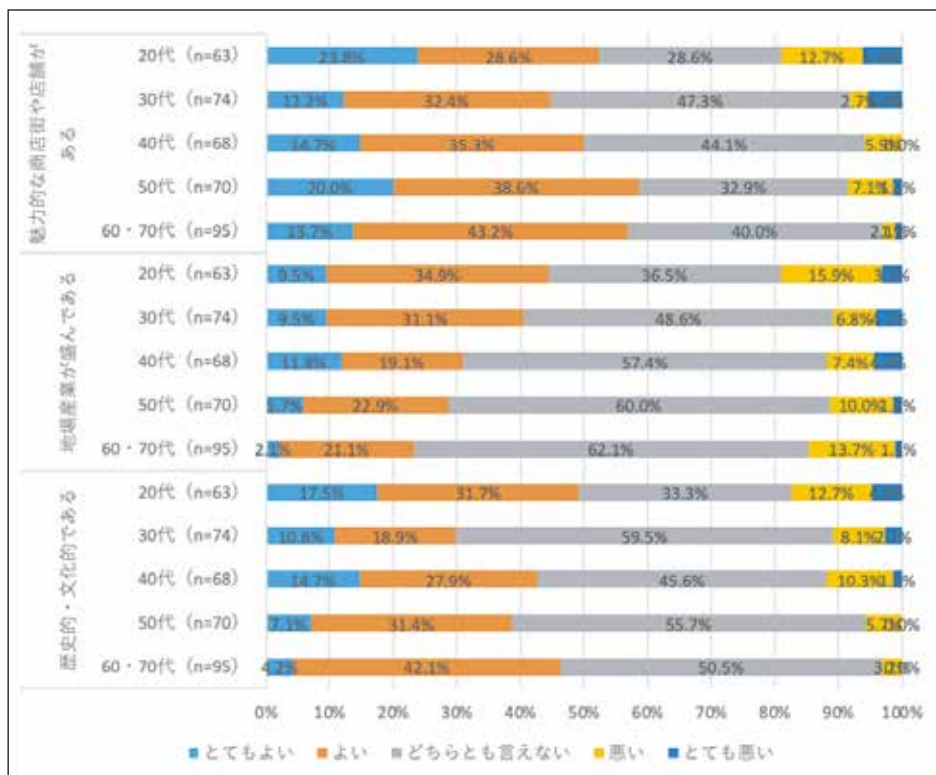
図表2-1-29 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



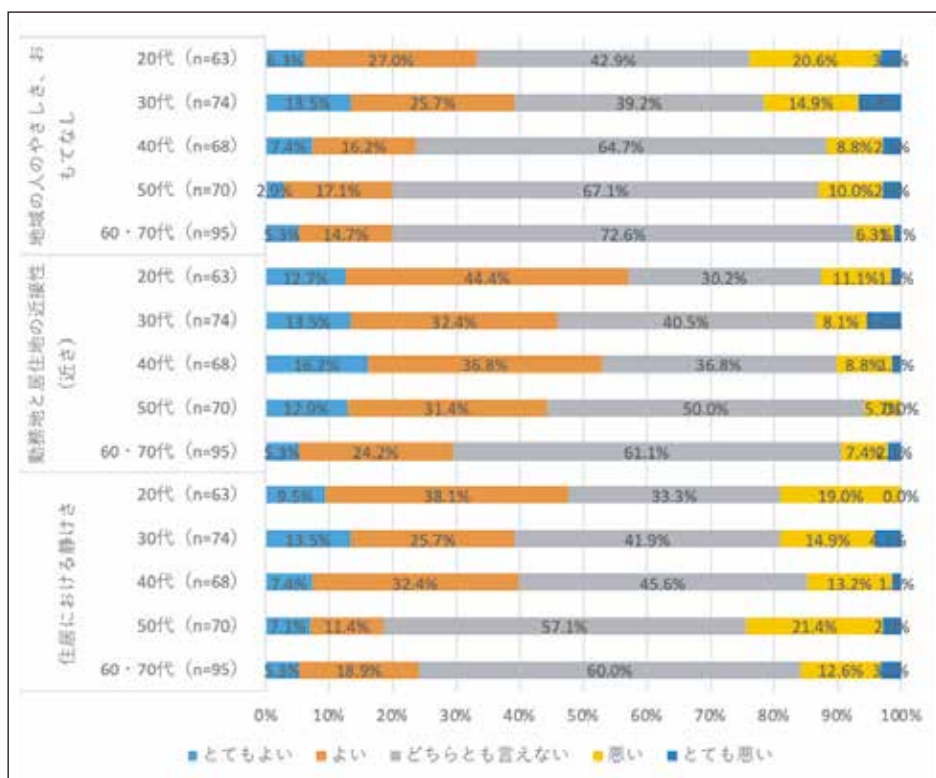
図表2-1-30 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-31 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-1-32 年代別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)

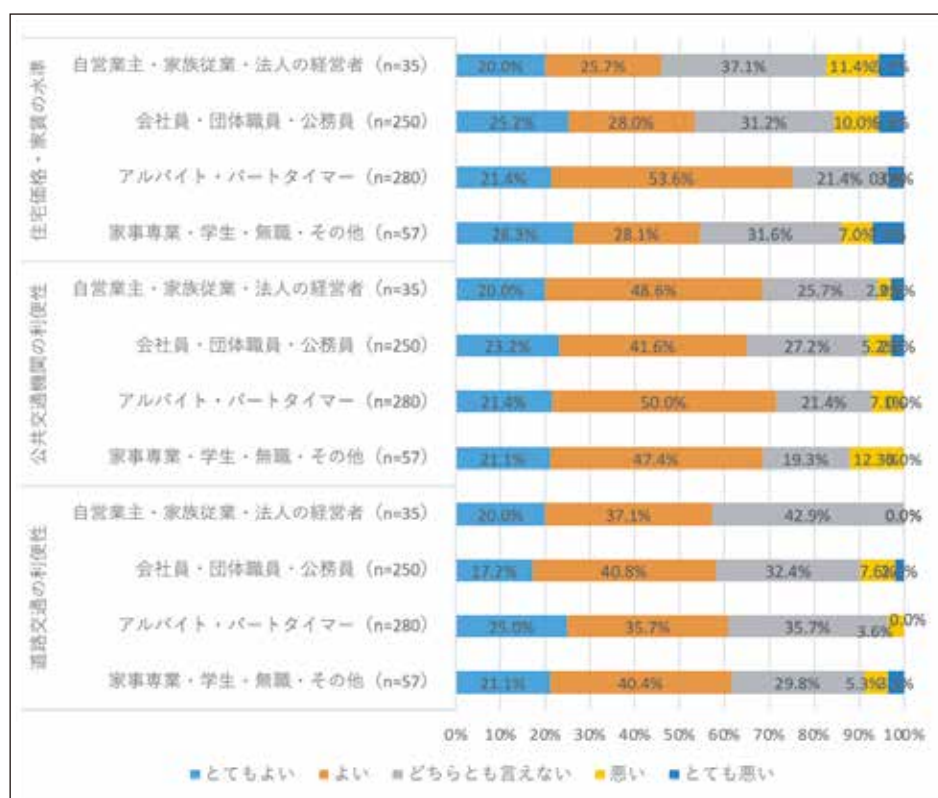


多くの項目でアルバイト・パートタイマーの評価が高い傾向

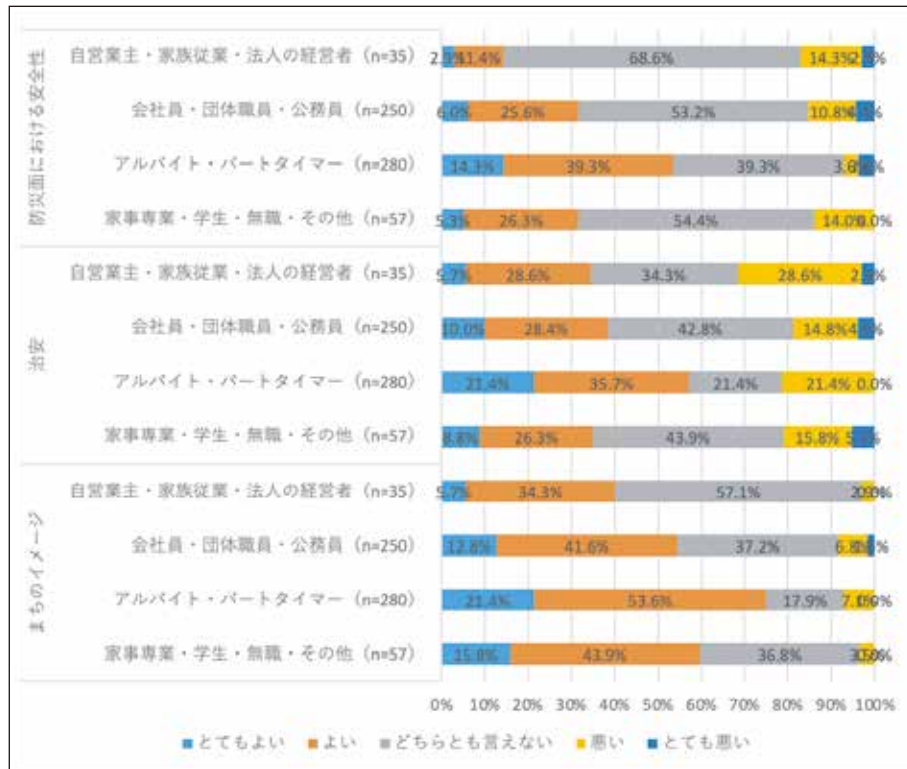
雇用形態別にみると、ほとんどの項目でアルバイト・パートタイマーの評価が高い傾向がみられ、特に「住宅価格・家賃の水準」(図表2-1-33)「まちのイメージ」(図表2-1-34)「飲食店の充実」(図表2-1-35)「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」(図表2-1-37)ではアルバイト・パートタイマーの「とてもよい」と「よい」を併せると75%であることから、これらの項目について概ね高く評価していると考えられる。

一方で、「博物館・美術館など文化施設の充実」(図表2-1-40)や「国際性の豊かさ」(図表2-1-41)ではアルバイト・パートタイマーや他の雇用形態に比較して家事専業・学生・無職・その他の「とてもよい」と「よい」を併せた評価が6～7割と高い値を示し、雇用形態別で個別イメージに対する評価が異なる傾向がうかがえる。

図表2-1-33 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
(「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」)



図表2-1-34 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



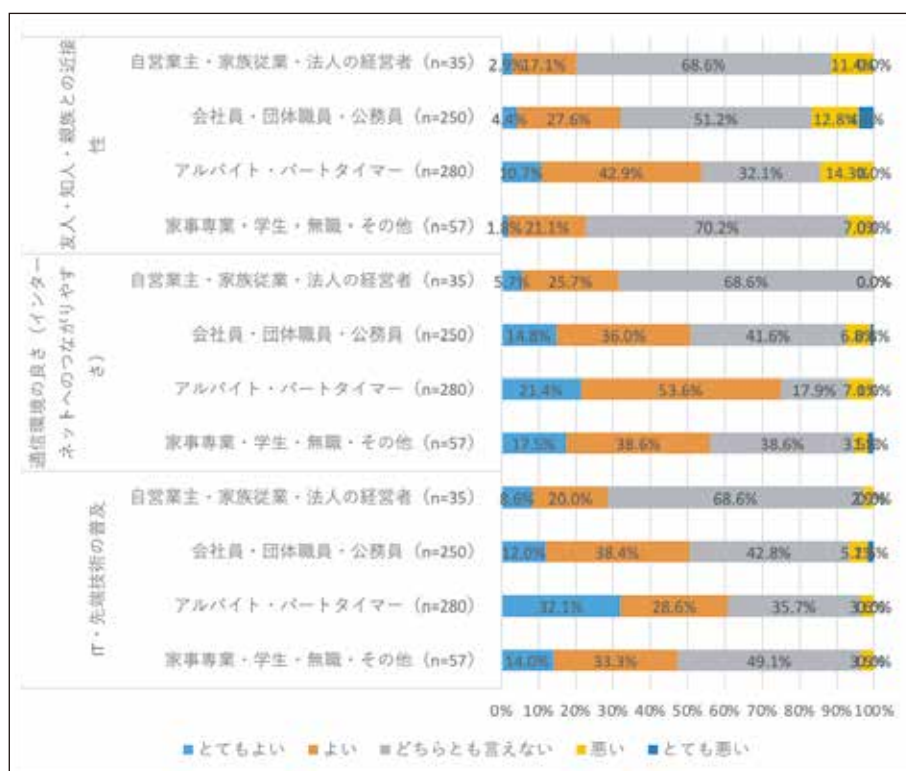
図表2-1-35 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



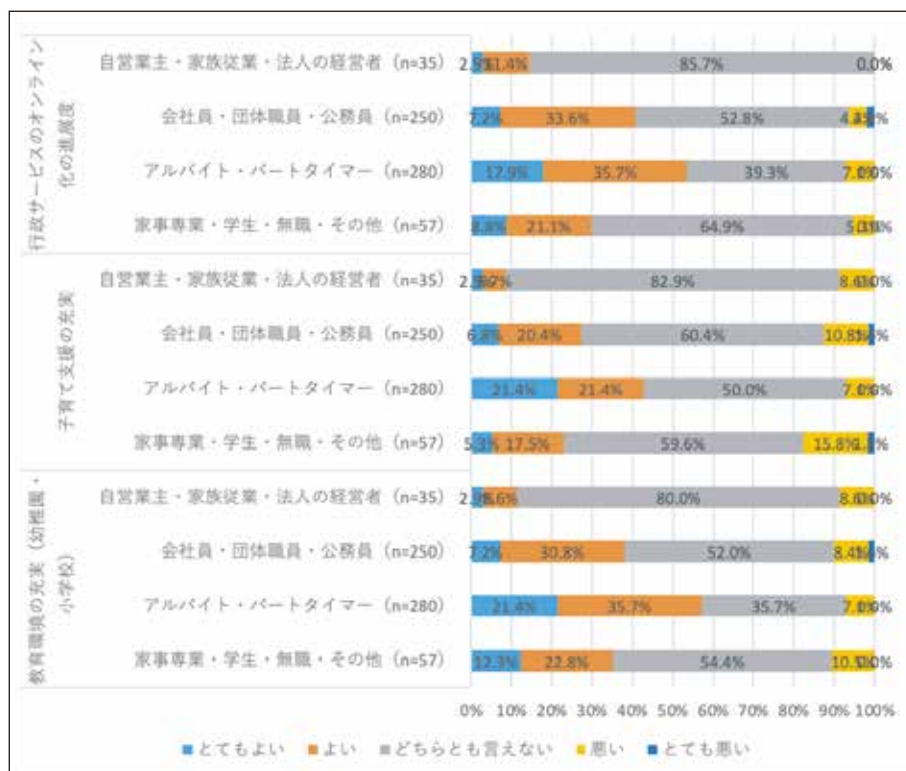
図表2-1-36 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



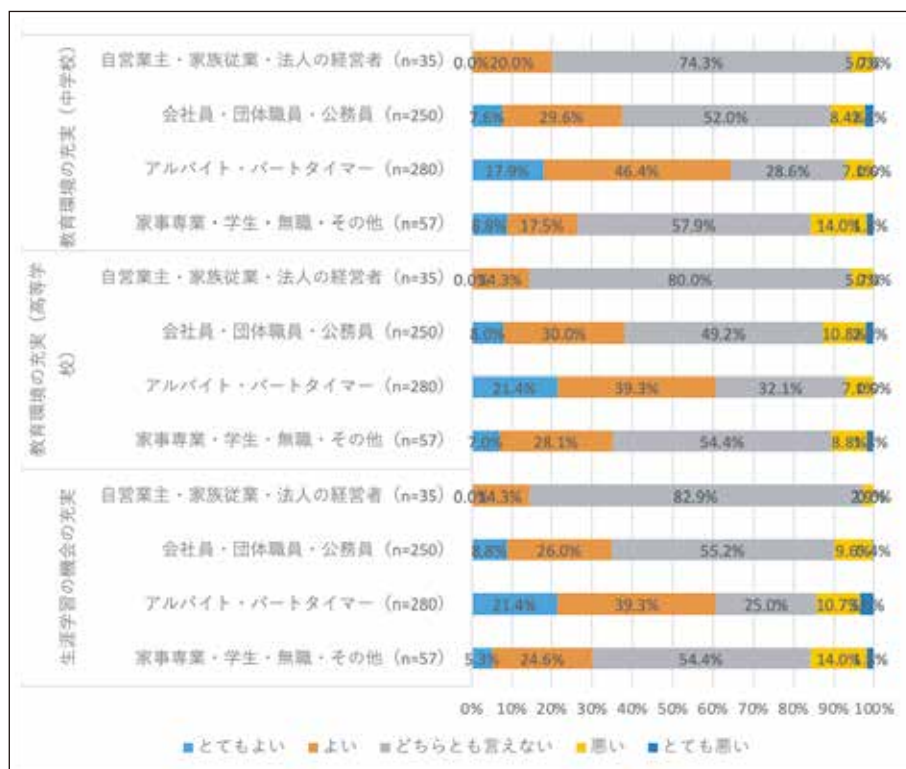
図表2-1-37 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



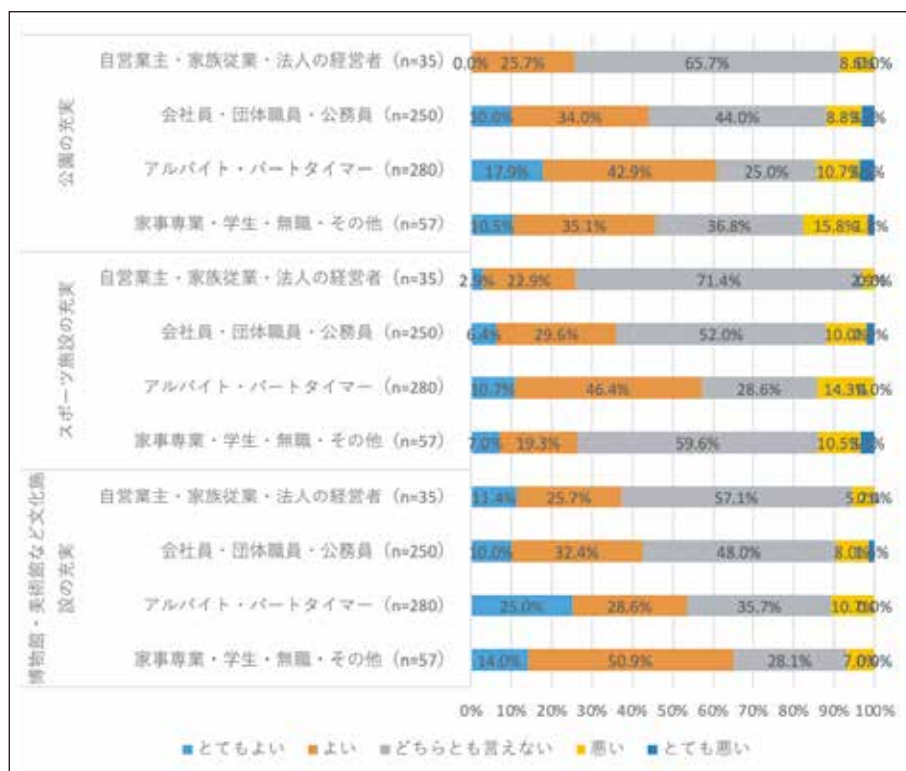
図表2-1-38 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



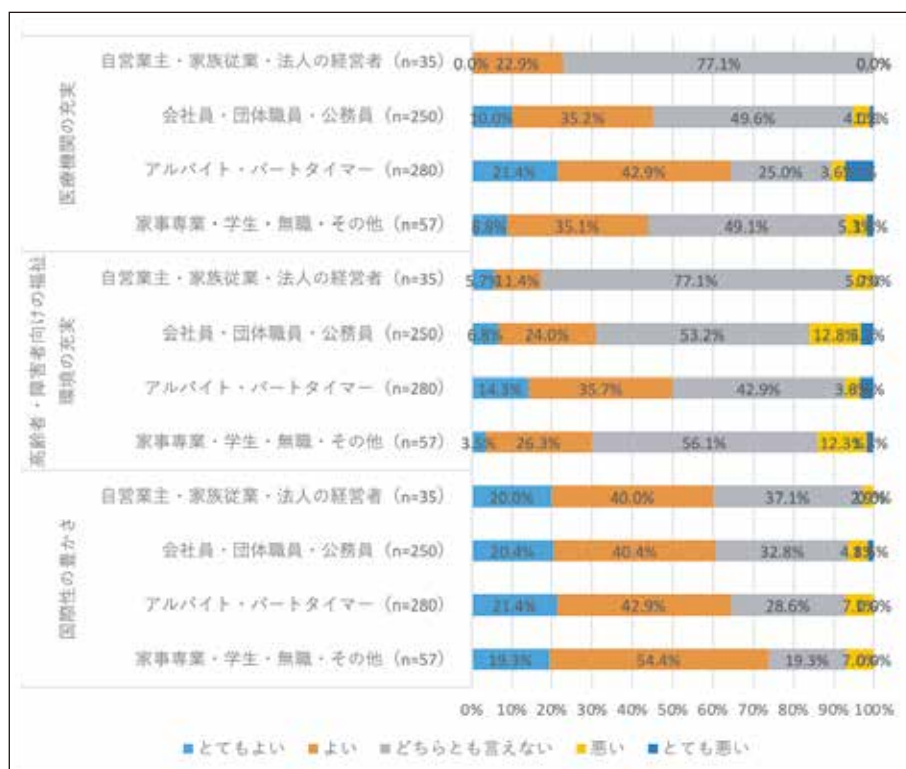
図表2-1-39 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



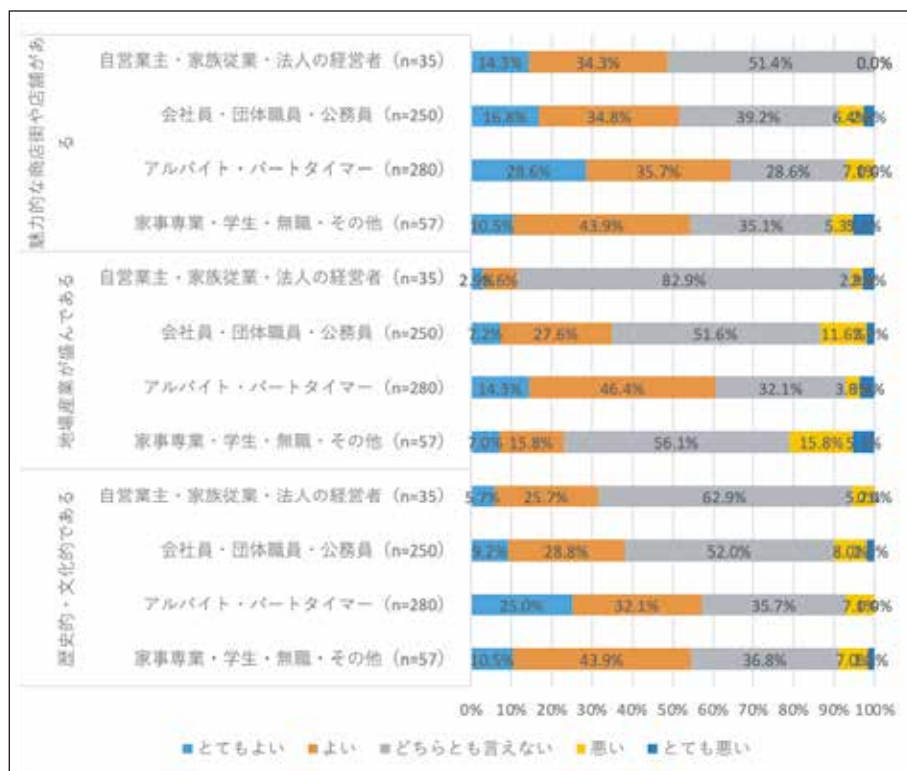
図表2-1-40 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



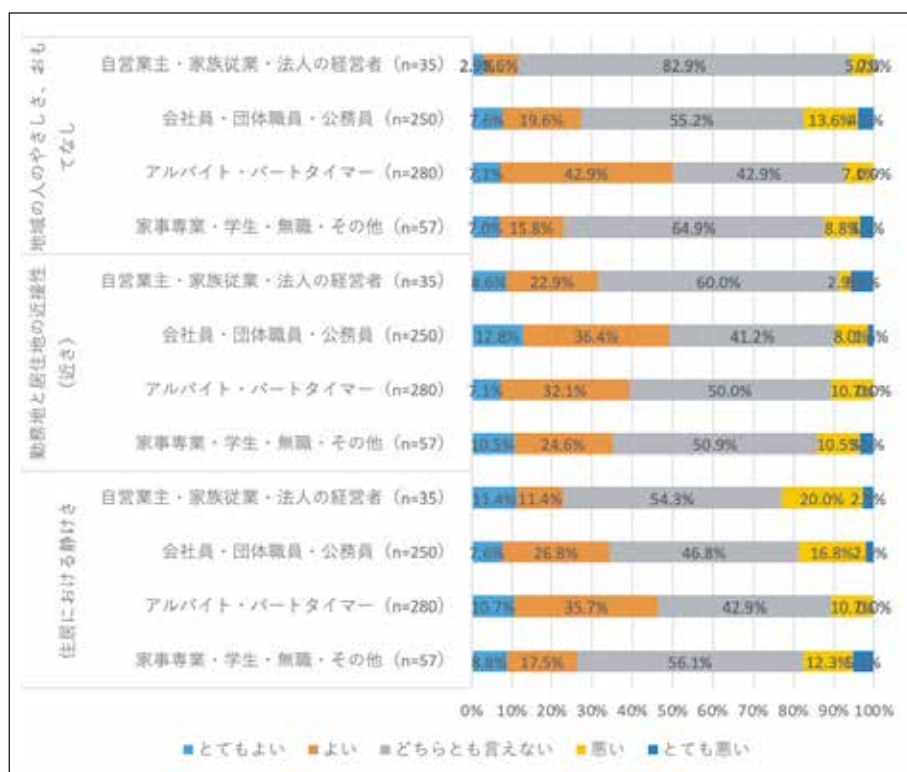
図表2-1-41 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-42 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



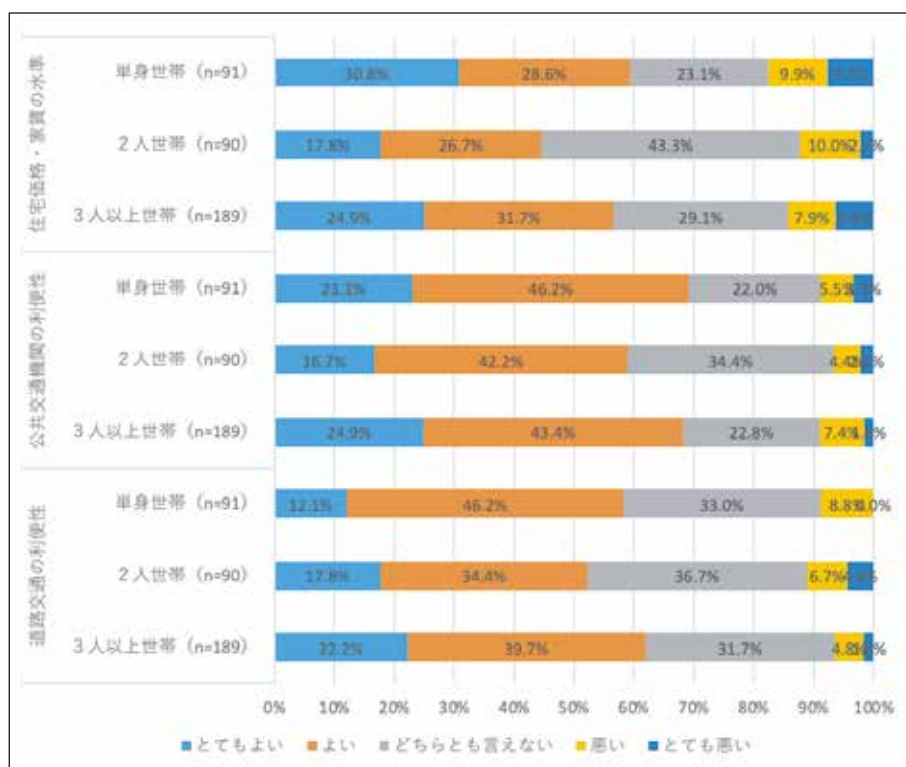
図表2-1-43 雇用形態別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



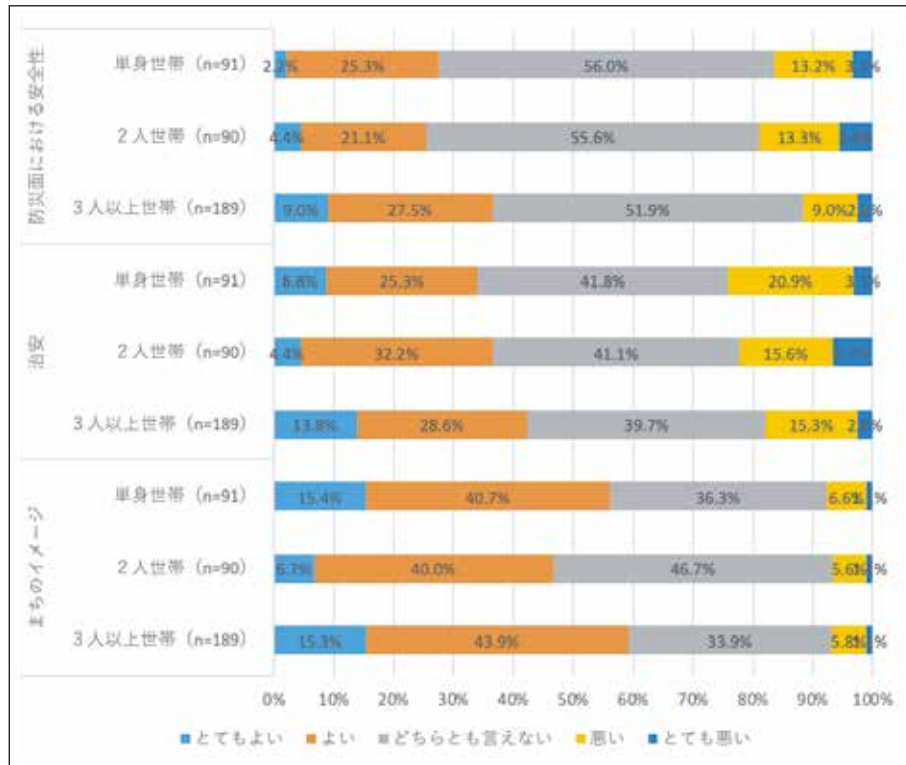
単身世帯と3人以上世帯に比較して、2人世帯の評価が低い傾向

世帯員数ではほとんどの項目で単身世帯と3人以上世帯に比較して、2人世帯の「とてもよい」と「よい」を併せた割合が低い傾向がみられる。なかでも「住宅価格・家賃の水準」「まちのイメージ」「飲食店の充実」「景観・街並み」「通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）」「博物館・美術館など文化施設の充実」でその傾向が顕著である。

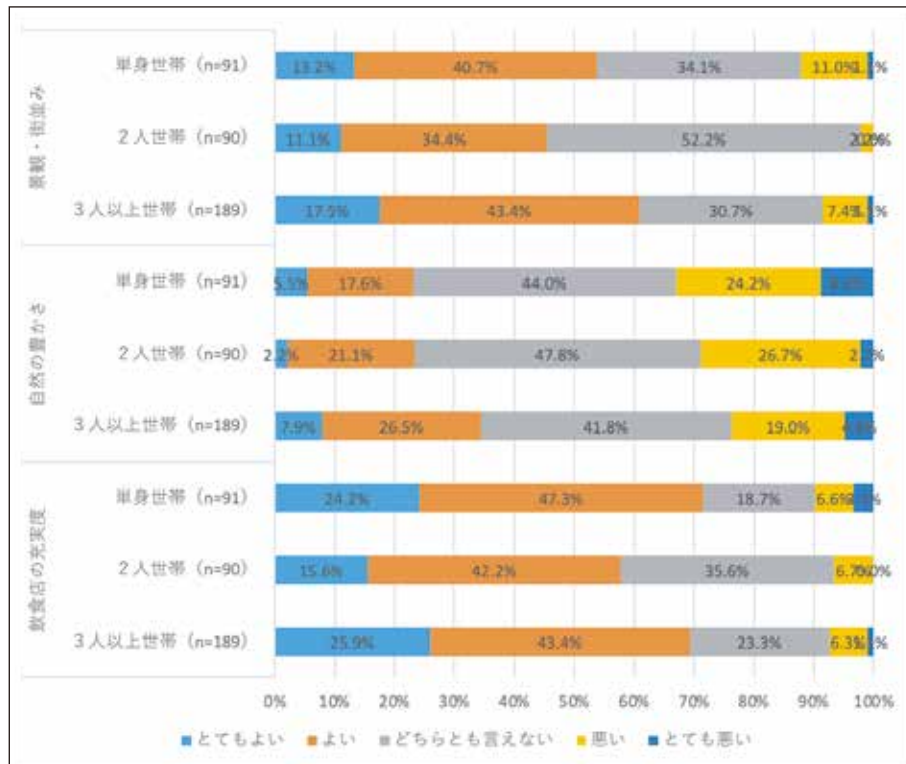
図表2-1-44 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



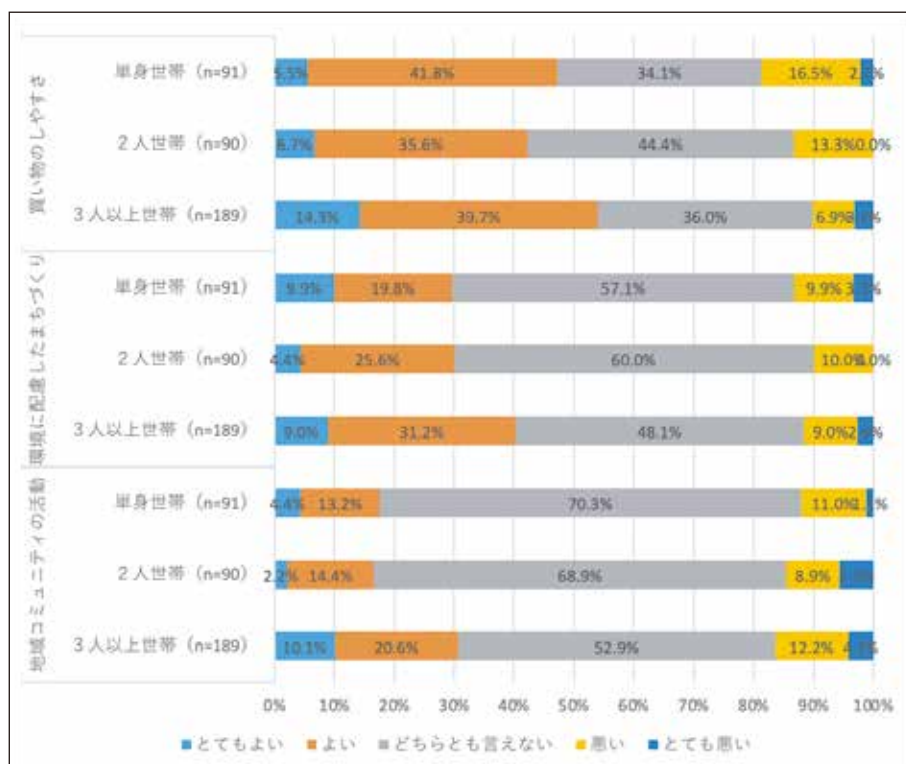
図表2-1-45 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



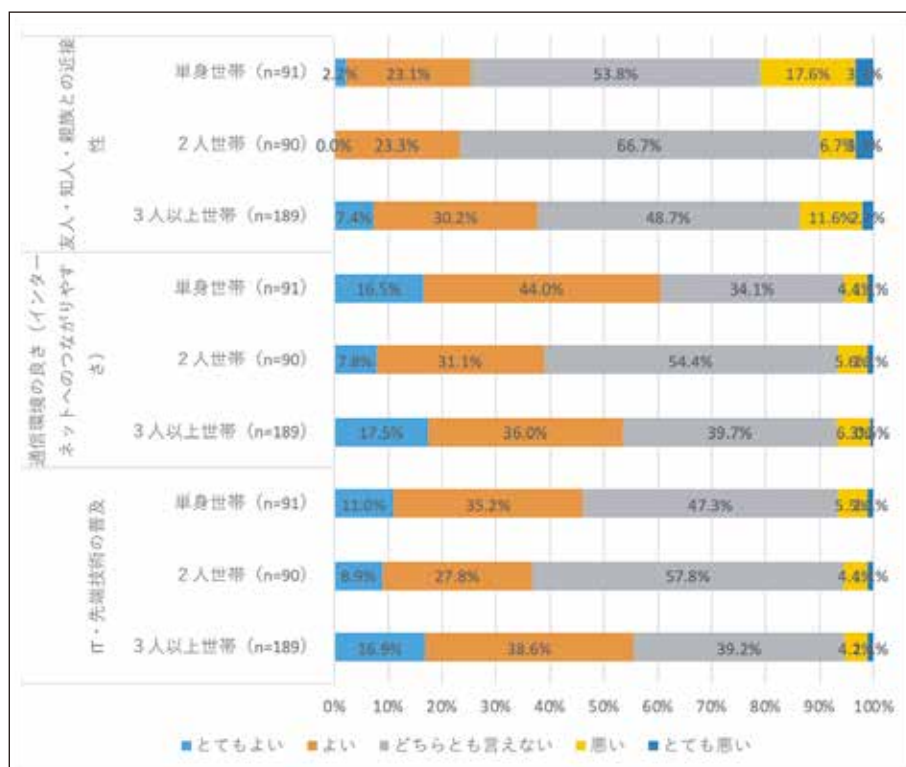
図表2-1-46 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



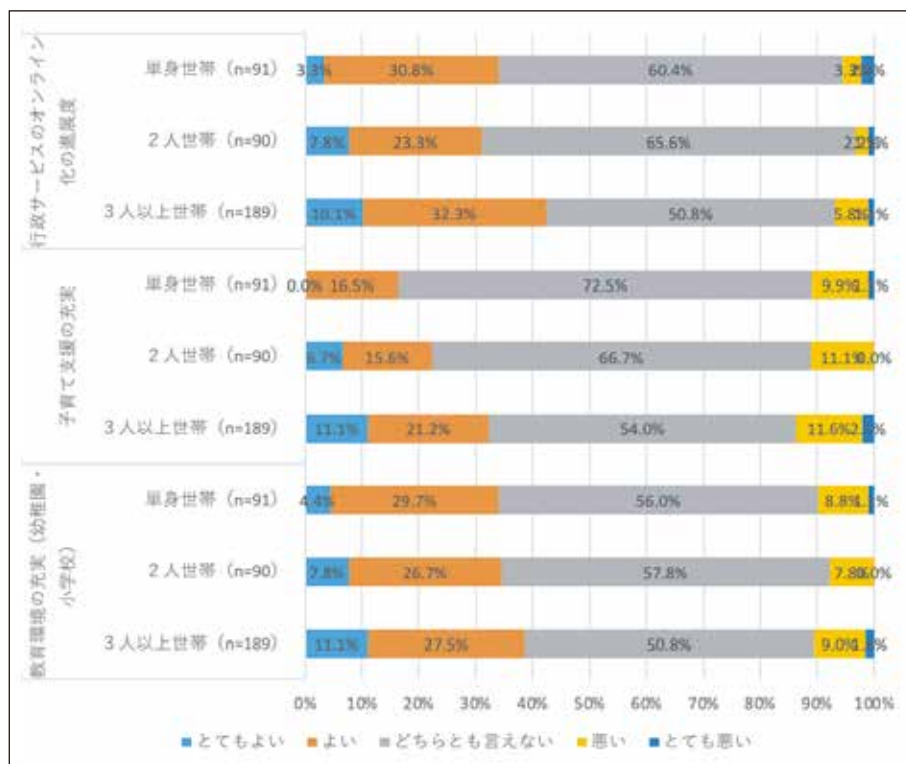
図表2-1-47 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



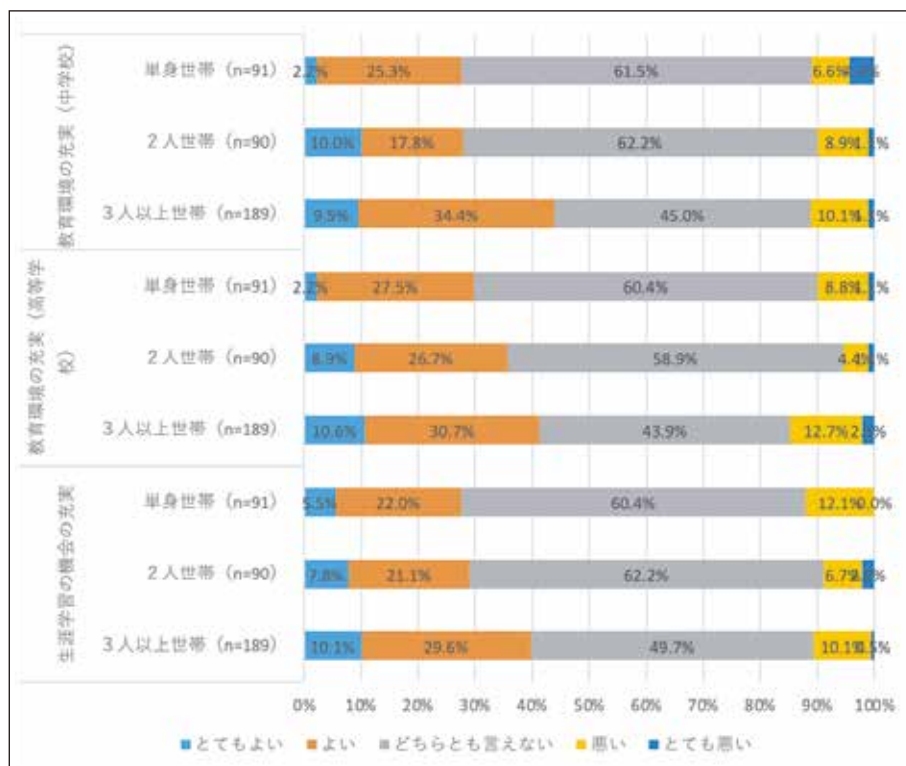
図表2-1-48 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ (インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



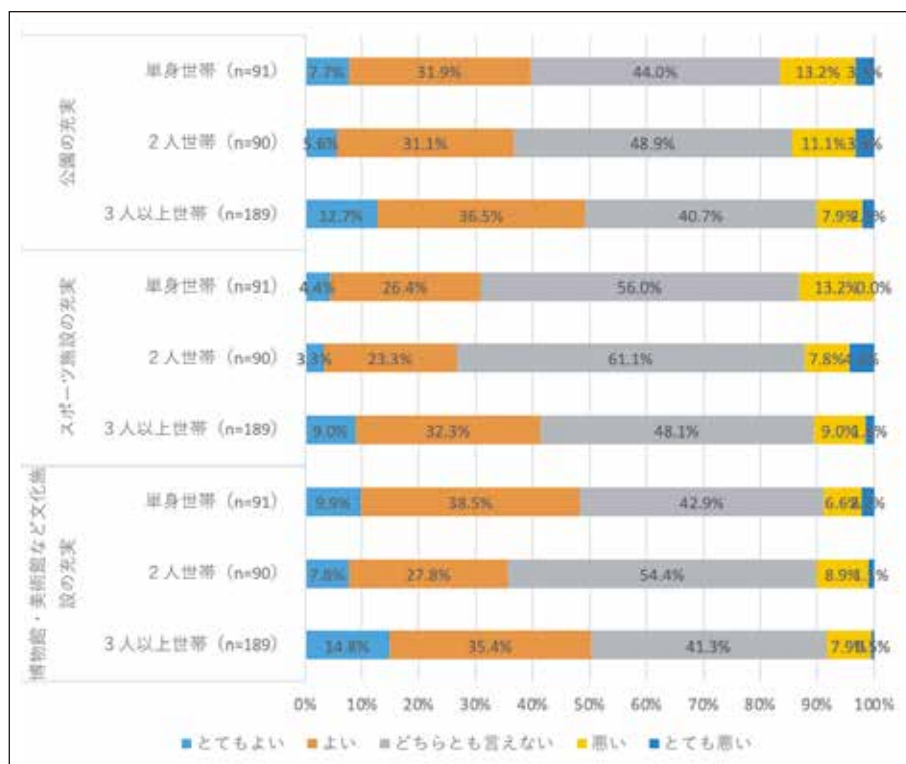
図表2-1-49 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



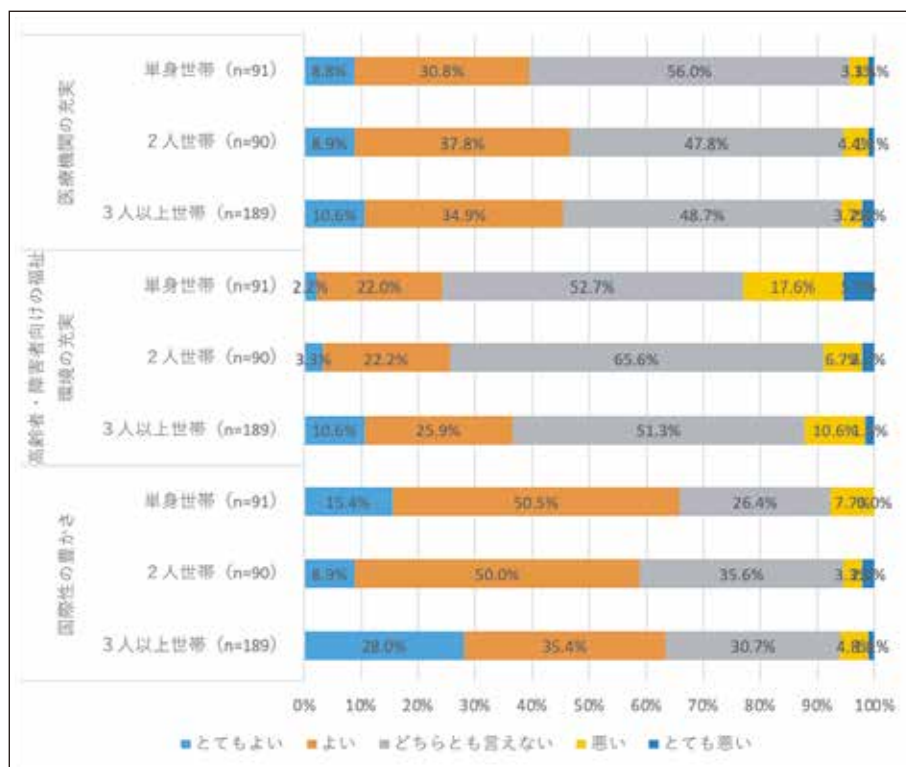
図表2-1-50 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



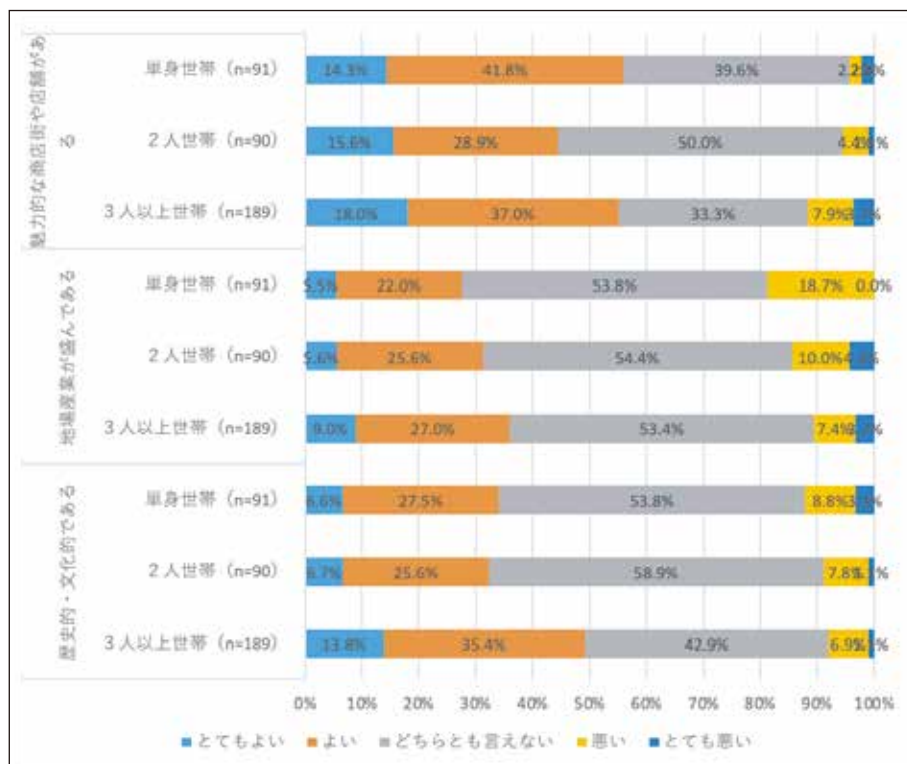
図表2-1-51 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



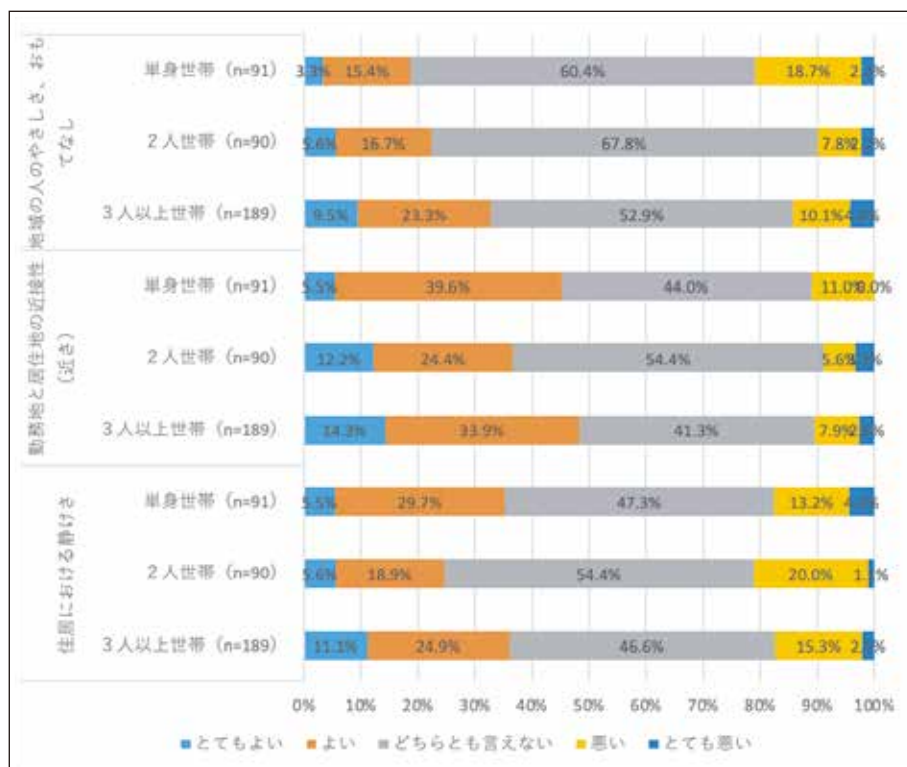
図表2-1-52 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-53 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



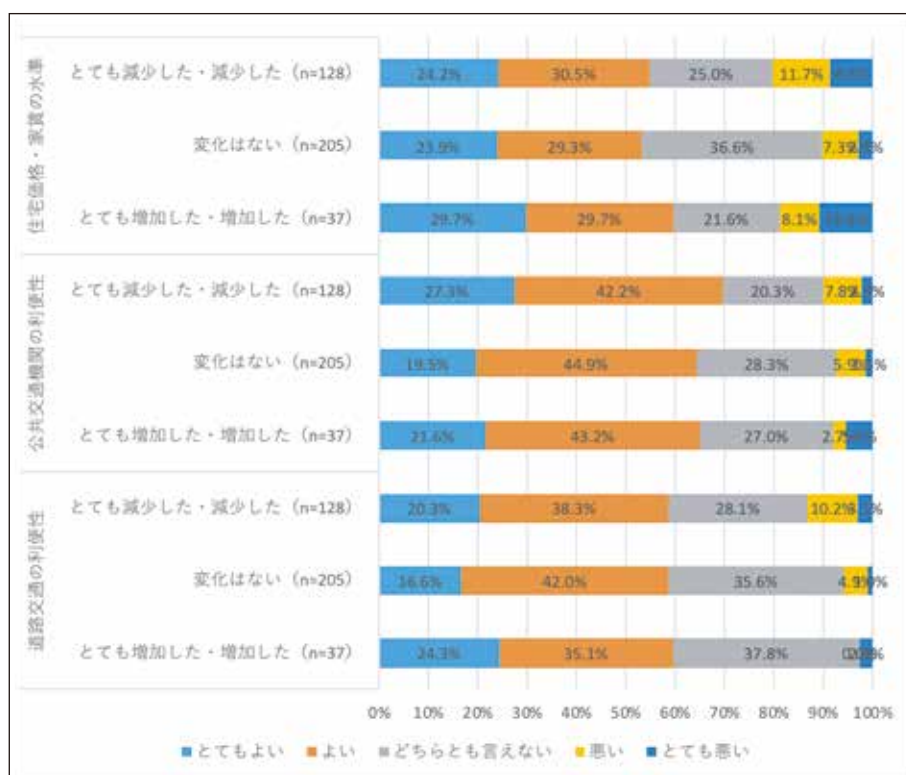
図表2-1-54 世帯員数別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



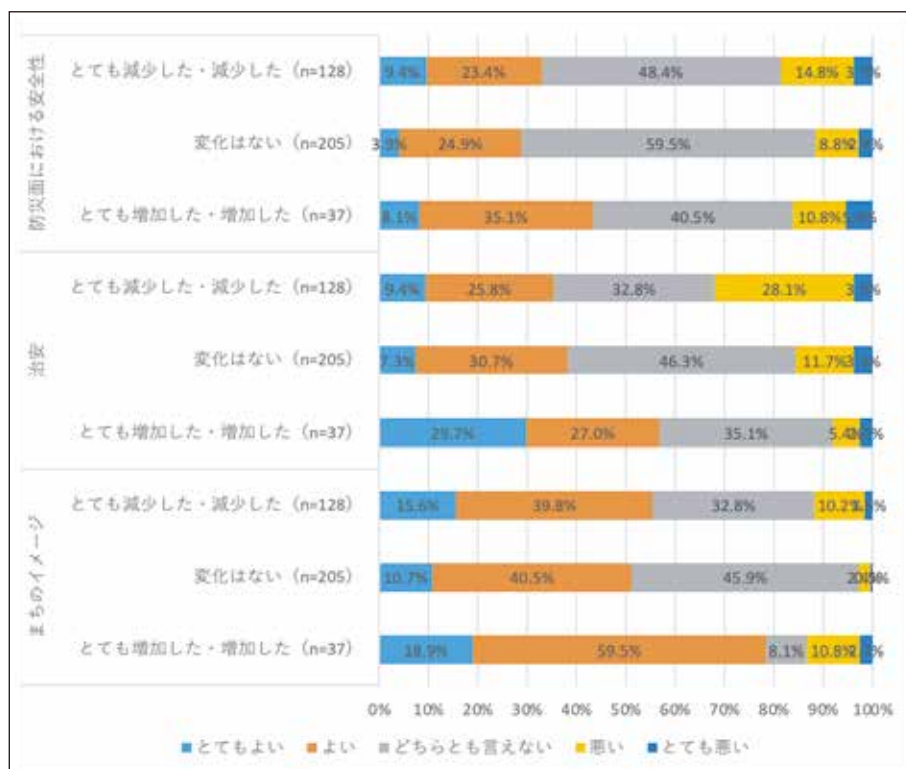
ほとんどの項目で、世帯収入がとても増加した・増加した回答者の評価が変化はない回答者やとても減少した・減少した回答者に比較して高い

コロナ前と比較したコロナ禍の世帯収入の変化別でみると、ほとんどの項目でとても増加した・増加した回答者の「とてもよい」「よい」の割合が高い。なかでも「まちのイメージ」（図表2-1-56）や「景観・街並み」（図表2-1-57）「自然の豊かさ」（図表2-1-57）「環境に配慮したまちづくり」（図表2-1-58）といった住居環境と「教育環境の充実（幼稚園・小学校）」（図表2-1-60）「教育環境の充実（中学校）」（図表2-1-61）「生涯学習の機会の充実」（図表2-1-61）といった教育環境の項目について、コロナ前に比較して世帯収入が増加した回答者で評価が高い傾向がみられる。

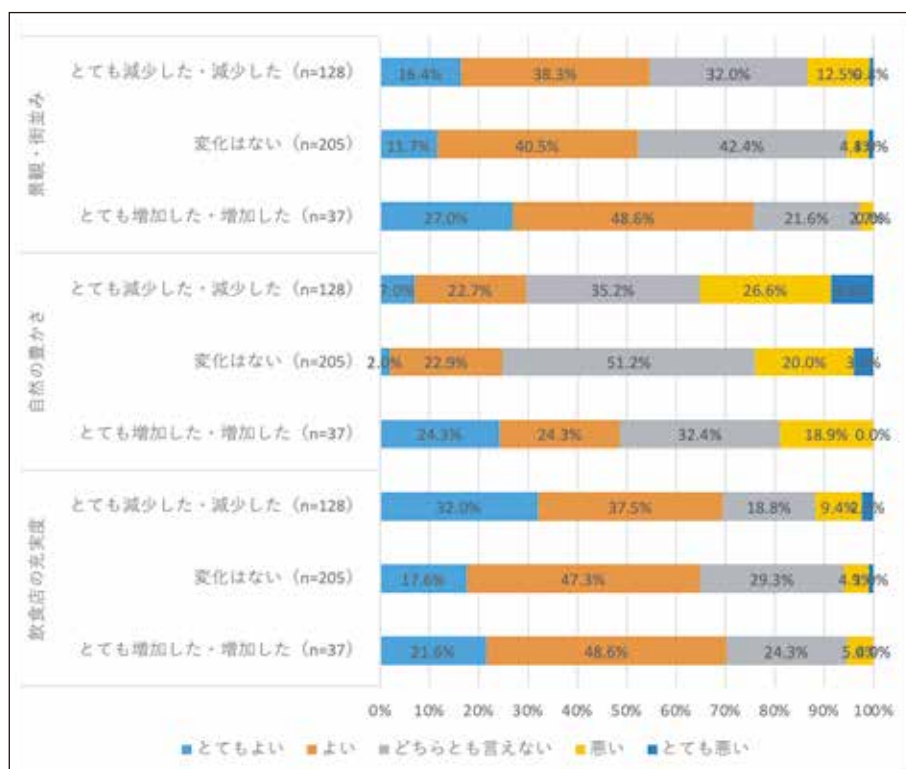
図表2-1-55 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



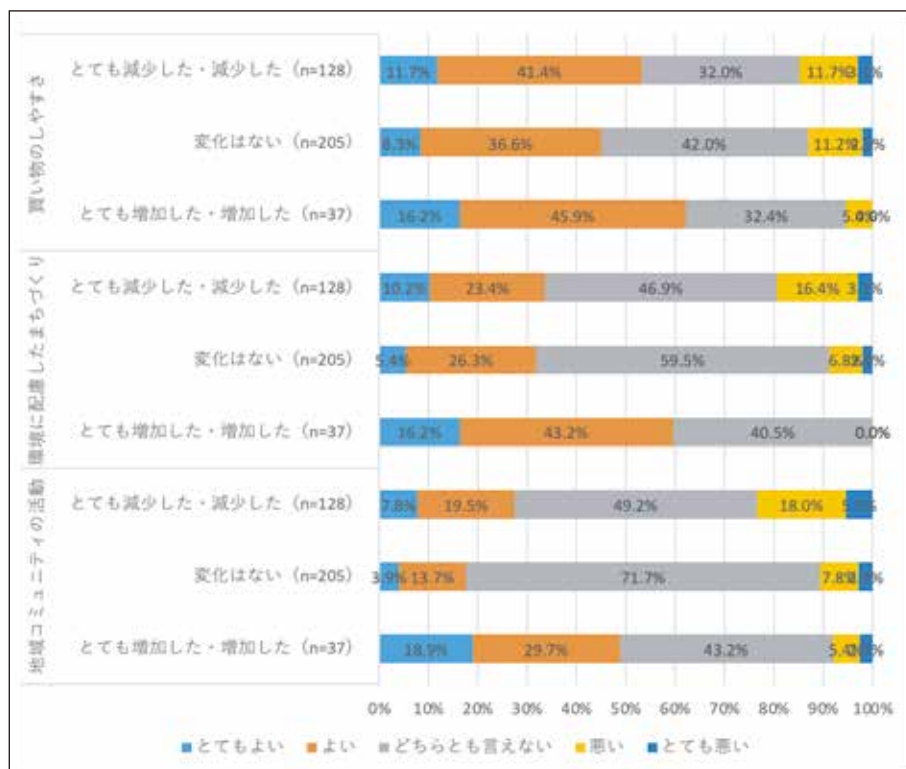
図表2-1-56 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



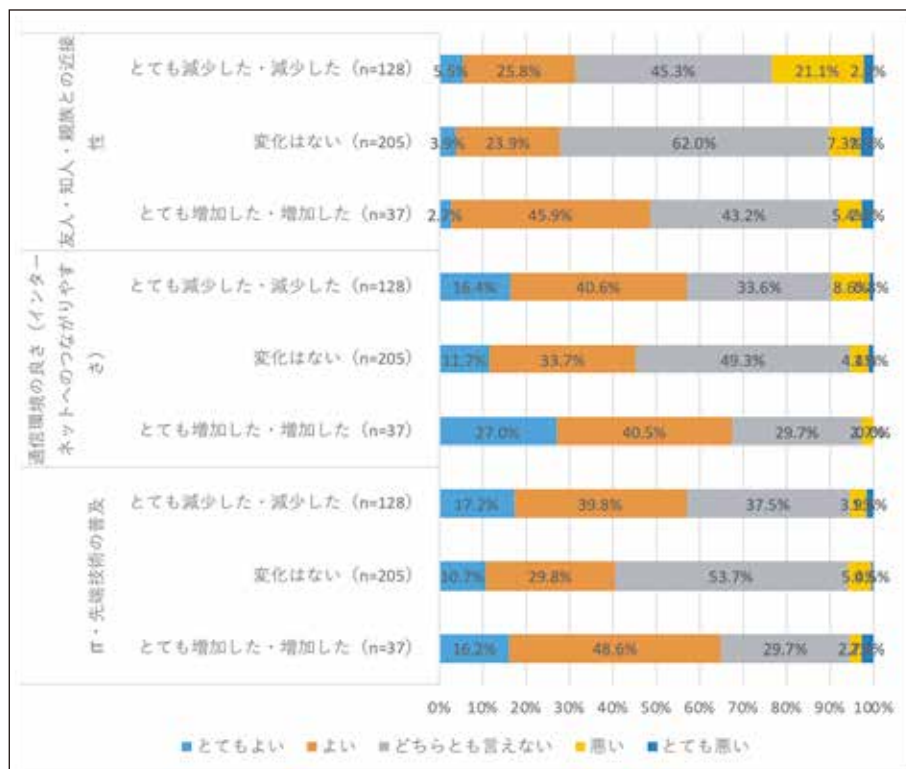
図表2-1-57 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



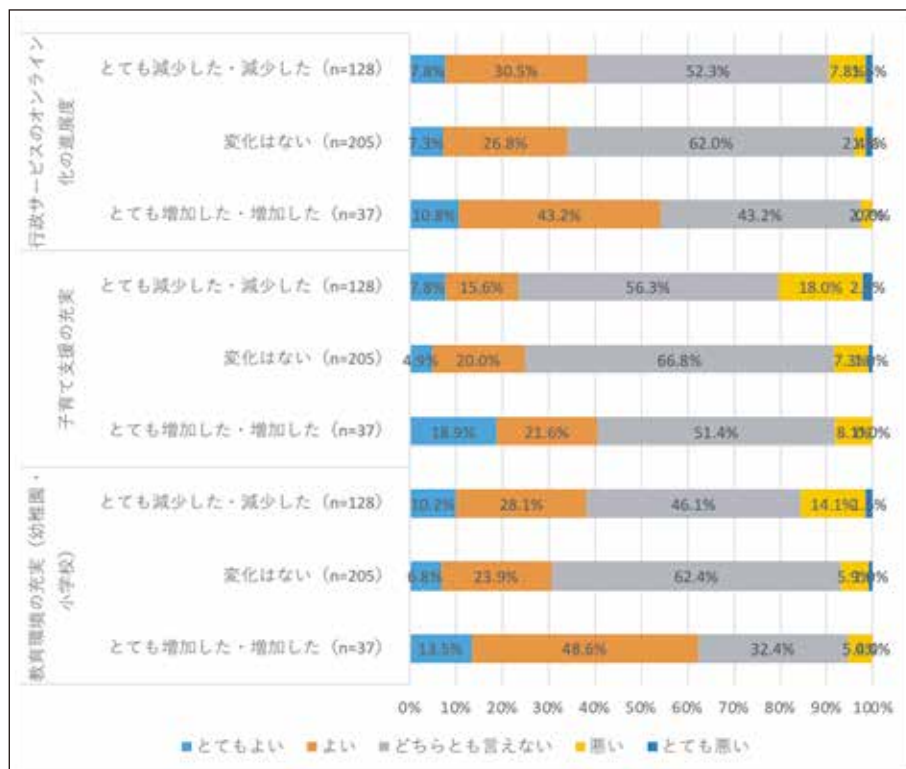
図表2-1-58 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



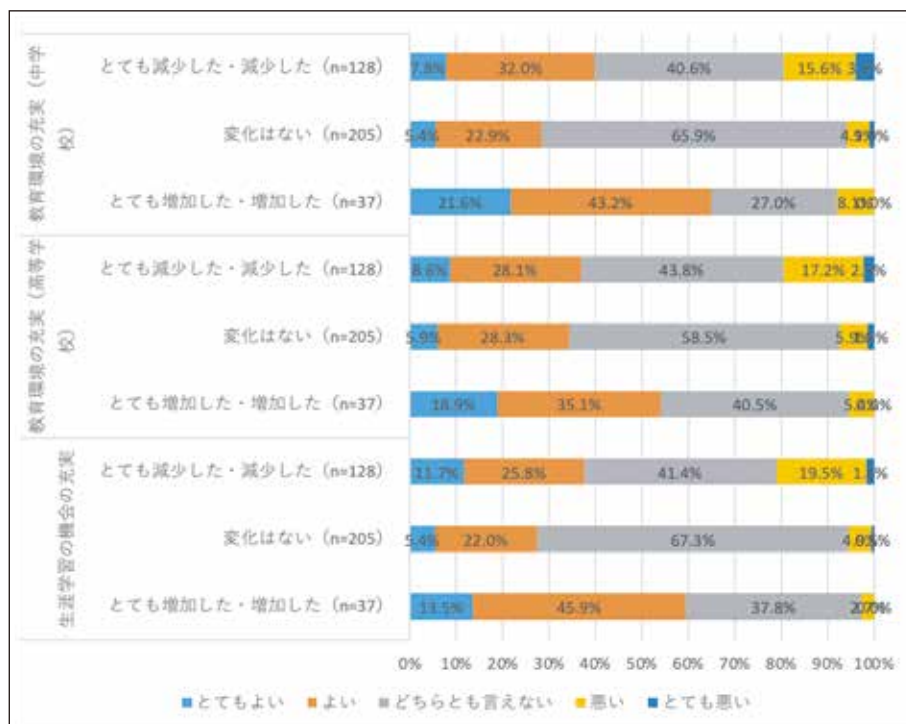
図表2-1-59 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



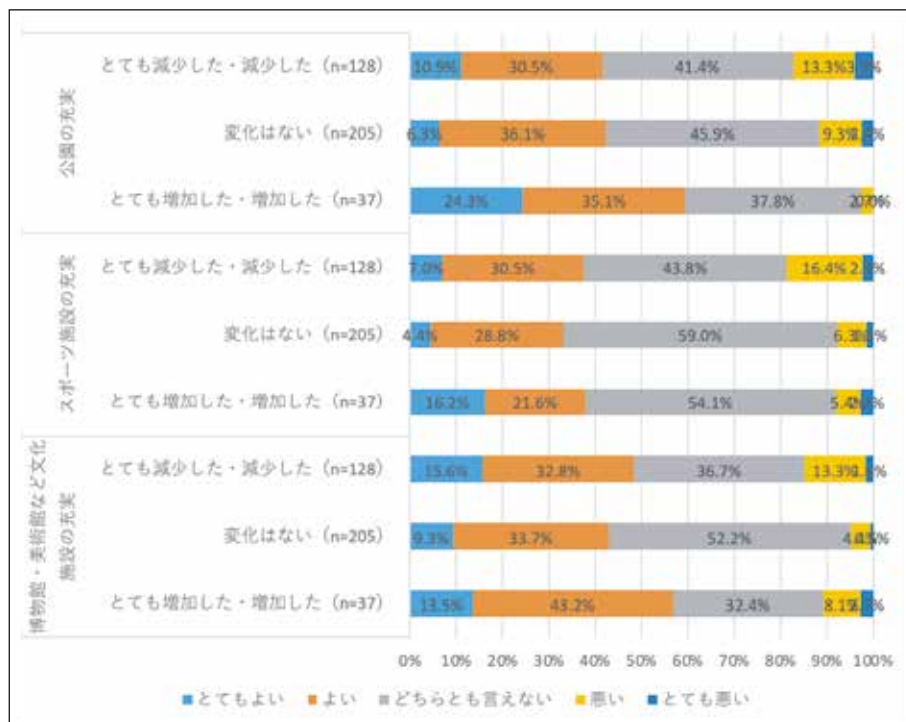
図表2-1-60 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



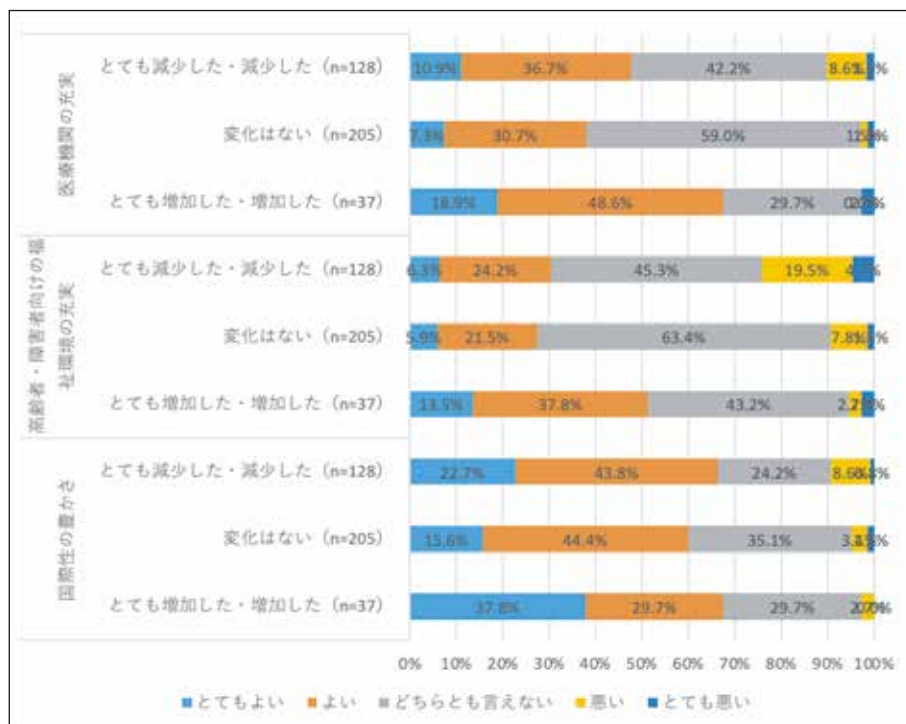
図表2-1-61 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



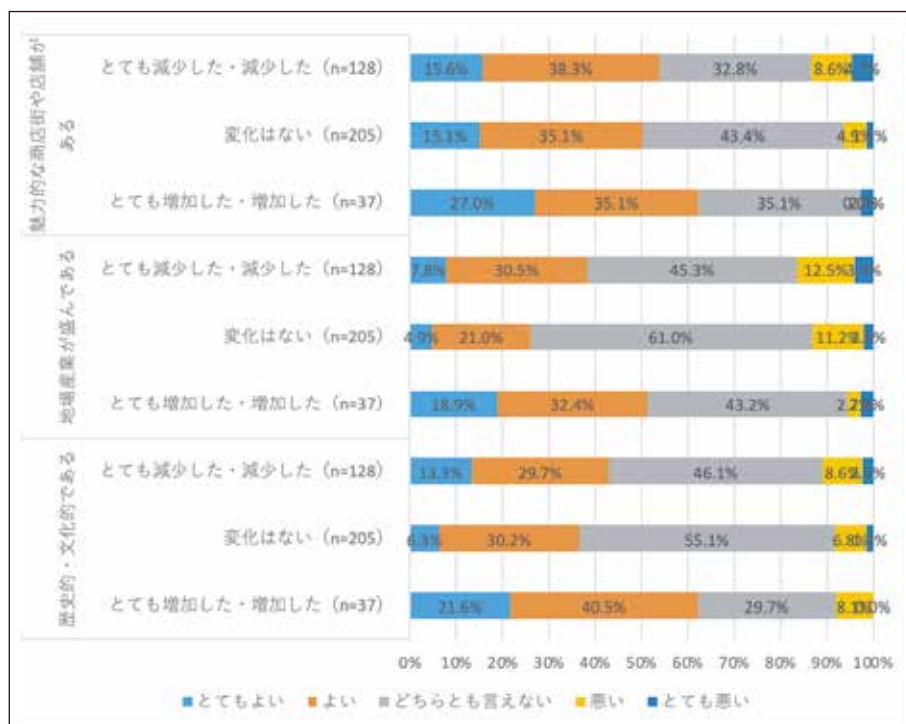
図表2-1-62 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



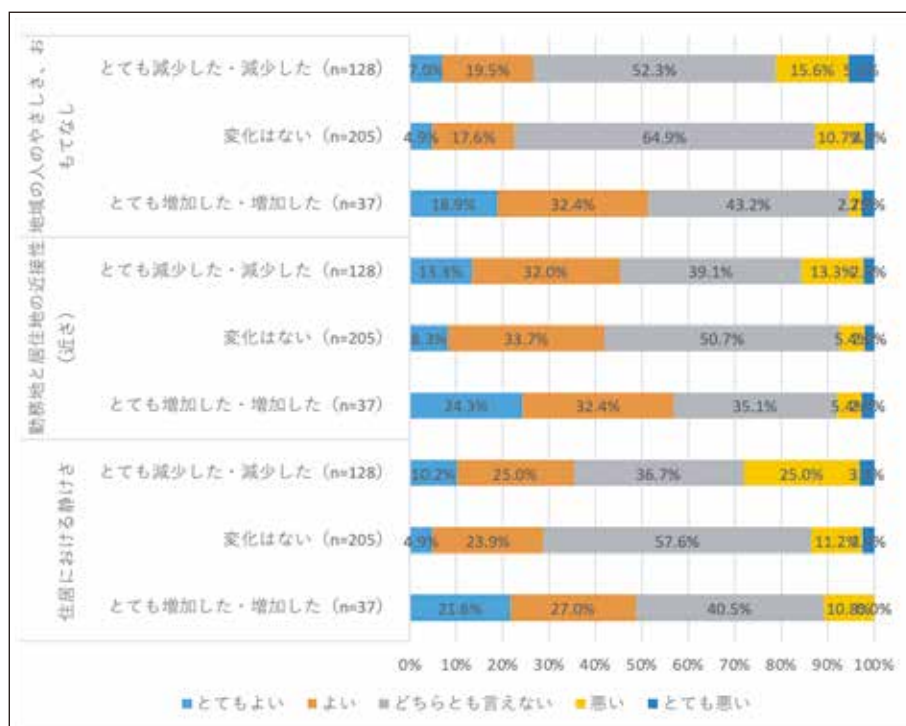
図表2-1-63 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-64 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-1-65 世帯収入の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)

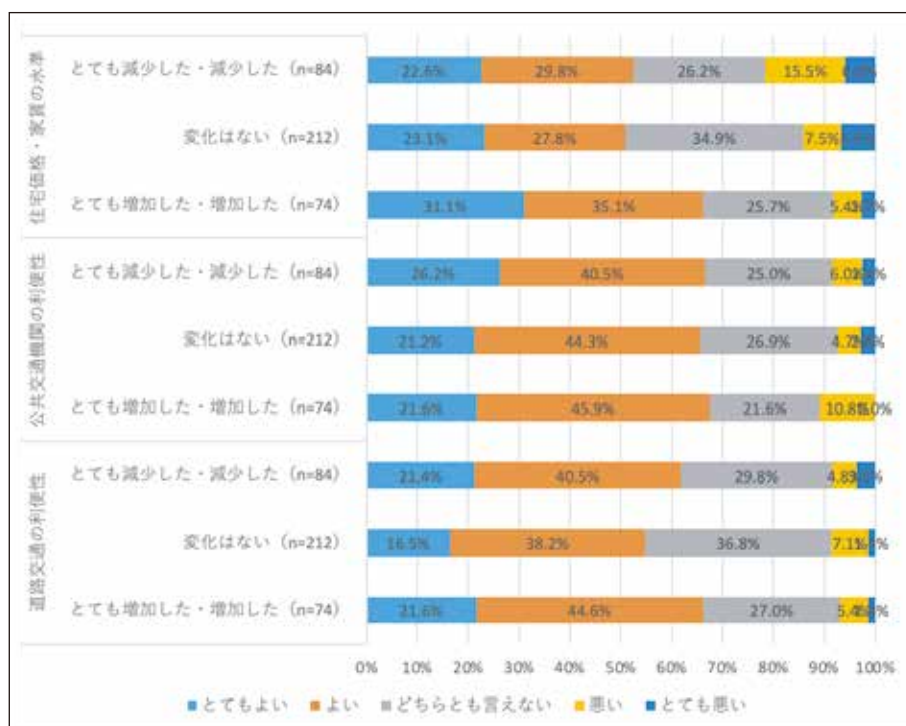


世帯支出の変化では大きな差があるとはいえないが、「博物館・美術館など文化施設の充実」「魅力的な商店街や店舗がある」では世帯支出が増加した回答者の評価が高い

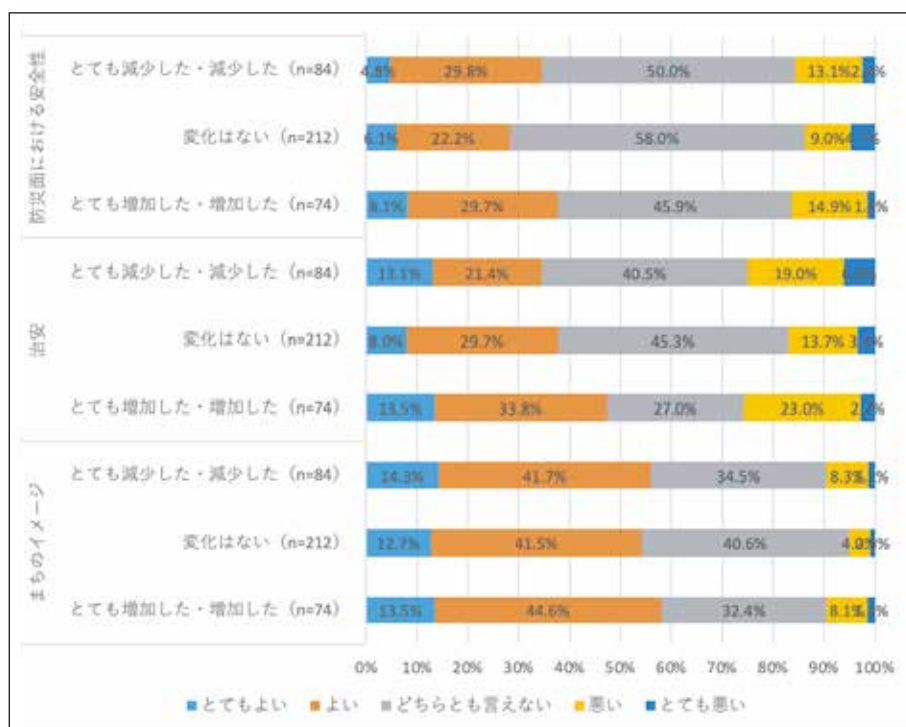
コロナ前と比較したコロナ禍の世帯支出の変化別には大きな差があるとはいえないが、「博物館・美術館など文化施設の充実」（図表2-1-73）「魅力的な商店街や店舗がある」（図表2-1-75）においては、世帯支出が減少した回答者や変化がない回答者に比較して、増加した回答者において「とてもよい」と「よい」の割合が高い。

図表2-1-66 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価

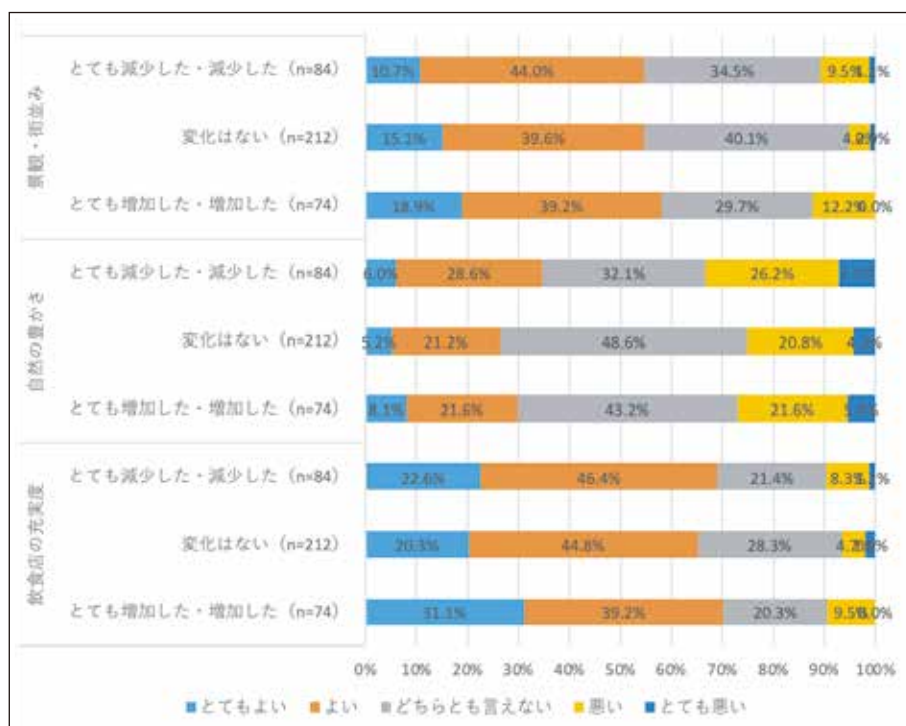
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



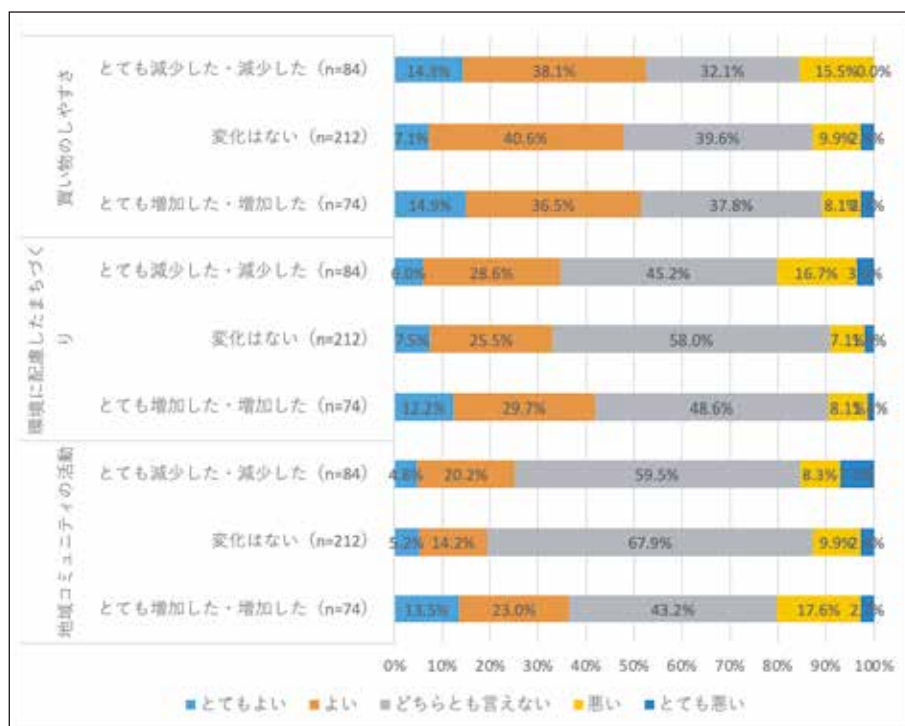
図表2-1-67 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



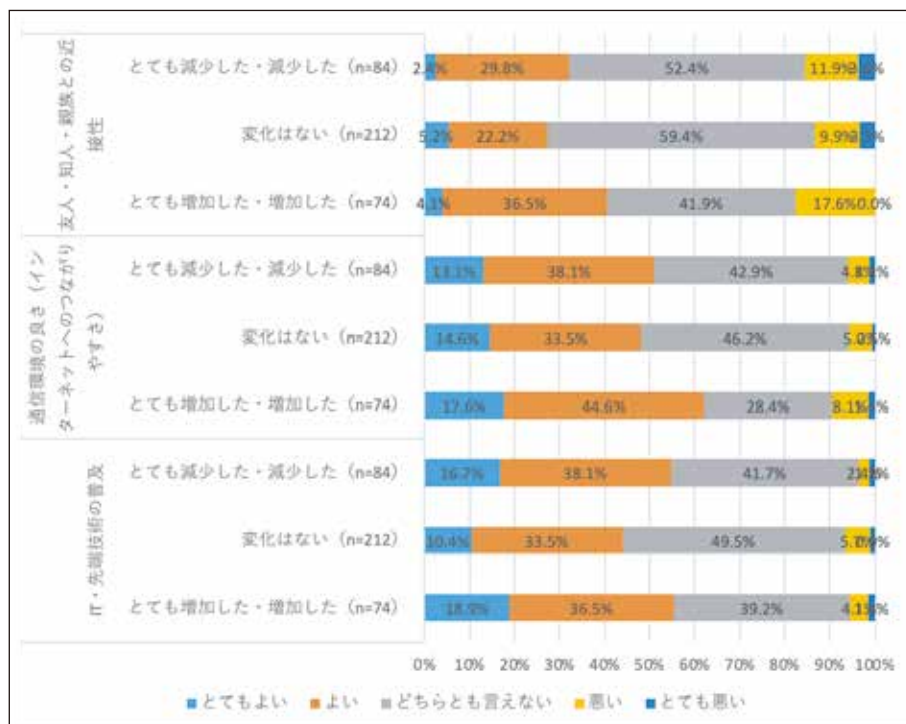
図表2-1-68 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



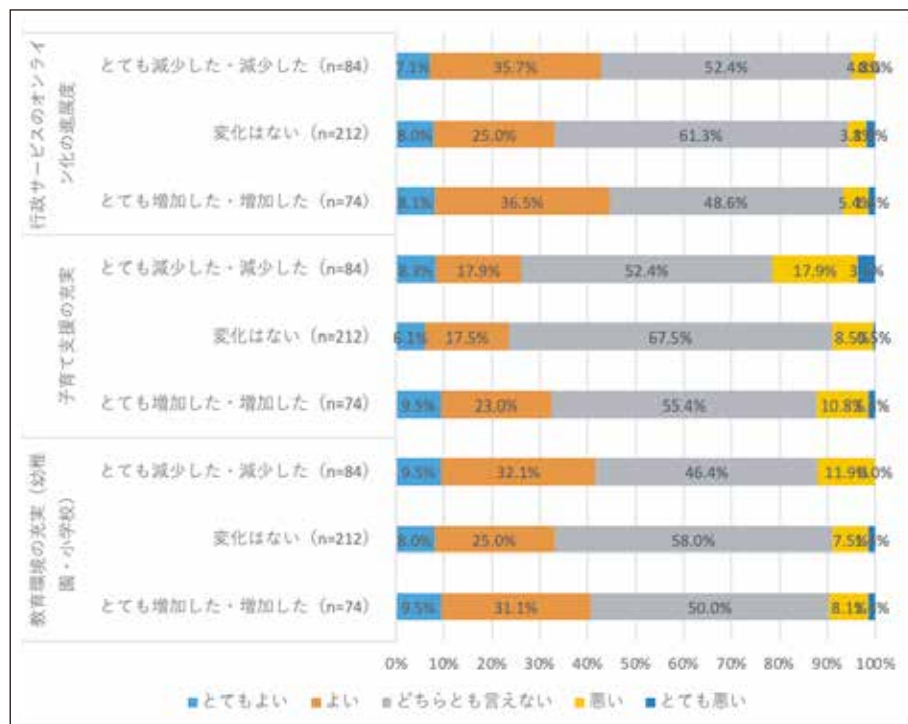
図表2-1-69 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



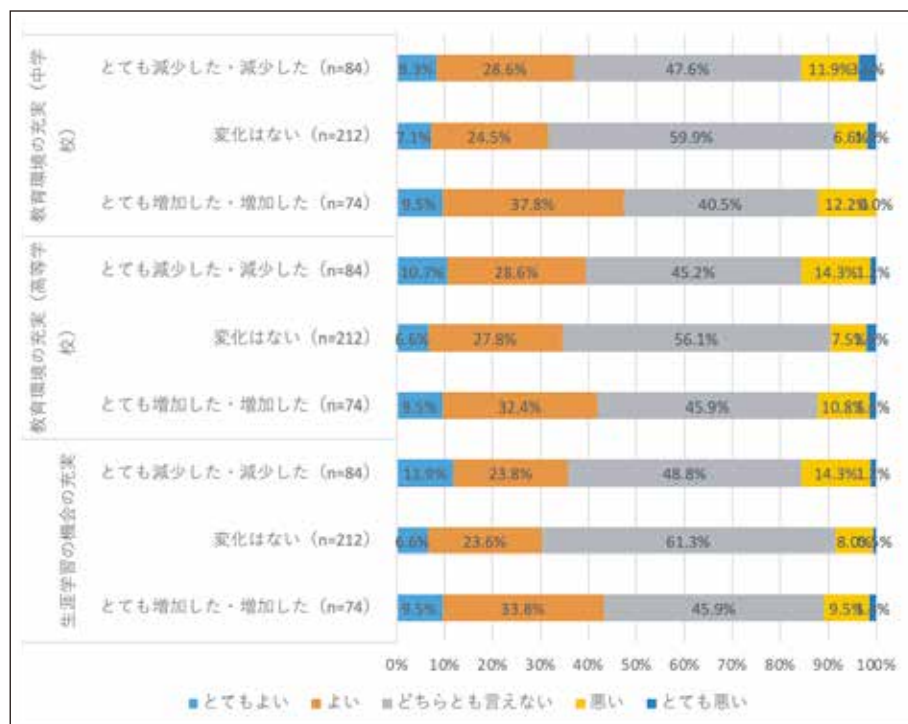
図表2-1-70 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



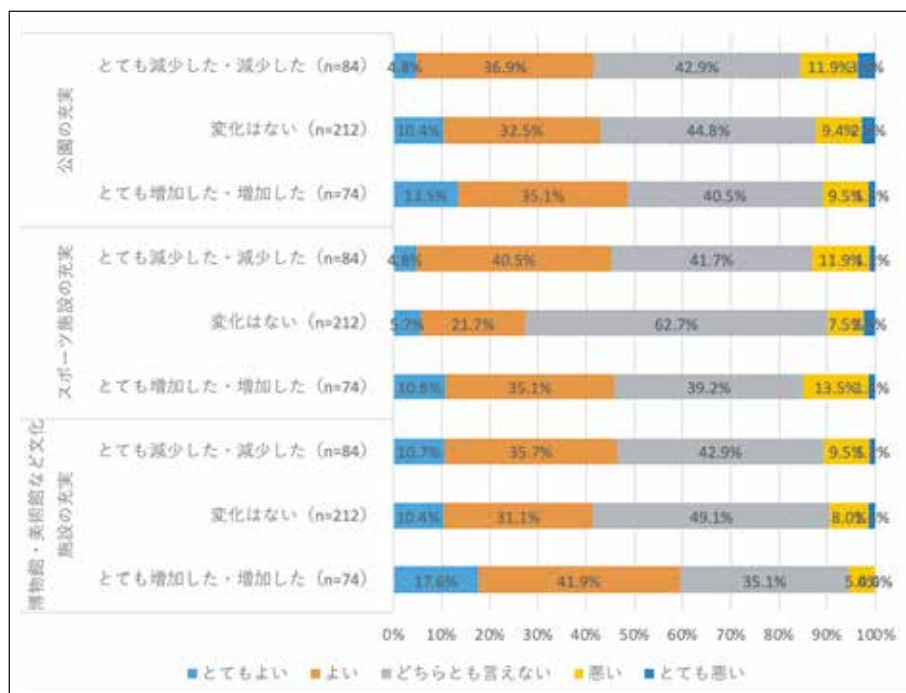
図表2-1-71 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



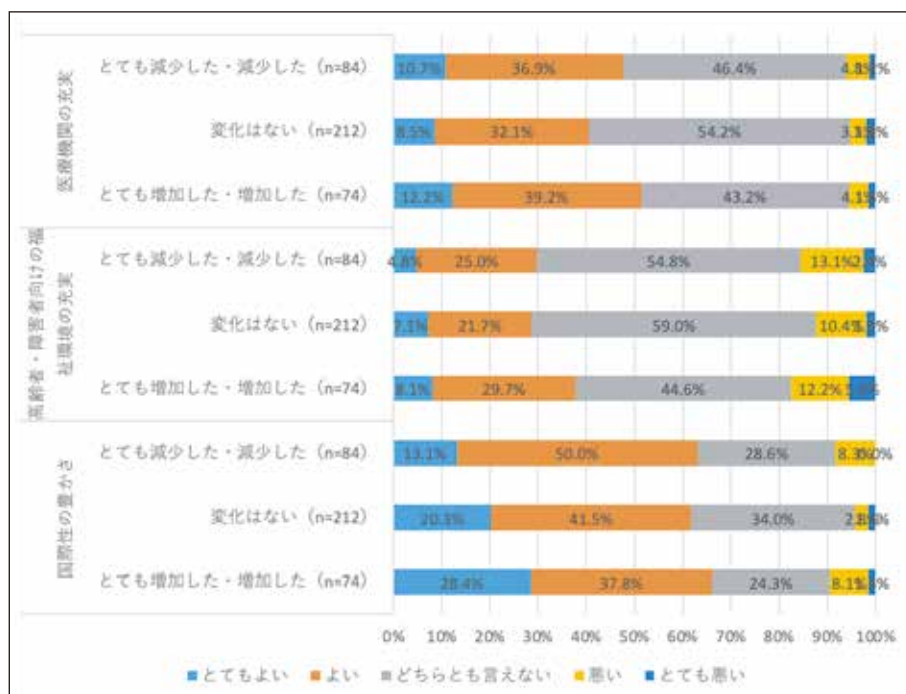
図表2-1-72 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



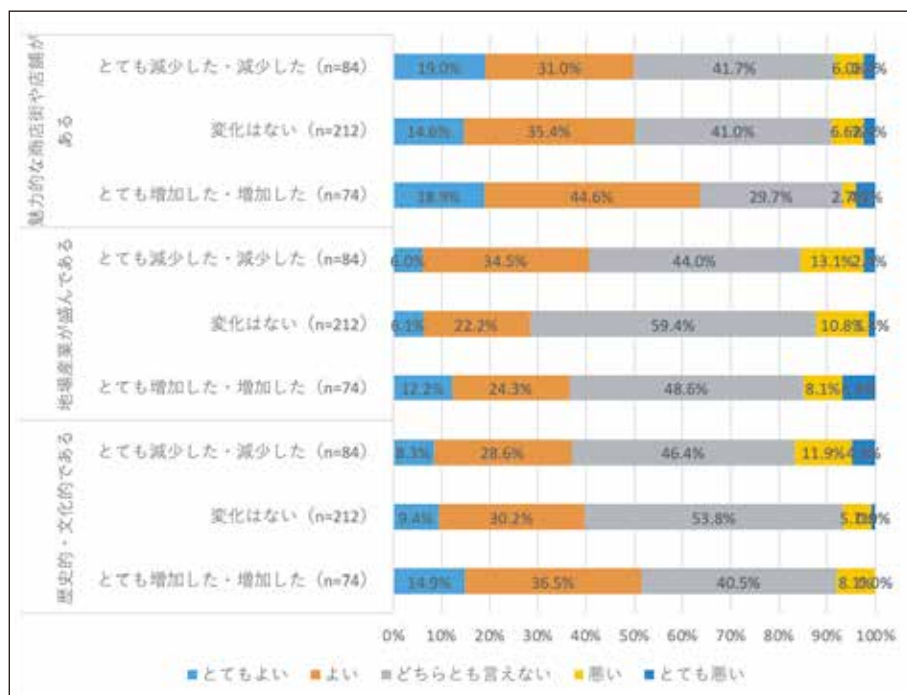
図表2-1-73 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



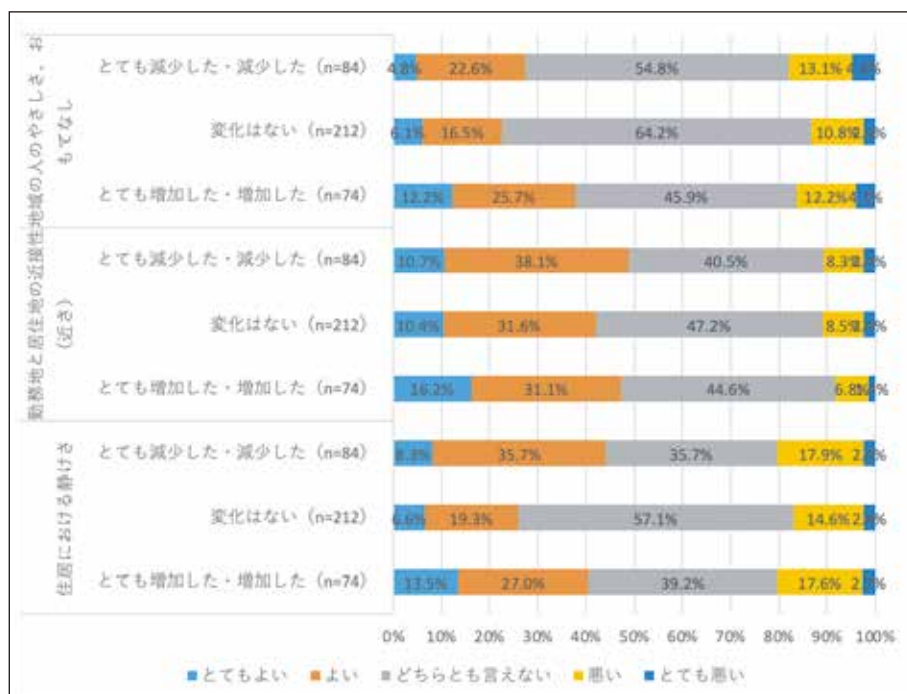
図表2-1-74 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-1-75 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-1-76 世帯支出の変化別にみた港区の個別イメージに対する評価
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



(3) 詳細分析

ア 方法

(ア) 港区のイメージの評価

昼間人口と定住人口のイメージへの評価度を比較

港区に対する総合イメージについて、定住人口と昼間人口の評価度の平均点を算出し、比較を行った。なお、評価度の差の有意性はt検定により確認した。

昼間人口については、併せて港区の個別イメージの平均点も算出し、項目ごとの格差の分析を行った。

(イ) 港区のイメージの構造特性の把握

昼間人口の抱く港区のイメージの構造を分析：因子分析と重回帰分析の活用

港区に対して抱くイメージの構造を明らかにし、その特性を分析するため、個別イメージの評価度を用いて因子分析を行い、定住人口の同様の分析結果と比較した。

因子分析により得られた因子得点を用いた重回帰分析により、港区の総合イメージに影響を与える個別イメージを明らかにし、定住人口の同様の分析結果と比較した。

最後に、因子分析によって抽出されたイメージを抱く区民属性を明らかにするために、因子得点を被説明変数、区民属性を説明変数として重回帰分析を行った。

イ 結果及び考察

(ア) 港区のイメージの評価

総合イメージの評価は定住人口と比較して低い傾向

昼間人口及び定住人口の抱く港区の総合イメージを明らかにするために「あなた自身は港区の下記の項目について、どのようなイメージをお持ちですか。」と質問し、とてもよい=5点、よい=4点、どちらとも言えない=3点、悪い=2点、とても悪い=1点として回答してもらい、その平均点を算出した。

港区に対するイメージについて(図表2-1-77)、定住人口は4.22点で「よい(4点)」～「とてもよい(5点)」であったのに対し、昼間人口は3.82点で「どちらとも言えない(3点)」～「よい(4点)」であり、定住人口の水準を下回っている。

図表2-1-77 港区に対するイメージの平均点の比較

	n	平均点	標準偏差	
合計	1021	4.07	0.79	
定住人口	651	4.22	0.75	
昼間人口	370	3.82	0.80	
検定		***		

※ t検定の結果、***は1%水準で有意であったことを示す。

個別イメージに対する評価は「飲食店の充実」「公共交通機関の利便性」「道路交
通の利便性」「国際性の豊かさ」が高い

昼間人口の抱く港区の個別的要素へのイメージの平均点を算出した（図表2-1-78）結果、「飲食店
の充実」（3.81）が最も評価が高く、次いで「公共交通の利便性」（3.78）、「国際性の豊かさ」（3.76）、
「道路交通の利便性」（3.67）などの評価が高くなっている。

図表2-1-78 港区のイメージの変数の定義

変数の定義	変数の名称	平均値	標準偏差	
「あなた自身は港 区の下記の項目に ついて、どのよう なイメージをお持ち ですか。」と質 問し、5=とても よい、4=よい、3 =どちらとも言え ない、2=悪い、1 =とても悪いで選 択してもらい、平 均点を算出した。	飲食店の充実度	3.81	1.12	
	公共交通機関の利便性	3.78	0.94	
	国際性の豊かさ	3.76	0.91	
	道路交通の利便性	3.67	0.85	
	景観・街並み	3.62	0.98	
	まちのイメージ	3.61	0.83	
	通信環境の良さ	3.59	0.85	
	住宅価格・家賃の水準	3.59	0.95	
	魅力的な商店街や店舗がある	3.58	0.91	
	I T・先端技術の普及	3.55	0.89	
	博物館・美術館など文化施設の充実	3.48	0.83	
	医療機関の充実	3.47	0.83	
	買い物のしやすさ	3.45	0.80	
	勤務地と居住地の近接性（近さ）	3.44	0.84	
	歴史的・文化的である	3.41	0.82	
	行政サービスのオンライン化の進展度	3.38	0.75	
	公園の充実	3.38	0.78	
	教育環境の充実（幼稚園・小学校）	3.34	0.80	
	教育環境の充実（高等学校）	3.32	0.82	
	教育環境の充実（中学校）	3.31	0.82	
	生涯学習の機会の充実	3.31	0.79	
	環境に配慮したまちづくり	3.29	0.89	
	スポーツ施設の充実	3.28	0.80	
	治安	3.25	0.84	
	地場産業が盛んである	3.24	0.79	
	高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	3.21	0.83	
	住居における静けさ	3.21	0.87	
	防災面における安全性	3.20	0.92	
	子育て支援の充実	3.19	0.84	
	友人・知人・親族との近接性	3.18	0.84	
	地域の人がやさしさ、おもてなし	3.16	0.84	
	地域コミュニティの活動	3.12	0.88	
	自然の豊かさ	3.02	0.89	

(イ) 港区のイメージの構造特性の把握

① 因子分析による港区の個別イメージの構造分析

港区に対するイメージとして「活気ある都市因子」「落ち着いた環境因子」「アクティブ活動因子」を抽出

港区のイメージに対する評価度を用いて因子分析を行った（図表2-1-79）。推定法は最尤法とした。図表2-1-79にプロマックス回転による因子負荷と共通性、初期の固有値、累積寄与率、信頼性係数を示した。その結果、3つの因子「活気ある都市因子」「落ち着いた環境因子」「アクティブ活動因子」を抽出した。

なお、「歴史的・文化的である」「勤務地と居住地の近接性（近さ）」「友人・知人・親族との近接性」についてはいずれの因子に対しても因子負荷の絶対値が0.4より小さかったことから、除外して因子の特定を行った。

港区に対するイメージ：「活気ある都市因子」

第一因子は、「国際性の豊かさ」「飲食店の充実度」「公共交通機関の利便性」などから構成されるため「活気ある都市因子」と命名した。「飲食店の充実度」の他に「魅力的な商店街や店舗がある」「買い物のしやすさ」が含まれ、港区の買い物の利便性を評価する因子であるといえる。

港区に対するイメージ：「落ち着いた環境因子」

第二因子は、「自然の豊かさ」「住居における静けさ」「環境に配慮したまちづくり」などから構成されるため「落ち着いた環境因子」と命名した。前出の3つの項目の他に「公園の充実」「治安」が含まれ、後述する定住人口の抱く港区のイメージの第一因子として抽出された「落ち着いた生活環境重視因子」と似通った傾向がある。

港区に対するイメージ：「アクティブ活動因子」

第三因子は、「スポーツ施設の充実」「道路交通の利便性」から構成されるため「アクティブ活動因子」と命名した。第一因子は買い物の利便性に項目が含まれていたのに対し、第三因子ではスポーツ施設や道路交通といった活動的な項目が含まれる特徴がみられた。

図表2-1-79 昼間人口の抱く港区のイメージの構造（因子分析の結果）

	活気ある 都市因子	落ち着いた 環境因子	アクティブ 活動因子	共通性
国際性の豊かさ	0.818	-0.088	-0.027	0.570
飲食店の充実度	0.794	-0.194	0.066	0.531
公共交通機関の利便性	0.642	-0.251	0.369	0.580
景観・街並み	0.637	0.323	-0.235	0.581
まちのイメージ	0.545	0.266	0.011	0.550
魅力的な商店街や店舗がある	0.528	0.187	0.047	0.468
買い物のしやすさ	0.506	0.189	0.067	0.458
博物館・美術館など文化施設の充実	0.470	0.094	0.205	0.445
IT・先端技術の普及	0.427	-0.012	0.370	0.475
自然の豊かさ	-0.135	0.802	0.002	0.533
住居における静けさ	-0.178	0.777	0.078	0.519
環境に配慮したまちづくり	0.172	0.746	-0.162	0.621
地域コミュニティの活動	0.076	0.569	0.148	0.496
高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	-0.116	0.561	0.327	0.492
公園の充実	0.221	0.475	0.115	0.492
治安	0.114	0.474	0.143	0.405
生涯学習の機会の充実	0.090	0.455	0.310	0.525
スポーツ施設の充実	-0.049	0.341	0.594	0.614
道路交通の利便性	0.379	-0.008	0.435	0.499
適合度を示す指標				
初期の固有値	8.409	1.836	1.001	
累積寄与率	44.257	53.918	59.186	
クロンバックの α 信頼性係数	0.888	0.878	0.647	

因子抽出法：最尤法 プロマックス回転

港区に対するイメージは 昼間人口は「活気」、 定住人口は「落ち着いた生活環境」であり、傾向が明確に異なる

図表2-1-80に定住人口における港区のイメージの構造を因子分析によって計測した結果を示した。分析方法は昼間人口と同じ方法を用いている。

その結果、昼間人口は「活気ある都市因子」「落ち着いた環境因子」「アクティブ活動因子」の3因子に対して、定住人口では「落ち着いた生活環境重視因子」「多様性・学習因子」「アクセス利便因子」「IT・コミュニティ重視因子」「買い物充実因子」の5つの因子が抽出された。

定住人口では「自然の豊かさ」「環境に配慮したまちづくり」「住居における静けさ」からなる「落ち着いた生活環境重視因子」が最も寄与率が高く、第一因子として抽出されたが、昼間人口では「自然の豊かさ」「環境に配慮したまちづくり」「住居における静けさ」は「落ち着いた環境因子」として第二因子に集約された形で抽出された。一方、昼間人口は第一因子として「国際性の豊かさ」「飲食店の充実度」「公共交通機関の利便性」からなる「活気ある都市因子」が抽出され、第三因子にも「スポーツ施設の充実」「道路交通の利便性」などからなる「アクティブ活動因子」が抽出されており、活気に係るイメージが強くなっていることがわかる。

図表2-1-80 参考：定住人口の因子分析の結果

	落ち着いた生活環境因子	多様性・学習因子	アクセス利便因子	IT・コミュニティ重視因子	買い物充実因子	共通性
自然の豊かさ	0.809	0.013	-0.208	-0.056	0.083	0.538
景観・街並み	0.768	-0.138	0.070	0.046	0.087	0.637
環境に配慮したまちづくり	0.677	0.013	-0.040	0.279	-0.075	0.681
住居における静けさ	0.556	0.066	0.017	0.026	-0.018	0.383
公園の充実	0.547	0.320	-0.097	-0.164	0.119	0.524
治安	0.544	-0.005	0.298	0.034	-0.131	0.482
まちのイメージ	0.476	0.058	0.333	-0.056	0.035	0.558
博物館・美術館など文化施設の充実	-0.057	0.699	0.032	-0.112	0.169	0.513
歴史的・文化的である	0.199	0.696	0.033	-0.097	-0.094	0.558
生涯学習の機会の充実	-0.141	0.668	-0.127	0.39	-0.047	0.638
医療機関の充実	-0.016	0.558	0.216	-0.06	0.119	0.517
スポーツ施設の充実	-0.001	0.560	0.023	0.206	-0.008	0.515
高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	0.121	0.569	-0.028	0.241	-0.134	0.570
国際性の豊かさ	0.012	0.476	0.195	0.000	0.083	0.434
公共交通機関の利便性	-0.089	0.051	0.818	-0.013	-0.008	0.617
道路交通の利便性	-0.007	0.039	0.736	0.039	-0.012	0.581
行政サービスのオンライン化の進展度	-0.007	-0.01	0.017	0.701	0.082	0.546
IT・先端技術の普及	0.000	-0.01	0.073	0.630	0.127	0.529
地域コミュニティの活動	0.183	0.206	-0.036	0.445	0.016	0.532
魅力的な商店街や店舗がある	0.070	0.197	-0.167	-0.004	0.706	0.623
買い物のしやすさ	0.054	-0.066	0.036	0.142	0.590	0.465
飲食店の充実度	-0.024	-0.078	0.272	0.108	0.564	0.557
適合度を示す指標						
初期の固有値	9.36	1.543	1.285	1.042	1.008	
累積寄与率	42.543%	49.558%	55.398%	60.133%	64.716%	
クロンバックの α 信頼性係数	0.868	0.869	0.767	0.762	0.757	

因子抽出法：最尤法 プロマックス回転

出典：港区「人口変動要因等に関する定点観測調査」

②因子得点を用いた重回帰分析による港区の総合イメージに影響を与える個別イメージの分析

活気と落ち着いた生活環境の両面が港区の総合イメージにプラスに影響している

港区の総合イメージに影響を与える要因を、先の因子分析によって算出した因子得点を説明変数、総合イメージを被説明変数として重回帰分析を行った（図表2-1-81、図表2-1-82）。

その結果、昼間人口においては「活気ある都市因子」「落ち着いた環境因子」で正に有意、「アクティブ活動因子」が負に有意という結果が得られた。このことから、昼間人口は港区に対して国際性をはじめとする活気とみどりはじめとした落ち着いた両面で都市環境の快適性が高まると総合イメージが向上すると解釈される。

落ち着いた生活環境と買い物充実は昼間人口、定住人口に共通して港区の総合イメージ向上に寄与する

定住人口・昼間人口どちらも「自然の豊かさ」「環境に配慮したまちづくり」「住居における静けさ」などから形成される落ち着いた生活環境を高めることが港区の総合イメージを向上させるといえる。

また、昼間人口において活気ある都市因子に含まれている「飲食店の充実度」「魅力的な商店街や店舗がある」「買い物のしやすさ」、定住人口における「買い物充実因子」のどちらも総合イメージに正の影響を与えていることから、買い物を充実させることも港区のイメージを向上させる要素といえよう。

図表2-1-81 昼間人口の総合イメージに影響を与える要因（重回帰分析結果）

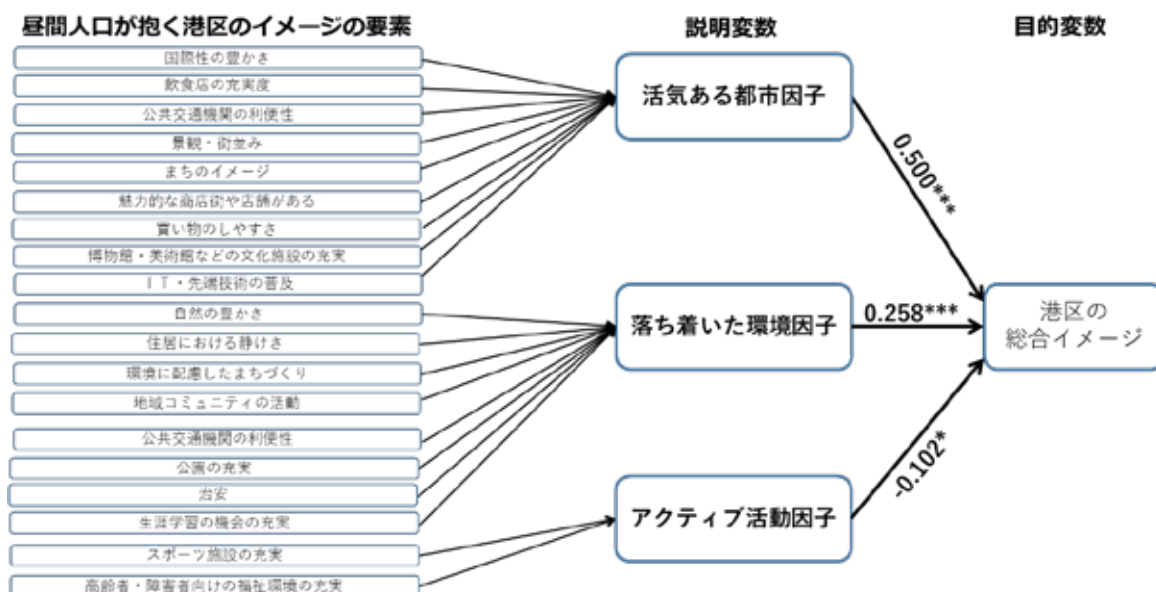
被説明変数 =港区の総合イメージ	標準化係数	有意確率
活気ある都市因子	0.500	***
落ち着いた環境因子	0.258	***
アクティブ活動因子	-0.102	*
修正済み決定係数	0.395	

図表8-1-81 参考：定住人口の総合イメージに影響を与える要因（重回帰分析結果）

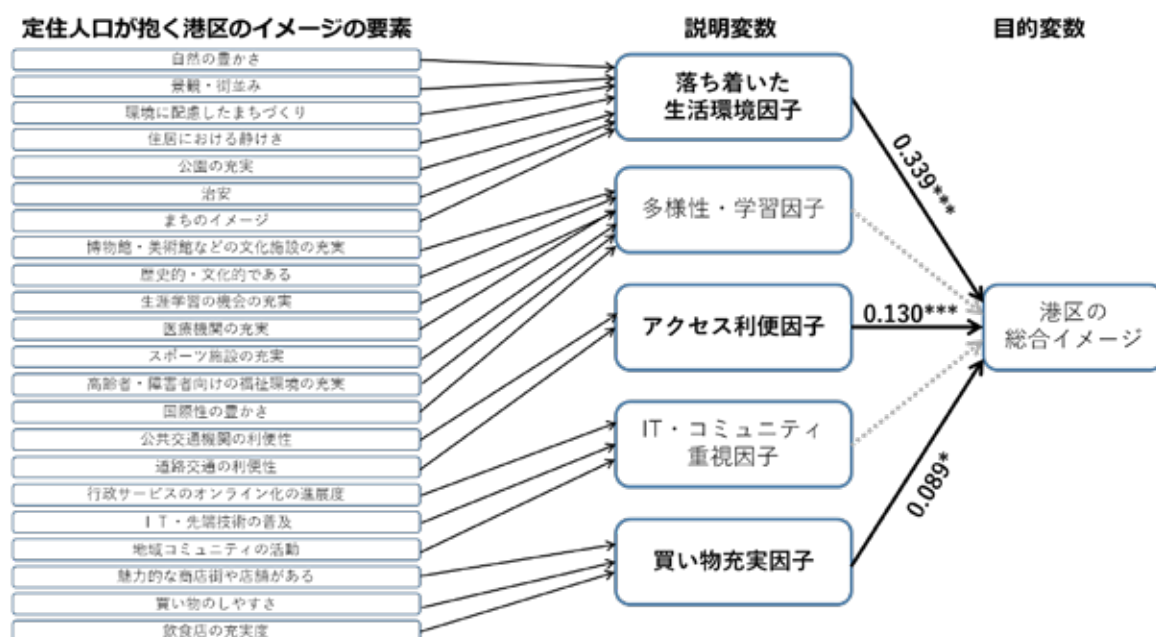
被説明変数 =港区の総合イメージ	標準化係数	有意確率
落ち着いた生活環境因子	0.339	***
多様性・学習因子	0.066	
アクセス利便因子	0.130	***
IT・コミュニティ重視因子	0.072	
買い物充実因子	0.089	*
修正済み決定係数	0.366	

出典：港区「人口変動要因等に関する定点観測調査」

図表2-1-82 昼間人口の港区のイメージに影響を与える要因と関係の強さの構造



図表2-1-82 参考：定住人口の港区のイメージに影響を与える要因と関係の強さ



出典：港区「人口変動要因等に関する定点観測調査」

③個人属性（平均値）と因子得点を用いた重回帰分析によるイメージの因子と昼間区民の属性との関係の分析

図表2-1-83 回答者属性の変数の定義

変数の名称	変数の定義	平均値	標準偏差
被説明変数（目的変数）			
活気ある都市因子	因子分析で抽出された活気ある都市因子の因子得点	-9.48×10^{-17}	0.95
落ち着いた環境因子	因子分析で抽出された落ち着いた環境因子の因子得点	1.44×10^{-16}	0.94
アクティブ活動因子	因子分析で抽出されたアクティブ活動因子の因子得点	1.09×10^{-16}	0.87
説明変数			
20代	20代=1、20代以外=0	0.17	0.38
30代	30代=1、30代以外=0	0.20	0.40
40代	40代=1、40代以外=0	0.18	0.39
60・70代	60代=1、60代以外=0	0.26	0.44
性別	女性=1、男性=0	0.32	0.47
世帯員数	1人～7人の実数	2.71	1.40
65～74歳の高齢者の有無	世帯員に65～74歳の前期高齢者がいる=1、いない=0	0.16	0.36
75歳以上の高齢者の有無	世帯員に75歳以上の後期高齢者がいる=1、いない=0	0.11	0.31
0～6歳の子どもの有無	世帯員に0～6歳の子どもがいる=1、いない=0	0.14	0.35
7～12歳の子どもの有無	世帯員に7～12歳の子どもがいる=1、いない=0	0.08	0.27
13～15歳の子どもの有無	世帯員に13～15歳の子どもがいる=1、いない=0	0.03	0.18
16～18歳の子どもの有無	世帯員に16～18歳の子どもがいる=1、いない=0	0.04	0.20
収支状況：世帯内の収入	新型コロナウイルス感染症の流行以前（2020年2月以前）と現在を比較して、世帯としての収入に変化はありましたか。 5=とても増加した、4=増加した、3=変化はない 2=減少した、1=とても減少した	2.71	0.78
収支状況：世帯内の支出	新型コロナウイルス感染症の流行以前（2020年2月以前）と現在を比較して、世帯としての支出に変化はありましたか。 5=とても増加した、4=増加した、3=変化はない 2=減少した、1=とても減少した	2.97	0.76
平均勤務日数	コロナ禍（2020年3月～2021年現在）の平均した勤務日数（一カ月当たり）をお答えください。一カ月当たりの日数に変換した。 0日=0、数か月に1回程度=0.5、1か月に1日程度=1、週1日程度=4、週2日程度=8、週3日程度=12、週4日程度=16、週5日程度=20、週6日程度=24、週7日程度=28 （無職・家事専業・学生は0日とした。）	12.72	8.50

図表2-1-84 各因子に影響を与える消費者属性

	活気ある都市因子		落ち着いた環境因子		アクティブ活動因子	
	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
20代	-0.056		0.115 *		-0.059	
30代	-0.181 **		0.058		-0.127 *	
40代	-0.044		0.076		-0.017	
60・70代	-0.045		0.002		-0.100	
女性	0.050		0.015		-0.023	
世帯員数	0.007		0.074		0.070	
同居の前期高齢者	0.100 *		0.112 *		0.048	
同居の後期高齢者	0.032		0.005		0.046	
同居の0～6歳の子ども	0.002		-0.047		0.064	
同居の7～12歳の子ども	0.092		0.079		0.063	
同居の13～15歳の子ども	0.037		0.030		0.055	
同居の16～18歳の子ども	0.057		0.056		-0.009	
世帯収入の増減	0.060		0.178 ***		0.033	
世帯支出の増減	0.034		0.022		-0.008	
平均勤務日数（月あたり）	0.079		0.007		-0.037	
修正済み決定係数	0.022		0.047		0.006	

2 引越し可能性と引越しのきっかけ、居住地選択要因の変化（問2-1～問2-4）

問2-1 将来、現在の居住地から転出するご予定はありますか。

- 1 考えている 2 やや考えている 3 どちらでもない 4 あまり考えていない
5 考えていない

問2-2 予定する転出のきっかけとしてご自身やご家族の状況に当てはまるものをお答えください。

- 1 就職 2 転勤 3 転職 4 退職 5 進学・卒業 6 住宅の購入
7 広い家への住み替え 8 建て替え・改築 9 結婚 10 離婚 11 同居・同棲
12 出産 13 家族や親族から独立するため 14 親や親族の介護
15 住まいの賃貸契約の更新が近かった 16 家計状況の好転（景気の好転）
17 家計状況の悪化（景気の悪化） 18 通院 19 自身の健康上の理由
20 特に理由はない 21 リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった
22 人口密集地を脱したい 23 騒音による住環境の悪化（具体的に： ）
24 その他要因による住環境の悪化（具体的に： ） 25 その他（具体的に： ）

問2-3 転出先として考えている場所をお答えください。

- 1 千代田区 2 中央区 3 港区 4 新宿区 5 文京区 6 台東区
7 墨田区 8 江東区 9 品川区 10 目黒区 11 大田区 12 世田谷区
13 渋谷区 14 中野区 15 杉並区 16 豊島区 17 北区 18 荒川区
19 板橋区 20 練馬区 21 足立区 22 葛飾区 23 江戸川区 24 23区以外の都内
25 北海道 26 青森県 27 岩手県 28 宮城県 29 秋田県 30 山形県
31 福島県 32 茨城県 33 栃木県 34 群馬県 35 埼玉県 36 千葉県
37 神奈川県 38 新潟県 39 富山県 40 石川県 41 福井県 42 山梨県
43 長野県 44 岐阜県 45 静岡県 46 愛知県 47 三重県 48 滋賀県
49 京都府 50 大阪府 51 兵庫県 52 奈良県 53 和歌山県 54 鳥取県
55 島根県 56 岡山県 57 広島県 58 山口県 59 徳島県 60 香川県
61 愛媛県 62 高知県 63 福岡県 64 佐賀県 65 長崎県 66 熊本県
67 大分県 68 宮崎県 69 鹿児島県 70 沖縄県 71 海外 72 分からない

問2-4 新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。

【項目】

1. 住宅価格・家賃の水準、2. 公共交通機関の利便性、3. 道路交通の利便性、4. 防災面における安全性、5. 治安、6. まちのイメージ、7. 景観・街並み、8. 自然の豊かさ、9. 飲食店の充実度、10. 買い物のしやすさ、11. 環境に配慮したまちづくり、12. 地域コミュニティの活動、13. 友人・知人・親族との近接性、14. 通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）、15. IT・先端技術の普及、16. 行政サービスのオンライン化の進展度、17. 子育て支援の充実、18. 教育環境の充実（幼稚園・小学校）、19. 教育環境の充実（中学校）、20. 教育環境の充実（高等学校）、21. 生涯学習の機会の充実、22. 公園の充実、23. スポーツ施設の充実、24. 博物館・美術館など文化施設の充実、25. 医療機関の充実、26. 高齢者・障害者向けの福祉環境の充実、27. 国際性の豊かさ、28. 魅力的な商店街や店舗がある、29. 地場産業が盛んである、30. 歴史的・文化的である、31. 地域の人々のやさしさ、おもてなし、32. 勤務地と居住地の近接性（近さ）、33. 住居における静けさ

- 1 とても重要度が上がった 2 重要度が上がった 3 変化はない 4 重要度が下がった
5 とても重要度が下がった

(1) 基本集計結果

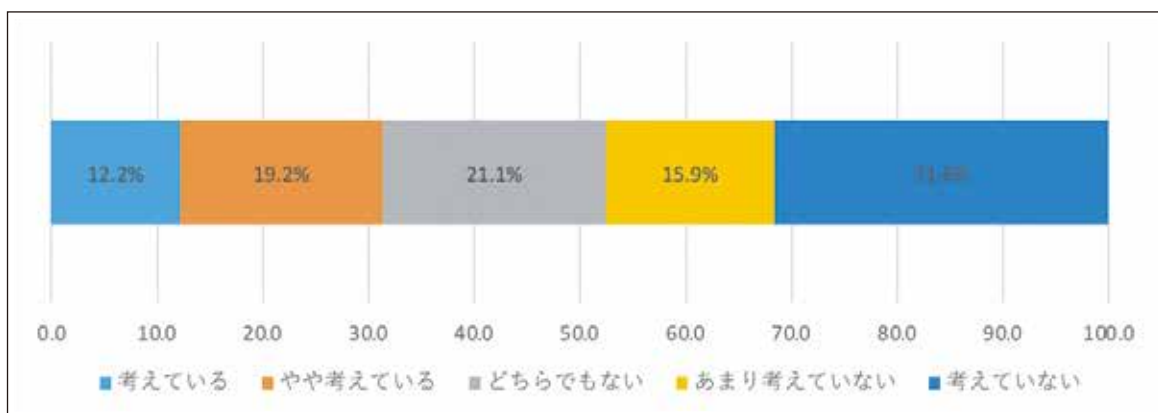
ア 港区における昼間人口の引越し意向

「やや考えている」「考えている」を併せると昼間人口の約3割が引越しを検討

現在の居住地からの引越し意向をみると「考えていない」と「あまり考えていない」を併せると、47.5%（15.9%+31.6%）であり、半数程度は転出を考えていない。ただし、「考えている」と「やや考えている」を併せると31.4%（12.2%+19.2%）であり、約3割は引越しを考えていることがうかがえる。

このことから、引越しを考えている3割の昼間人口に対しては港区への移住をPRすることで転入が期待できる層とも捉えられる。

図表2-2-1 昼間人口の引越し意向



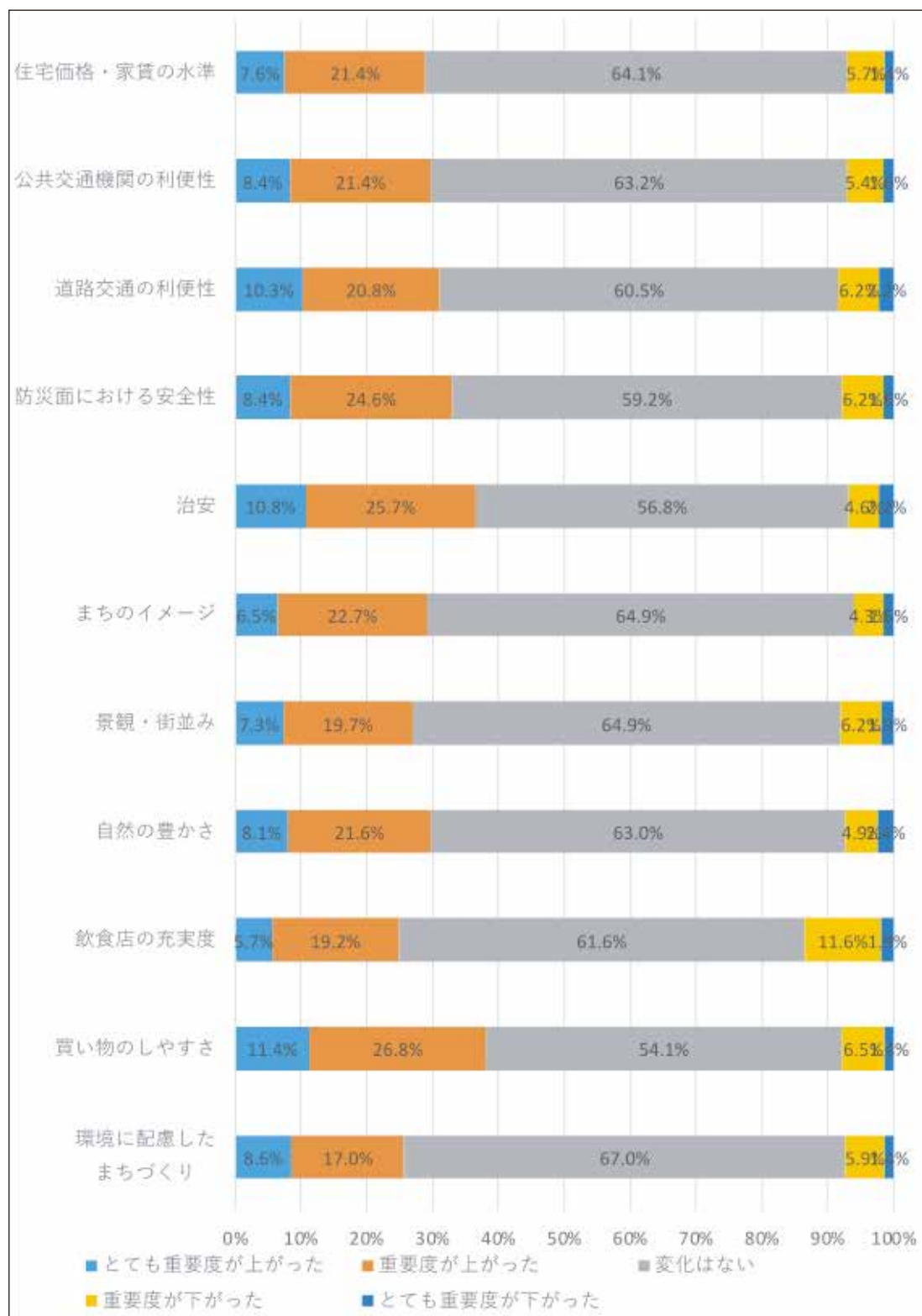
イ コロナの影響を受けて重要になった住居選択要因

コロナを受けて重要視されるようになったのは
「医療機関の充実」「買い物のしやすさ」「通信環境の良さ」

感染症の流行を機にとっても重要度が上がった住居選択要因として、「医療機関の充実」が13.0%、次いで「買い物のしやすさ」11.4%、「通信環境の良さ」11.1%と続いた。これらの3項目は、外出自粛が要請された際でも医療サービスを受けられ、また買い物ができ、さらには在宅勤務の際にも支障が出ないよう通信環境の良さが重視されるようになった可能性がある。コロナを経験したことにより、これら3点の希望を叶えるコンパクトな街が求められているとも解釈できる。

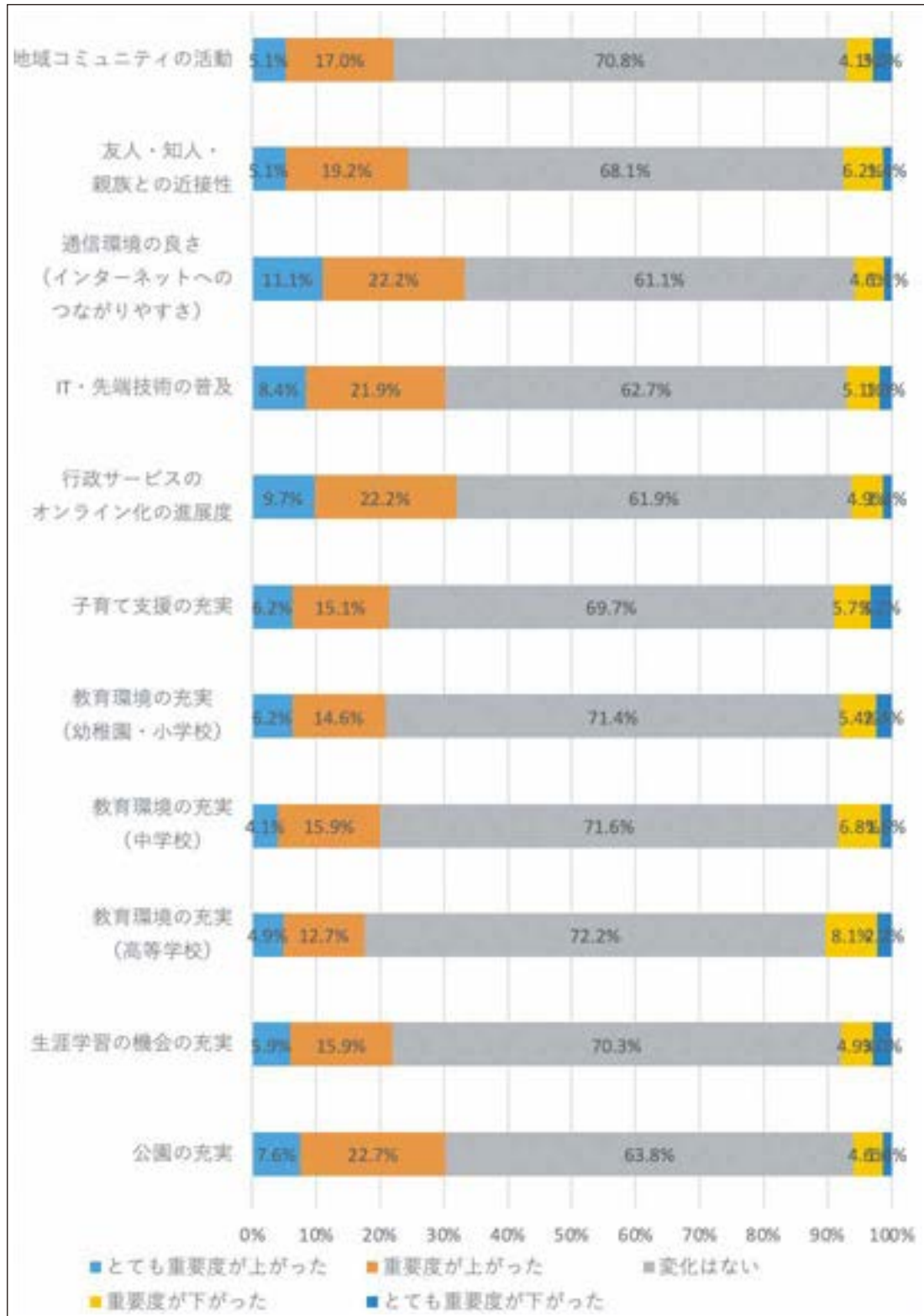
図表2-2-2 住居選択時に重視する項目

(「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」)



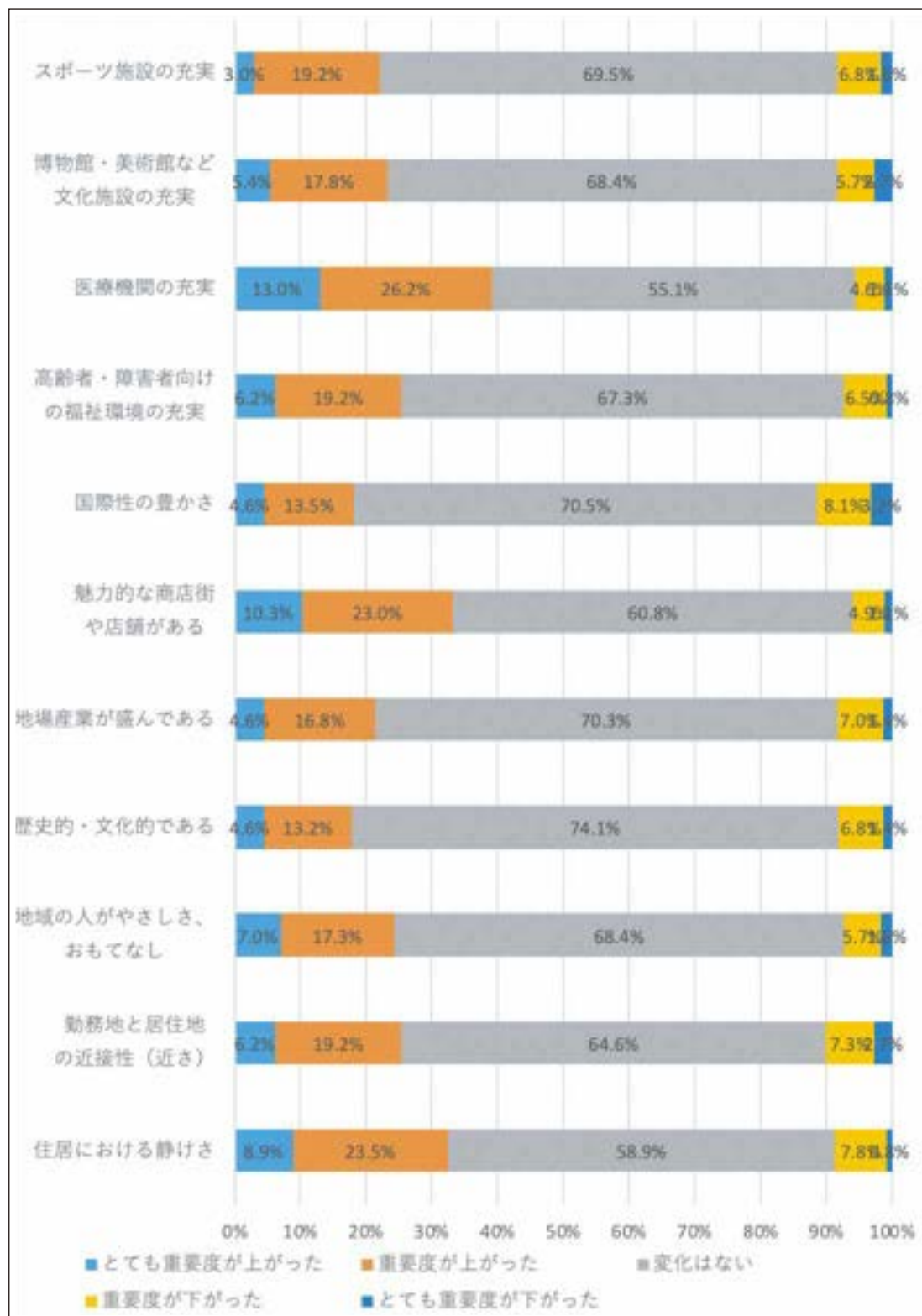
図表2-2-3 住居選択時に重視する項目

(「地域コミュニティの活動」「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」「公園の充実」)



図表2-2-4 住居選択時に重視する項目

(「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



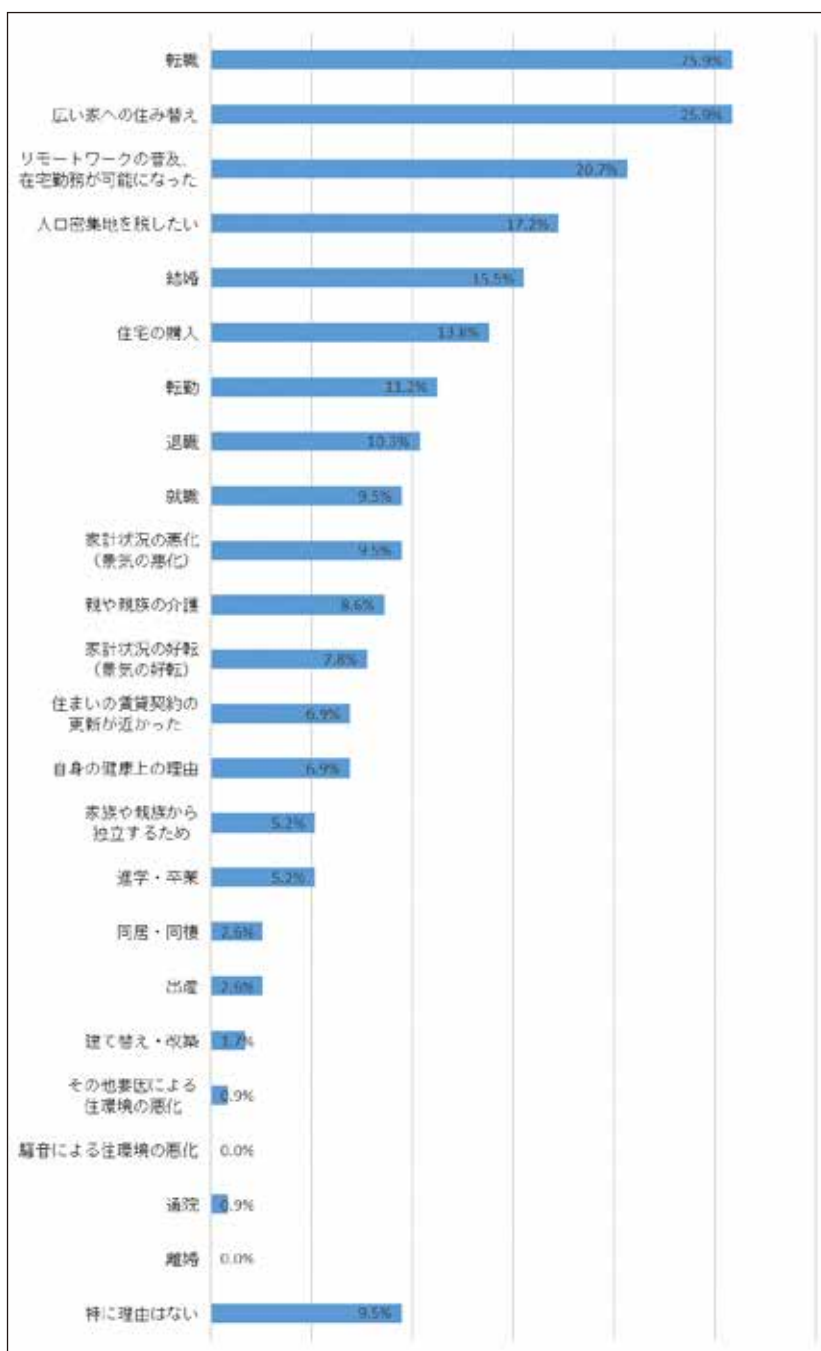
ウ 引越しのきっかけ

引越しのきっかけは「転職」「広い家への住み替え」が最も多く、次いで「リモートワークの普及」「人口密集地を脱したい」が多い

引越しを「考えている」「やや考えている」と回答した回答者の引越しのきっかけは、「転職」と「広い家への住み替え」がそれぞれ25.9%、次いで「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」20.7%、「人口密集地を脱したい」17.2%も比較的多くなっている。

図表2-2-5 引越しのきっかけ

(図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た)



エ 希望する引越し先

引越しを検討している先は、「一都三県を除く日本」が最も多く、次いで「23区以外の都内」「港区」「千葉県」「神奈川県」

引越し先を検討している昼間人口における希望引越し先は一都三県を除く日本が最も多く、次いで23区以外の都内、港区、千葉県、神奈川県と続いている。

なお、本調査で港区に関して質問したことが港区を選択した回答者が多くなることにつながっている可能性がある点に留意が必要である。

図表2-2-6 引越しを検討している昼間人口の引越し希望先（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）



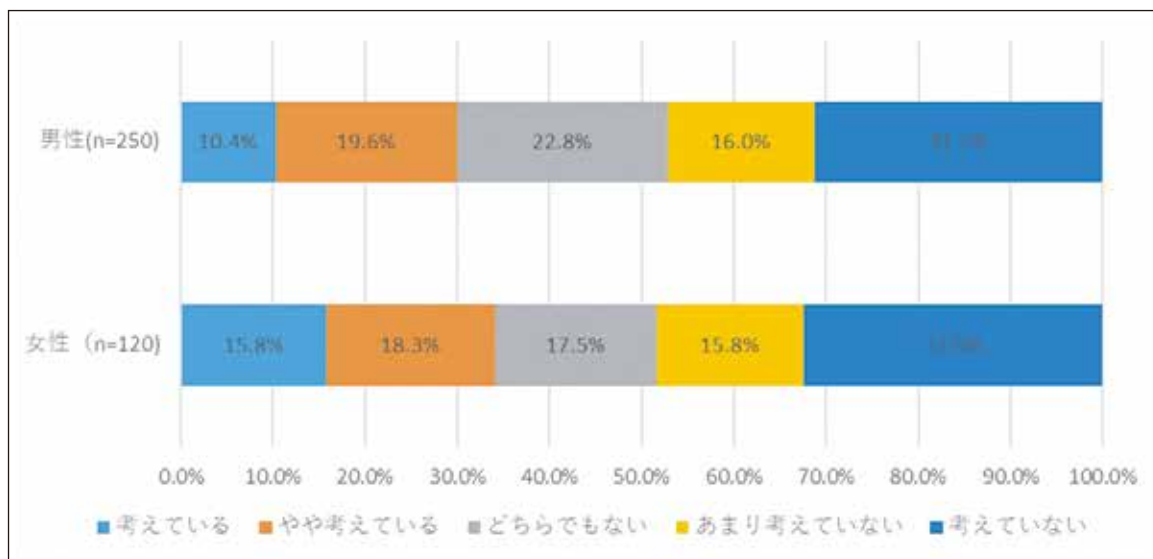
(2) クロス集計結果

ア 引越し意向と回答者属性の関係

男女別では引越し意向に大きな違いがあるとは言えない

男女別でみた引越し意向を「考えている」割合は、男性が10.4%であるのに対し、女性が15.8%で女性の方がやや高い傾向がみられるものの、概ね男女による違いはみられない。

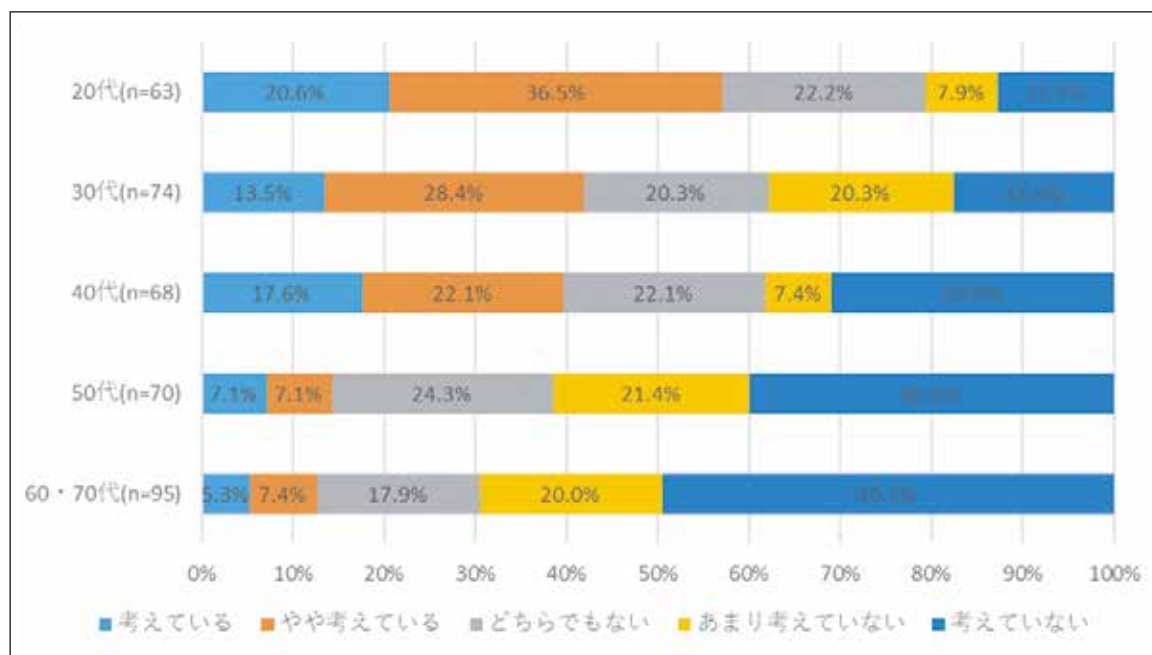
図表2-2-7 男女別にみた引越し意向



若年層ほど引越し意向が強く、高年齢層ほど引越し意向が弱い

年代別の引越し意向の「考えている」と「やや考えている」を併せた割合をみると、20代では57.1% (20.6% + 36.5%) で半数以上が転出を考えているが、30代で41.9% (13.5% + 28.4%)、40代で39.7% (17.6% + 22.1%) と低くなり、50代では14.2% (7.1% + 7.1%)、60・70代では12.7% (5.3% + 7.4%) と年代別で大きな乖離がみられる。

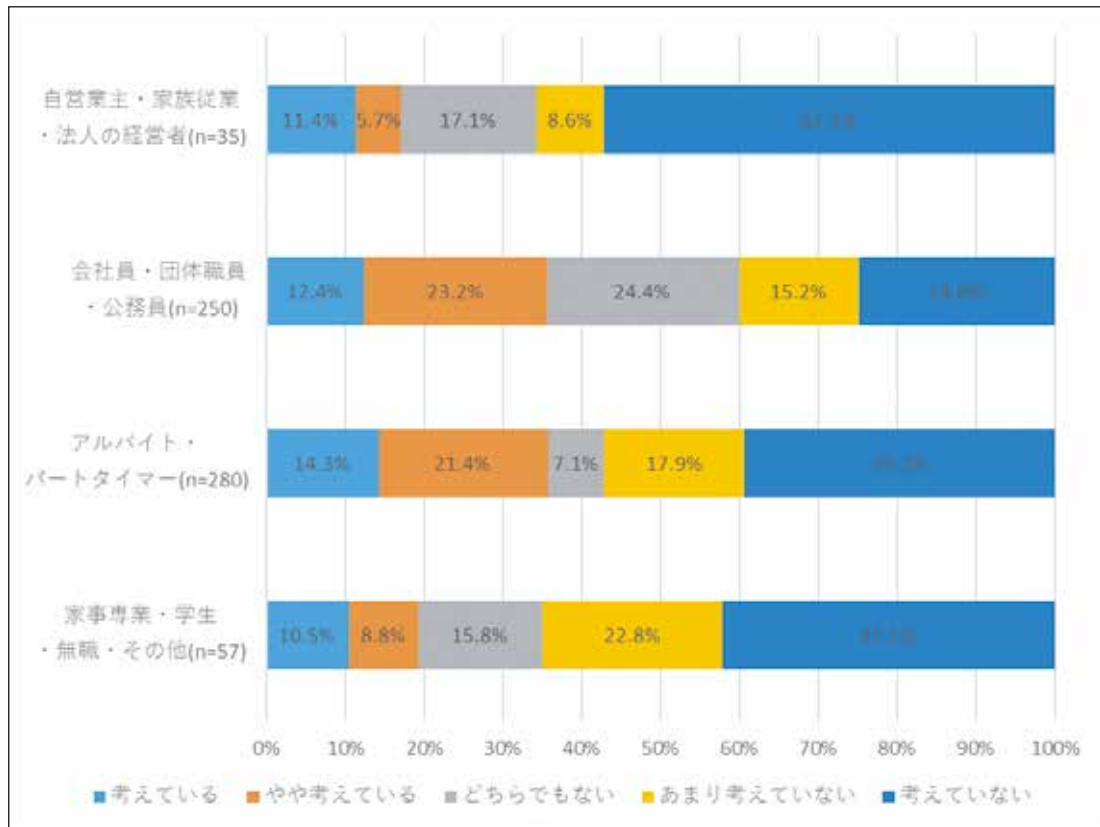
図表2-2-8 年代別にみた引越し意向



会社員やアルバイトの引越し意向が強い一方で、
自営業主や経営者では引越しを考えていない割合が半数以上を占める

雇用形態別に引越し意向の「考えている」と「やや考えている」を併せた割合をみると、「会社員・団体職員・公務員」では35.6%（12.4%+23.2%）、「アルバイト・パートタイマー」では35.7%（14.3%+21.4%）で同程度の値を示している。一方で、「自営業主・家族従業・法人の経営者」では17.1%（11.4%+5.7%）、「家事専業・学生・無職・その他」では19.3%（10.5%+8.8%）であり、前者に比較して低い。特に、「自営業主・家族従業・法人の経営者」では引越しを「考えていない」割合が57.1%と他の雇用形態に比較して高い。

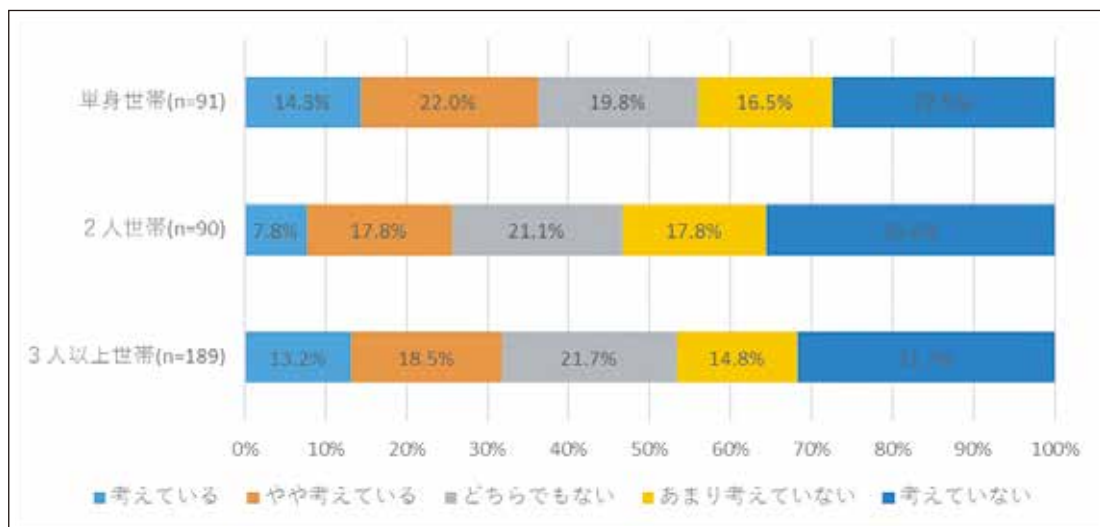
図表2-2-9 雇用形態別にみた引越し意向



2人世帯に比較して、単身世帯や3人以上世帯の引越し意向が高い

世帯員数別に引越し意向の「考えている」と「やや考えている」を併せた割合をみると、単身世帯では36.3%（14.3%+22.0%）で最も高く、次いで3人以上世帯では31.7%（13.2%+18.5%）、2人世帯では25.6%（7.8%+17.8%）みられる。

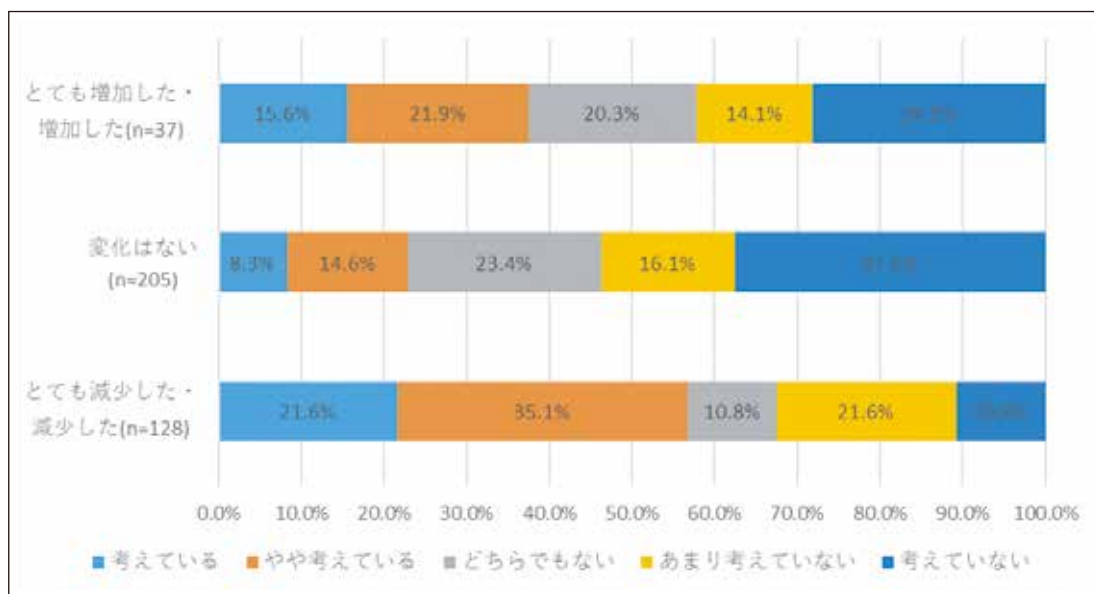
図表2-2-10 世帯員数別にみた引越し意向



世帯収入が減少した回答者では転出意向が高い

世帯収入の変化別に引越し意向の「考えている」と「やや考えている」を併せた割合をみると、世帯収入が減少した回答者では56.7%（21.6%+35.1%）で最も高く、次いで増加した回答者では37.5%（15.6%+21.9%）、変化はないの回答者では22.9%（8.3%+14.6%）と続く。

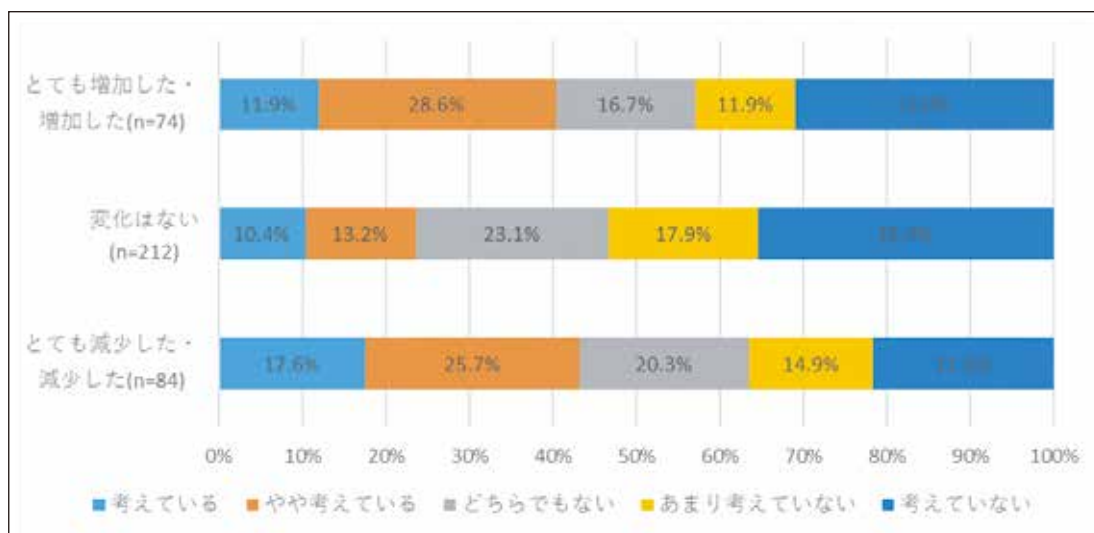
図表2-2-11 世帯収入の変化別にみた引越し意向



世帯支出が増加又は減少した回答者では転出意向が高い

世帯支出の変化別に引越し意向の「考えている」と「やや考えている」を併せた割合をみると、世帯支出が減少した回答者では43.3%（17.6%+25.7%）で最も高く、次いで増加した回答者では40.5%（11.9%+28.6%）、変化はないの回答者では23.6%（10.4%+13.2%）と続く。

図表2-2-12 世帯支出の変化別にみた引越し意向

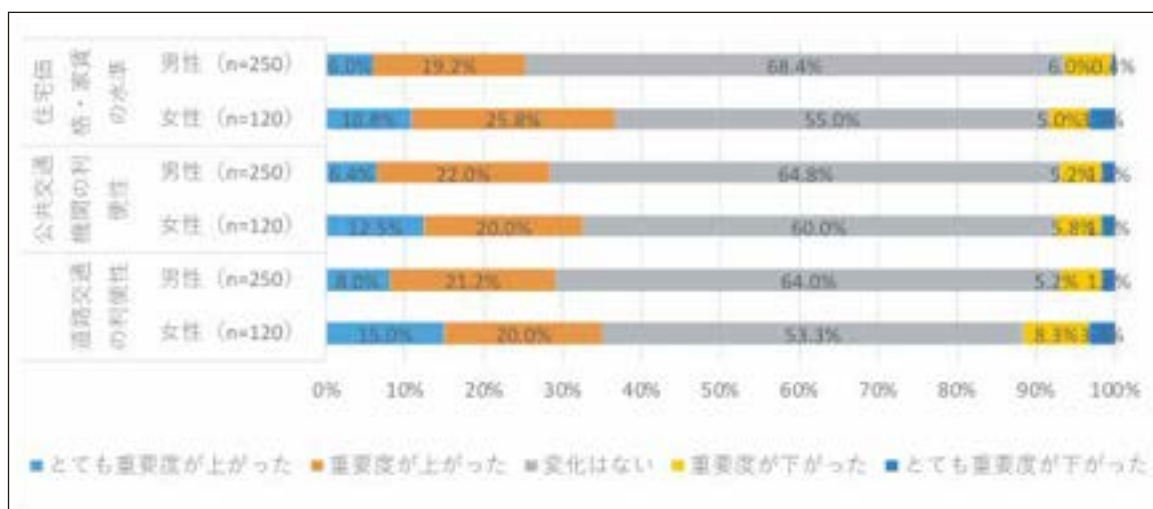


イ コロナの影響を受けて重要になった住居選択要因と回答者属性の関係

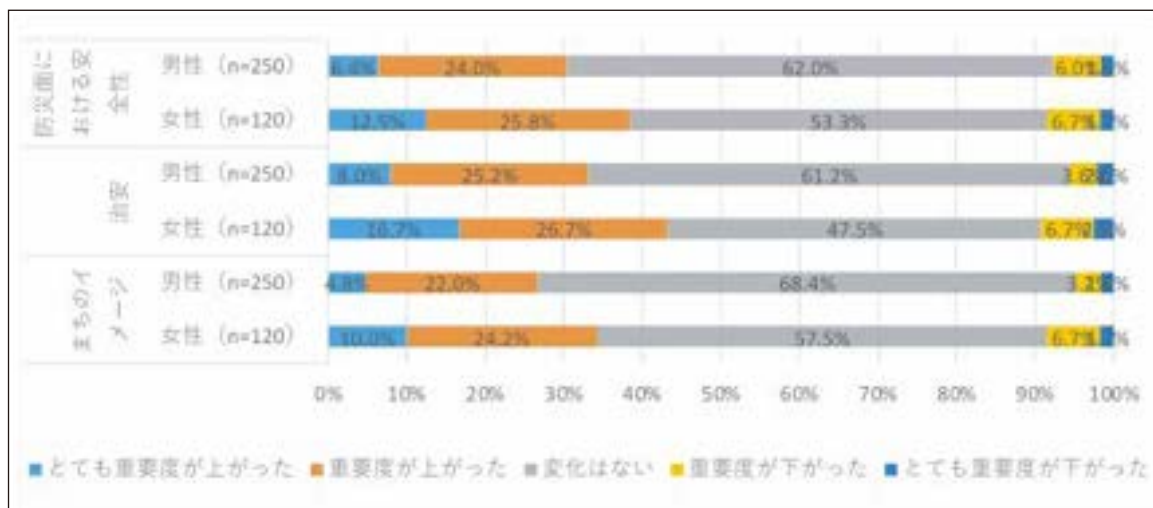
すべての項目で、男性よりも女性で引越し先選択時における重要度が上がっている

男女別でみると、すべての項目で男性よりも女性で重要度が上がっている。なかでも、「住宅価格・家賃の水準」「治安」「景観・街並み」「買い物のしやすさ」「子育て支援の充実」「教育環境の充実（高等学校）」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」では、「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せると、男性よりも女性で10ポイント以上大きな値を示していることから、これらの項目がコロナによって女性にとって重視されるようになってきている項目といえる。

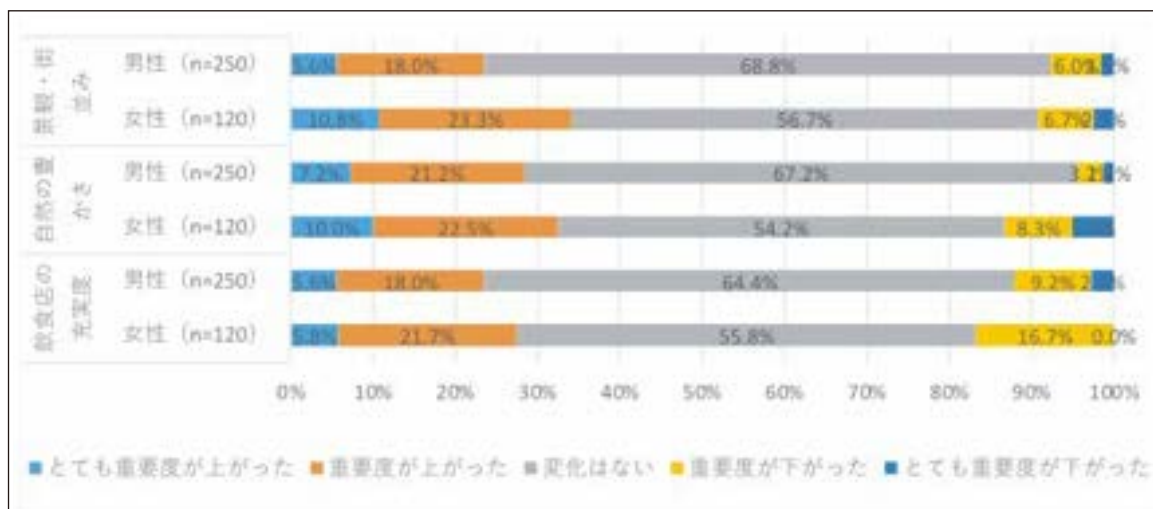
図表2-2-13 男女別にみた住居選択時に重視する項目
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



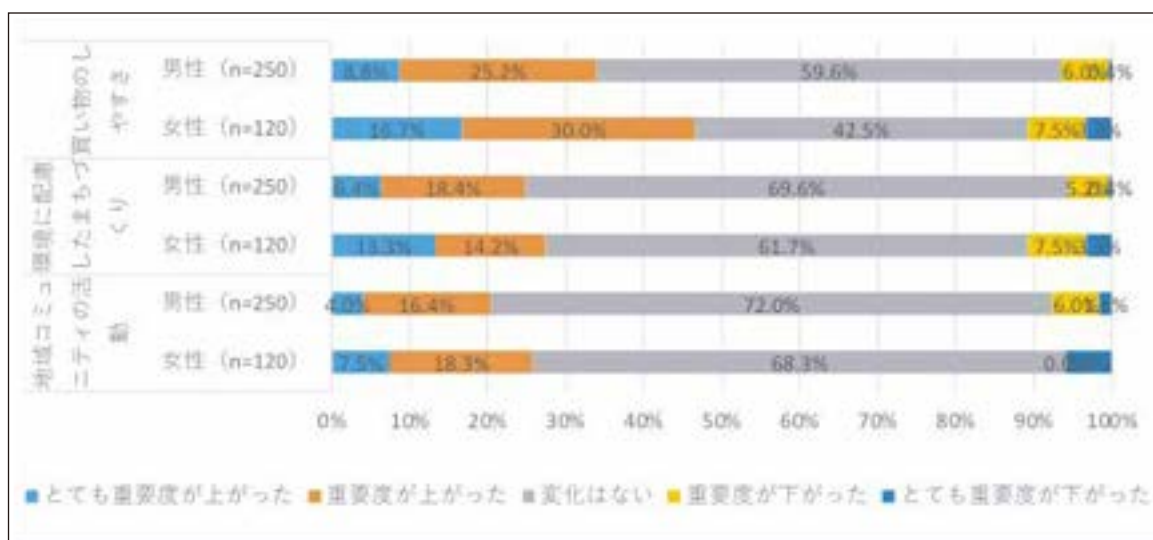
図表2-2-14 男女別にみた住居選択時に重視する項目
（「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」）



図表2-2-15 男女別にみた住居選択時に重視する項目
（「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」）

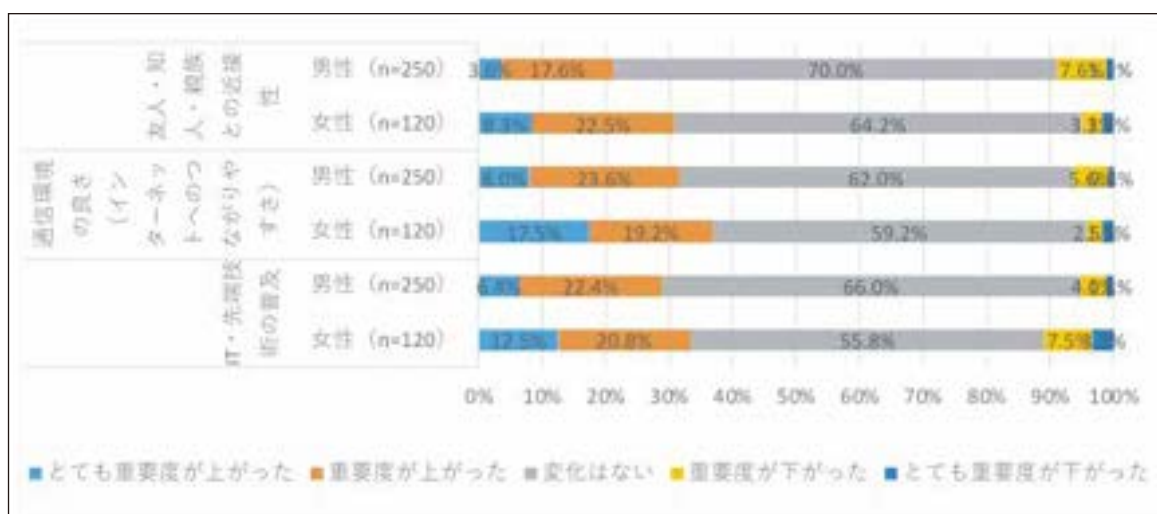


図表2-2-16 男女別にみた住居選択時に重視する項目
（「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」）



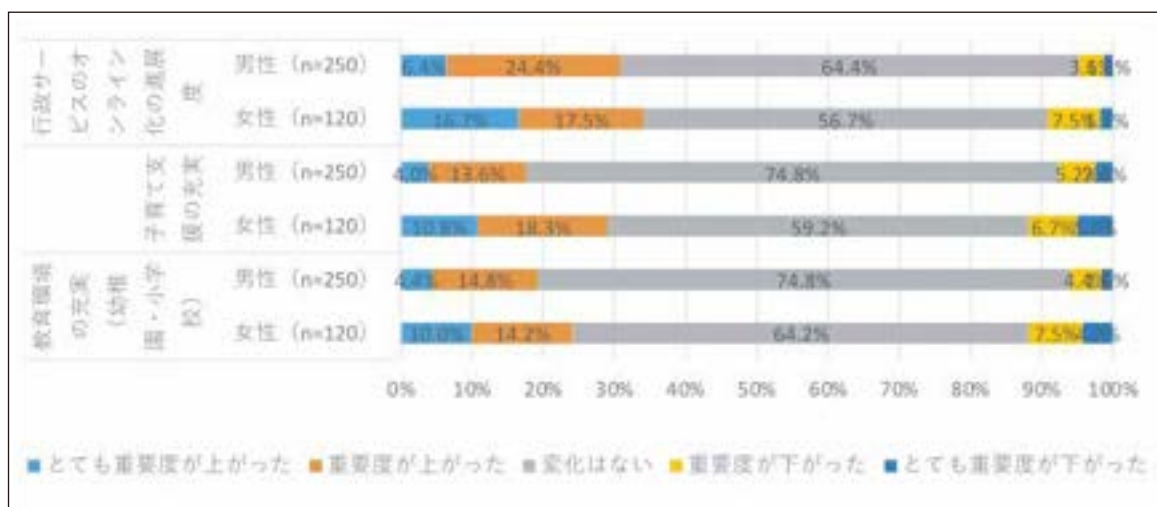
図表2-2-17 男女別にみた住居選択時に重視する項目

(「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)

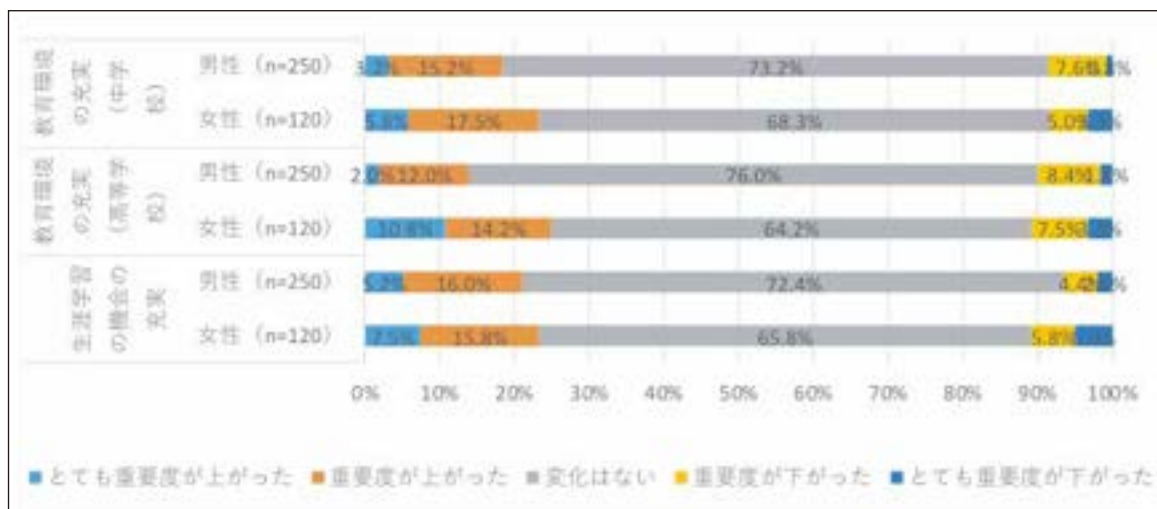


図表2-2-18 男女別にみた住居選択時に重視する項目

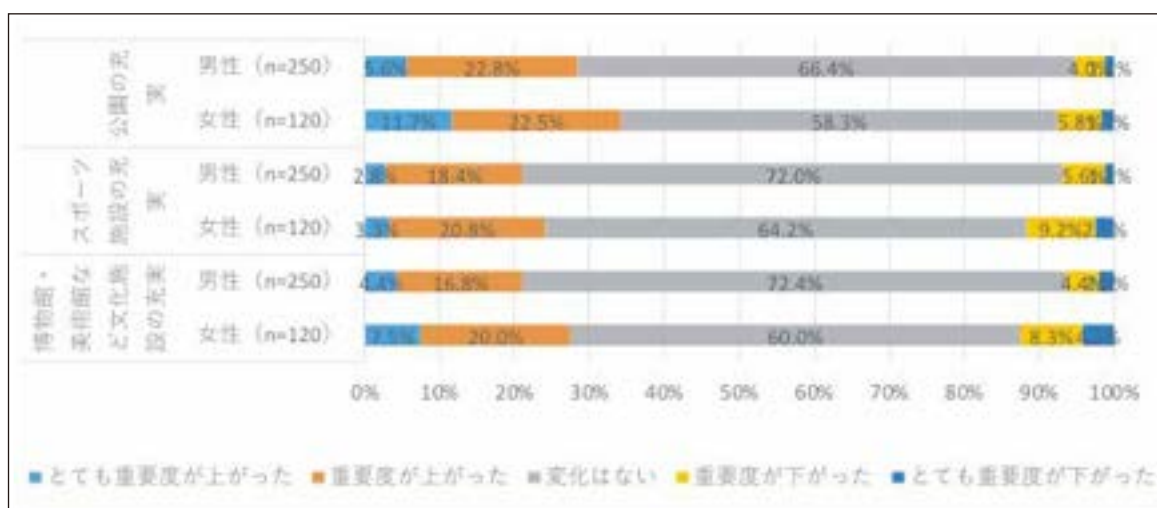
(「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



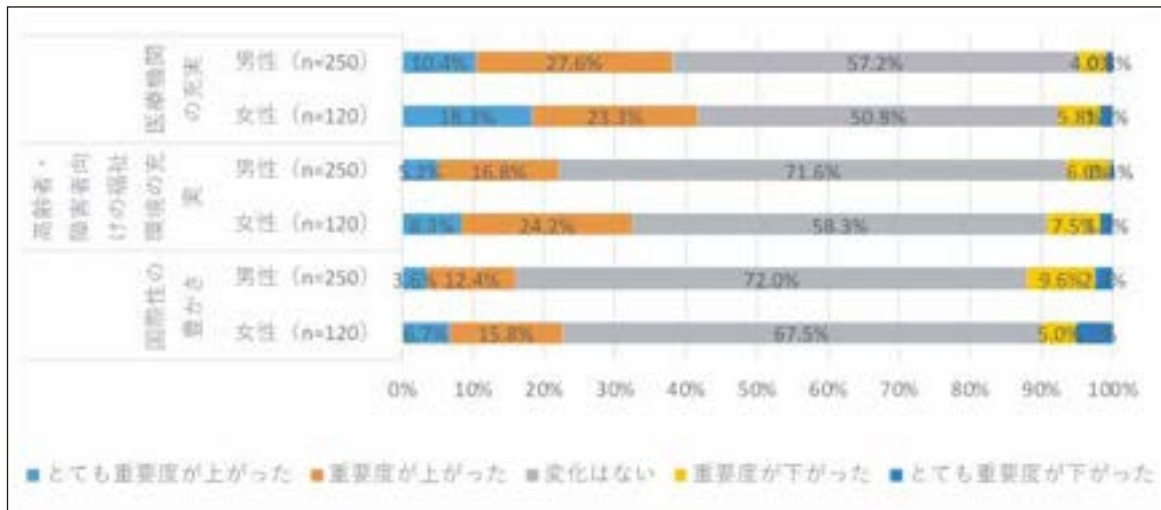
図表2-2-19 男女別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」 「教育環境の充実(高等学校)」 「生涯学習の機会の充実」)



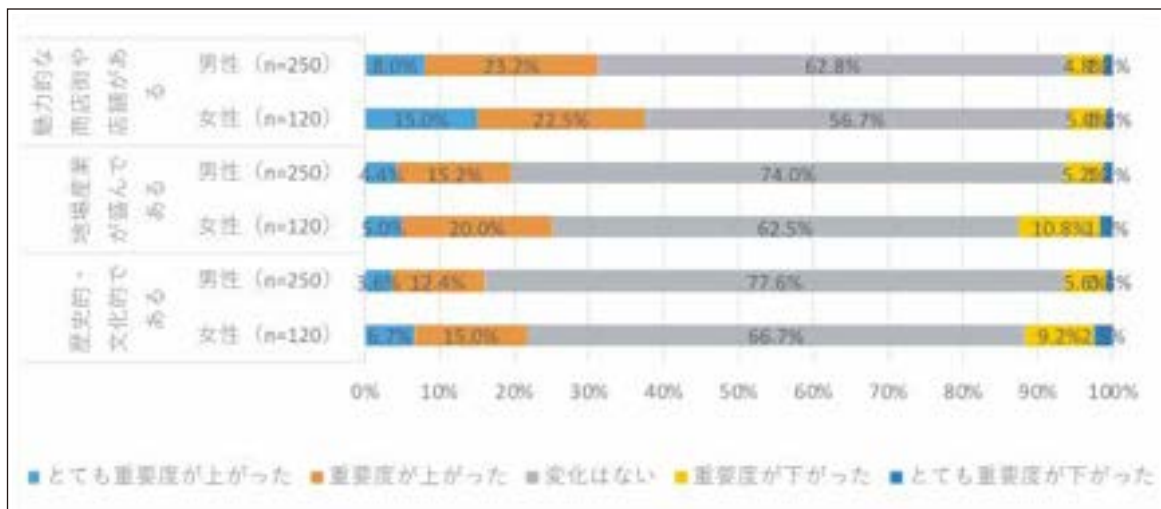
図表2-2-20 男女別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



図表2-2-21 男女別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)

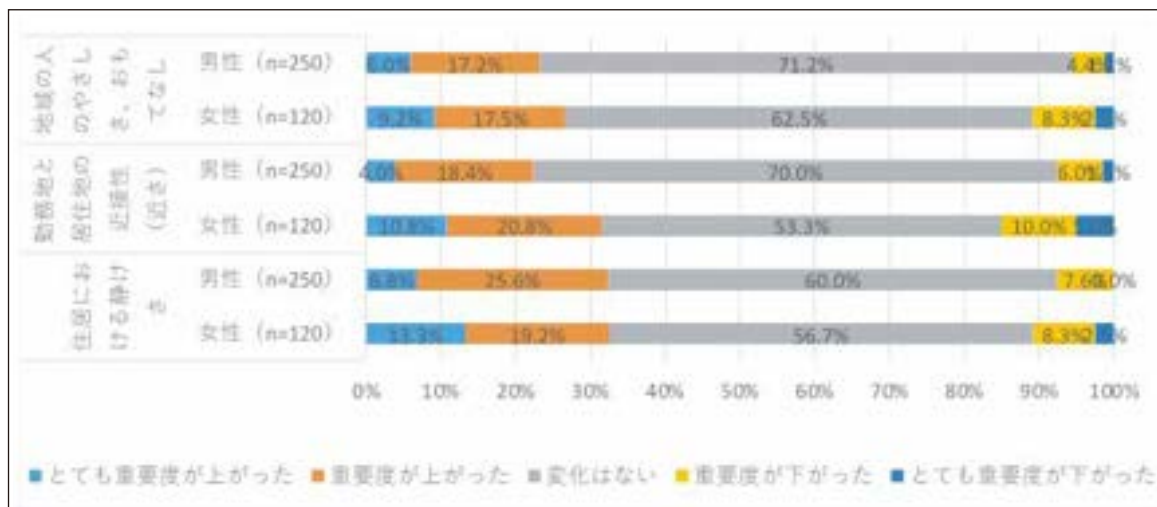


図表2-2-22 男女別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-2-23 男女別にみた住居選択時に重視する項目

（「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性（近さ）」「住居における静けさ」）



ほとんどの項目で40・50・60・70代に比較して、20・30代で下記の引越し要因の重要度が上がっている

すべての項目で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せると、「買い物のしやすさ」を除くすべての項目で20代又は30代の割合が高く、コロナによって20代及び30代の引越し要因の重要度が他の年代よりも重視されるようになっていたことがうかがえる。

図表2-2-24 年代別にみた住居選択時に重視する項目
(「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」)



図表2-2-25 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



図表2-2-26 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



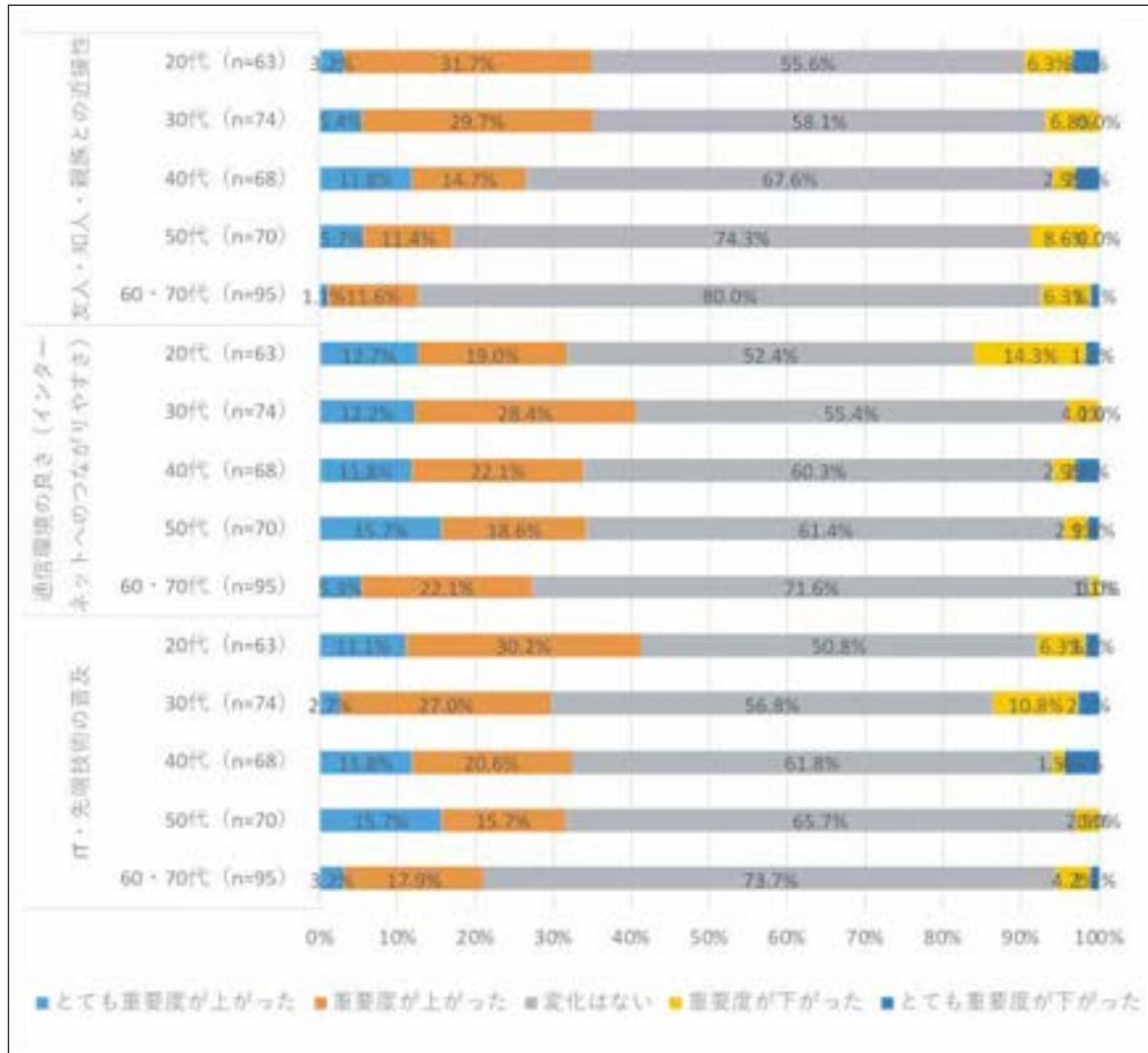
図表2-2-27 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



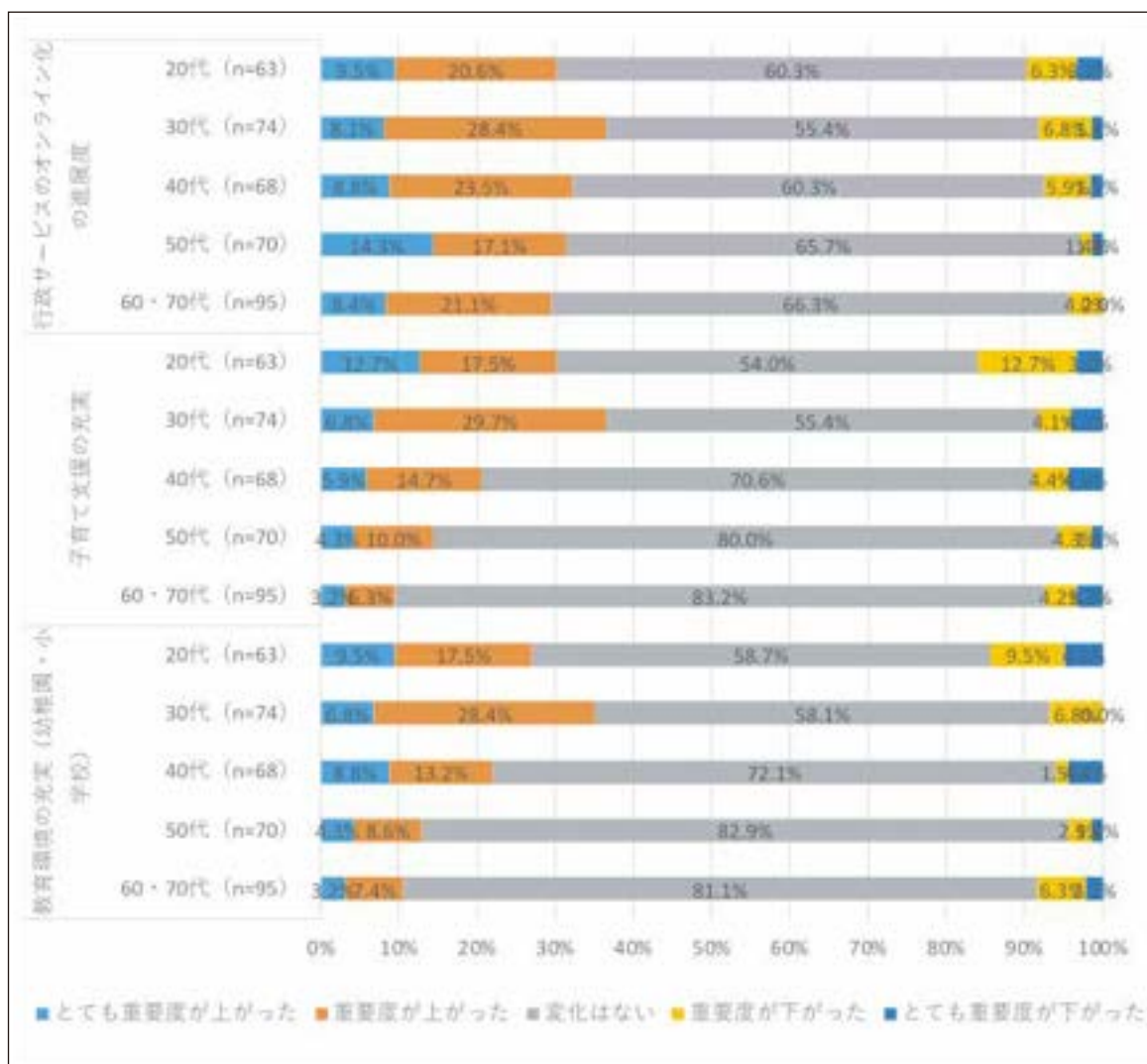
図表2-2-28 年代別にみた住居選択時に重視する項目

(「友人・知人・親族との近接性」

「通信環境の良さ (インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



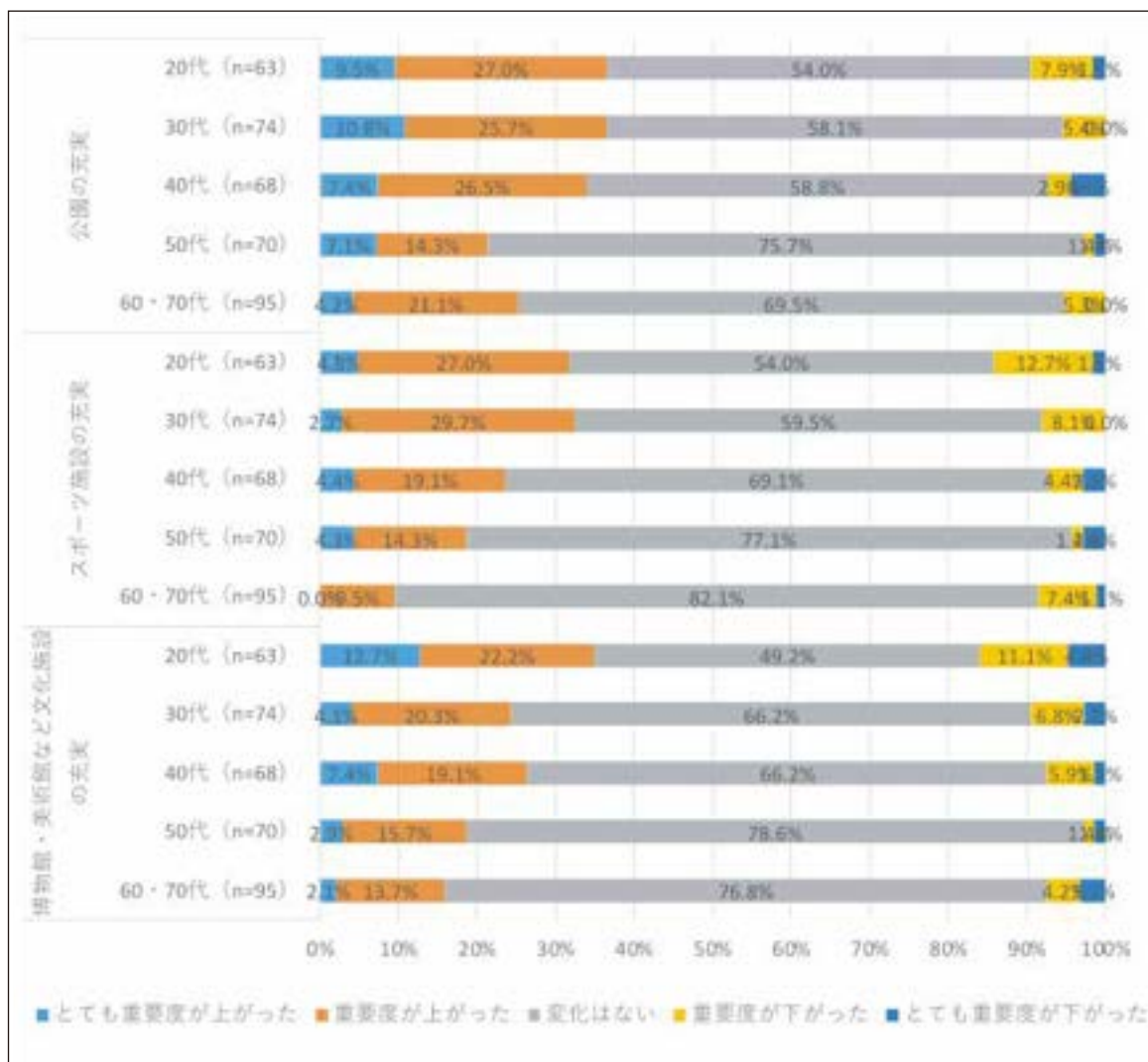
図表2-2-29 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」
 「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



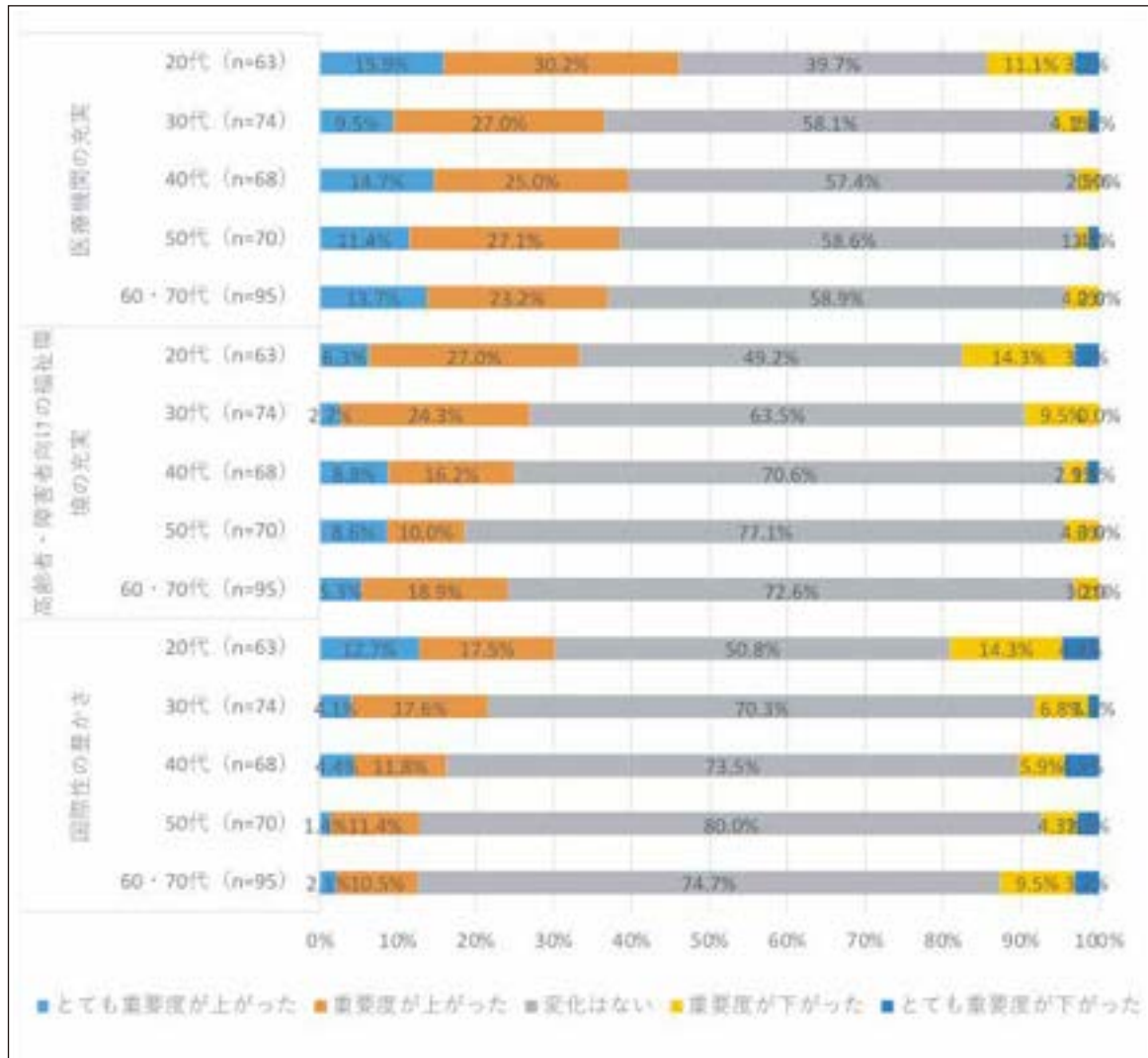
図表2-2-30 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」 「教育環境の充実(高等学校)」 「生涯学習の機会の充実」)



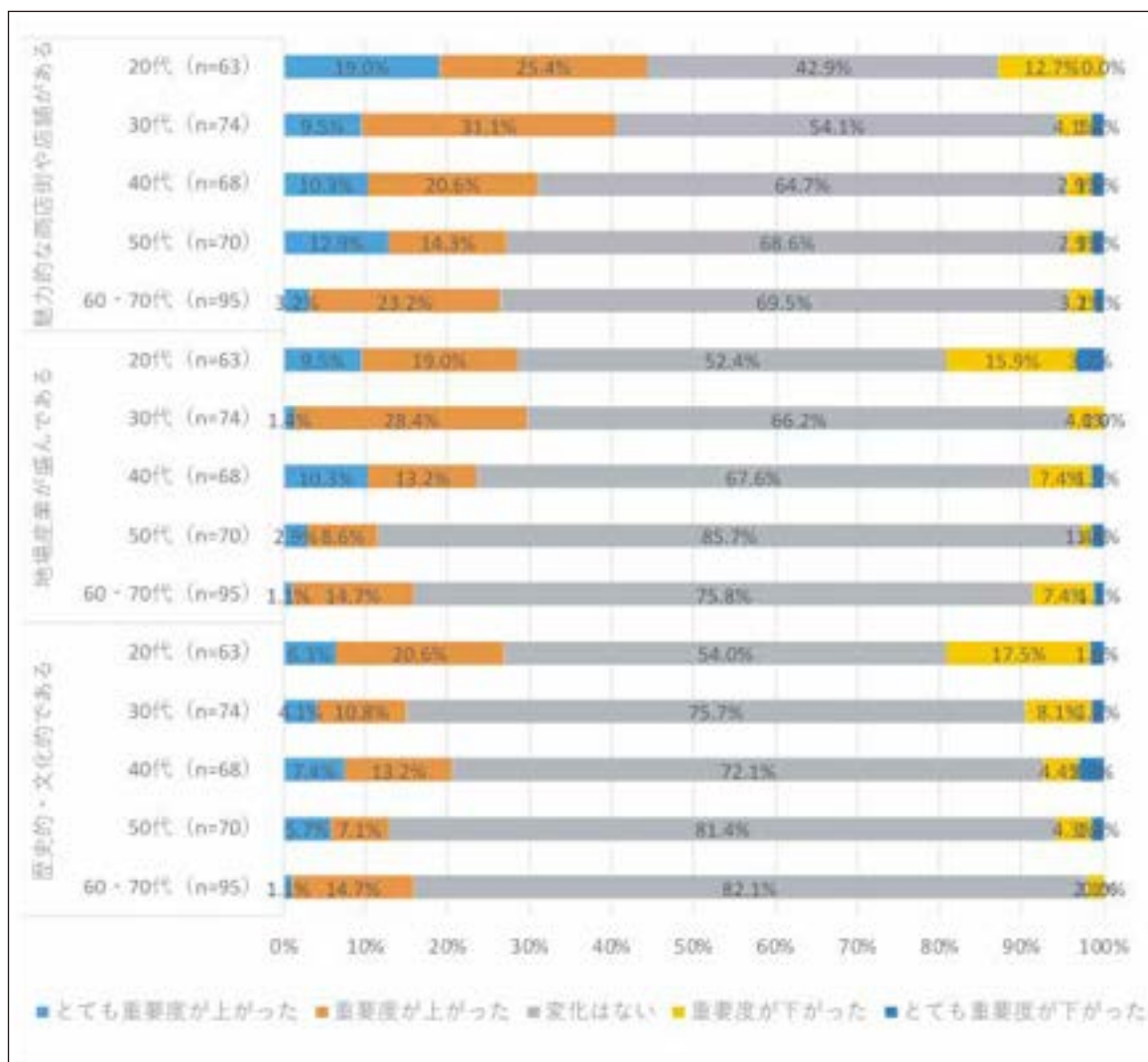
図表2-2-31 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



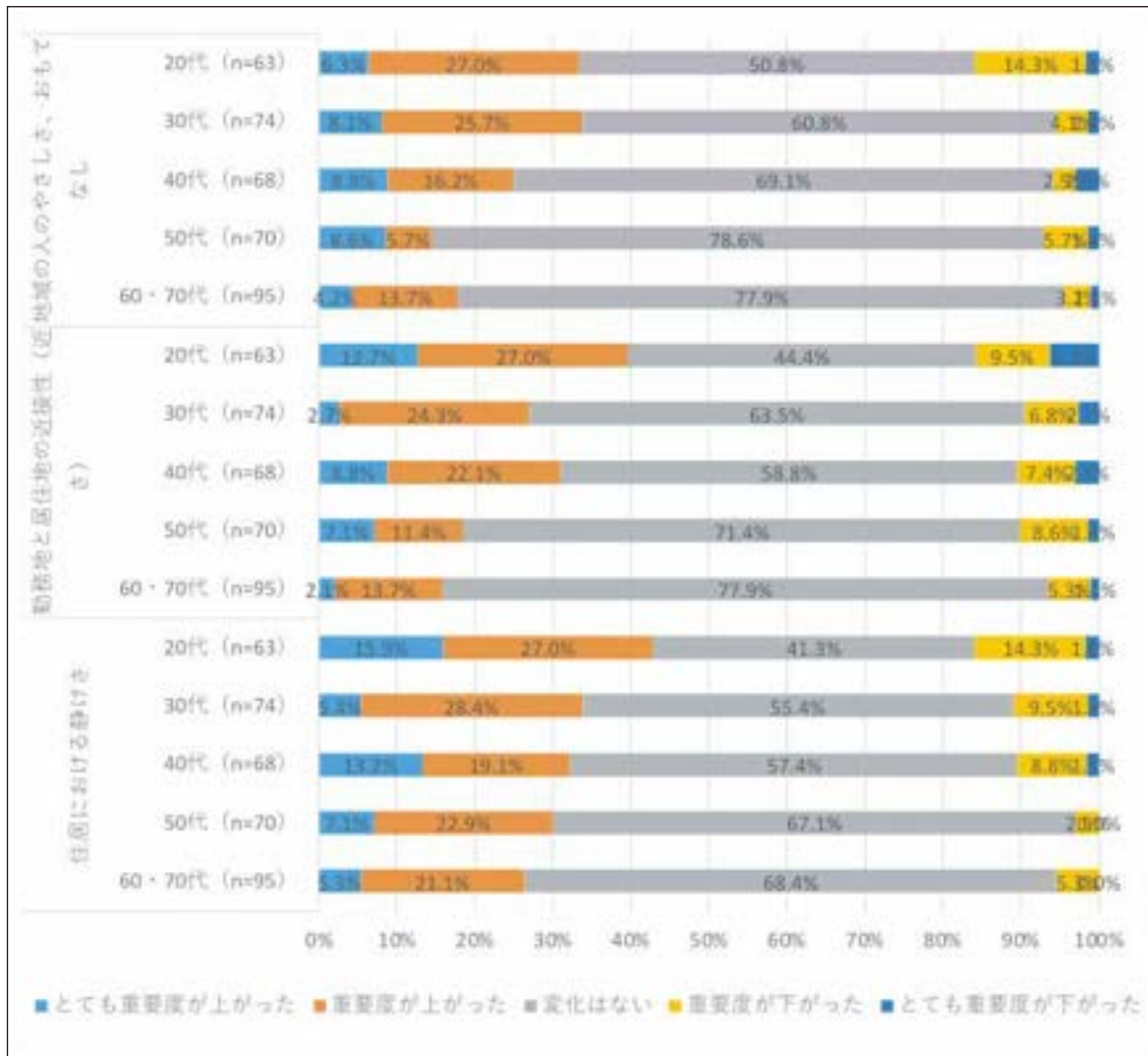
図表2-2-32 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-2-33 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



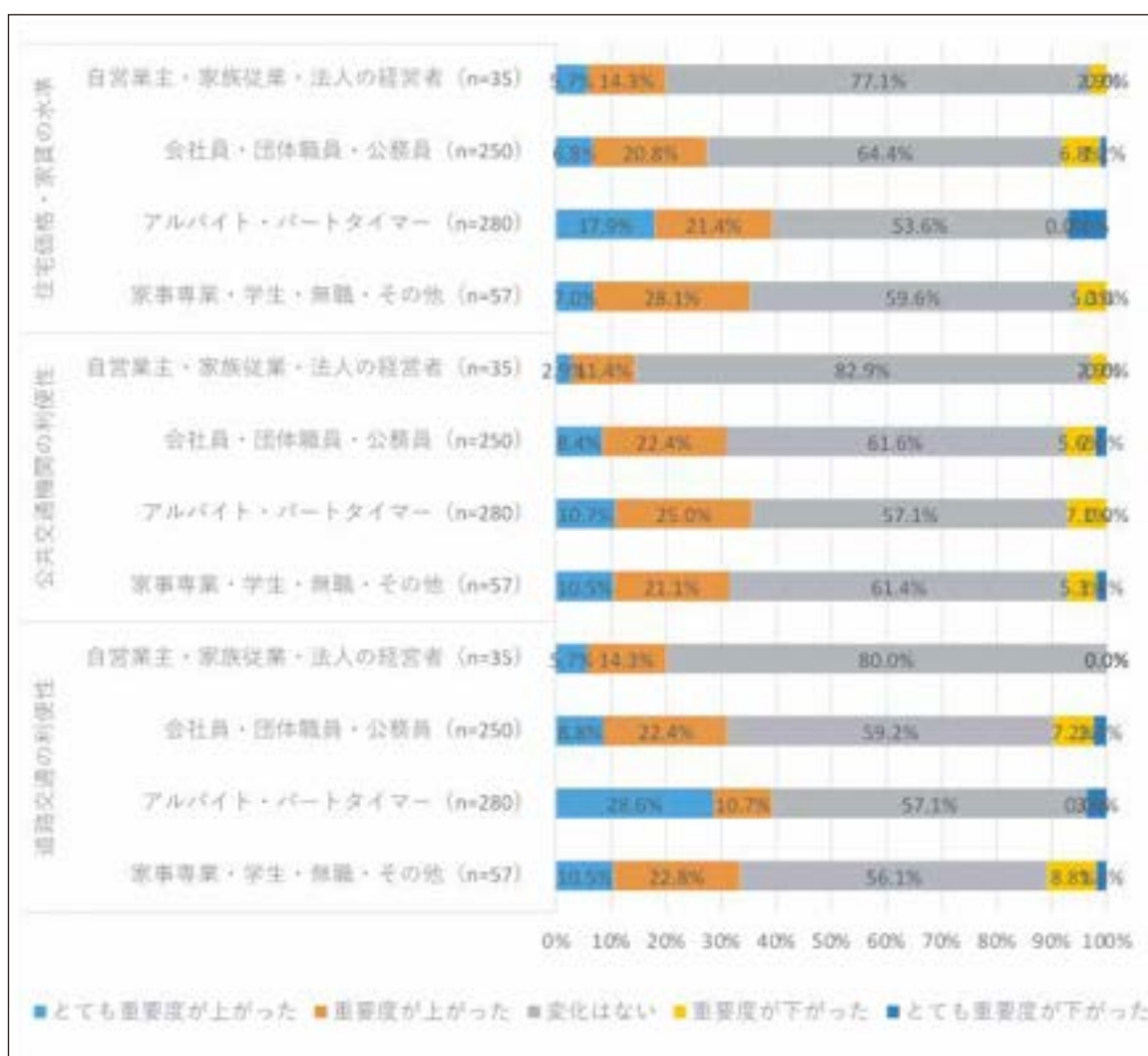
図表2-2-34 年代別にみた住居選択時に重視する項目
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



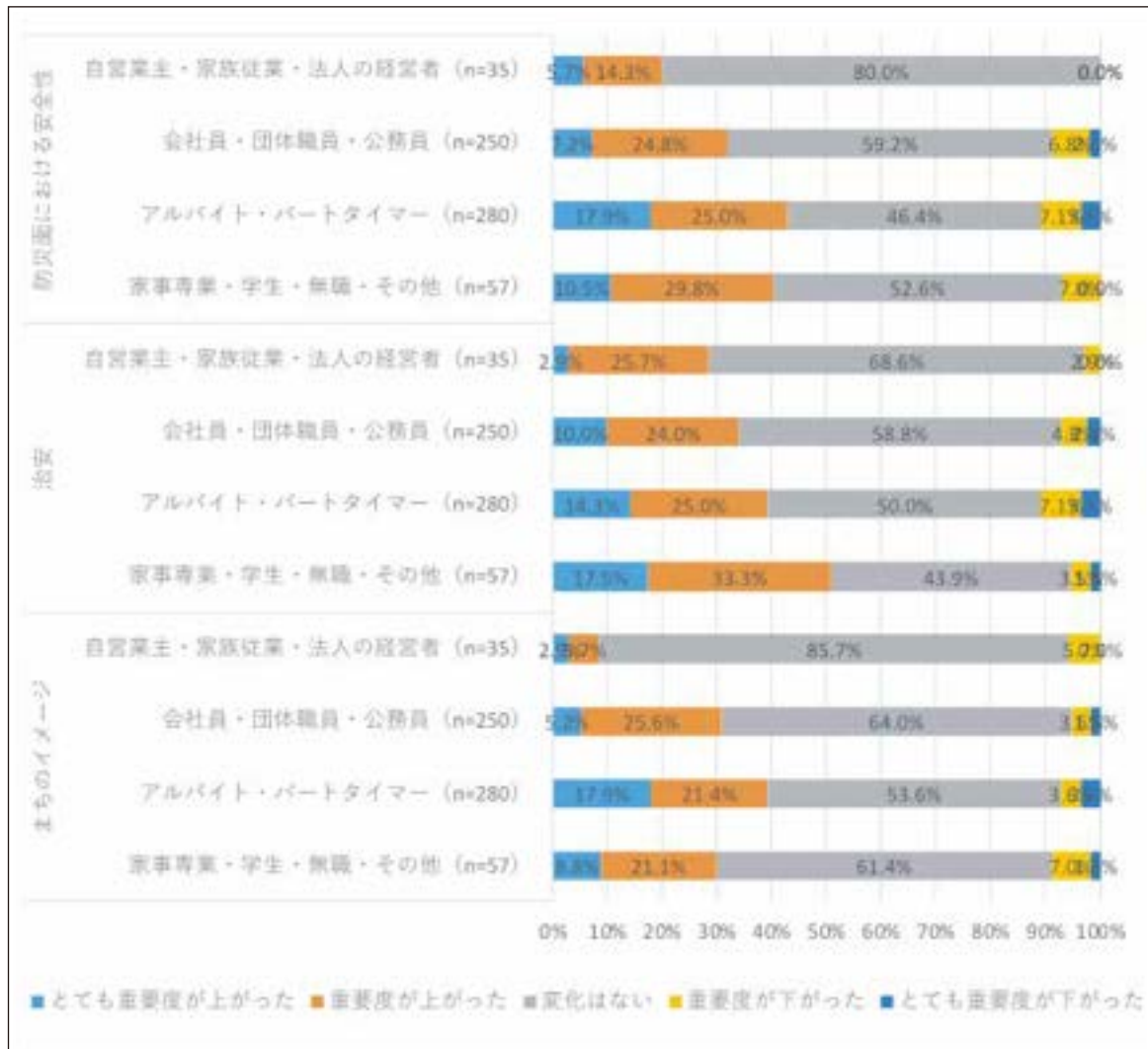
アルバイト・パートタイマーでは「友人・知人・親族との近接性」、
家事専業・学生・無職・その他では「治安」「医療機関の充実」

雇用形態別で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せると、一部の項目ではアルバイト・パートタイマーで大きな値を示し、一部の項目では家事専業・学生・無職・その他で大きな値を示している。具体的には、アルバイト・パートタイマーでは「友人・知人・親族との近接性」、家事専業・学生・無職・その他では「治安」「医療機関の充実」の「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合が50ポイント以上を示し、特にこれらの雇用形態で重要度が上がっているといえる。

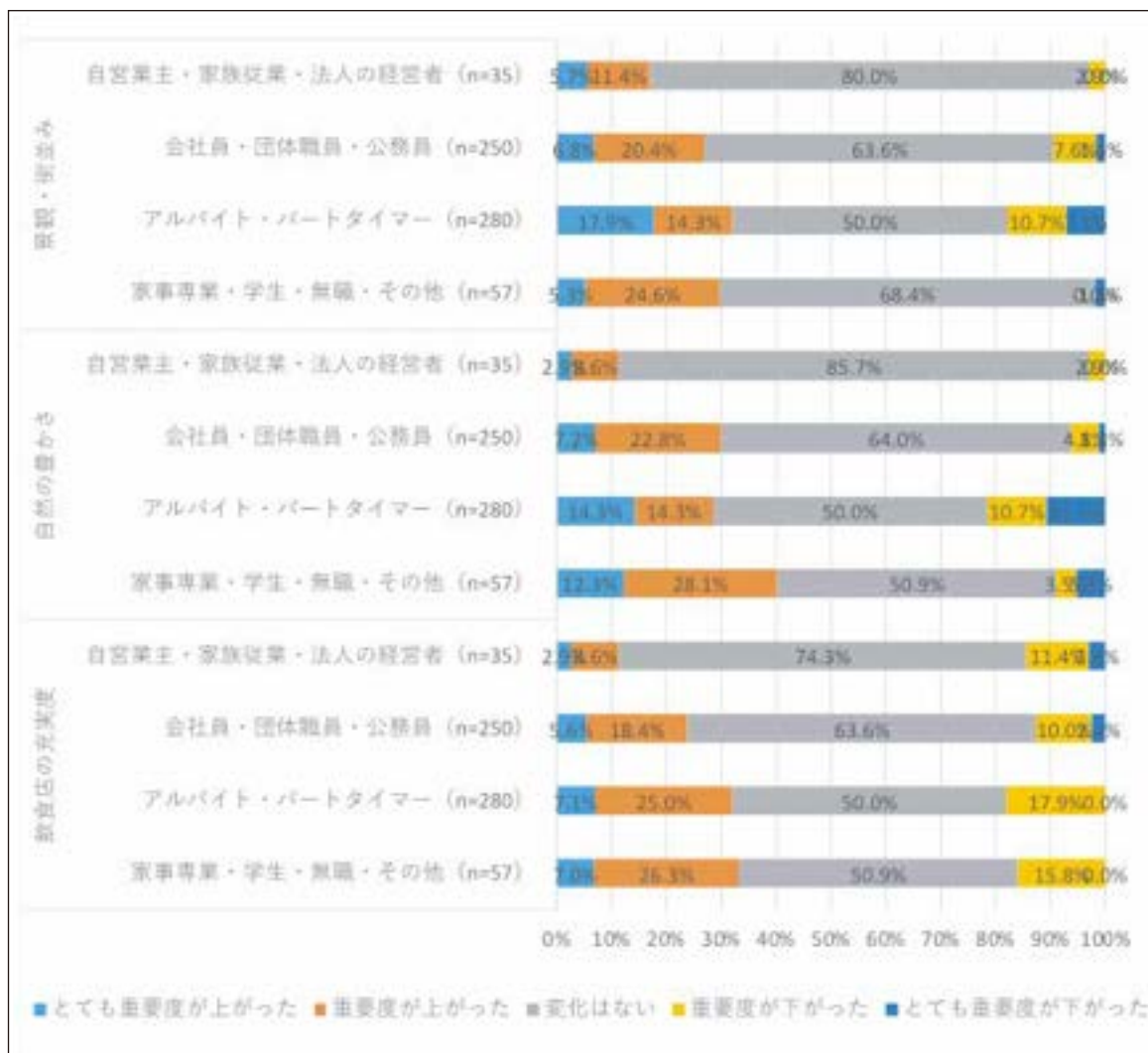
図表2-2-35 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
（「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」）



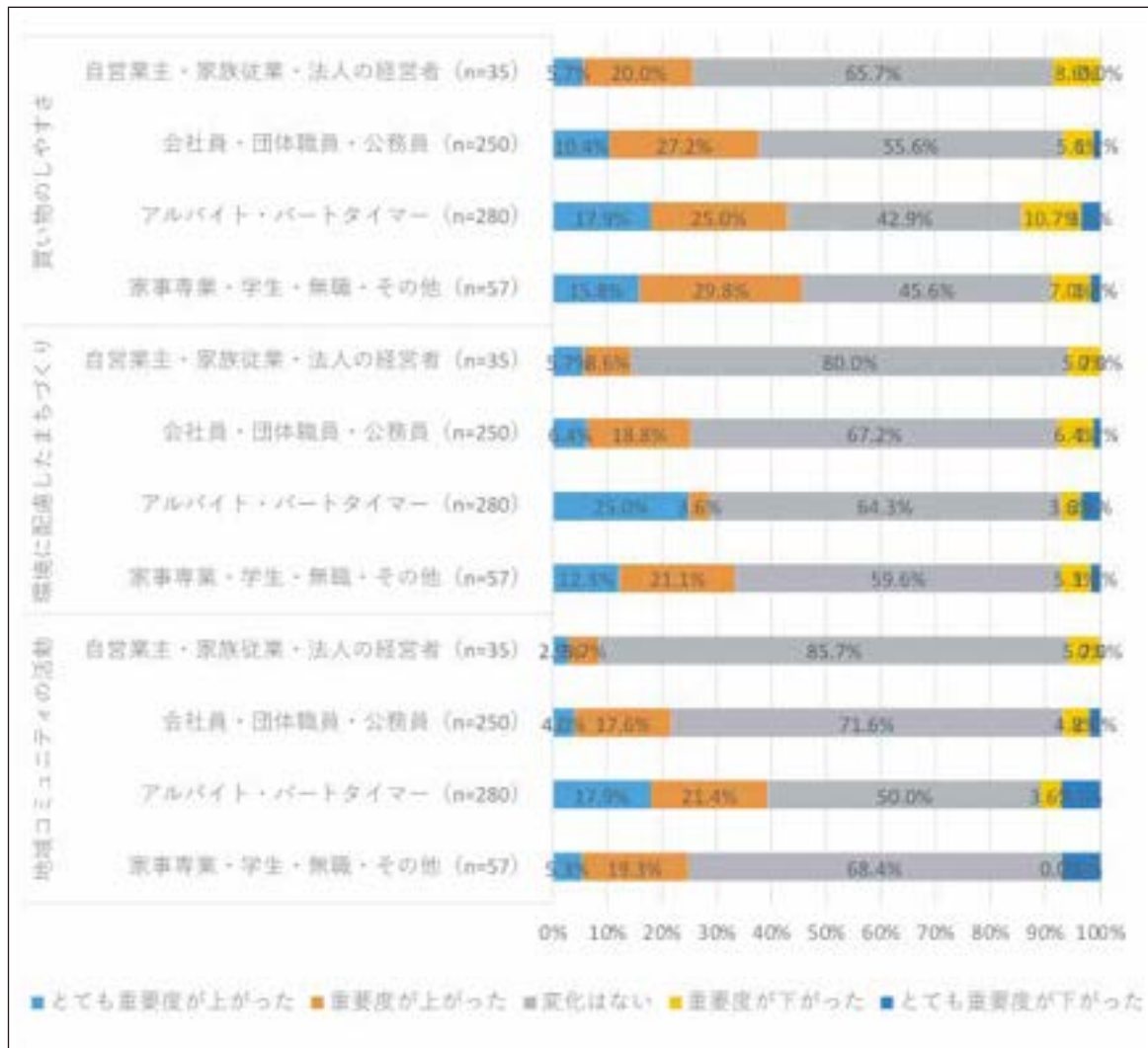
図表2-2-36 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



図表2-2-37 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
（「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」）

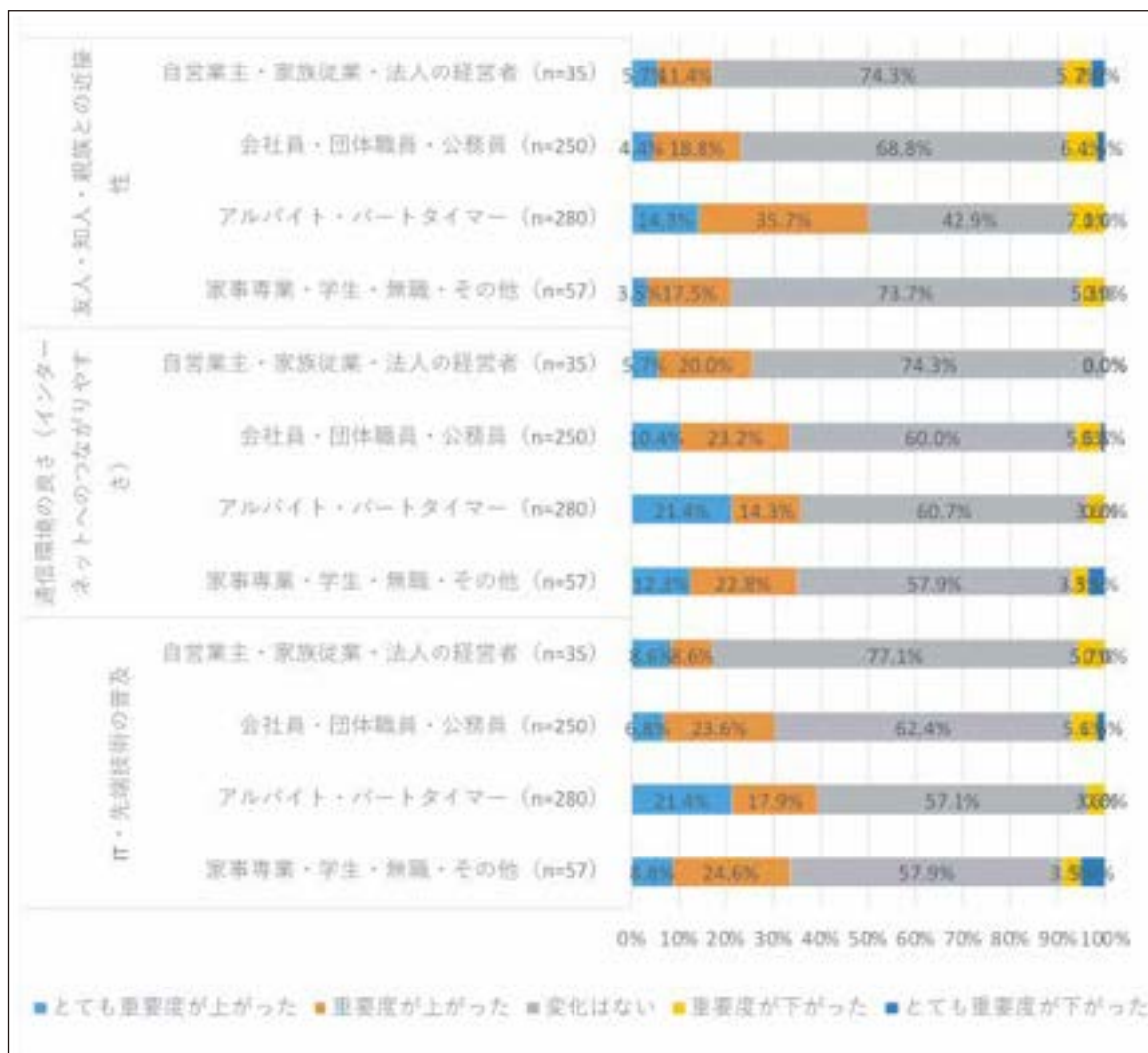


図表2-2-38 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)

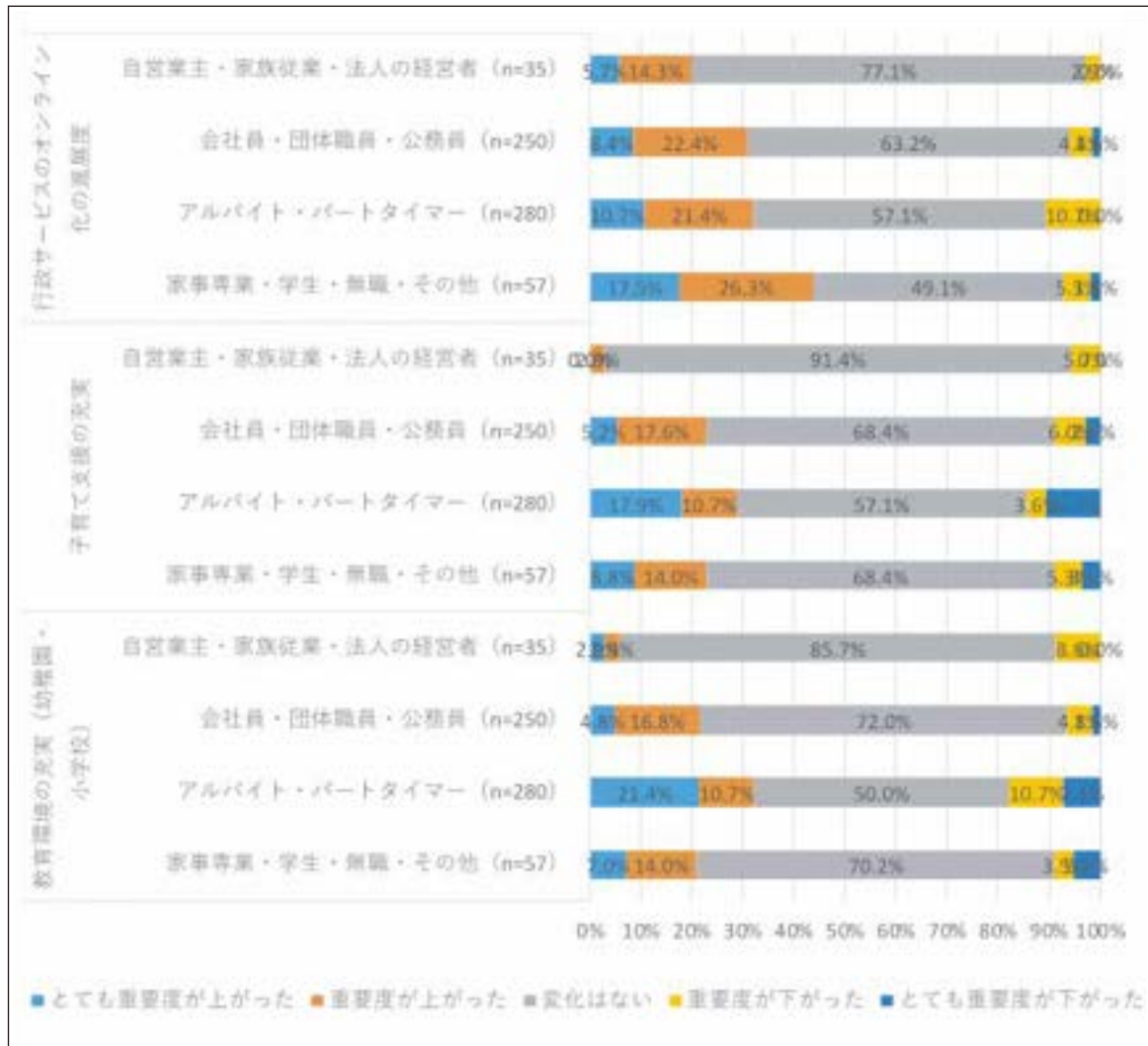


図表2-2-39 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目

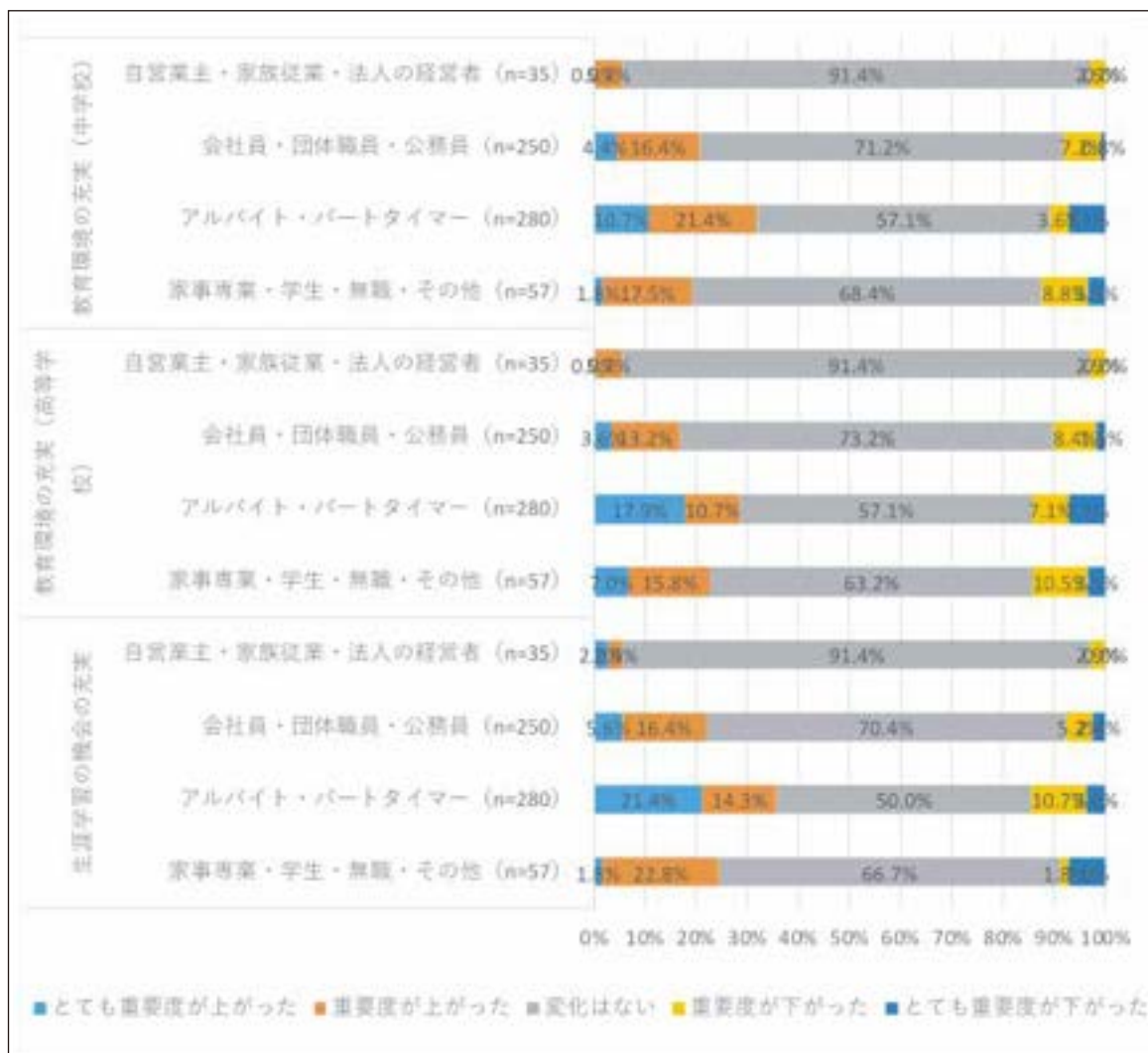
(「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



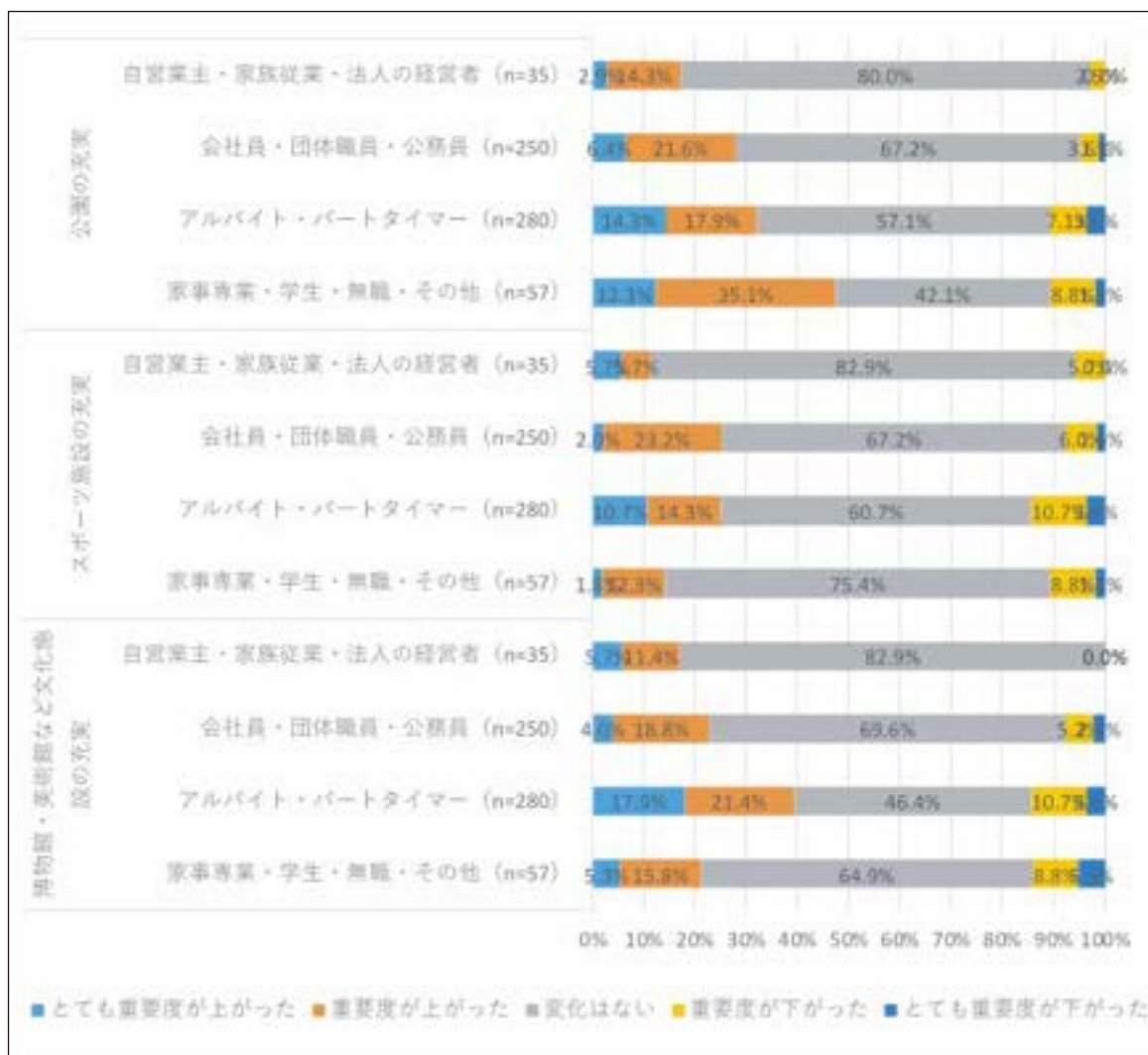
図表2-2-40 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



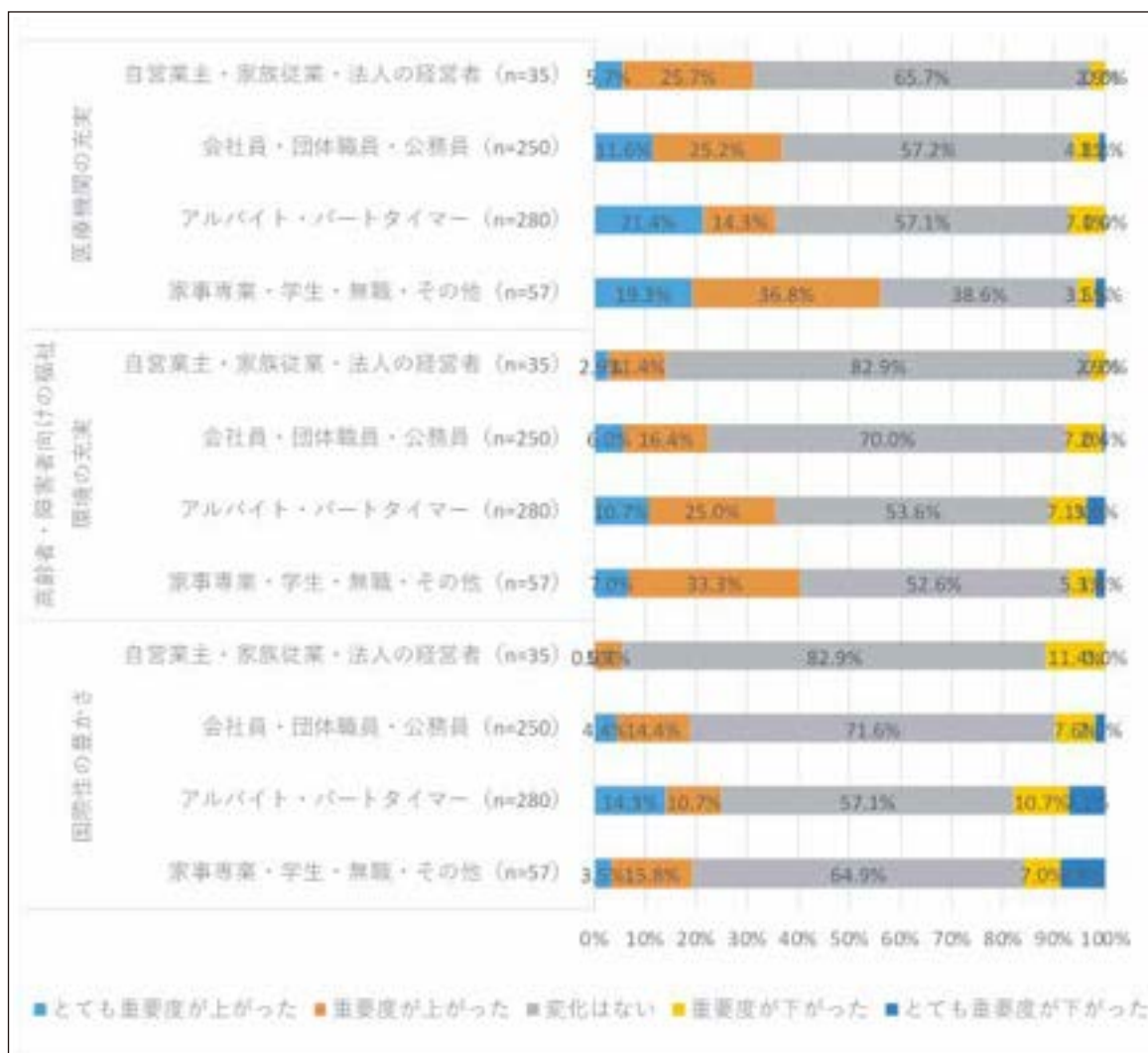
図表2-2-41 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



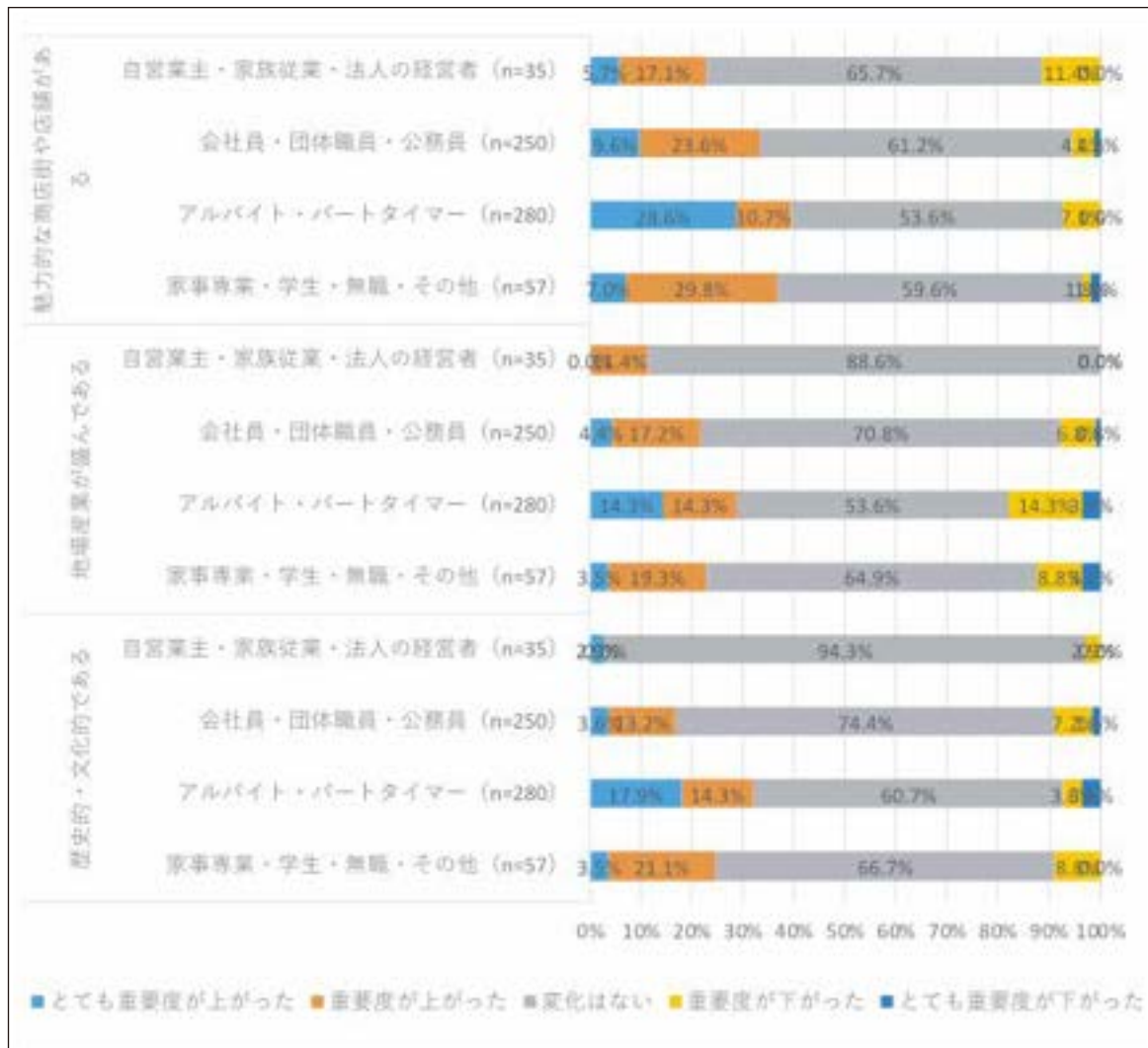
図表2-2-42 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



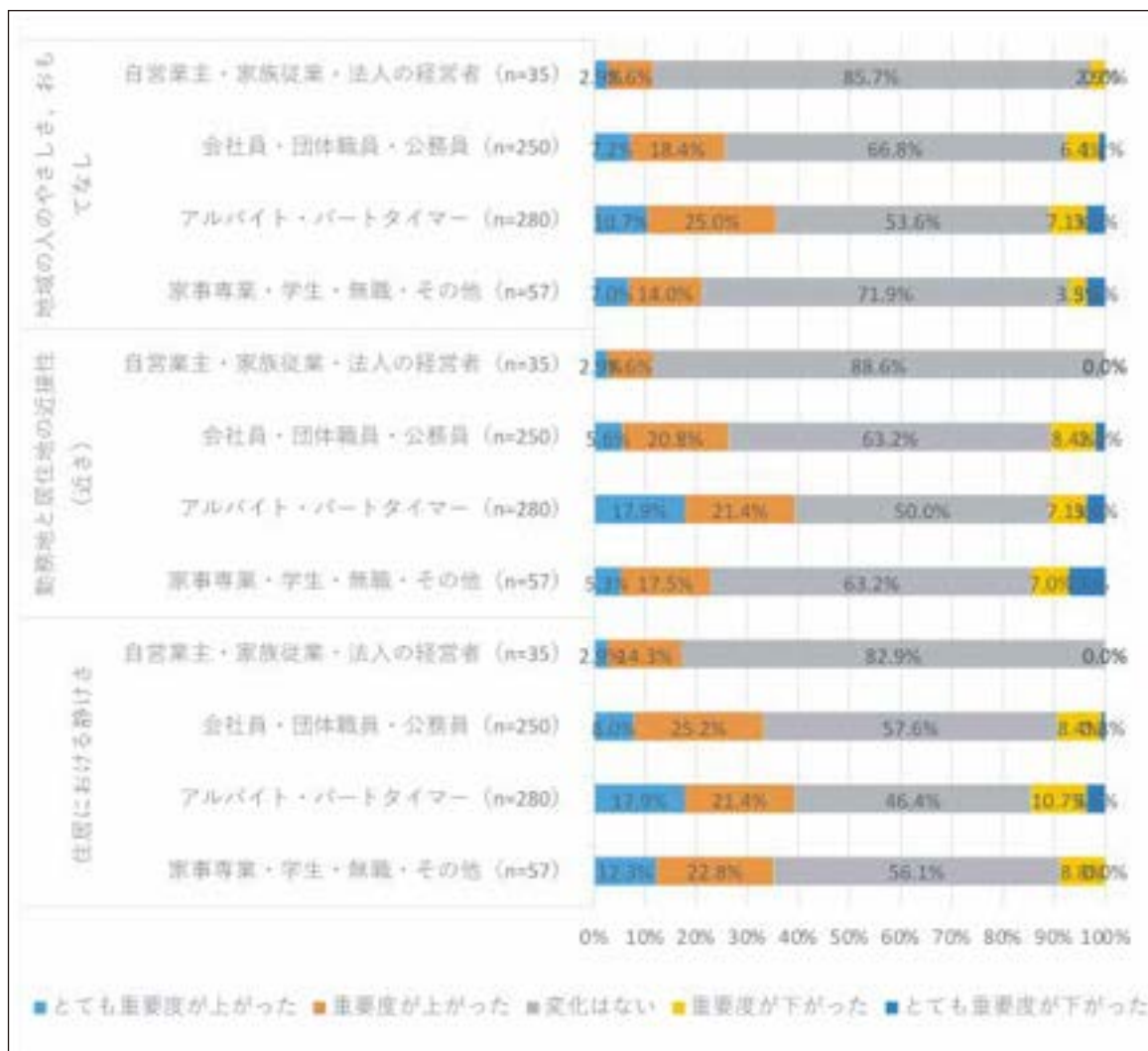
図表2-2-43 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)



図表2-2-44 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



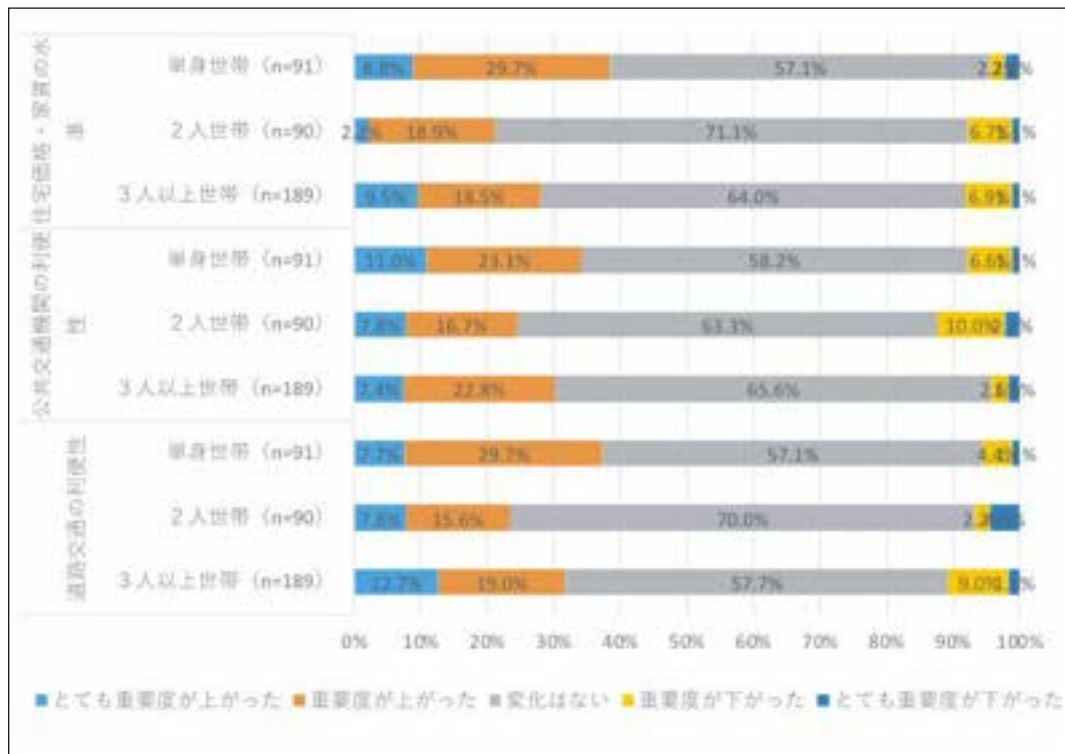
図表2-2-45 雇用形態別にみた住居選択時に重視する項目
 (「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)



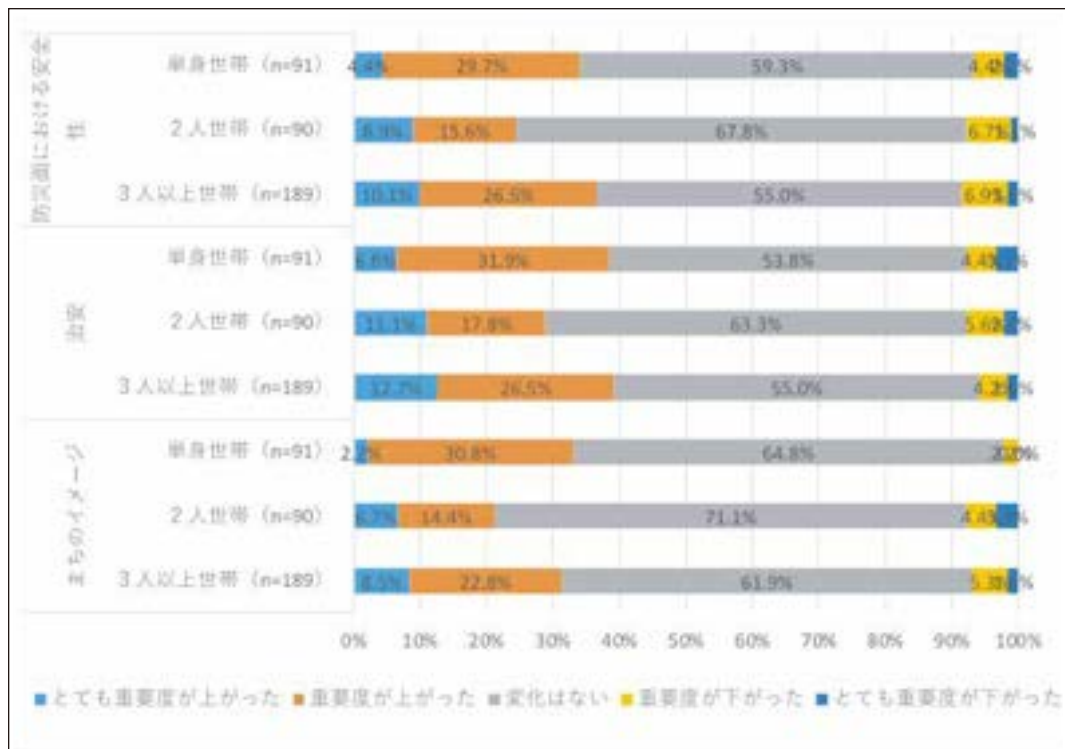
すべての項目で2人世帯の回答者において重要度が上がった割合が小さく、1人世帯や3人以上世帯との間に乖離がみられる

世帯員数別で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合をみると、「子育て支援の充実」を除き、すべての項目で2人世帯の割合が最も低く、2人世帯は引越しの要因がコロナによって変化しにくいことが推察される。

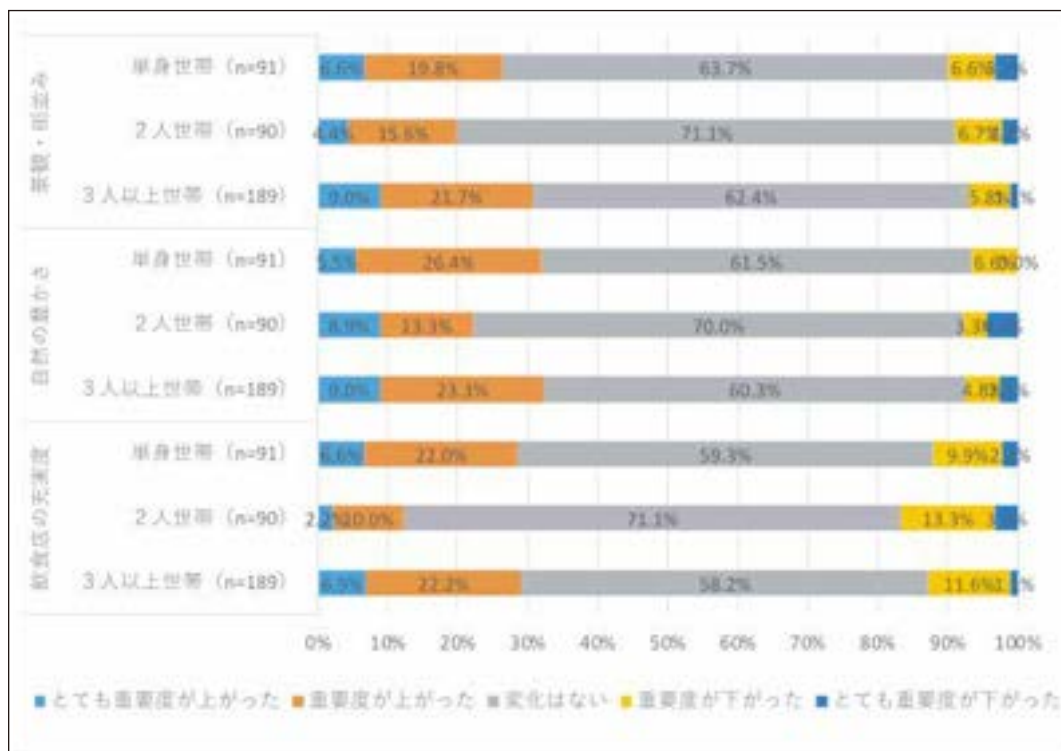
図表2-2-46 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」)



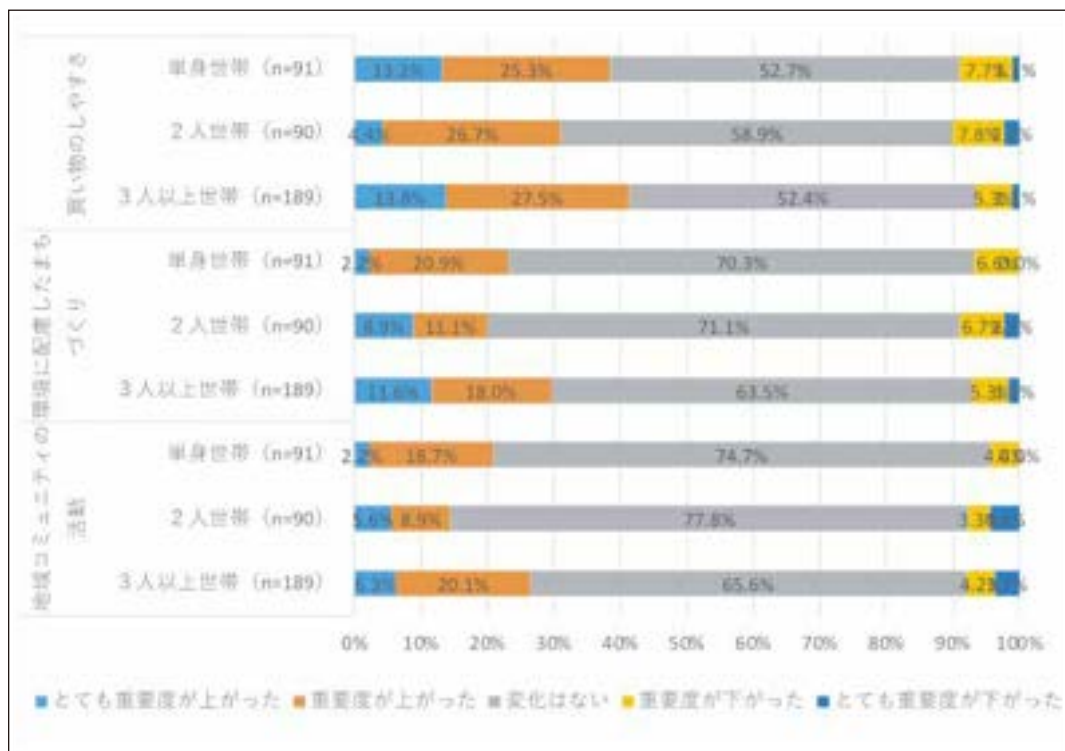
図表2-2-47 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



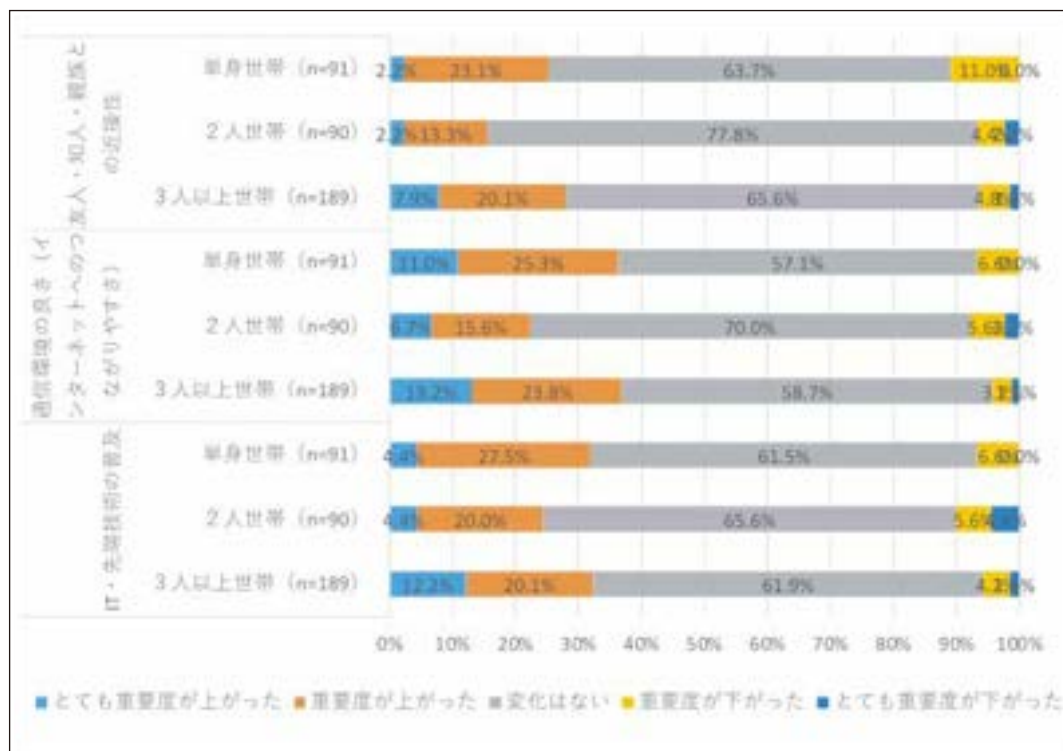
図表2-2-48 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)



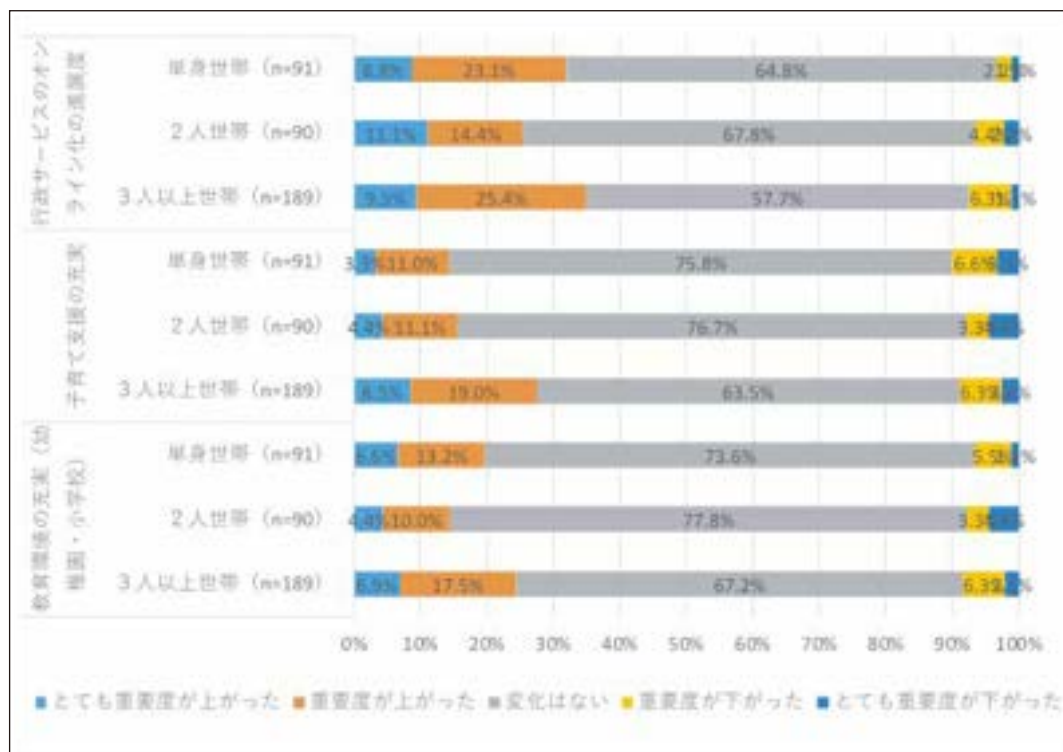
図表2-2-49 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



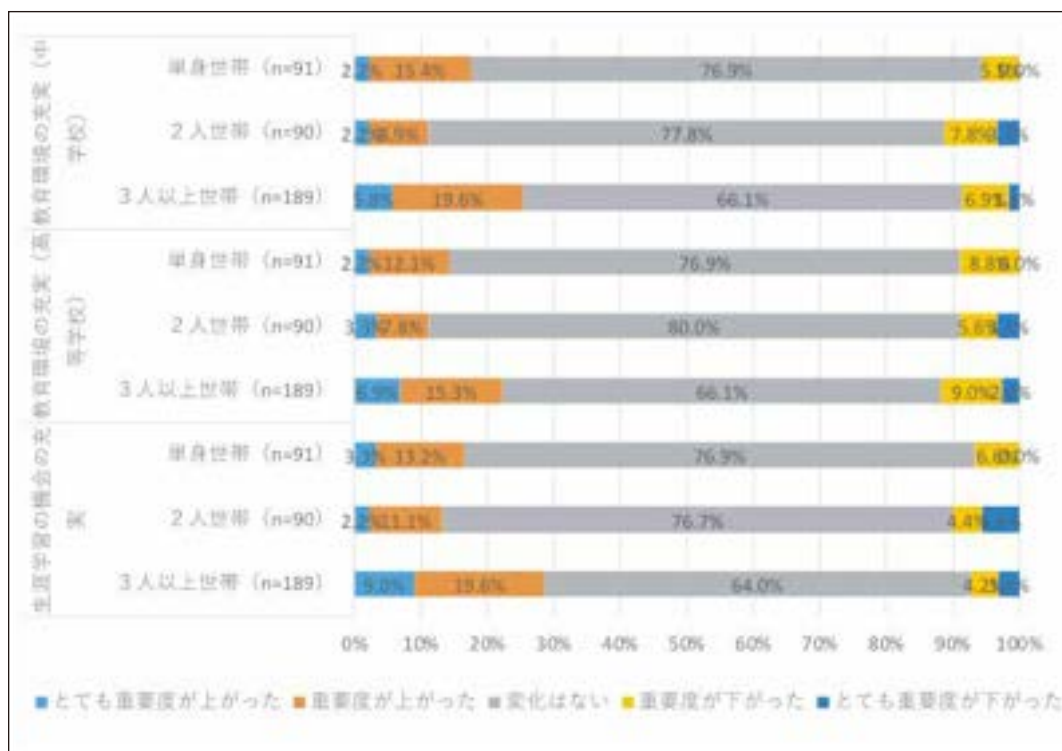
図表2-2-50 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)



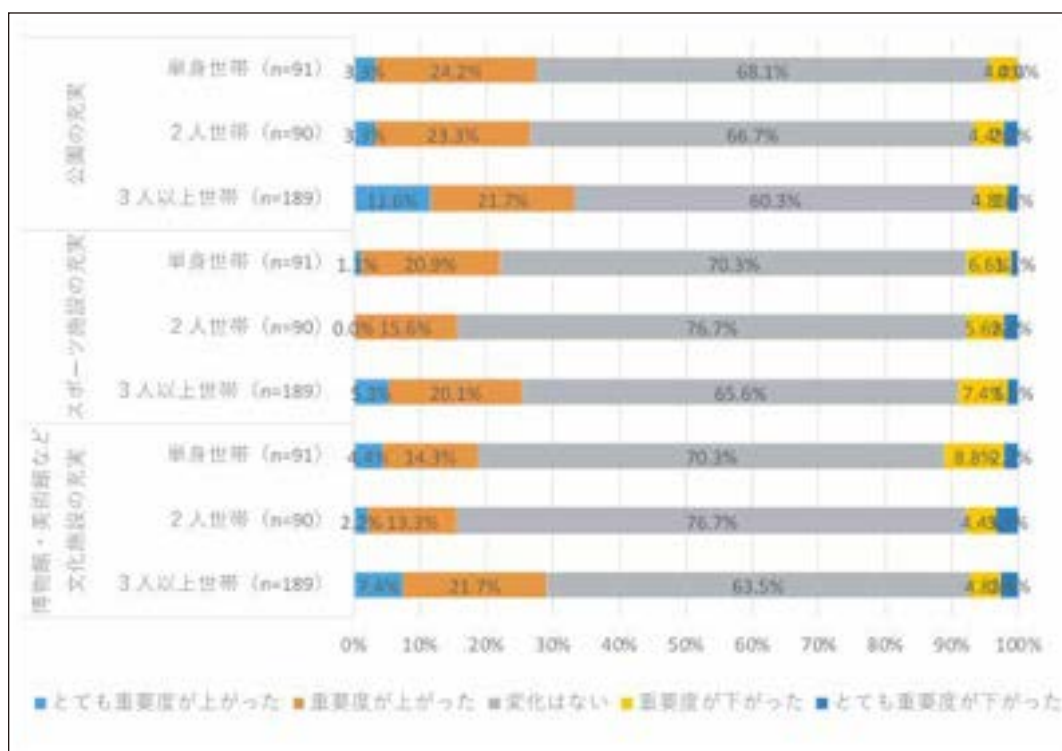
図表2-2-51 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



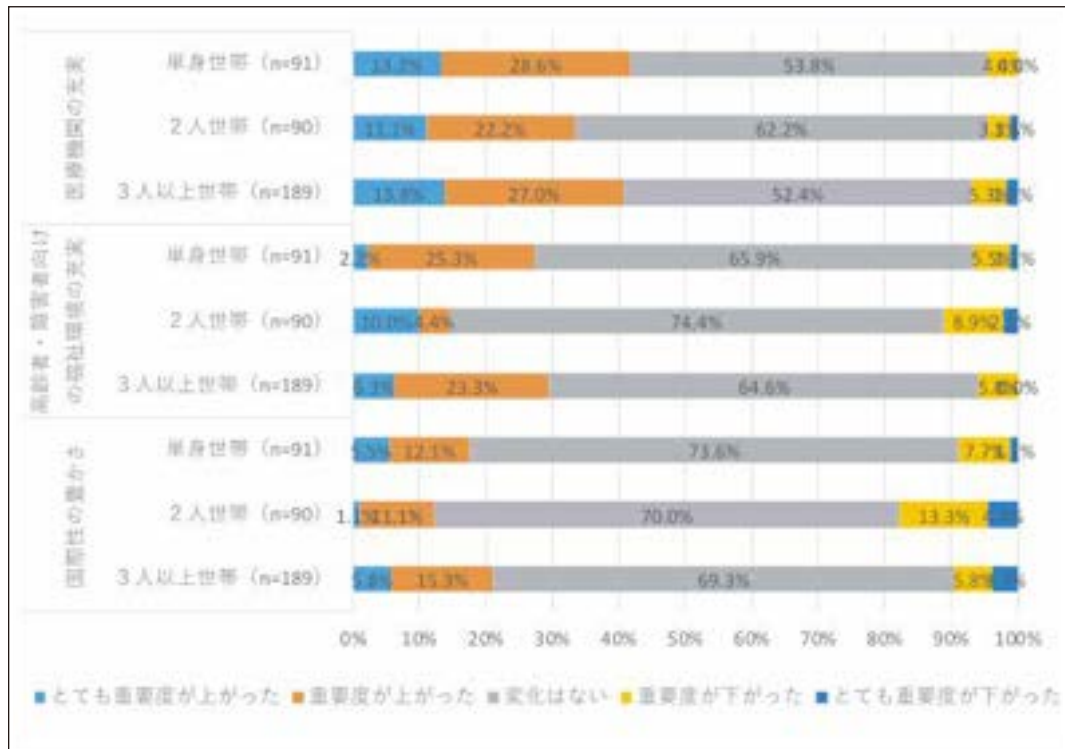
図表2-2-52 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



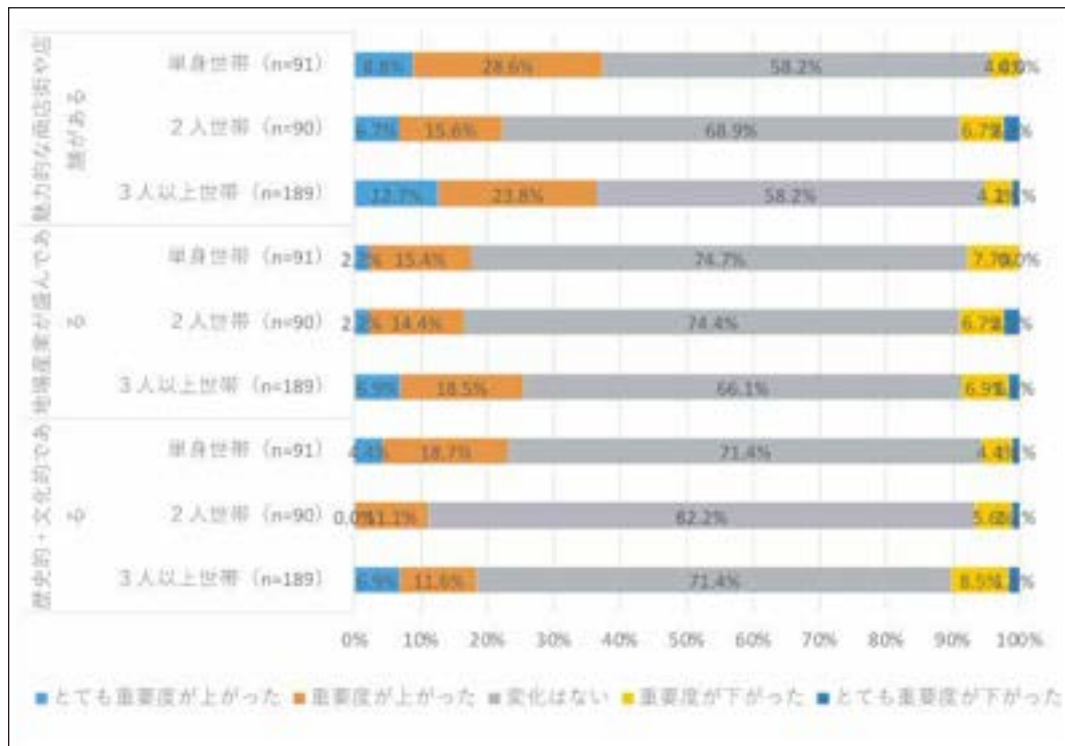
図表2-2-53 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



図表2-2-54 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)

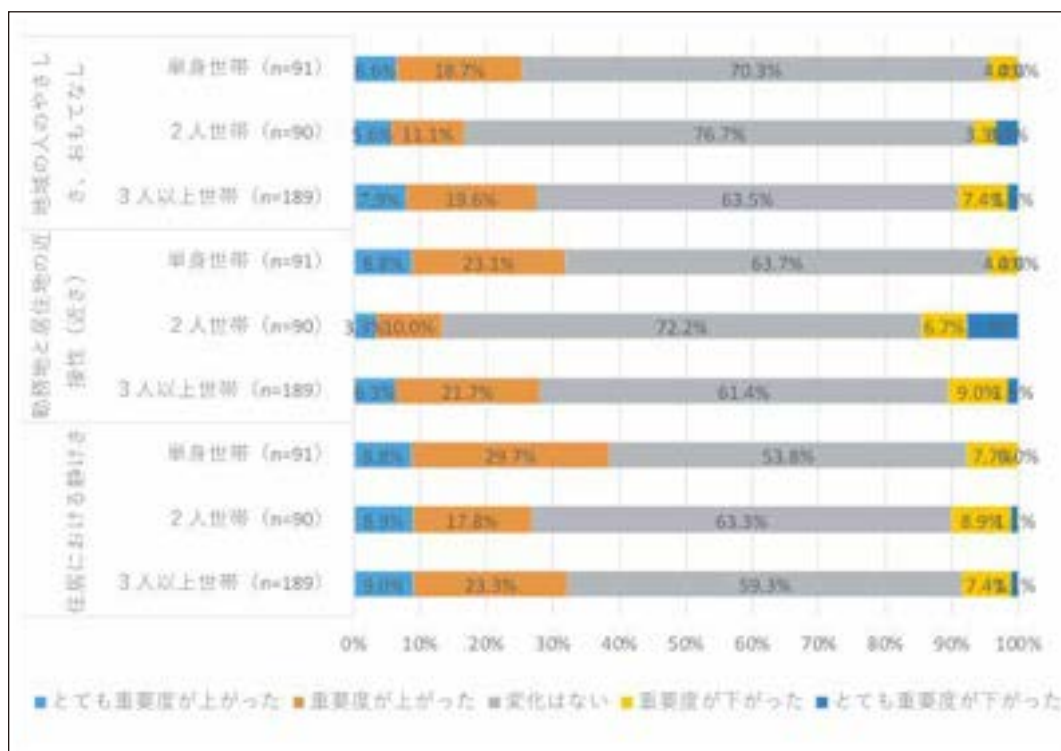


図表2-2-55 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-2-56 世帯員数別にみた住居選択時に重視する項目

（「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性（近さ）」「住居における静けさ」）

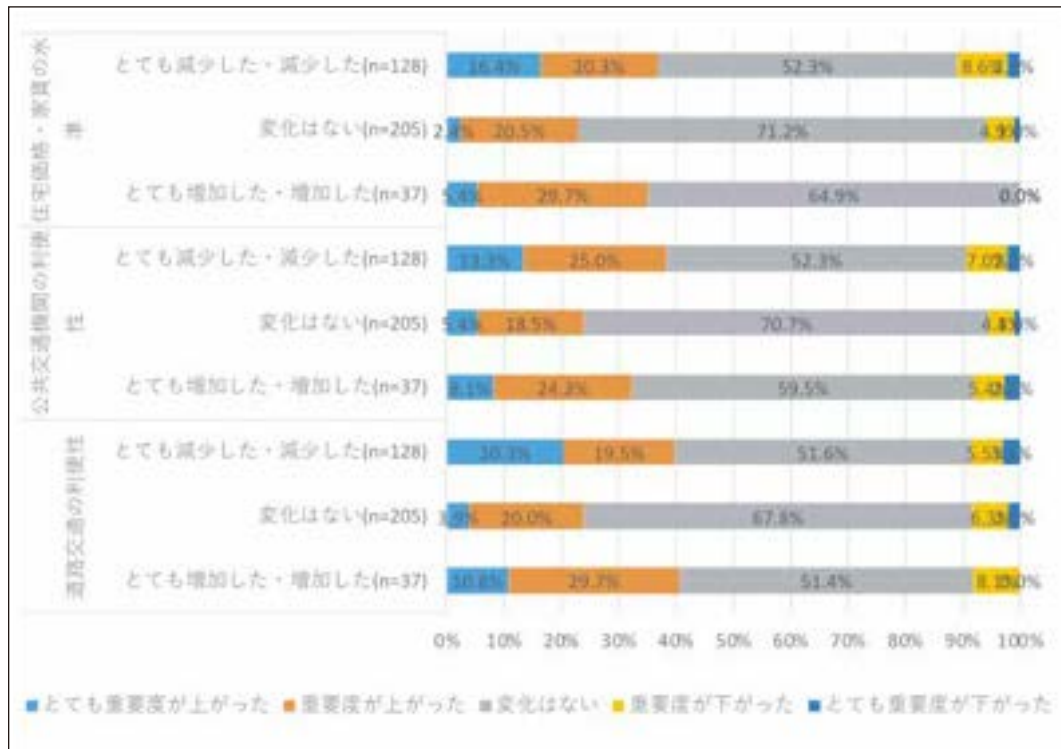


世帯収入が増加した回答者は、「通信環境の良さ」「IT・先端技術の普及」「医療機関の充実」「魅力的な商店街や店舗がある」「住居における静けさ」の重要度が上がる傾向

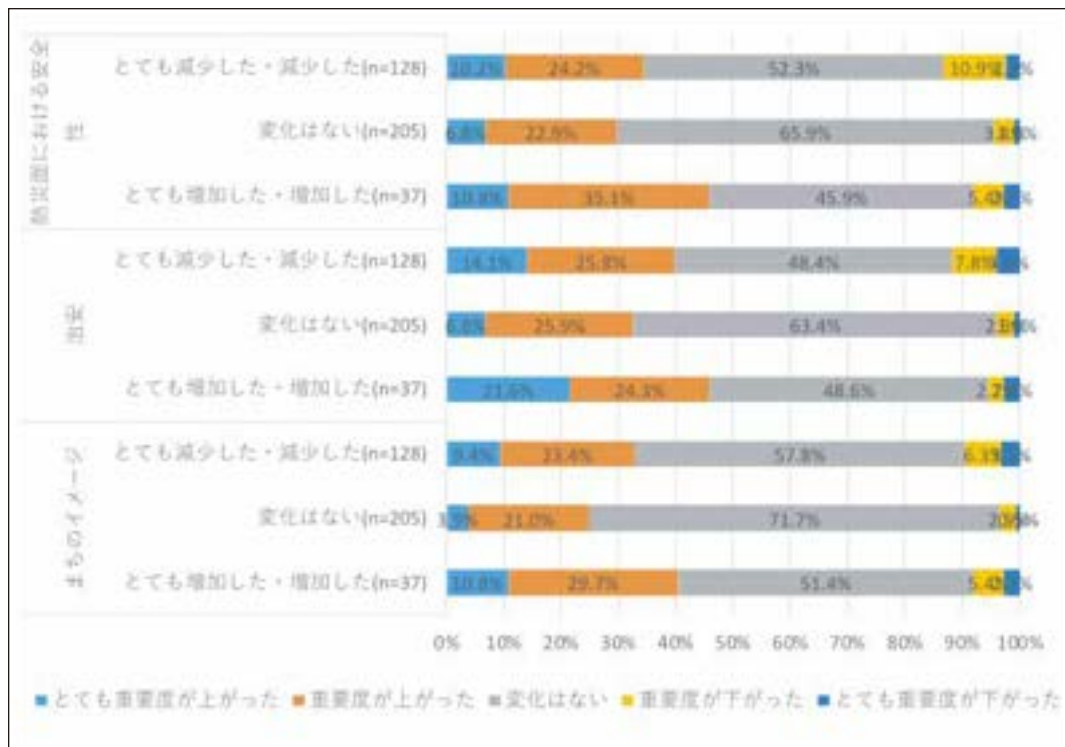
コロナ前とコロナ禍での世帯収入の変化別でみると、ほとんどの項目でとても増加した・増加した回答者で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合が高い。特に、「通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）」「IT・先端技術の普及」「医療機関の充実」「魅力的な商店街や店舗がある」「住居における静けさ」においては、とても増加した・増加した回答者で50ポイント以上の値を示していることから、コロナで収入が増加した回答者において重要度が上がっている項目といえる。

なお、すべての項目で世帯収入の変化がない回答者で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合が小さく、世帯収入の変化がない回答者においてコロナによる重要度の変化もほとんどないと考えられる。

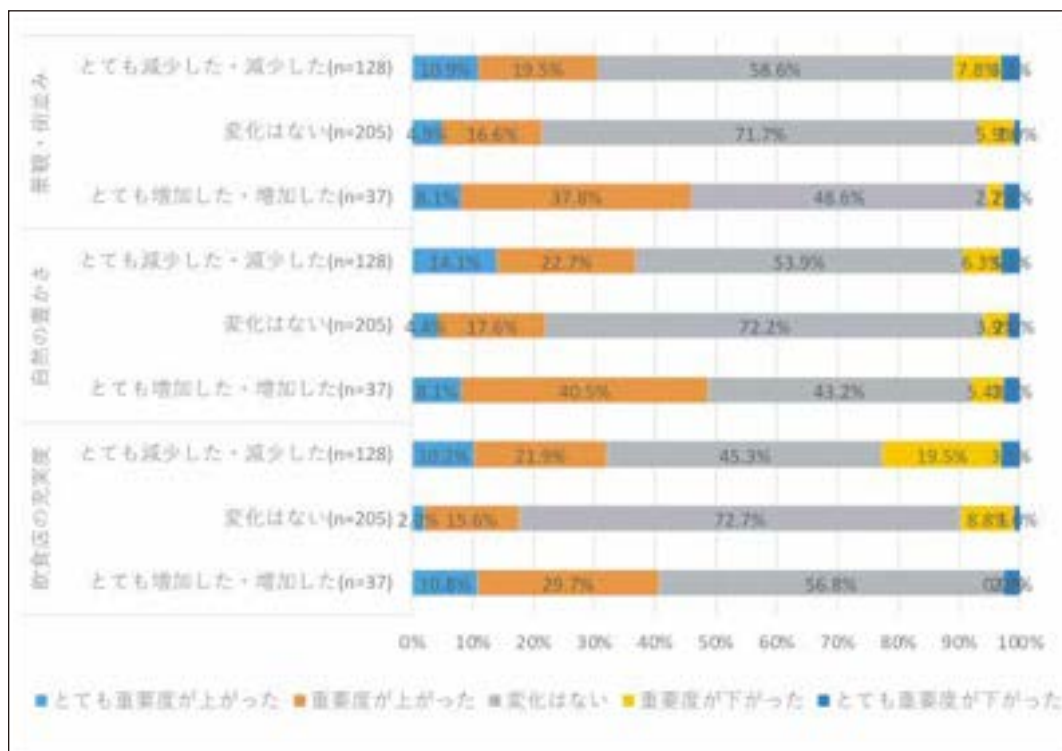
図表2-2-57 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」)



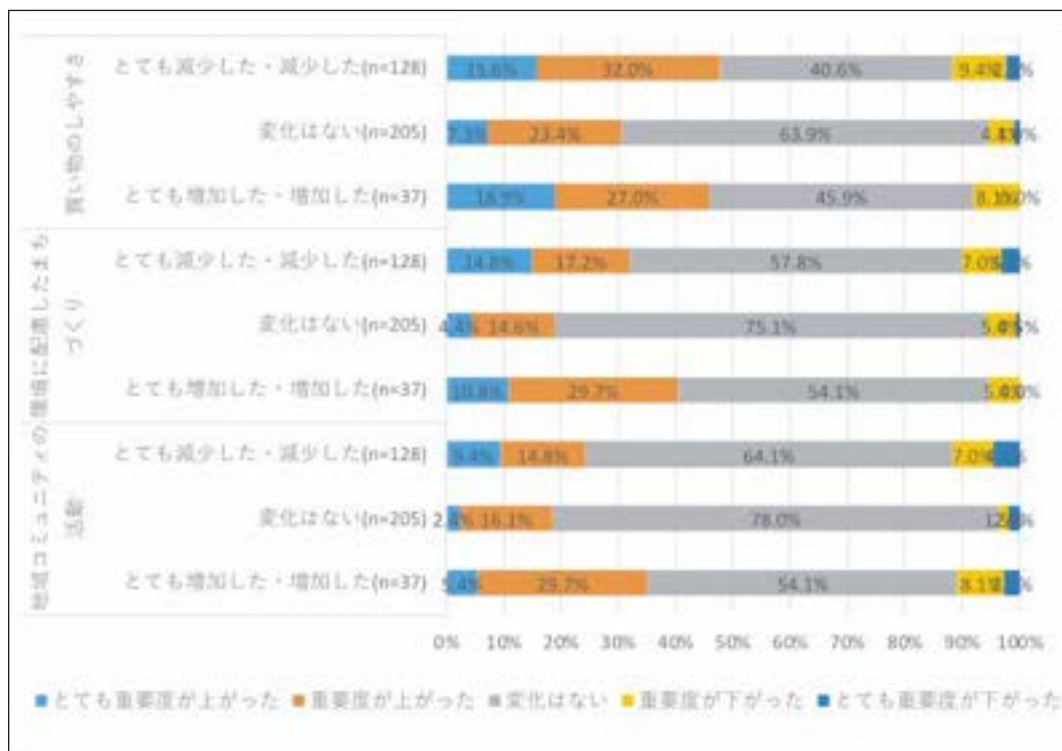
図表2-2-58 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



図表2-2-59 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
（「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」）

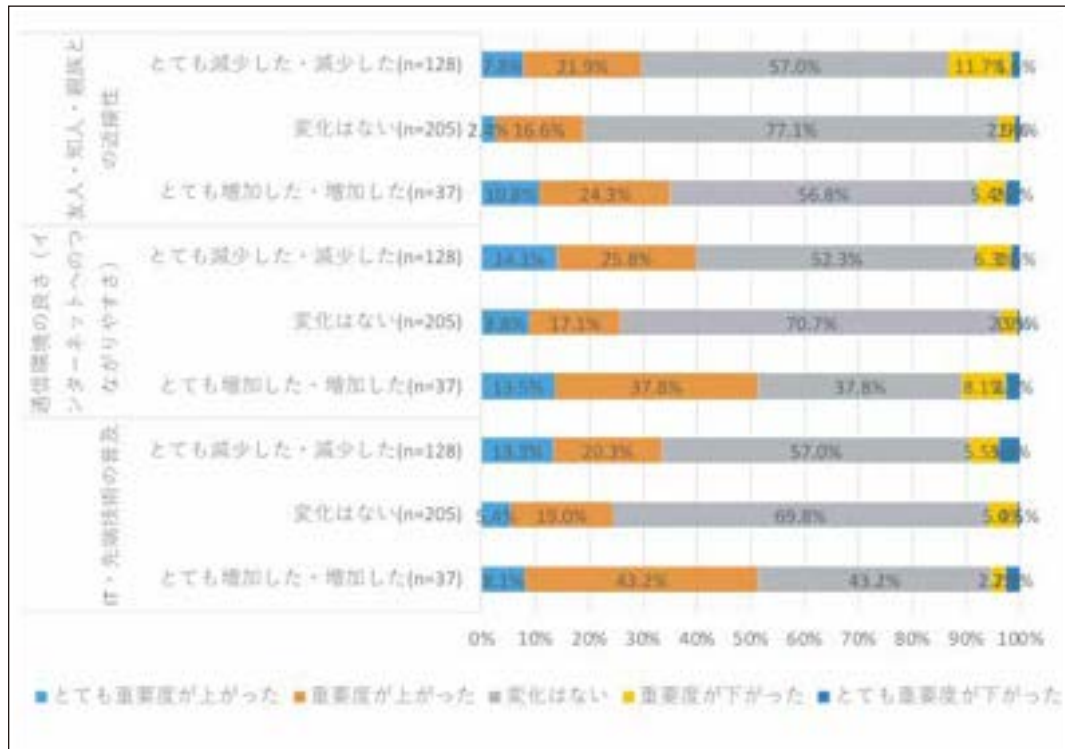


図表2-2-60 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
（「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」）



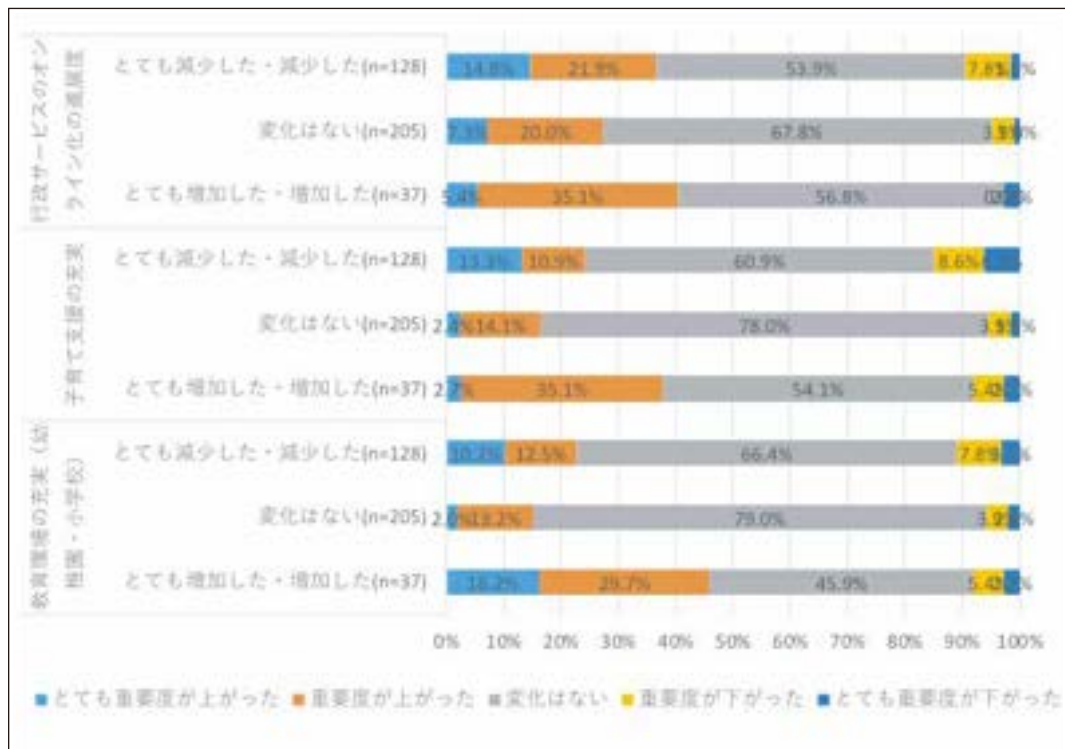
図表2-2-61 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目

(「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)

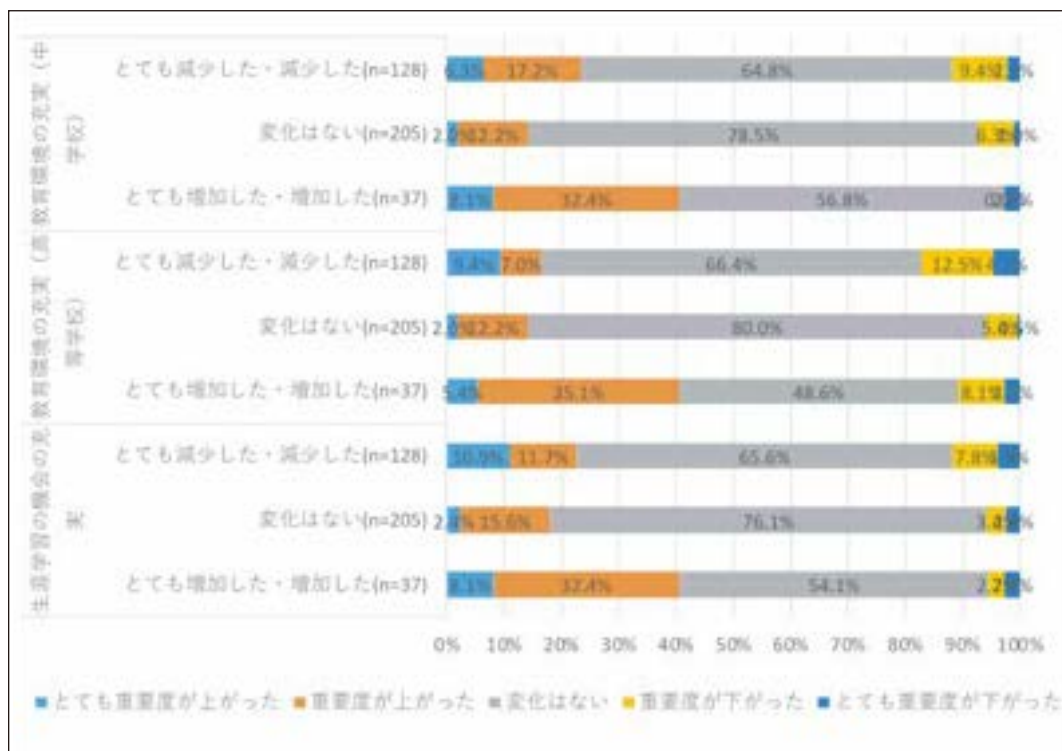


図表2-2-62 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目

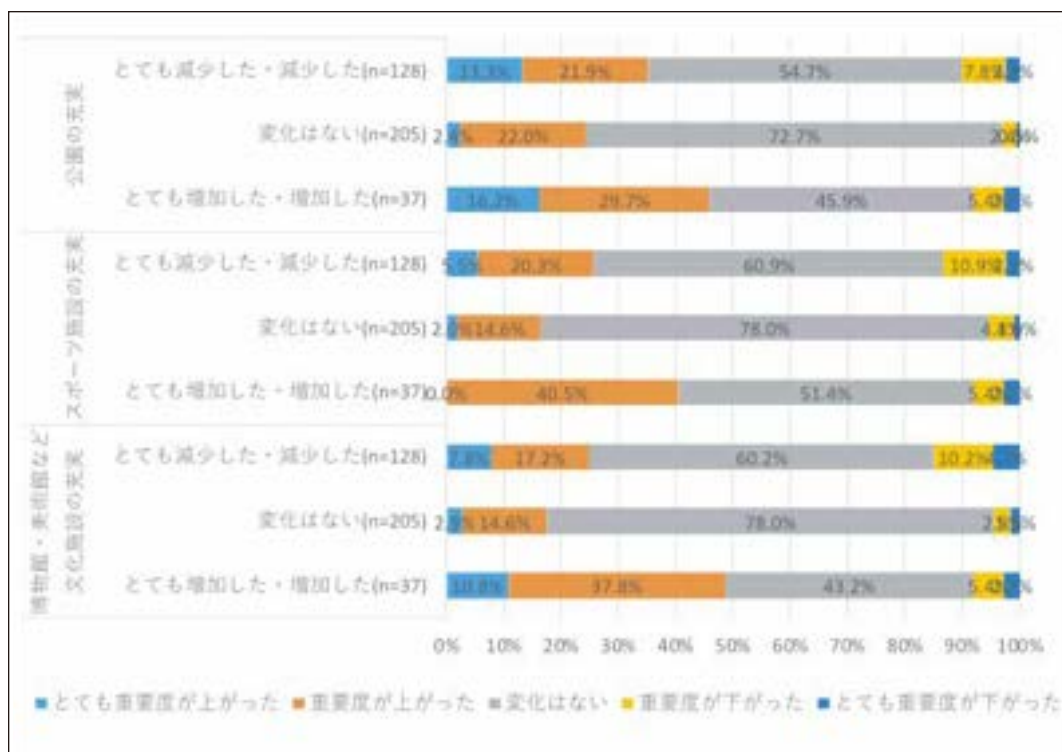
(「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



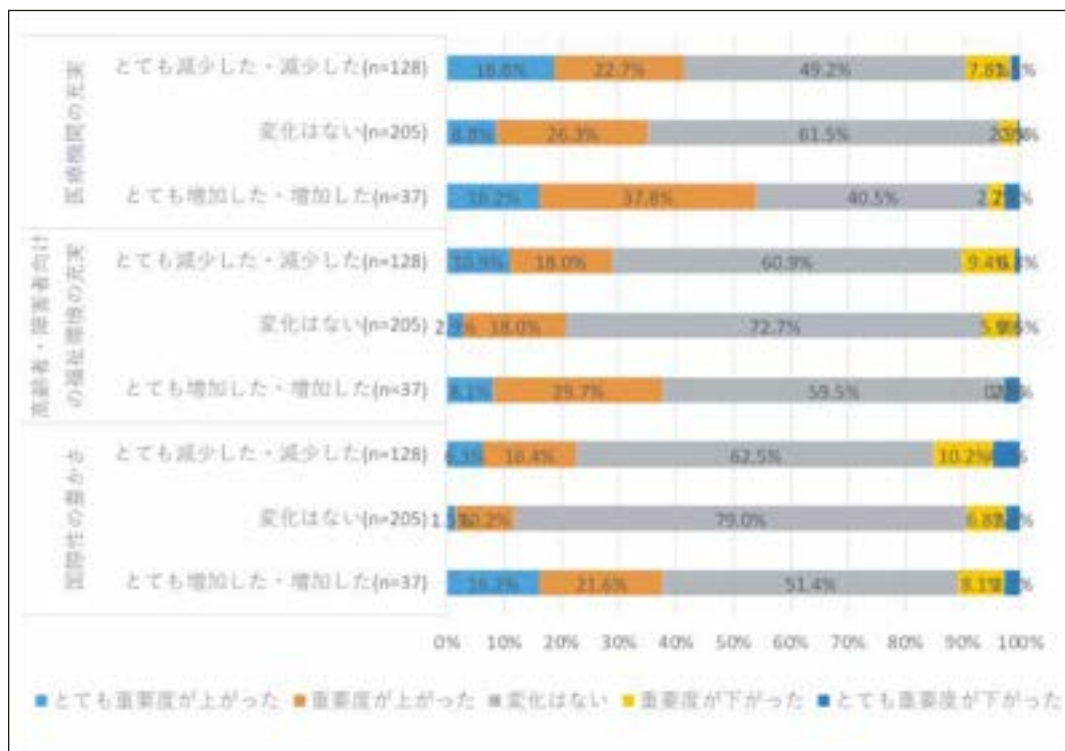
図表2-2-63 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



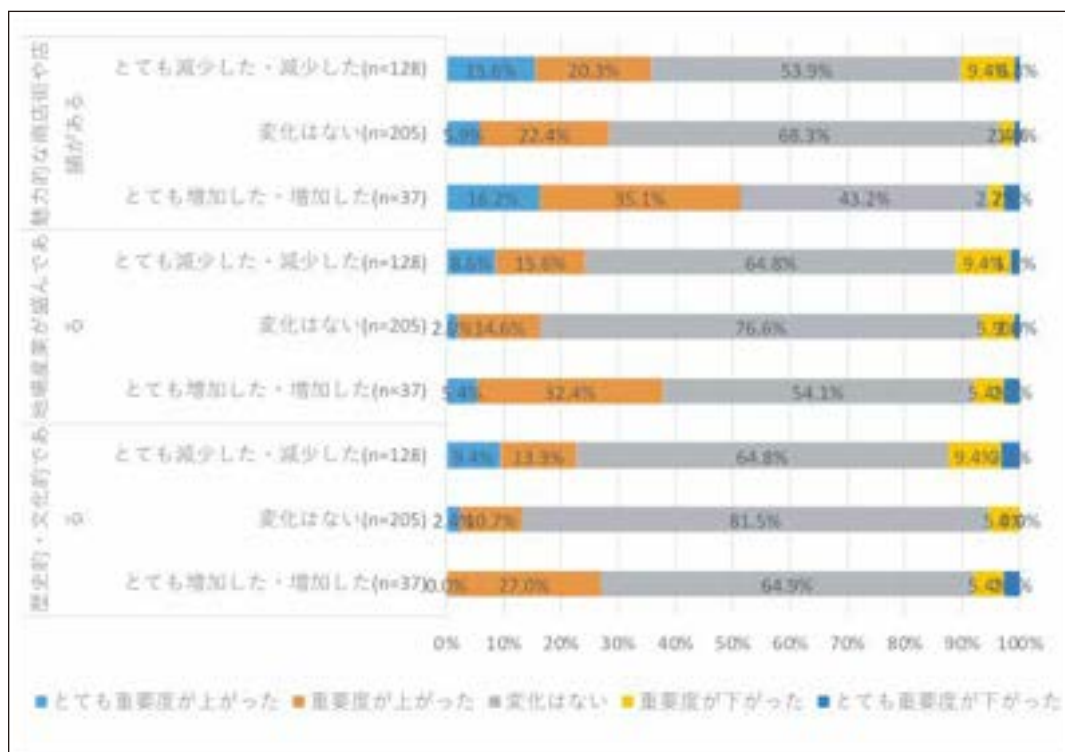
図表2-2-64 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



図表2-2-65 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)

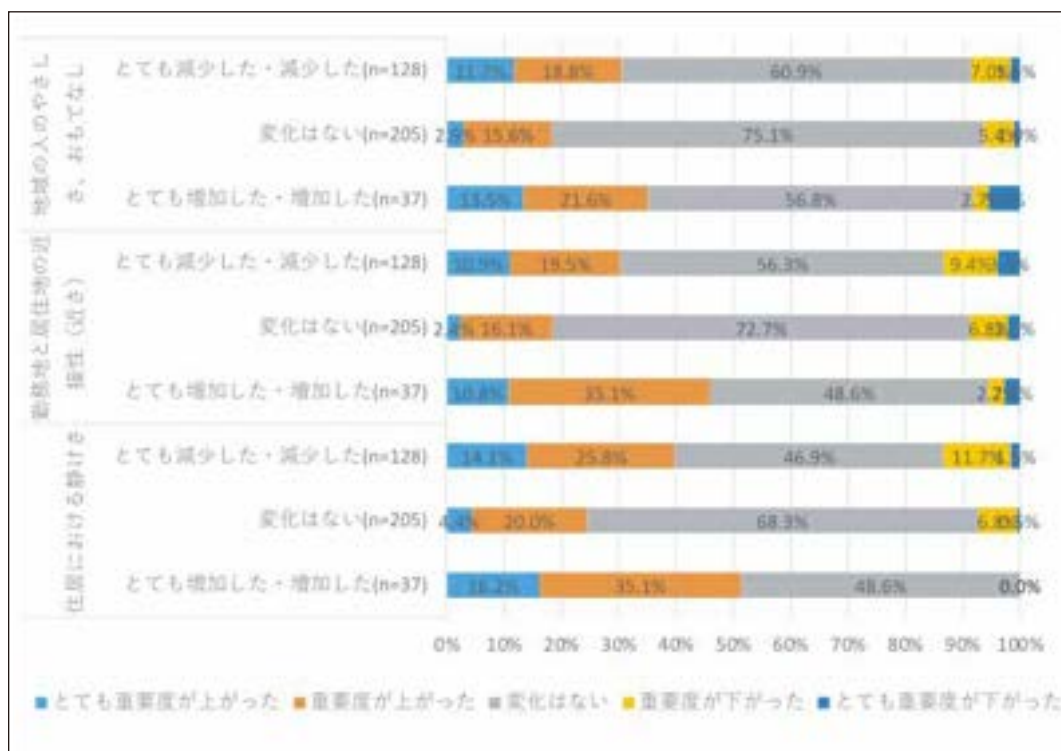


図表2-2-66 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-2-67 世帯収入の変化別にみた住居選択時に重視する項目

(「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性(近さ)」「住居における静けさ」)

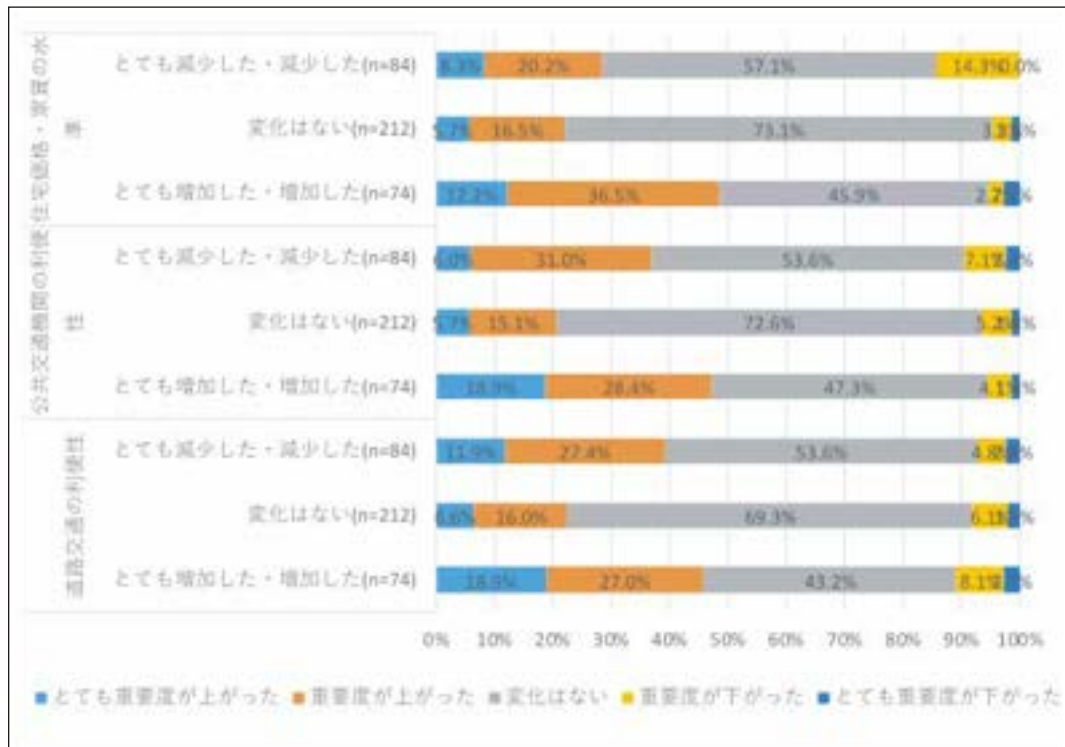


世帯支出が増加した回答者では、「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」「買い物のしやすさ」「通信環境の良さ」「医療機関の充実」「魅力的な商店街や店舗がある」の重要度が高い

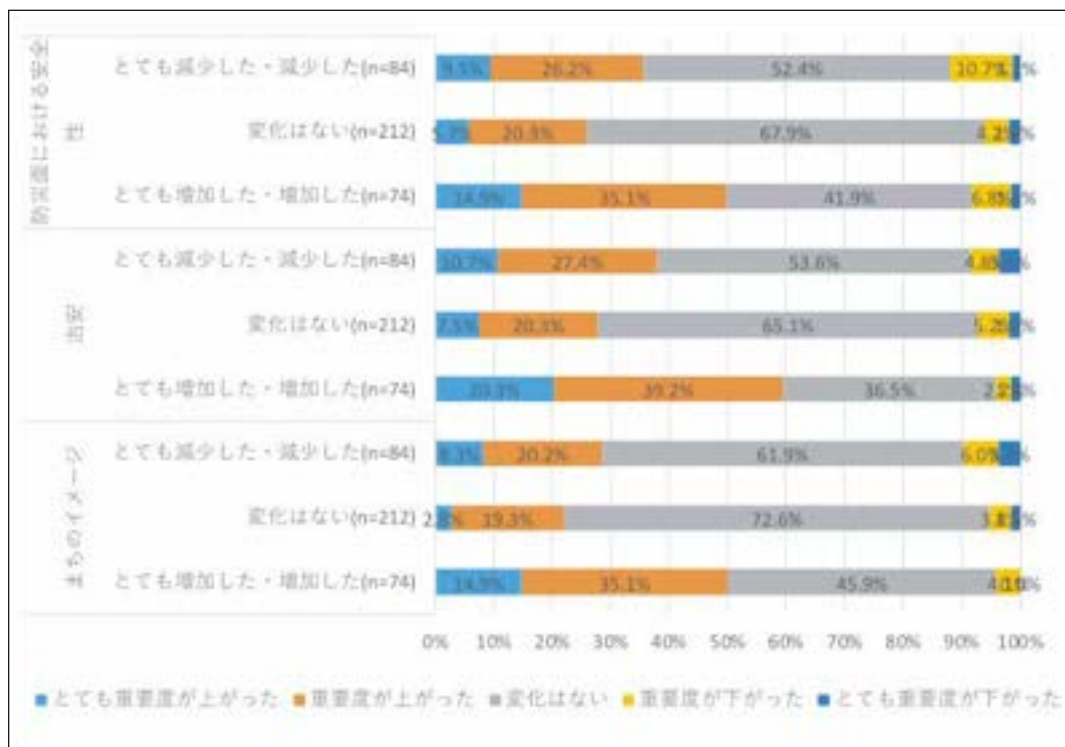
コロナ前とコロナ禍での世帯支出の変化別でみると、すべての項目でとても増加した・増加した回答者で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合が高い。特に、「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」「買い物のしやすさ」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「医療機関の充実」「魅力的な商店街や店舗がある」においては、とても増加した・増加した回答者で50ポイント以上の値を示していることから、コロナで支出が増加した回答者において重要度が上がっている項目といえる。

なお、世帯収入の変化と同様に、すべての項目で世帯支出の変化がない回答者で「とても重要度が上がった」と「重要度が上がった」を併せた割合が小さく、世帯支出の変化がない回答者においてはコロナによる重要度の変化もほとんどないと考えられる。

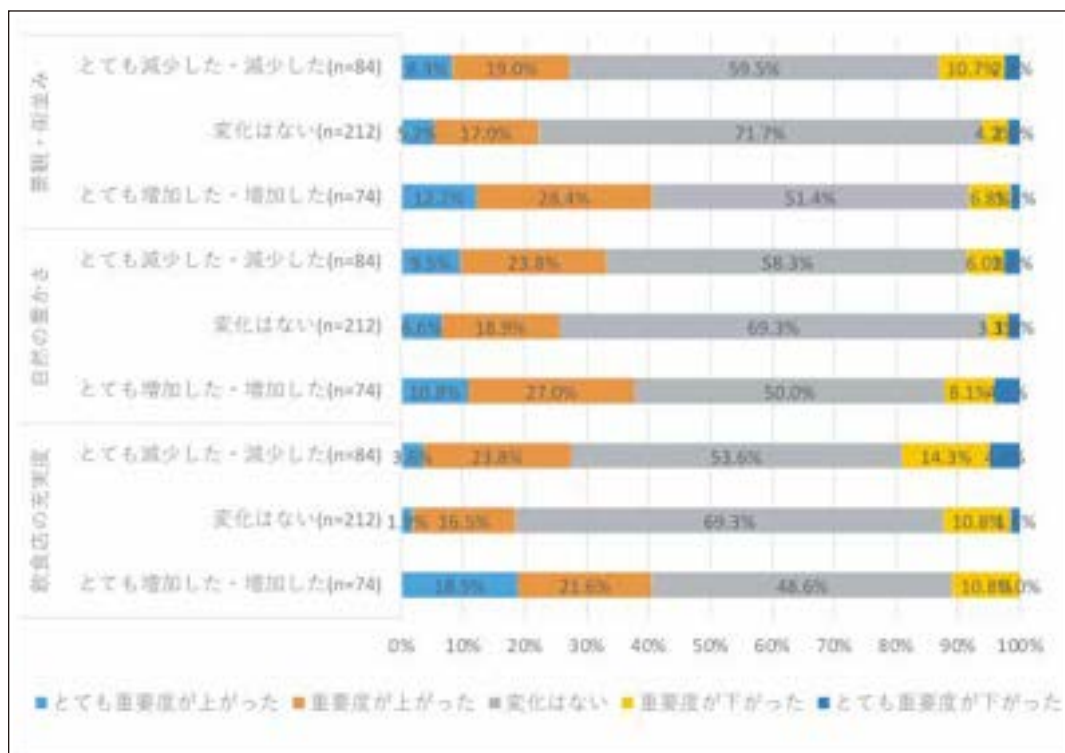
図表2-2-68 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「住宅価格・家賃の水準」「公共交通機関の利便性」「道路交通の利便性」)



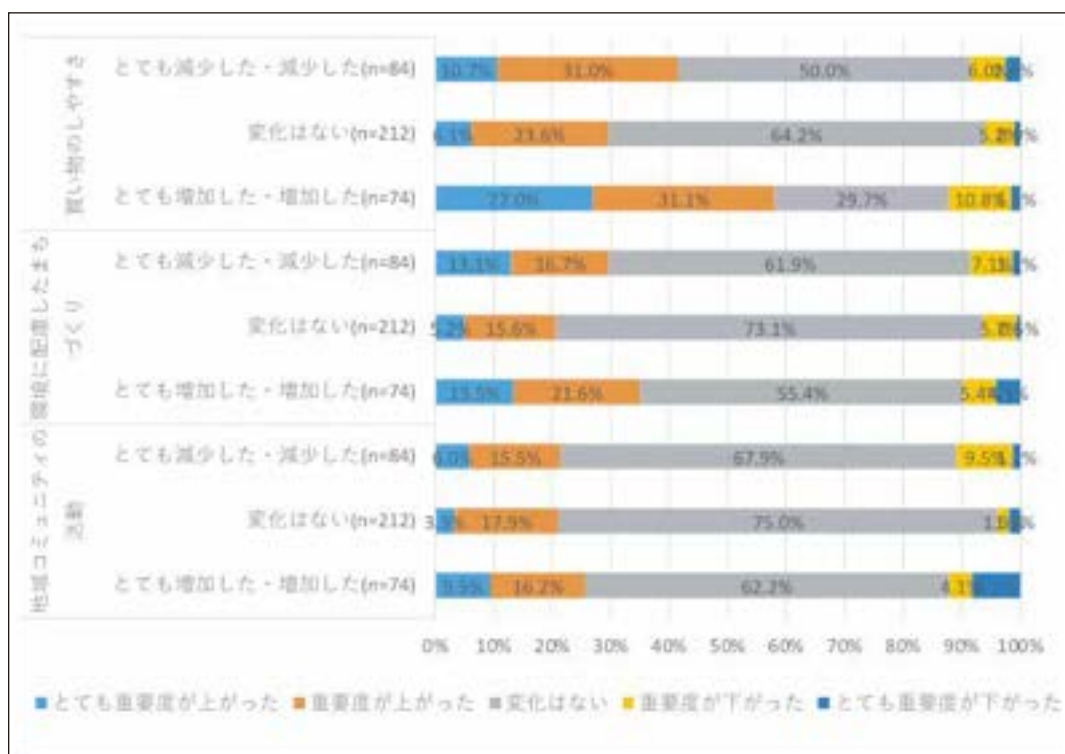
図表2-2-69 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「防災面における安全性」「治安」「まちのイメージ」)



図表2-2-70 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「景観・街並み」「自然の豊かさ」「飲食店の充実度」)

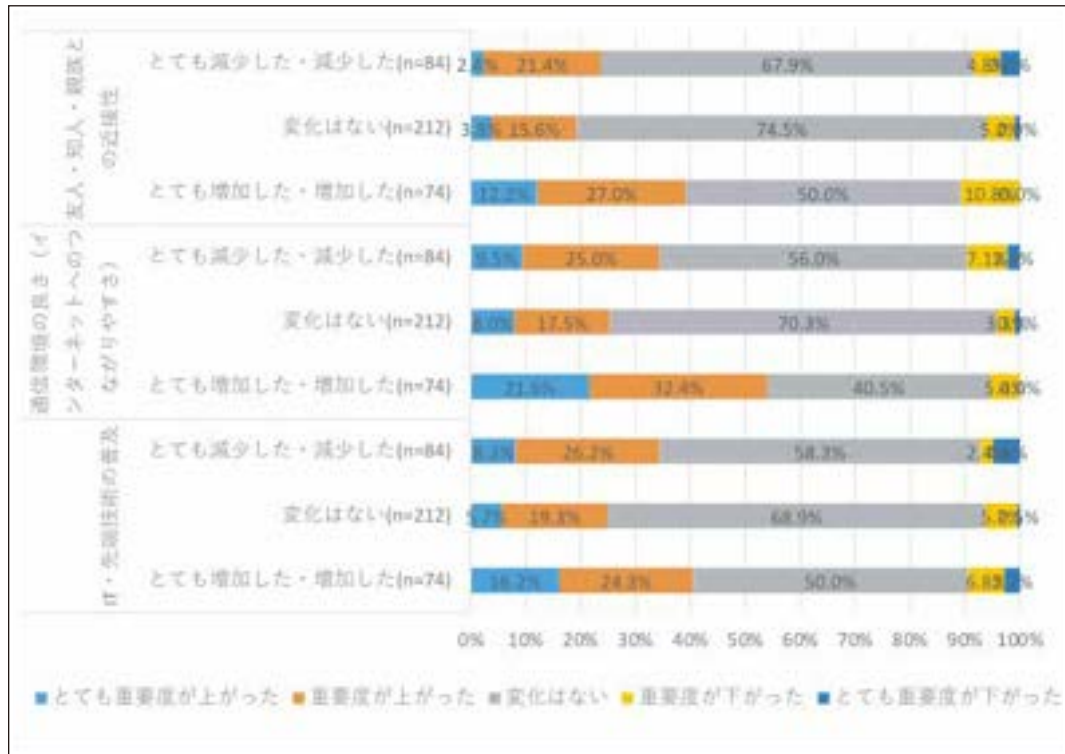


図表2-2-71 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「買い物のしやすさ」「環境に配慮したまちづくり」「地域コミュニティの活動」)



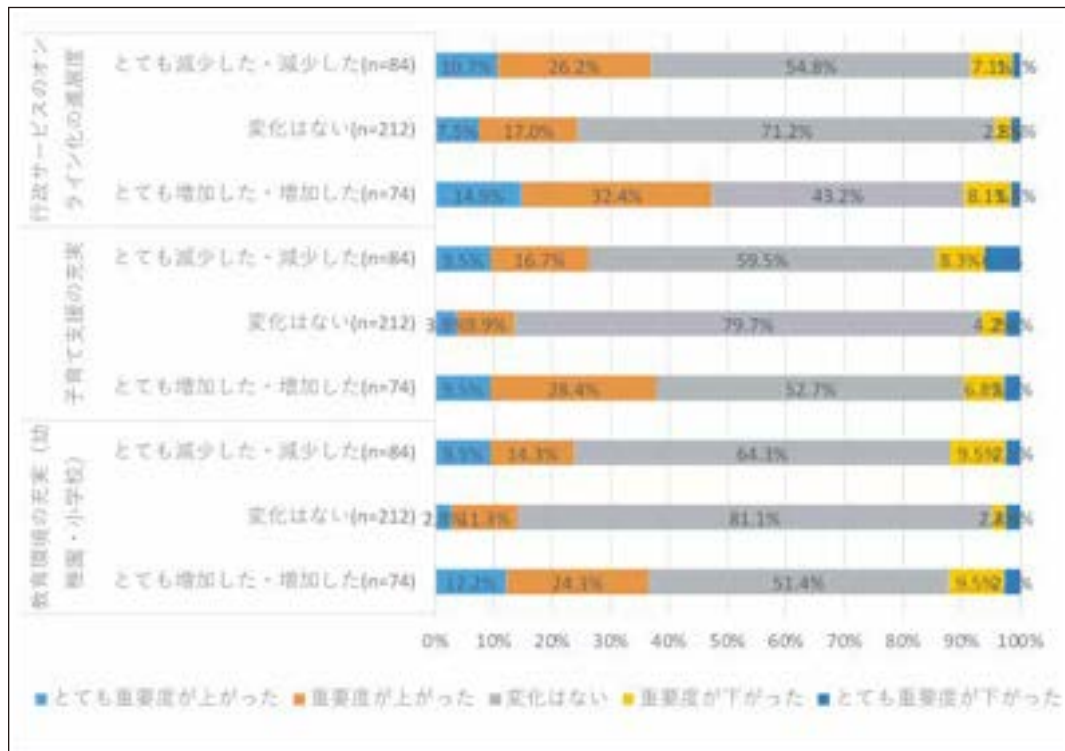
図表2-2-72 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目

(「友人・知人・親族との近接性」「通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)」「IT・先端技術の普及」)

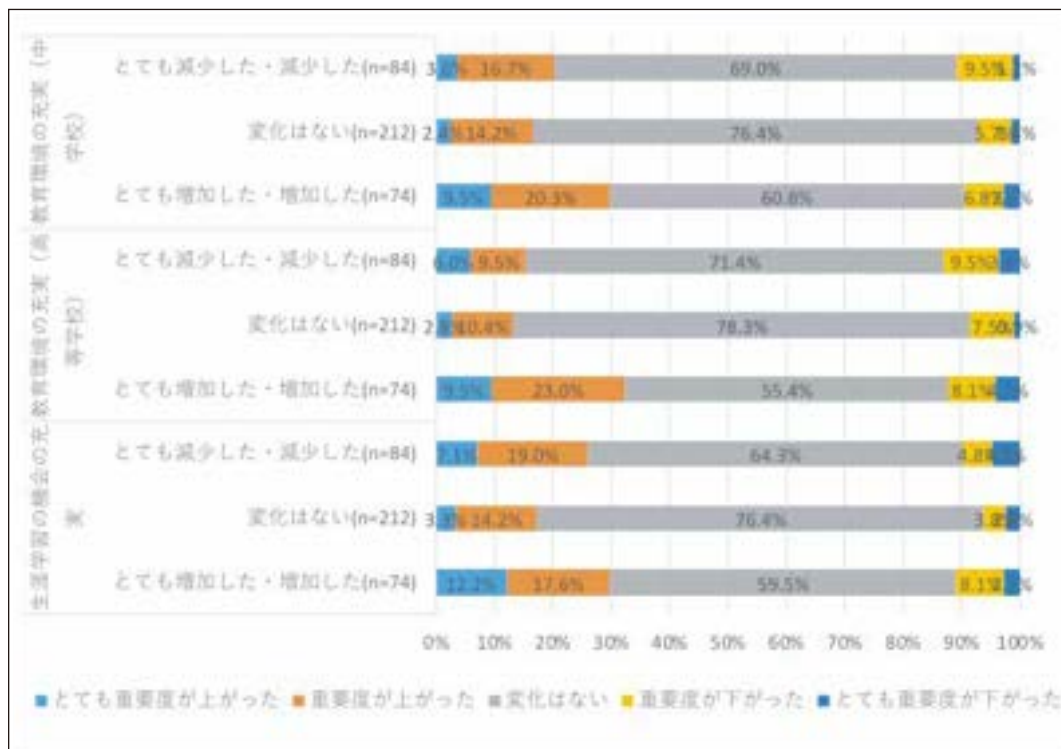


図表2-2-73 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目

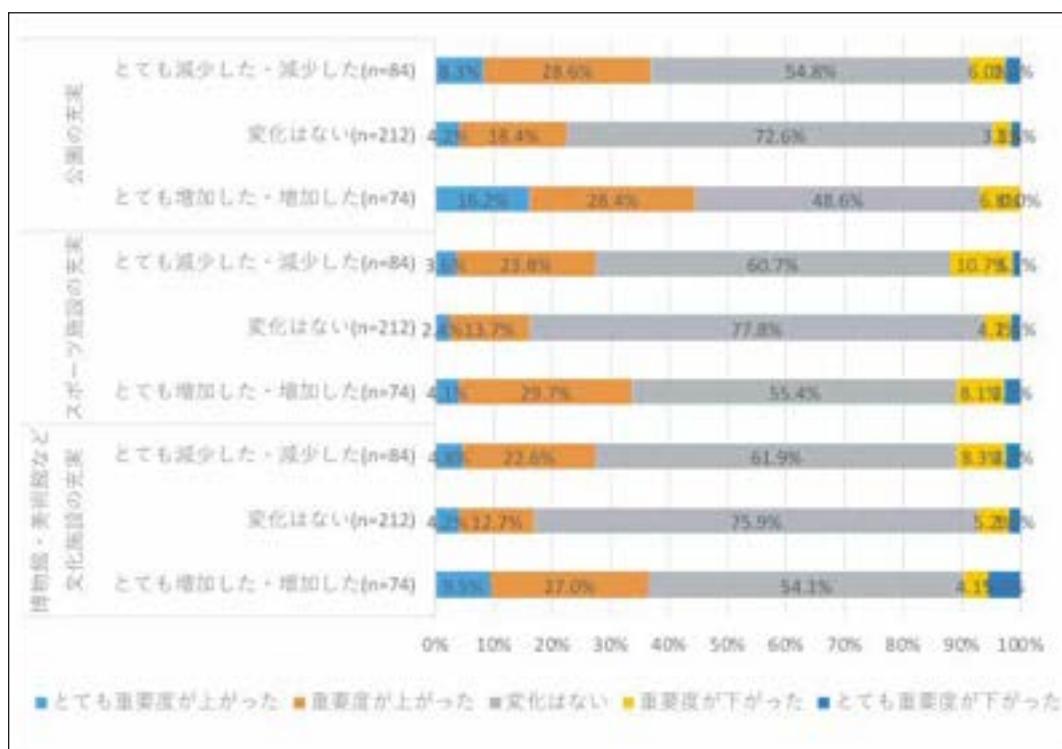
(「行政サービスのオンライン化の進展度」「子育て支援の充実」「教育環境の充実(幼稚園・小学校)」)



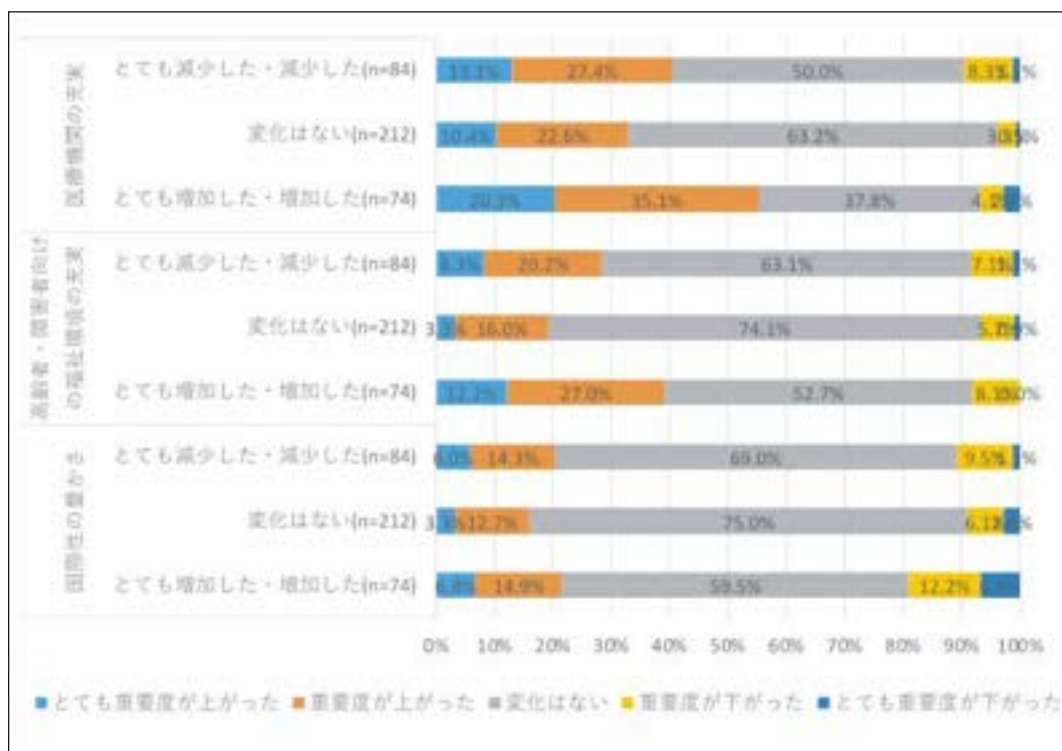
図表2-2-74 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「教育環境の充実(中学校)」「教育環境の充実(高等学校)」「生涯学習の機会の充実」)



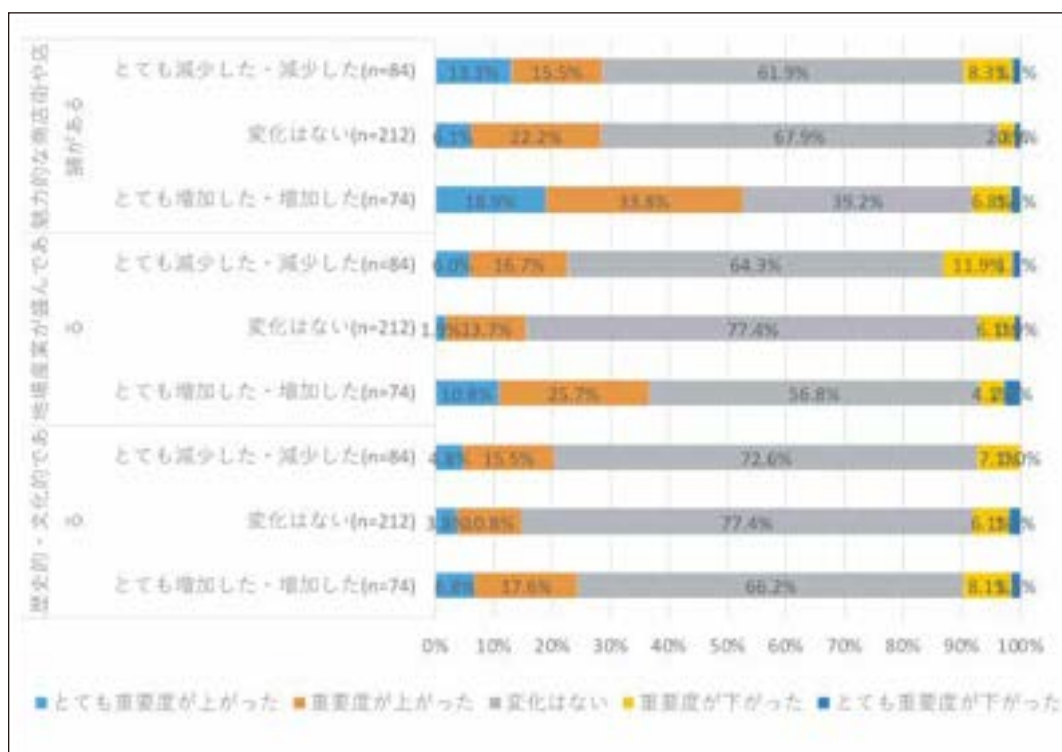
図表2-2-75 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「公園の充実」「スポーツ施設の充実」「博物館・美術館などの文化施設の充実」)



図表2-2-76 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「医療機関の充実」「高齢者・障害者向けの福祉環境の充実」「国際性の豊かさ」)

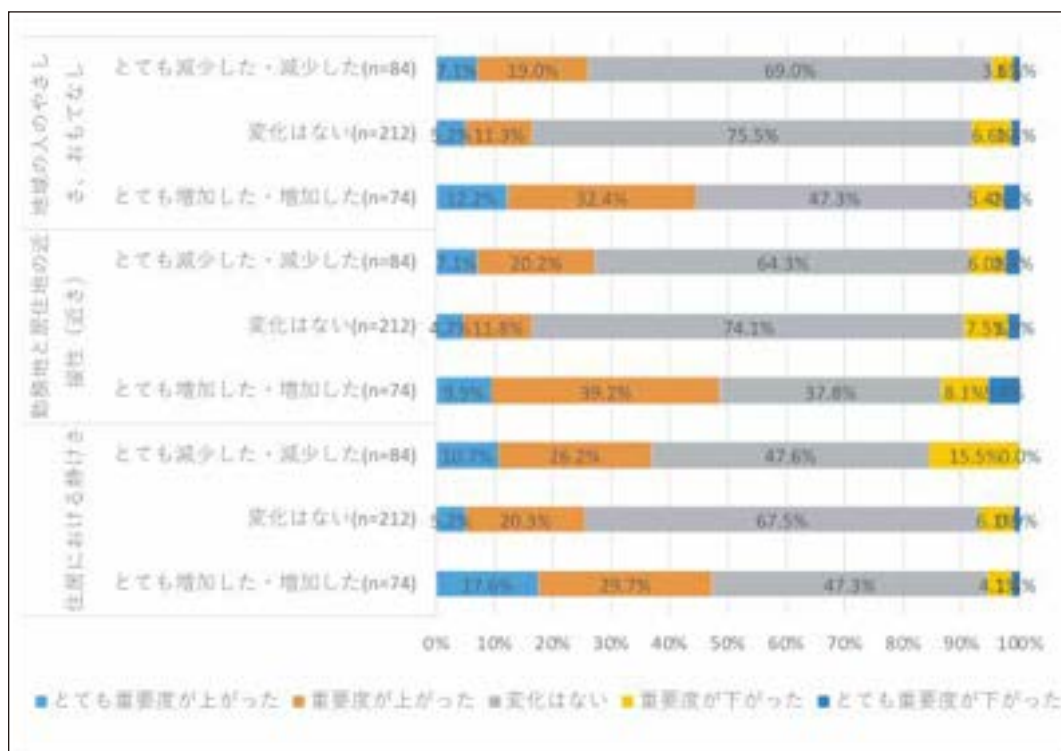


図表2-2-77 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目
 (「魅力的な商店街や店舗がある」「地場産業が盛んである」「歴史的・文化的である」)



図表2-2-78 世帯支出の変化別にみた住居選択時に重視する項目

（「地域の人のやさしさ、おもてなし」「勤務地と居住地の近接性（近さ）」「住居における静けさ」）



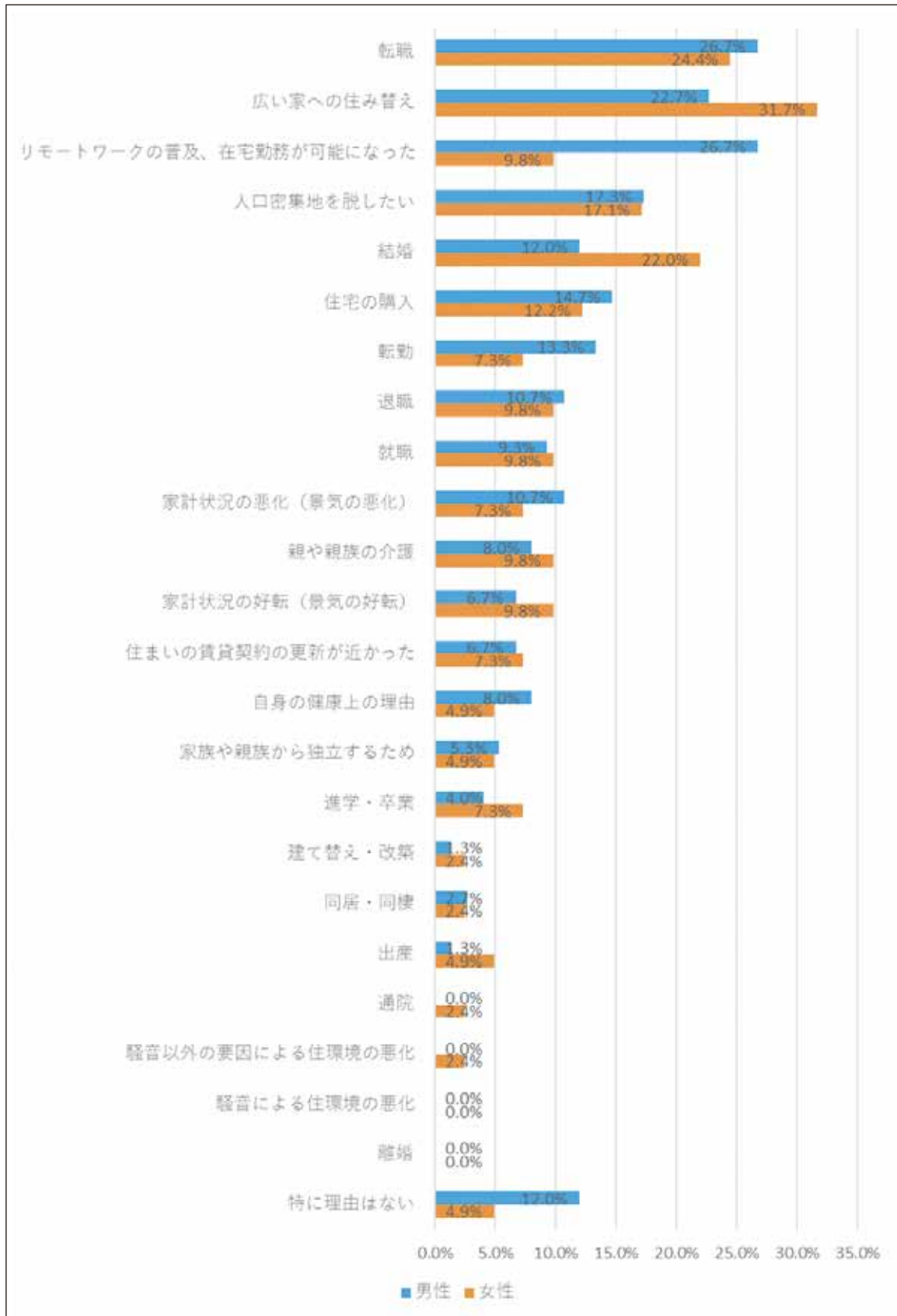
ウ 引越しのきっかけと回答者属性の関係

男性は「転職」「リモートワークや在宅勤務」、
女性は「広い家への住み替え」が引越しのきっかけに

引越しについて男女別にみると、男性では「転職」「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」が最も多く、女性では「広い家への住み替え」が最も多く、次いで「転職」が多い。

図表2-2-79 男女別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）

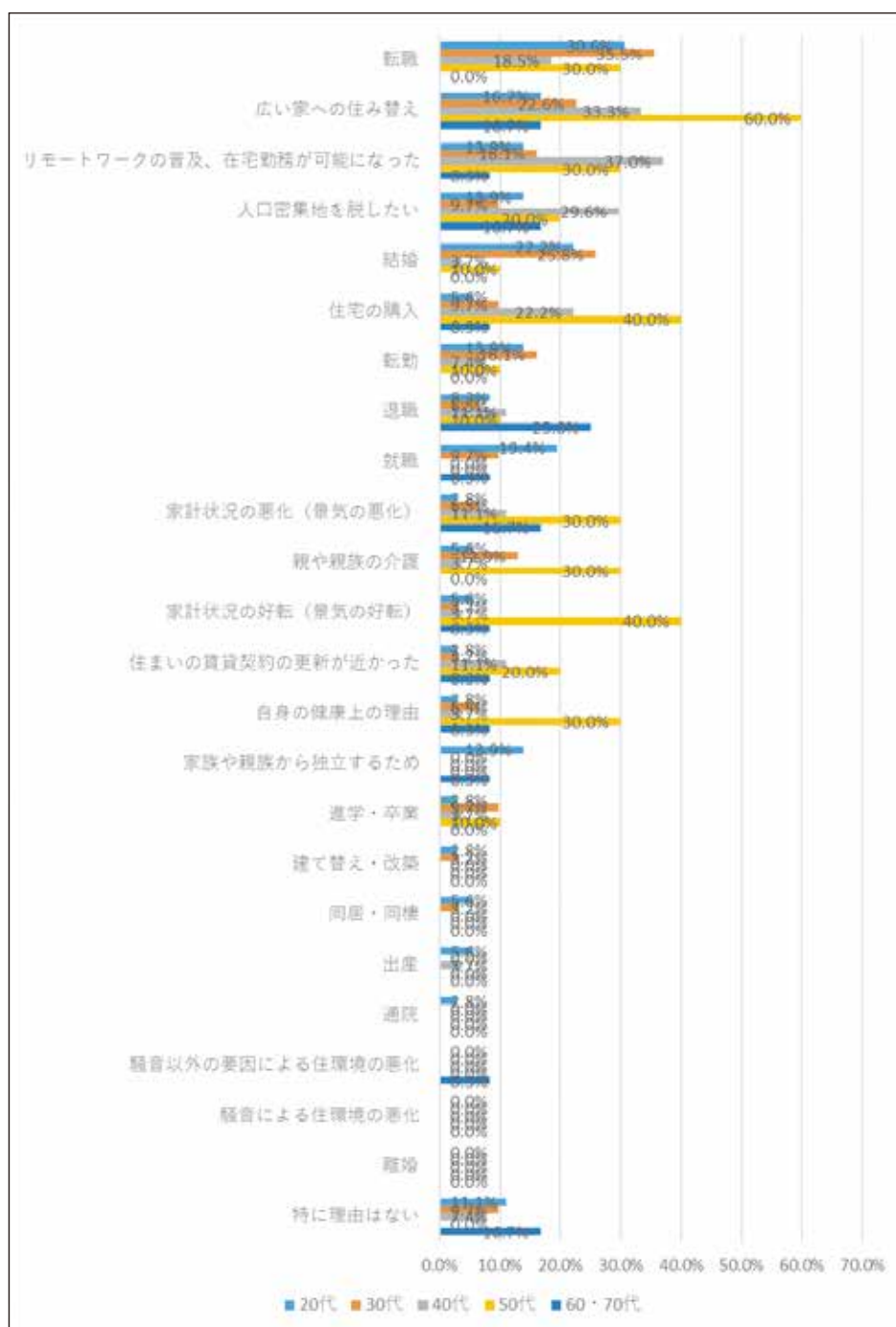


「転職」は30・20・50代、「広い家への住み替え」は50・40代で引越すきっかけとなる

引越しについて雇用形態別にみると「転職」は30代、20代、50代の順番で多く、若年層が引越する大きな理由となっていると考えられる。一方、「広い家への住み替え」は50代、40代の順番で多い。そして、「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」「人口密集地を脱したい」は40・50代が多い。これらの要因は感染症の流行が引越しの促進要因となっていることを示唆している。

図表2-2-80 雇用形態別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）

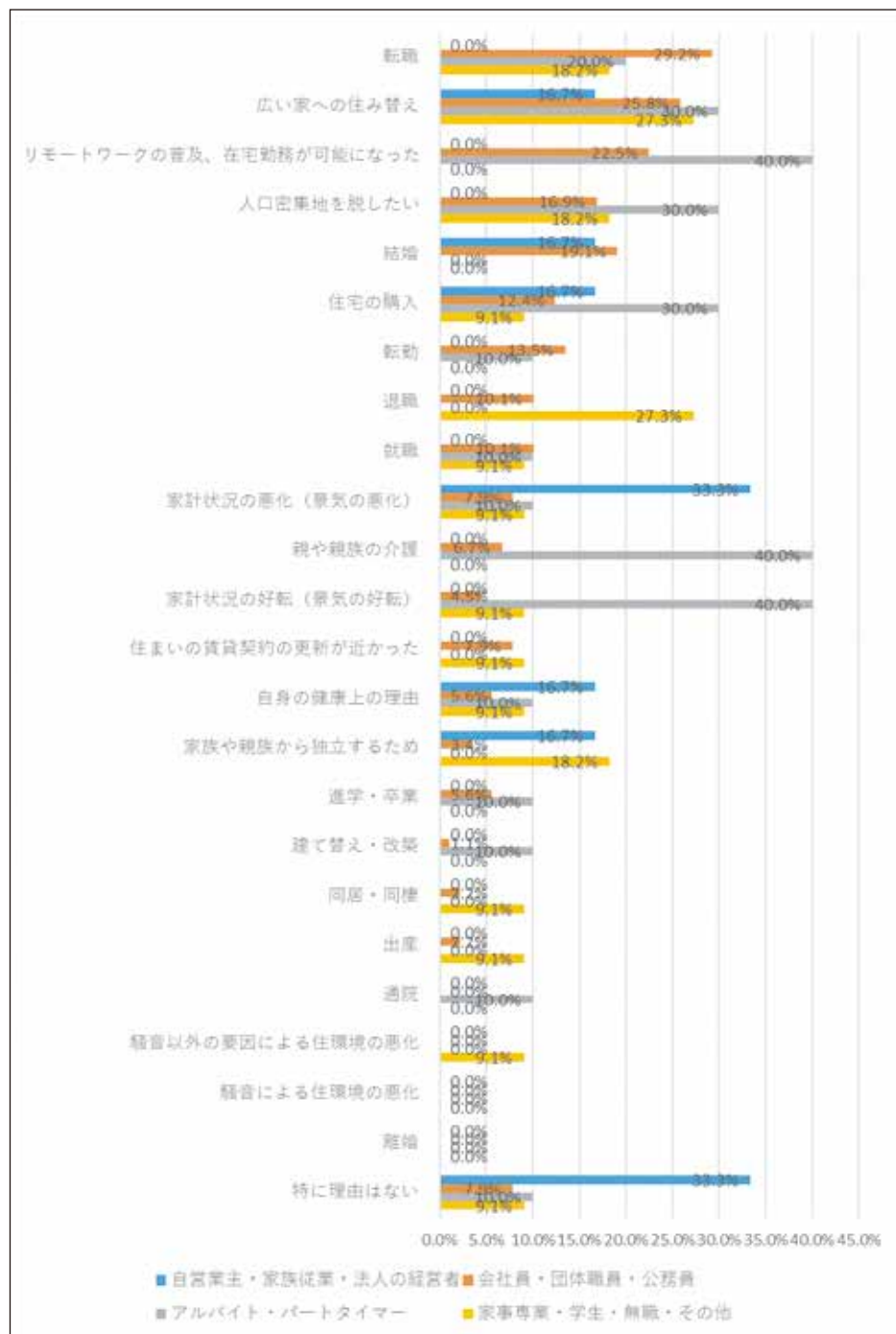


雇用形態別で引越しのきっかけは大きく異なる

引越しのきっかけについて雇用形態別にみると、自営業主・家族従業・法人の経営者では「家計状況の悪化（景気の悪化）」「特に理由はない」、会社員・団体職員・公務員では「転職」、アルバイト・パートタイマーでは「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」「親や親族の介護」「家計状況の好転（景気の好転）」、家事専業・学生・無職・その他では「広い家への住み替え」「退職」が最も多い。

図表2-2-81 雇用形態別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）

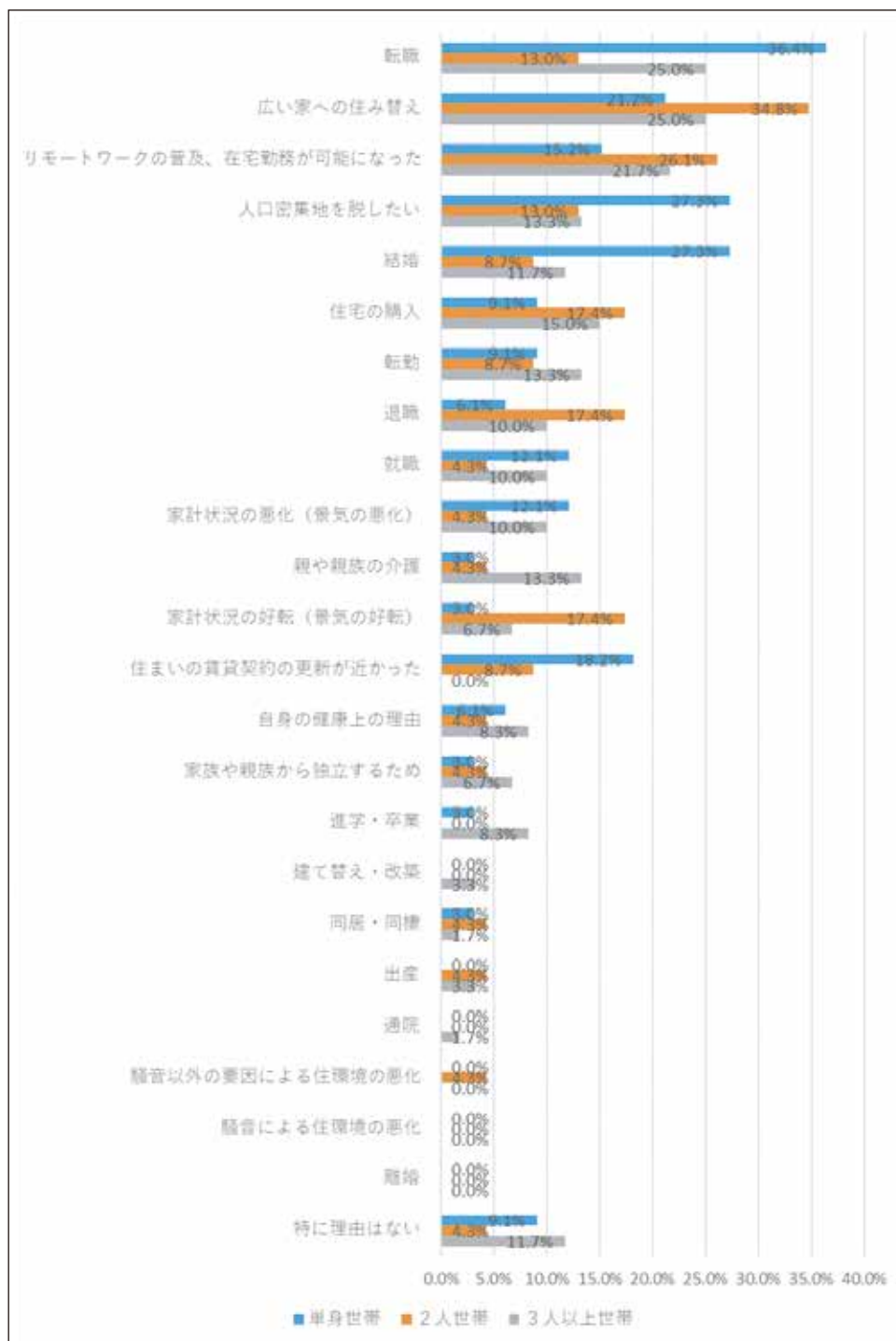


単身世帯では「転職」、2人世帯では「広い家への住み替え」、
3人以上世帯では「転職」「広い家への住み替え」

引越しのきっかけについて世帯員数別にみると、単身世帯では「転職」、2人世帯では「広い家への住み替え」、3人以上世帯では「転職」「広い家への住み替え」が最も多い。

図表2-2-82 世帯員数別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）



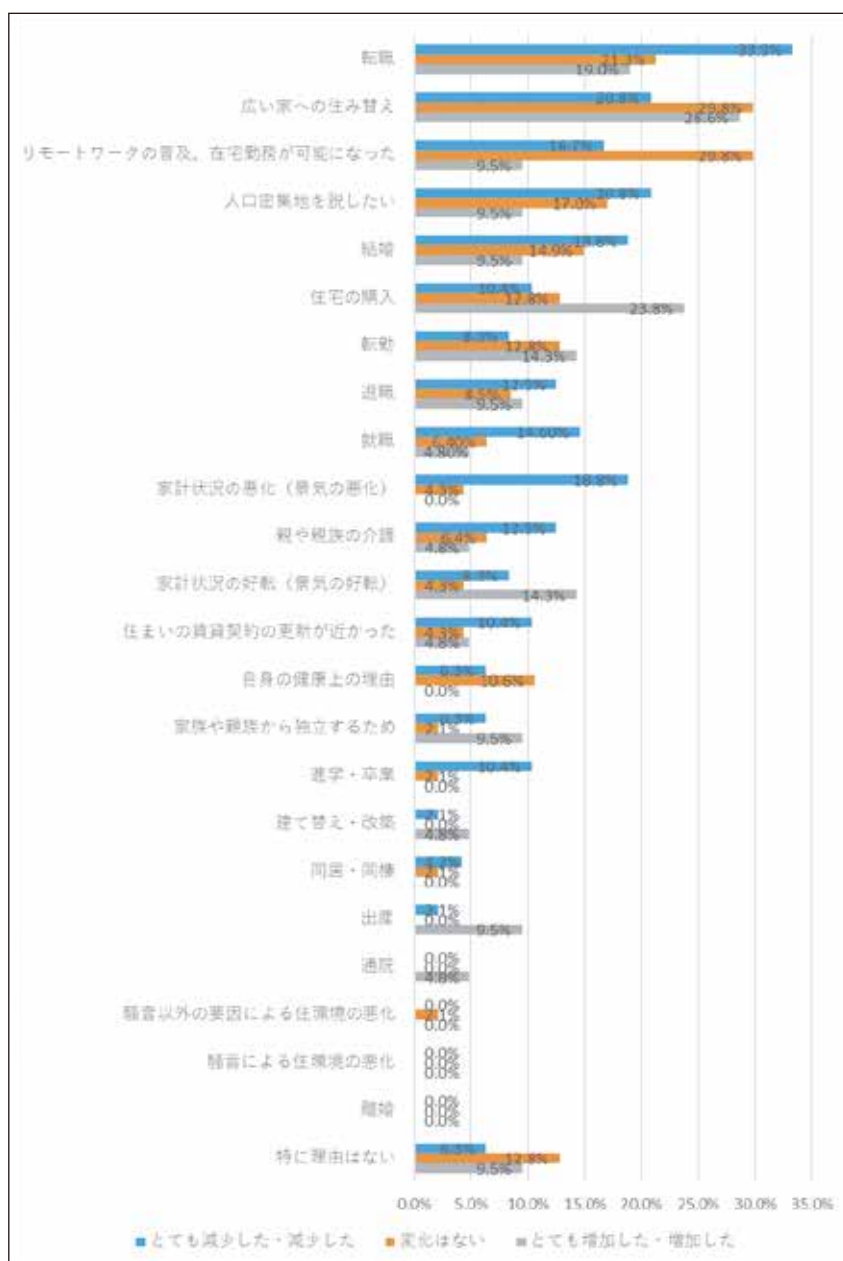
世帯収入の変化別では、増加した場合や変化がない場合では「広い家への住み替え」、減少した場合は「転職」が引越しのきっかけとなる

また、変化がない回答者では「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」も引越しのきっかけに

引越しのきっかけについて世帯収入の変化別にみると、とても減少した・減少した回答者においては「転職」、変化がない回答者においては「広い家への住み替え」「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」、とても増加した・増加した回答者においては「広い家の住み替え」が最も多い。

図表2-2-83 世帯収入の変化別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）

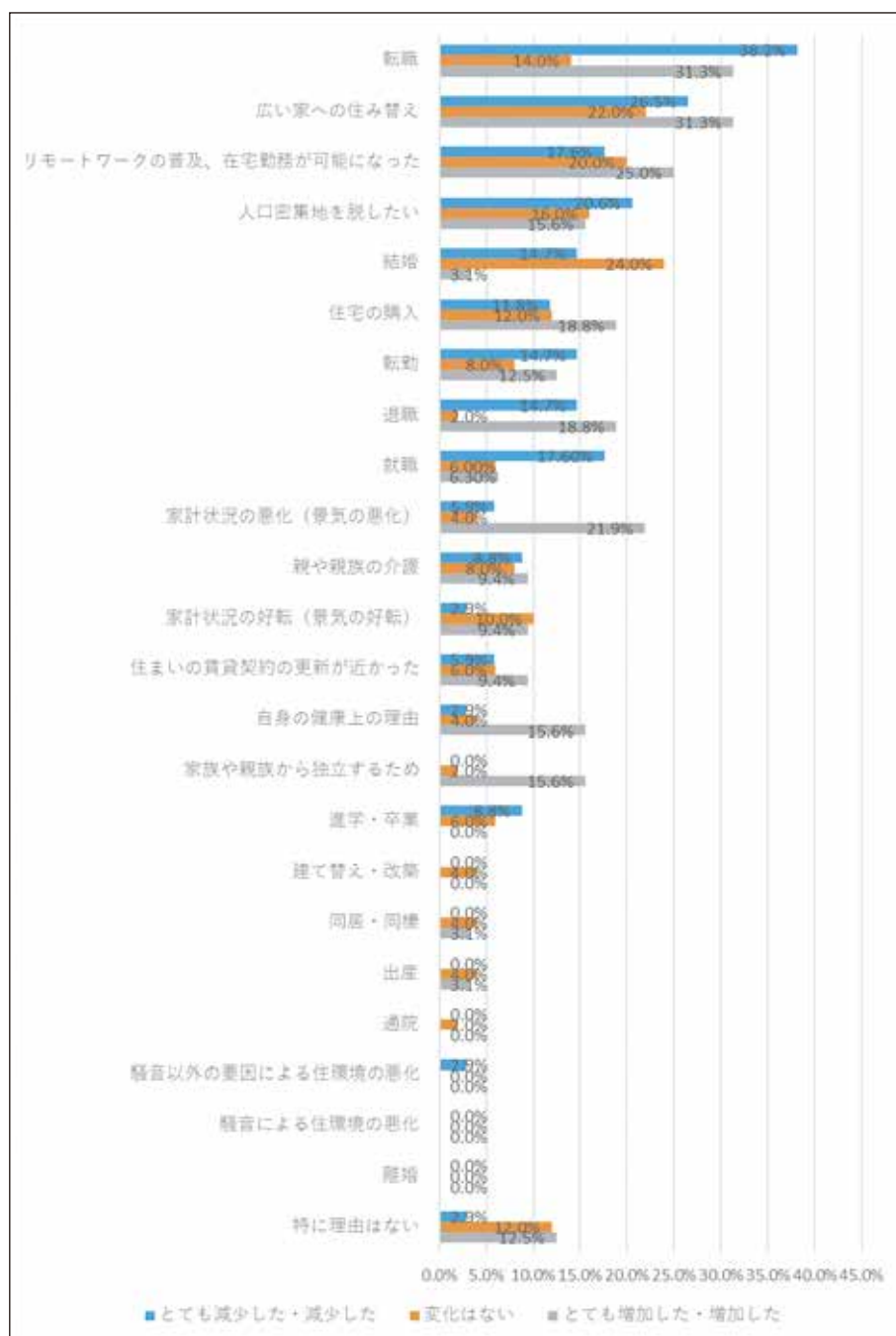


世帯支出が減少した場合は「転職」、変化がない場合は「結婚」、増加した場合は「転職」「広い家への住み替え」「リモートワークの普及」が引越しのきっかけに

引越しのきっかけについて世帯支出の変化別にみると、とても減少した・減少した回答者では「転職」、変化がない回答者においては「結婚」、とても増加した・増加した回答者においては「転職」「広い家への住み替え」「リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった」が最も多い。

図表2-2-84 世帯支出の変化別にみた引越しのきっかけ（複数回答）

（図表2-2-1の引越し意向について「考えている」「やや考えている」を選択した116人から複数回答で回答を得た）



(3) 詳細分析

ア 方法

平均点を用いたコロナ以前と比較して重要度が上がった住居選択の要因と引越し意向との比較分析

居住地を選択する際の要因について、感染症流行以前と比較した重要度の変化を把握した。「公共交通機関の利便性」から「国際性の豊かさ」など33個の項目をそれぞれ「とても重要度が上がった」「重要度が上がった」「変化はない」「重要度が下がった」「とても重要度が下がった」から選択された項目を得点化し、その平均点を算出した。さらに、この結果と引越し意向（「将来、現在の居住地域から引越しするご予定はありますか。」について「考えている」「やや考えている」「どちらでもない」「あまり考えていない」「考えていない」から選択）との関係の確認を行った。

引越し意向と回答者属性の関係を重回帰分析によって確認

上記の個々の居住地選択要因の平均値と、別途把握した、引越しを希望する属性、すなわち今後、港区に転入する可能性がある属性を検討するために引越し意向と回答者属性の重回帰分析を行った。

イ 結果及び考察

(ア) 引越し意向の割合

平均点では、引越しを考えていない～どちらでもない程度の値2.64点を示す

現在の居住地域からの転出予定について、5＝考えている、4＝やや考えている、3＝どちらでもない、2＝あまり考えていない、1＝考えていないから選択してもらい、平均点を算出した。

その結果、2.64点で2＝あまり考えていない～3＝どちらでもない程度で概ね考えていないといえる。

図表2-2-85 引越し意向の平均点

		平均点	標準偏差	
合計	n=370	2.64	1.41	

1.0 2.0 3.0 4.0 5.0

(イ) コロナによって、引越し先を選択する際に重視するようになっている要因

コロナの流行により医療機関や買い物環境を重視 感染リスクの不安もあってかオンライン化も重視しつつある

合計点をみると「医療機関の充実」が3.45点で最も高く、次いで「買い物のしやすさ」3.40点、「治安」3.38点、「通信環境の良さ（インターネットへのつながりやすさ）」3.38点、「魅力的な商店街や店舗がある」3.36点、「行政サービスのオンライン化の進展度」3.34点と続く。

この結果からは、感染症の流行に伴って、移動することに伴う感染リスクの不安が大きくなり、引越し先の検討要因として医療機関の充実や買い物のしやすさといった短距離移動で充実した生活が送れるような設備を求めていることがうかがえる。

さらに、通信環境の良さや行政サービスのオンライン化が支持されている状況からもわかるように感

感染症の流行によって外出することなく、インターネットを介して生活を豊かにする方向性も重要視されているといえる。

図表2-2-86 コロナによって住居選択で重要度の平均点

変数の定義	変数の名称	平均値	標準偏差	
「新型コロナウイルス感染症の流行以前（2020年2月以前）と比較して、住む場所を選ぶときの重要度の変化をそれぞれ選択してください。」と質問し、5=とても重要度が上がった、4=重要度が上がった、3=変化はない、2=重要度が下がった、1=とても重要度が下がったから選択してもらい、平均点を算出した。	医療機関の充実	3.45	0.82	
	買い物のしやすさ	3.40	0.82	
	治安	3.38	0.82	
	通信環境の良さ	3.38	0.78	
	魅力的な商店街や店舗がある	3.36	0.78	
	行政サービスのオンライン化の進展度	3.34	0.77	
	防災面における安全性	3.32	0.78	
	住居における静けさ	3.32	0.78	
	道路交通の利便性	3.31	0.82	
	公園の充実	3.31	0.73	
	IT・先端技術の普及	3.30	0.77	
	公共交通機関の利便性	3.29	0.76	
	住宅価格・家賃の水準	3.28	0.74	
	まちのイメージ	3.28	0.72	
	自然の豊かさ	3.28	0.78	
	環境に配慮したまちづくり	3.26	0.75	
	景観・街並み	3.24	0.75	
	高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	3.24	0.70	
	地域の人がやさしさ、おもてなし	3.22	0.73	
	友人・知人・親族との近接性	3.21	0.69	
	勤務地と居住地の近接性（近さ）	3.19	0.77	
	博物館・美術館など文化施設の充実	3.18	0.73	
	地域コミュニティの活動	3.17	0.71	
	生涯学習の機会の充実	3.17	0.73	
	教育環境の充実（幼稚園・小学校）	3.17	0.72	
	地場産業が盛んである	3.16	0.67	
	子育て支援の充実	3.15	0.75	
	飲食店の充実度	3.15	0.77	
	スポーツ施設の充実	3.15	0.65	
	教育環境の充実（中学校）	3.14	0.66	
	歴史的・文化的である	3.13	0.65	
	教育環境の充実（高等学校）	3.10	0.69	
	国際性の豊かさ	3.08	0.72	

（ウ）重回帰分析による引越し意向と回答者属性の関係

重回帰分析の結果、回答者別の特徴として20・30・40代で引越し意向が高い

引越し意向を被説明変数として、消費者属性を説明変数とした重回帰分析を行った。被説明変数の度数分布については「図表2-2-1 昼間人口の引越し意向」、説明変数の定義については「図表2-1-83 回答者属性の変数の定義」を参照されたい。

その結果、20代、30代、40代で正に有意であり、それ以外の変数の影響は見られない。

なお、引越し意向に影響を与える属性として雇用形態以外の属性で有意な傾向がみられないことから、属性以外の影響を受けている可能性が考えられる。

図表2-2-87 引越し意向と回答者属性の関係

	転出意向	
	標準化係数	有意確率
20代	0.369	***
30代	0.266	***
40代	0.225	***
60・70代	0.005	
女性	0.031	
世帯員数	0.060	
同居の前期高齢者 有	-0.090	
同居の後期高齢者 有	-0.055	
同居の0～6歳の子ども 有	-0.063	
同居の7～12歳の子ども 有	0.033	
同居の13～15歳の子ども 有	0.012	
同居の16～18歳の子ども 有	0.030	
世帯収入の増減	-0.024	
世帯支出の増減	0.056	
平均勤務日数（月あたり）	0.075	
修正済み決定係数	0.136	

3 港区への来訪頻度（問3-1～3-3）

問3-1 コロナ前（2020年2月以前）の1年間程度において、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。

【項目】

1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 外食 5. 家族との面会 6. 知人との面会 7. 家族や知人の送迎
8. 趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）

1 週5回以上 2 週3～4回程度 3 週1～2回程度 4 2週間に1～2回程度
5 1か月に1回程度 6 この理由で港区に行くことはなかった

問3-2 コロナ禍（2020年3月以降）において、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。

【項目】

1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 外食 5. 家族との面会 6. 知人との面会 7. 家族や知人の送迎
8. 趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）

1 週5回以上 2 週3～4回程度 3 週1～2回程度 4 2週間に1～2回程度
5 1か月に1回程度 6 この理由で港区に行くことはなかった

問3-3 新型コロナウイルス感染症の流行が収束した未来についておききします。下記の理由において、将来、港区に来る頻度は変化すると思いますか

【項目】

1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 外食 5. 家族との面会 6. 知人との面会 7. 家族や知人の送迎
8. 趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）

1 とても増えると思う 2 増えると思う 3 来訪回数に変化はない 4 減ると思う
5 とても減ると思う

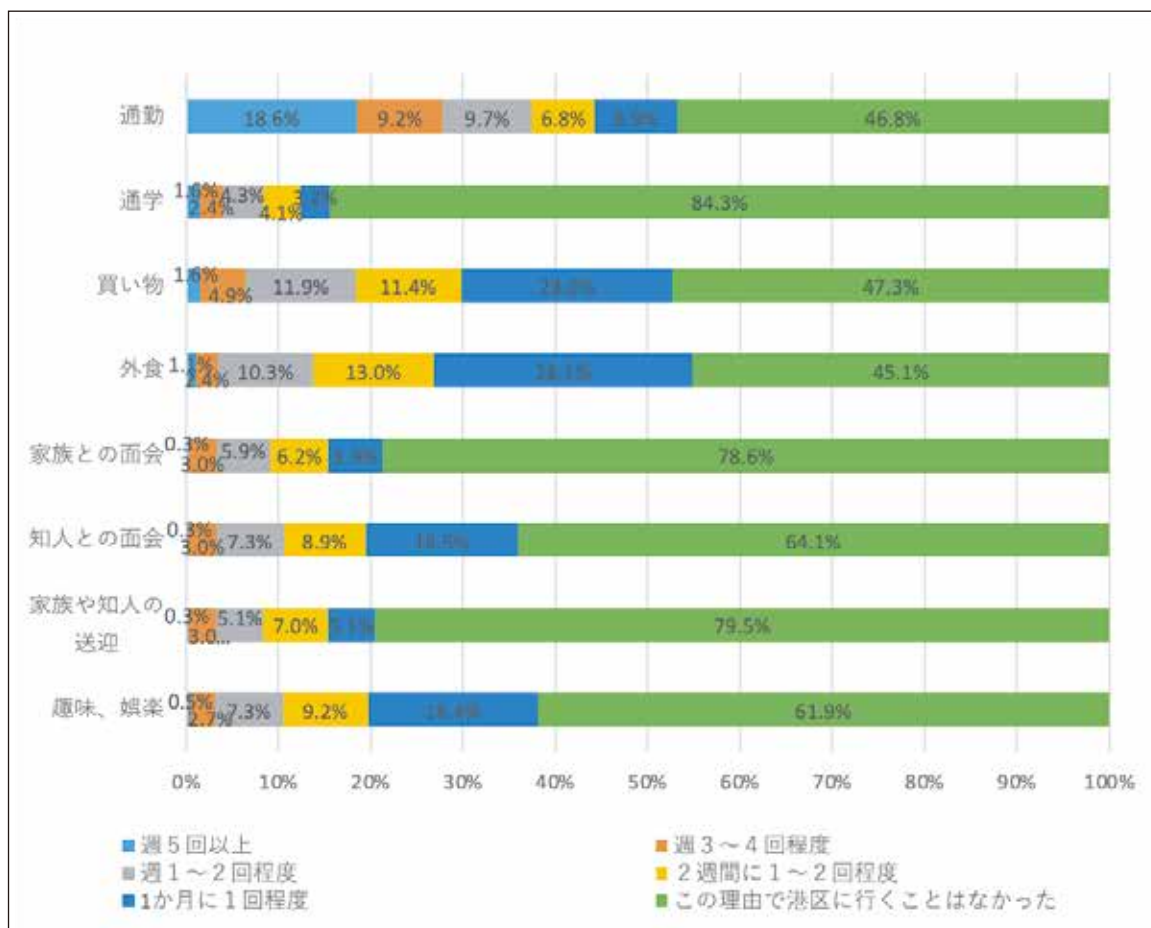
(1) 基本集計結果

ア コロナ前の港区への来訪動向

コロナ前の港区への来訪の目的は、外食、買い物、通勤が多い

コロナ前の港区への来訪頻度をみると、通勤が「週5回以上」の割合が最も大きい。「週5回以上」から「1か月に1回程度」を併せると外食での来訪の割合が最も高く、次いで通勤、買い物と続いている。

図表2-3-1 コロナ前における目的別にみた港区への来訪頻度



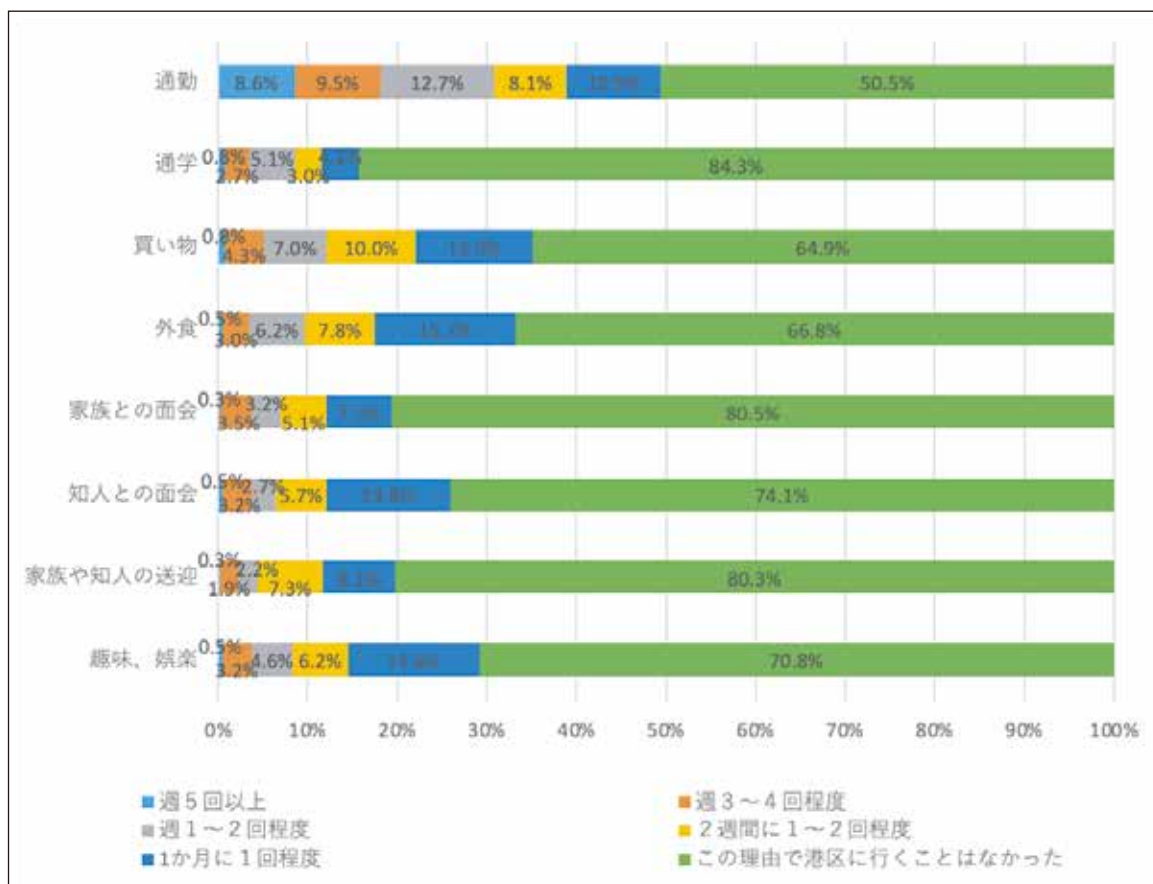
イ コロナ禍の港区への来訪動向

コロナ禍では通勤の割合が最も大きく、次いで買い物、外食と続く

コロナ禍の港区への来訪頻度をみると、コロナ前と同様に通勤が「週5回以上」の割合が最も大きい。ただし、「週5回以上」から「1か月に1回程度」を併せた割合をみると、コロナ前は外食と買い物の割合が大きかったのに対し、コロナ禍では通勤が最も大きく、次いで買い物、外食と続いている。

このことから、港区はコロナ前においては外食や買い物を目的に出向く街であったのに対し、コロナ禍においては外食や買い物の割合が減少し、通勤を目的とした昼間人口が集う街に変化していることがうかがえる。

図表2-3-2 コロナ禍における目的別にみた港区への来訪頻度

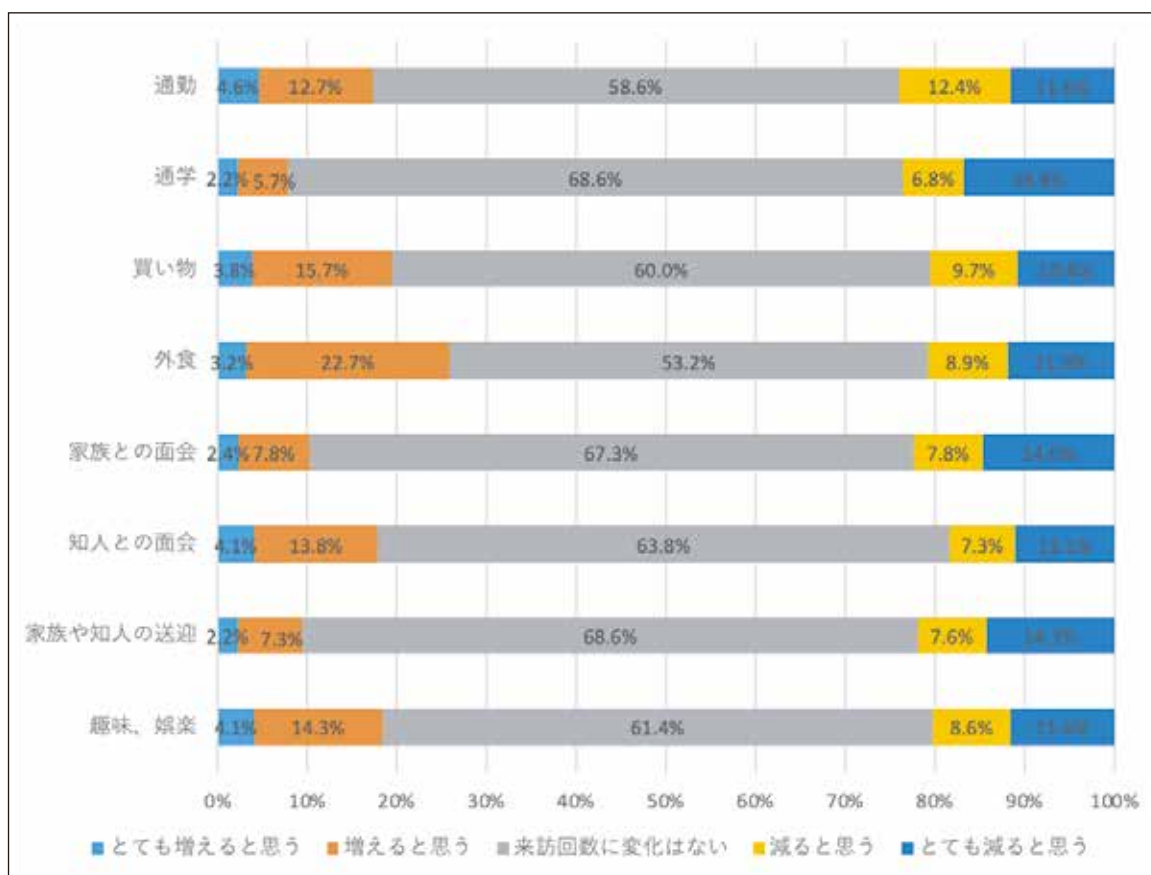


ウ コロナ収束後の港区への来訪動向

コロナ収束後の来訪目的は、外食と買い物、趣味・娯楽、知人との面会で増加意向が大きい

コロナ収束後の来訪頻度について「とても増えると思う」と「増えると思う」を併せた割合をみると、外食の割合が最も高く、買い物、趣味・娯楽、知人との面会と続いている。ただし、すべての目的において5～6割程度が来訪回数に変化はない回答していることから、感染症によって港区に訪問しないことが習慣化すると全体として来訪回数が回復しない可能性も考えられる。

図表2-3-3 コロナ収束後における目的別にみた港区への来訪頻度の見通し



(2) クロス集計結果

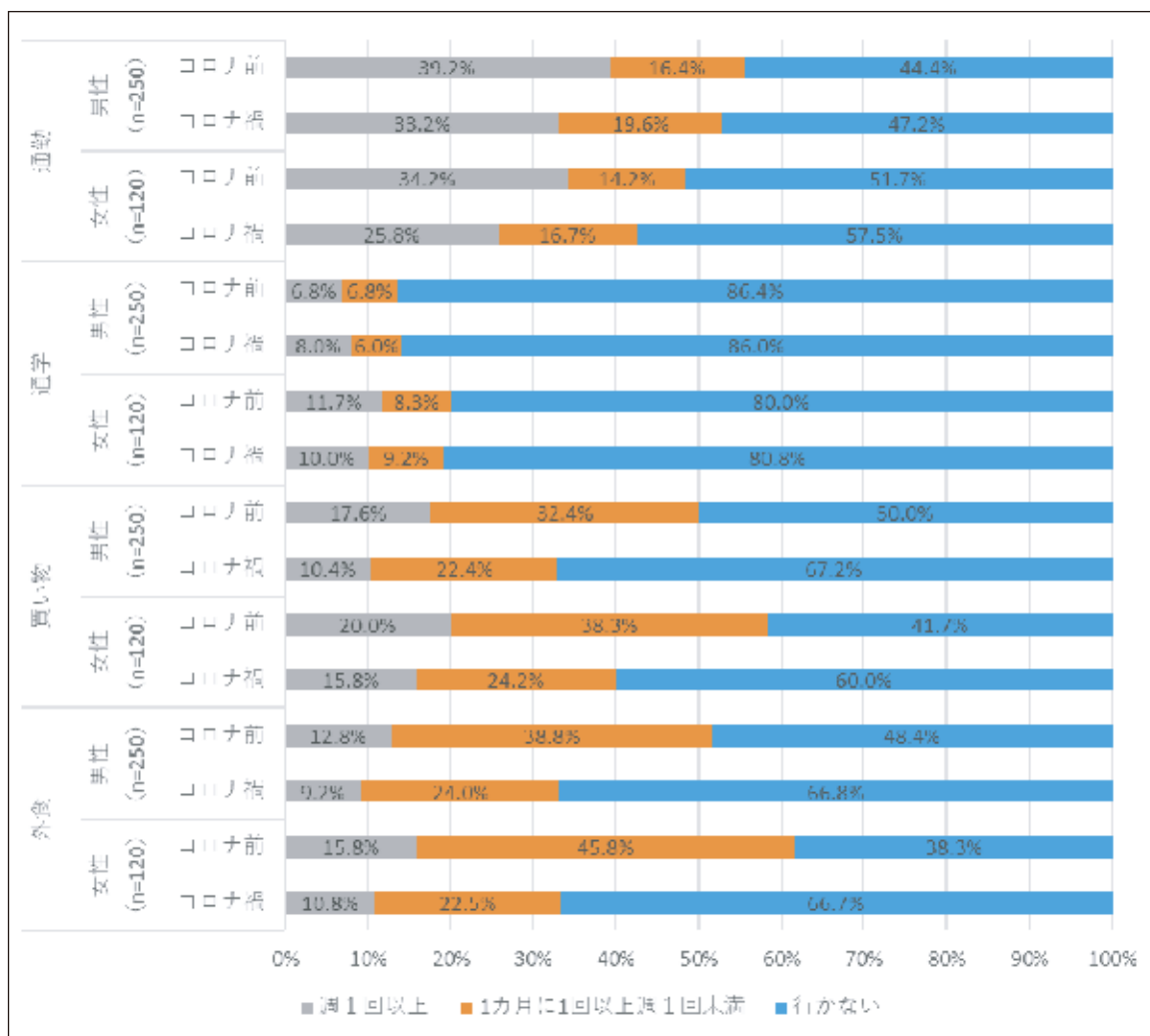
ア コロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化と回答者属性の関係

男女ともに「外食」「買い物」を目的とした港区への来訪が大きく減少
特に、女性における「外食」を目的とした来訪が著しく減少

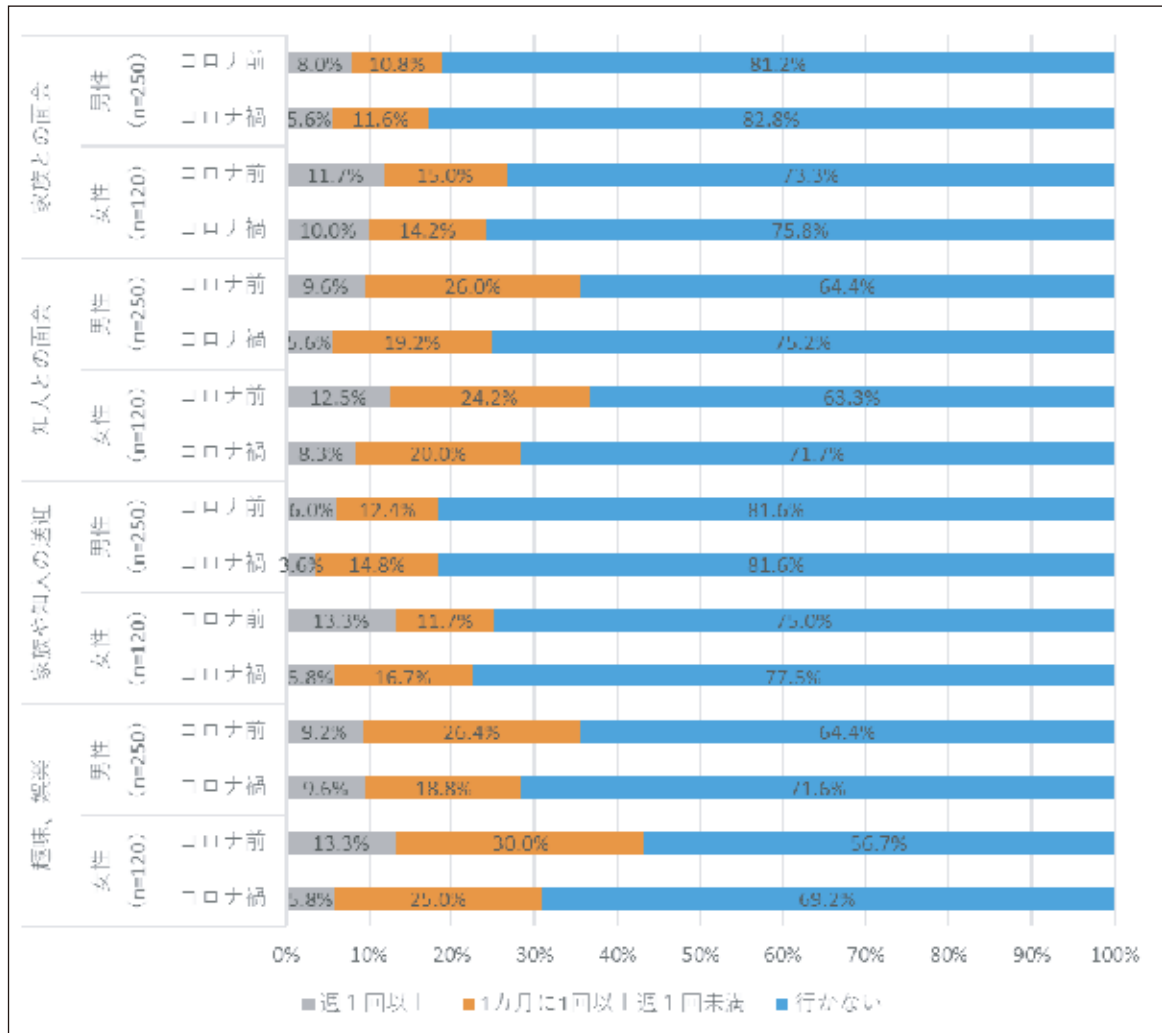
「1カ月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を男女別にみると、女性における「外食」を目的とした港区への来訪が28.3%減少しており、コロナの影響を大きく受けていると考えられる。男性における「外食」も18.4%減少しており、女性ほどではないが、コロナの影響を受けている。また、同様に「買い物」も男性では17.2%、女性では18.3%減少しており、減少割合は大きいが男女差があまりない来訪目的といえる。

また、この他には男性における「知人との面会」が10.8%、女性における「趣味、娯楽」が12.5%減少しており、これらの目的で港区へ来訪することが少なくなっているといえる。

図表2-3-4 男女別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「通勤」「通学」「買い物」「外食」)



図表2-3-5 男女別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
 (「家族との面会」「知人との面会」「家族や知人の送迎」「趣味、娯楽」)

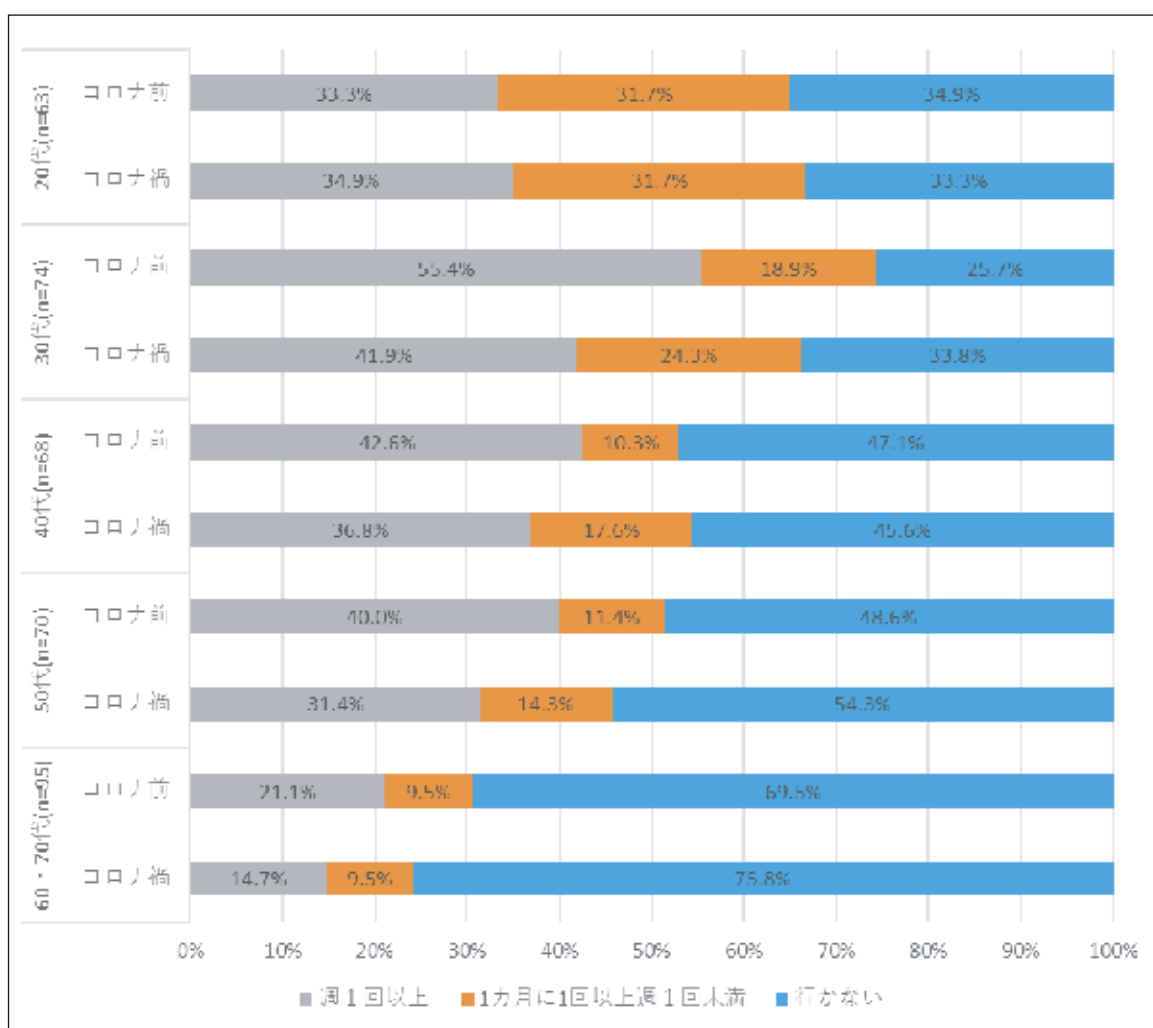


年代別では

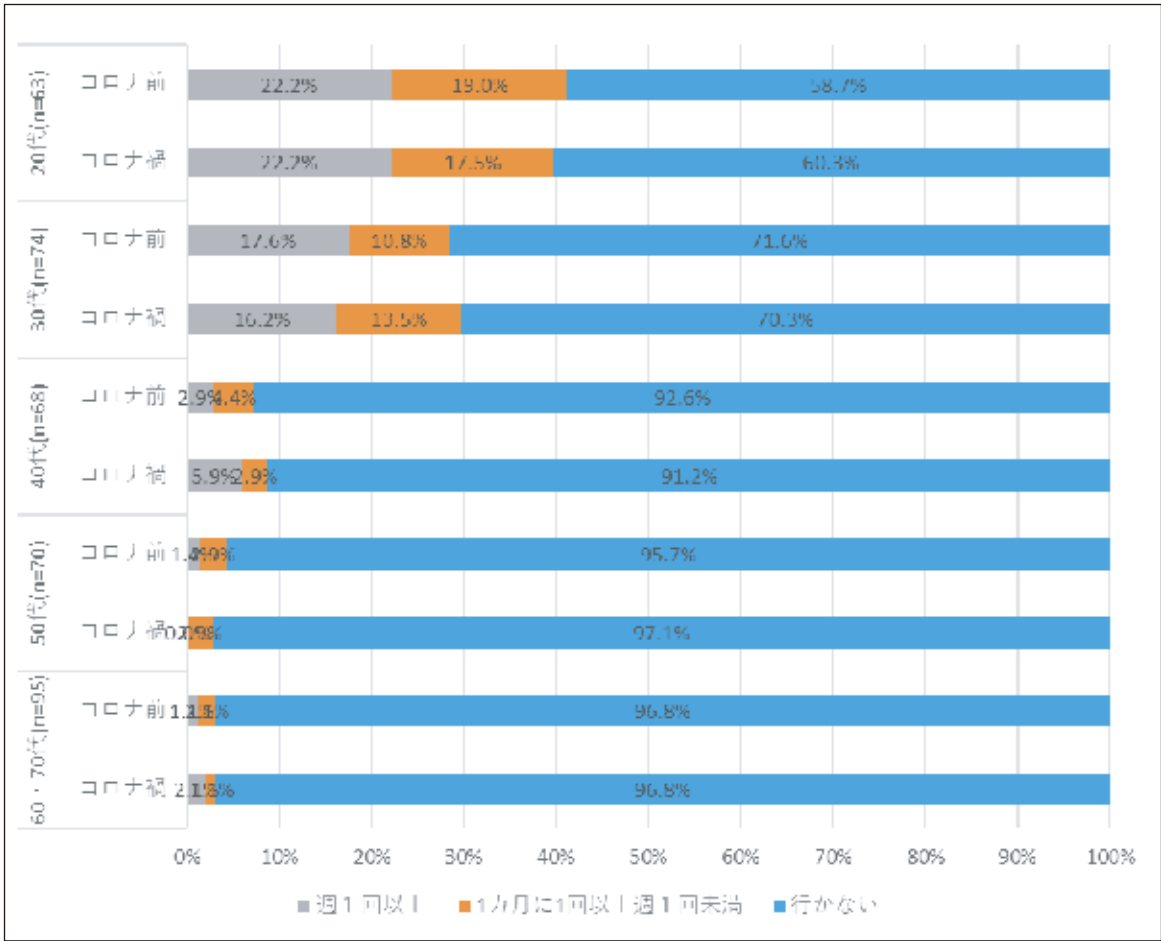
60・70代の「外食」「買い物」「知人との面会」を目的とした来訪頻度の減少が著しい

「1カ月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を年代別にみると、60・70代における「外食」が31.6%減少、「買い物」が29.4%、「知人との面会」が24.1%減少しており、他の年代に比較して60・70代ではコロナ前とコロナ禍の来訪頻度の減少が著しい。

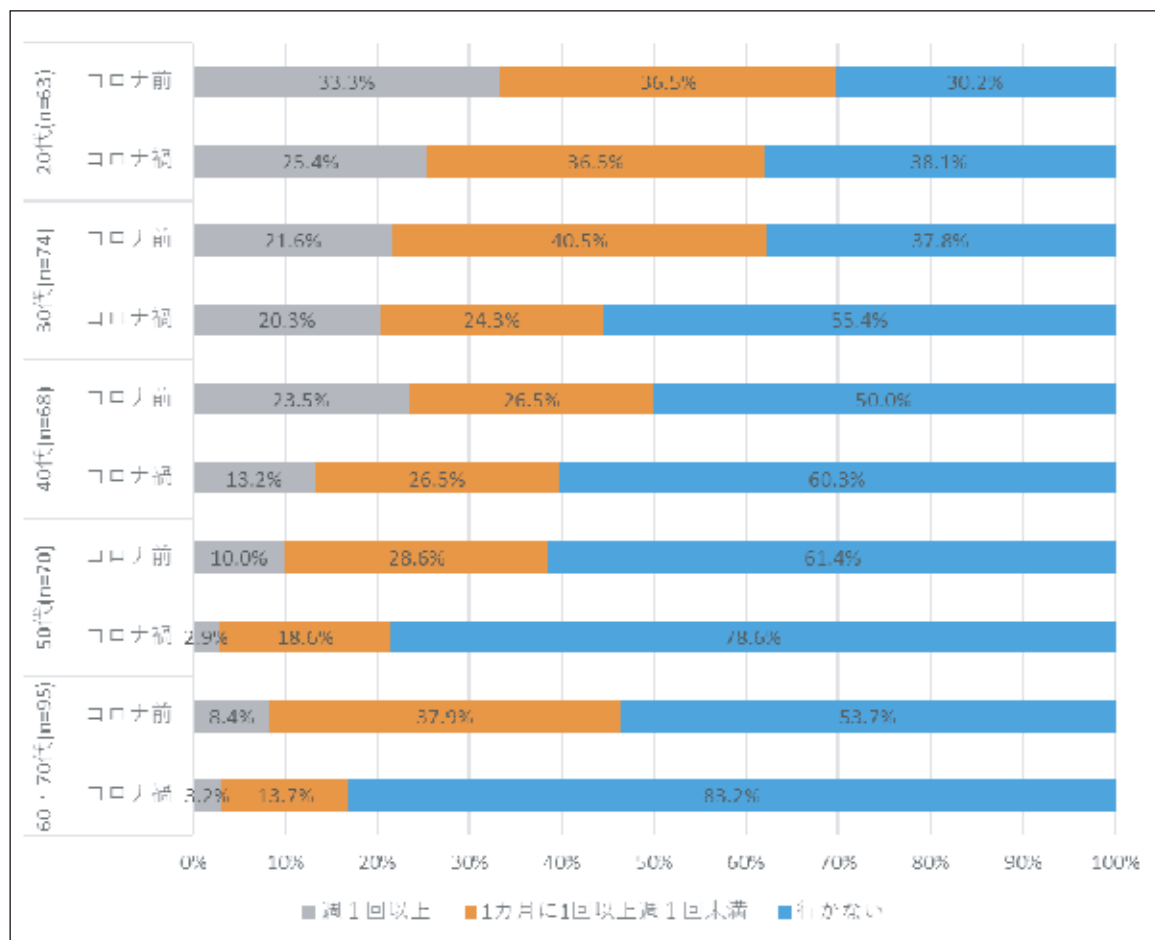
図表2-3-6 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「通勤」）



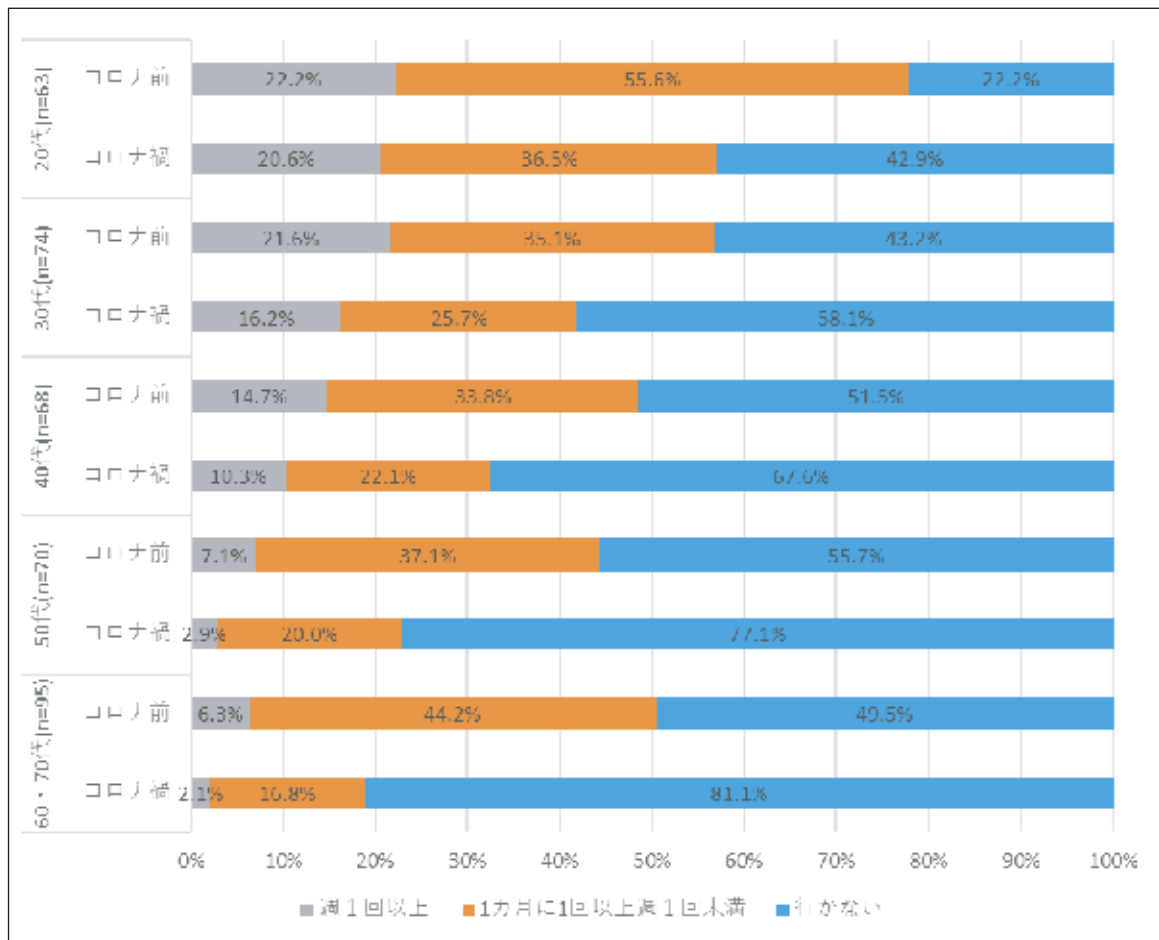
図表2-3-7 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「通学」)



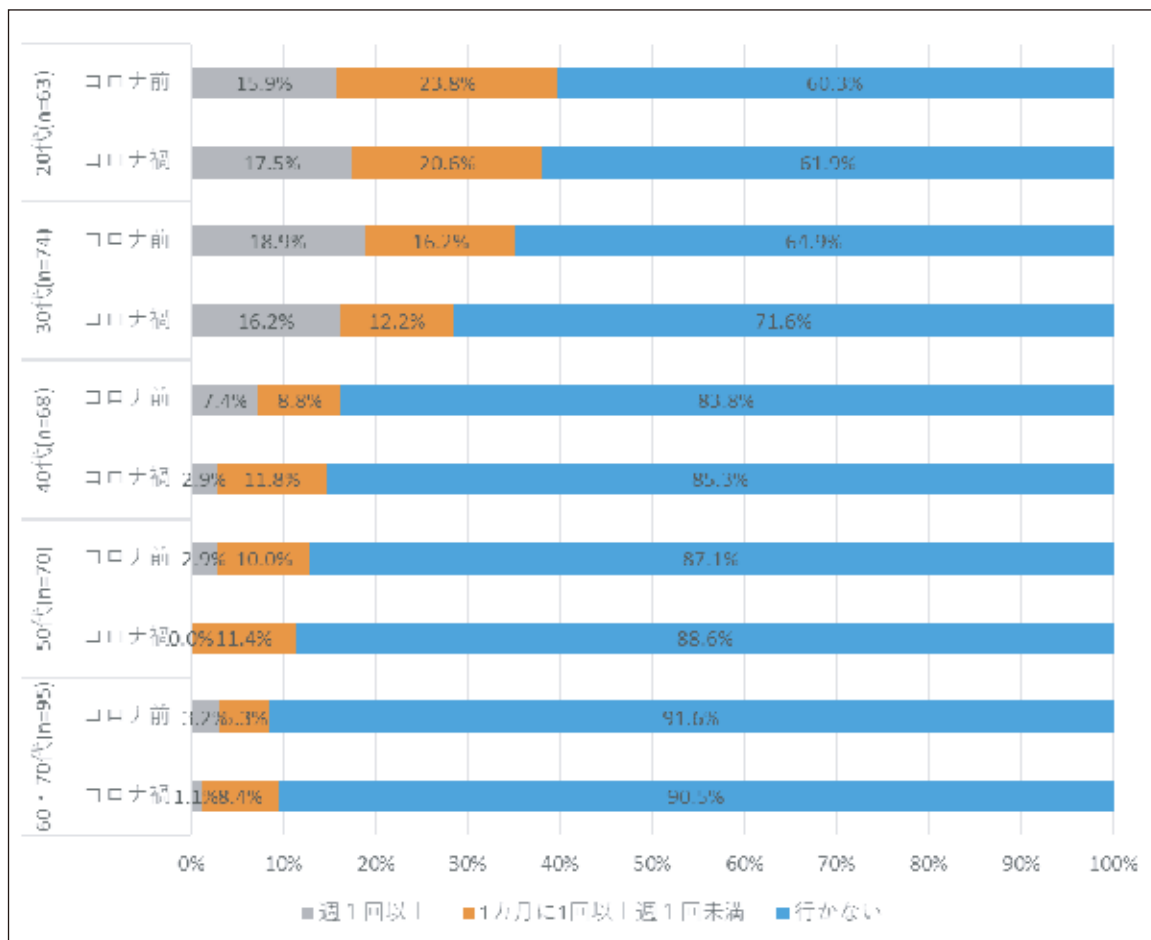
図表2-3-8 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「買い物」）



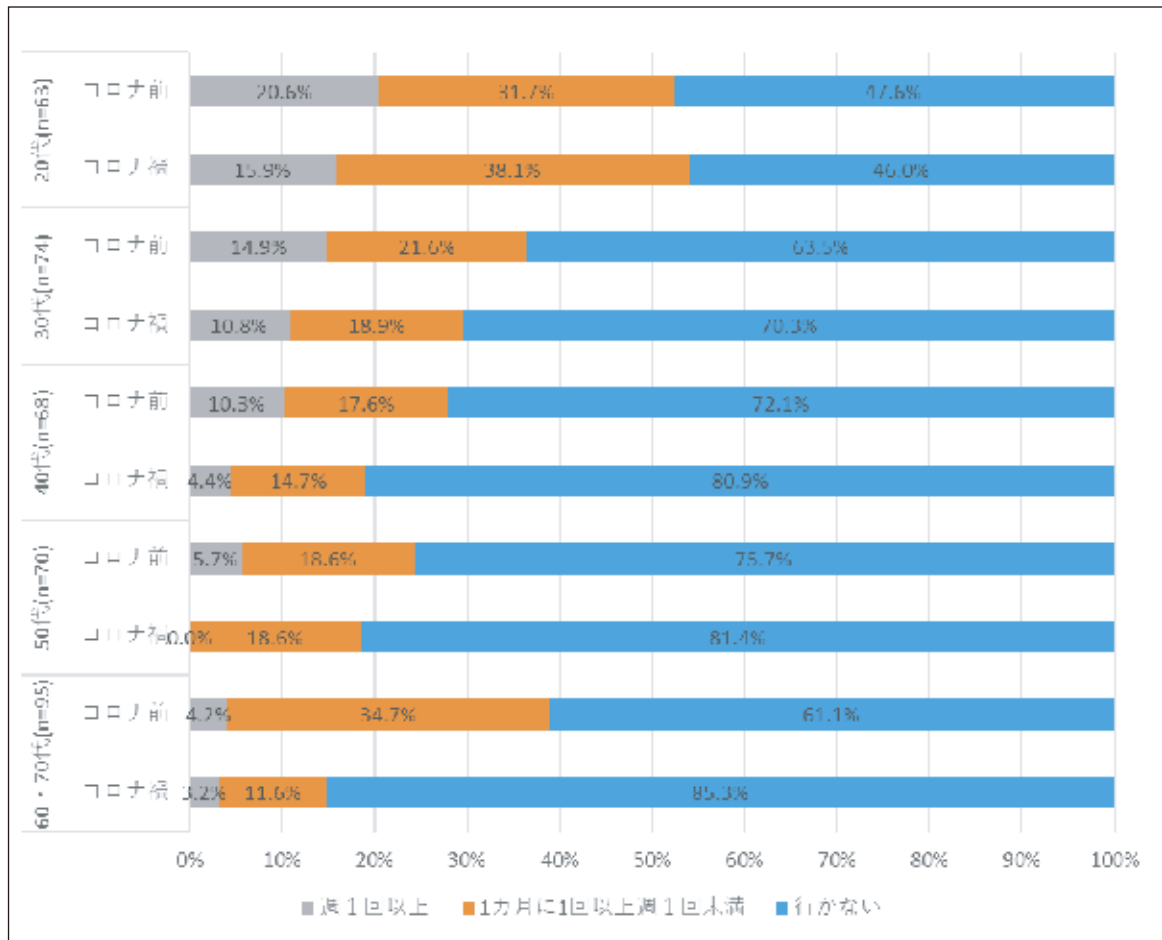
図表2-3-9 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「外食」)



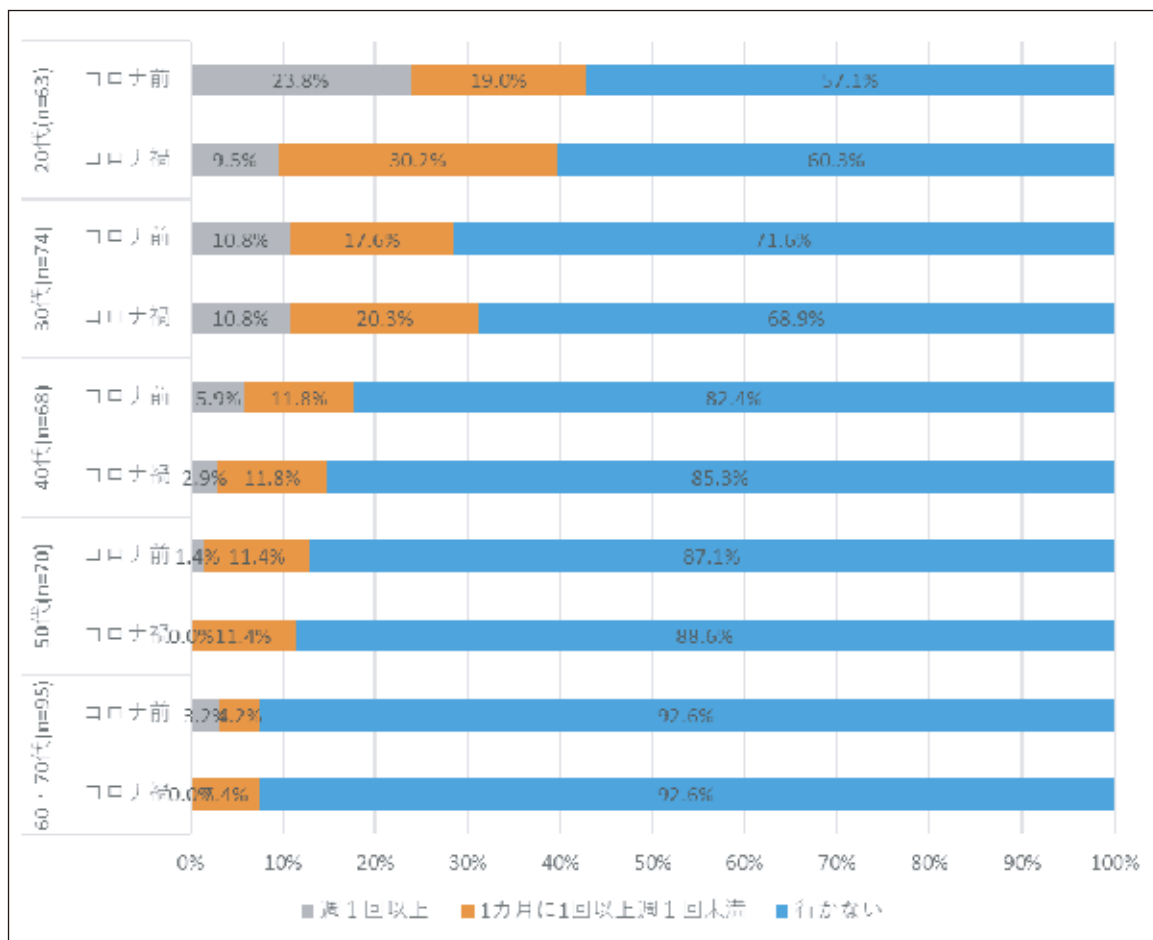
図表2-3-10 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「家族との面会」)



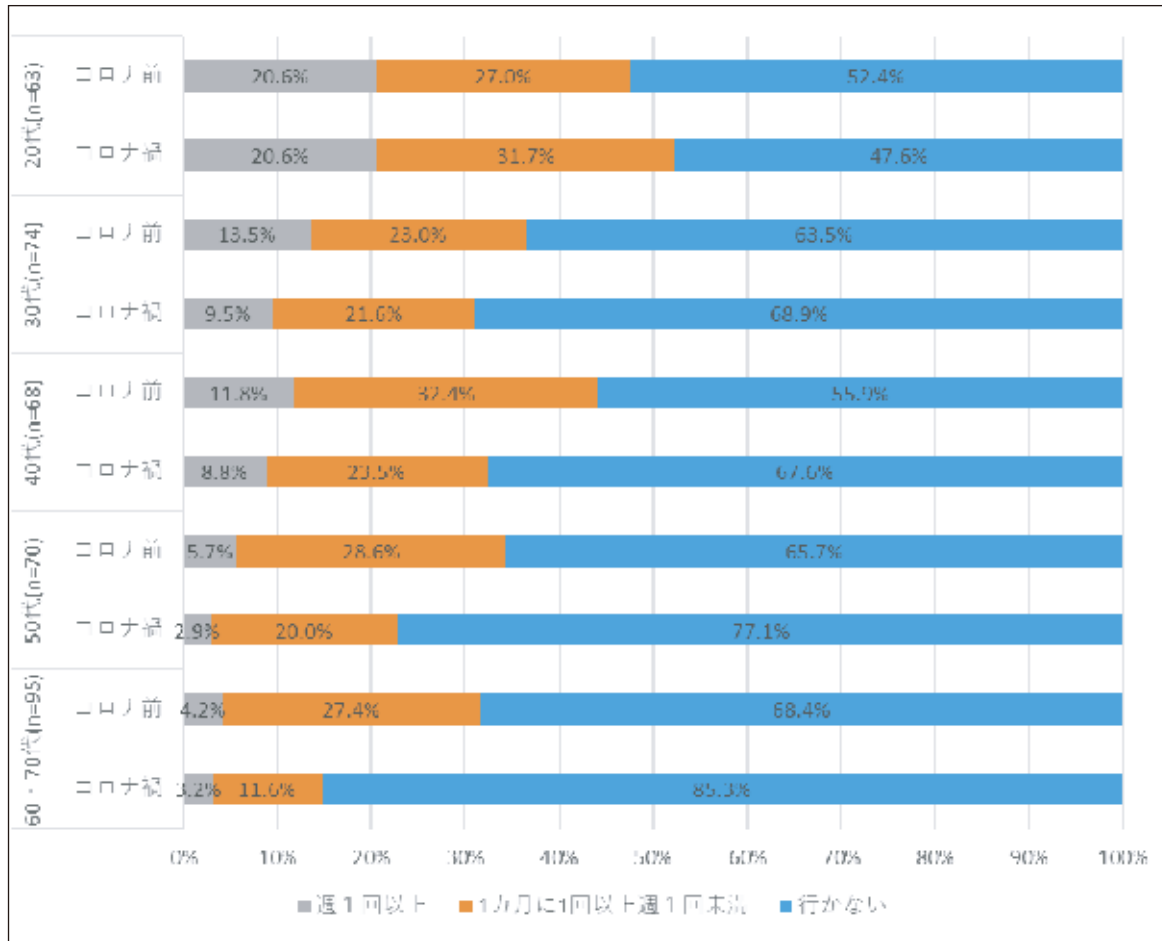
図表2-3-11 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「知人との面会」)



図表2-3-12 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「家族や知人の送迎」）



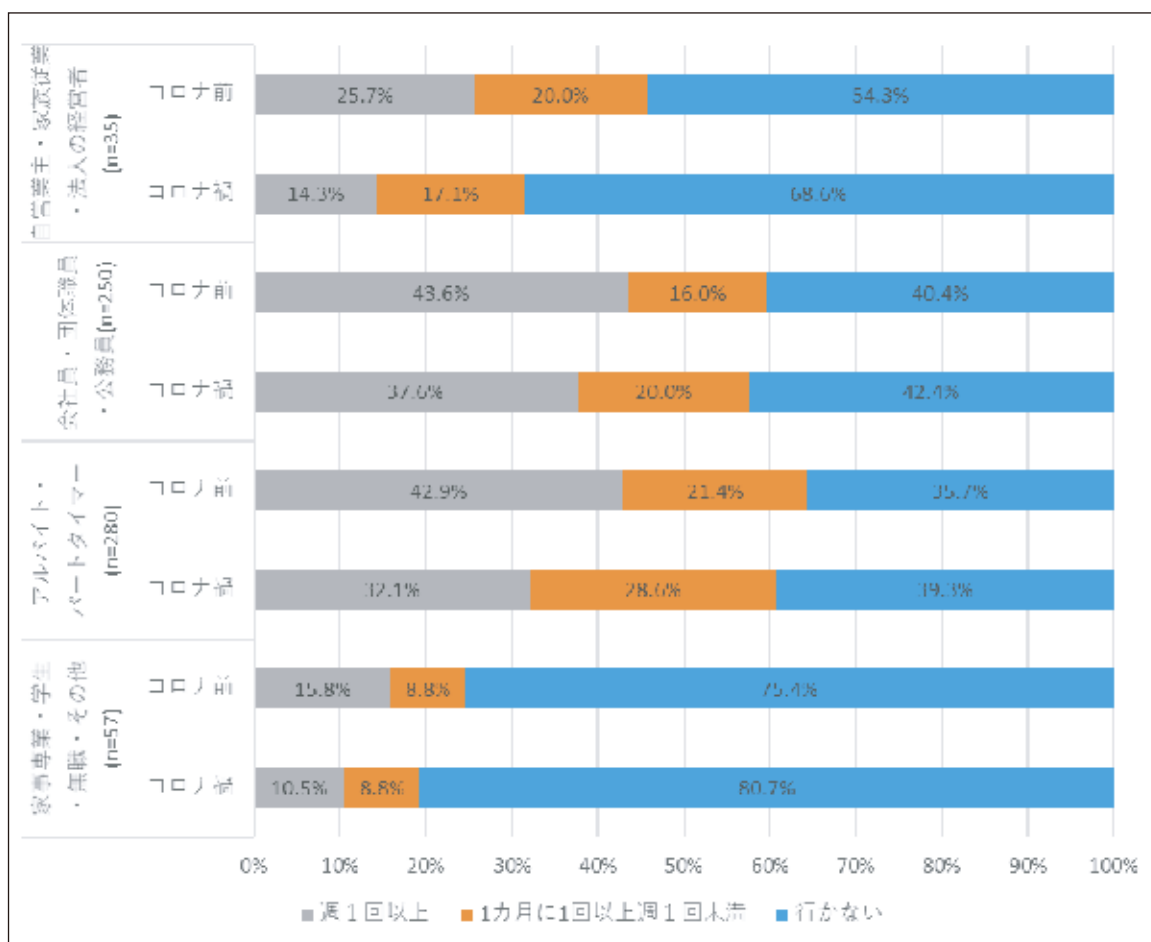
図表2-3-13 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「趣味、娯楽」)



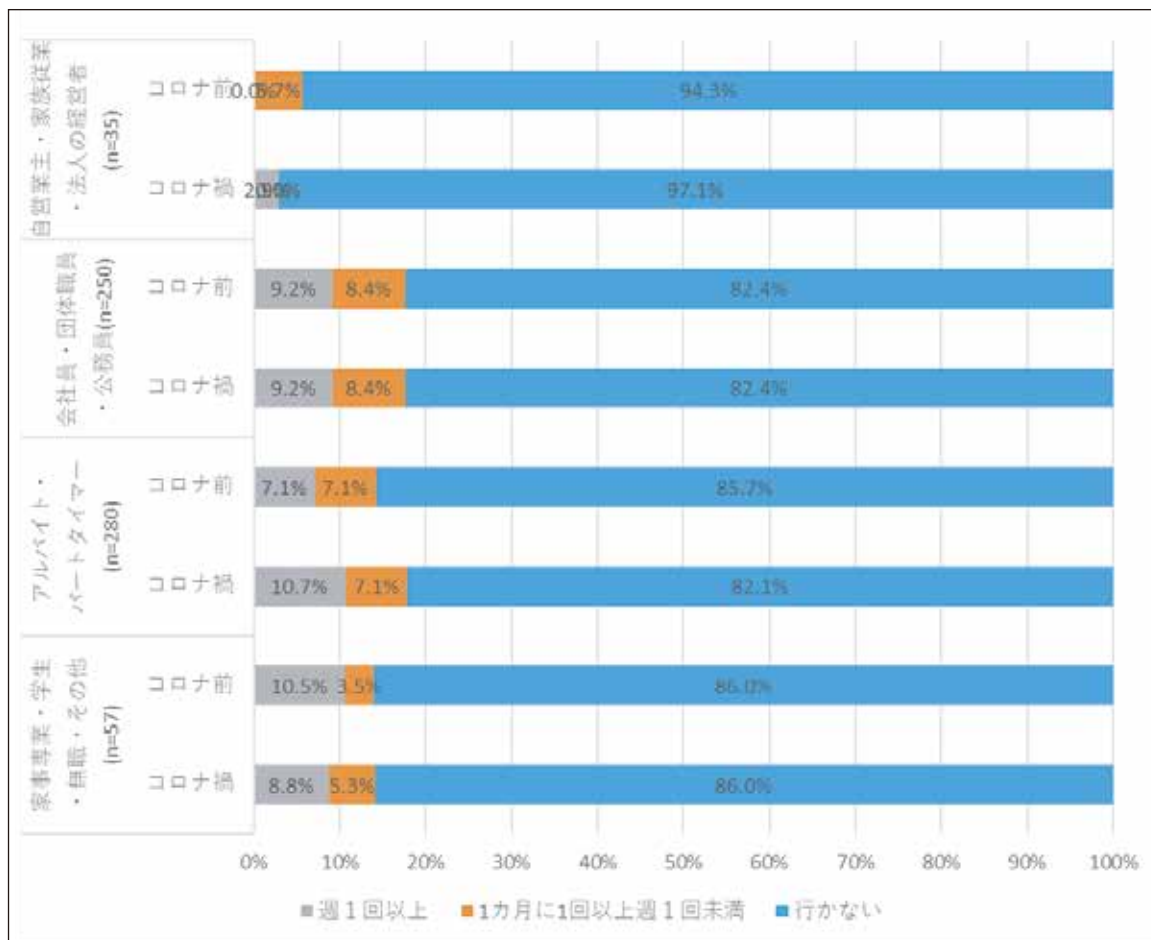
雇用形態別では、家事専業・学生・無職・その他における「外食」「買い物」アルバイト・パートタイマーにおける「外食」が他の雇用形態に比較してコロナによる減少が著しい

「1カ月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を雇用形態別にみると、家事専業・学生・無職・その他における「外食」が40.3%減少、「買い物」が29.9%減少しており、著しく減少している。また、アルバイト・パートタイマーにおける「外食」も28.6%と大きく減少している。

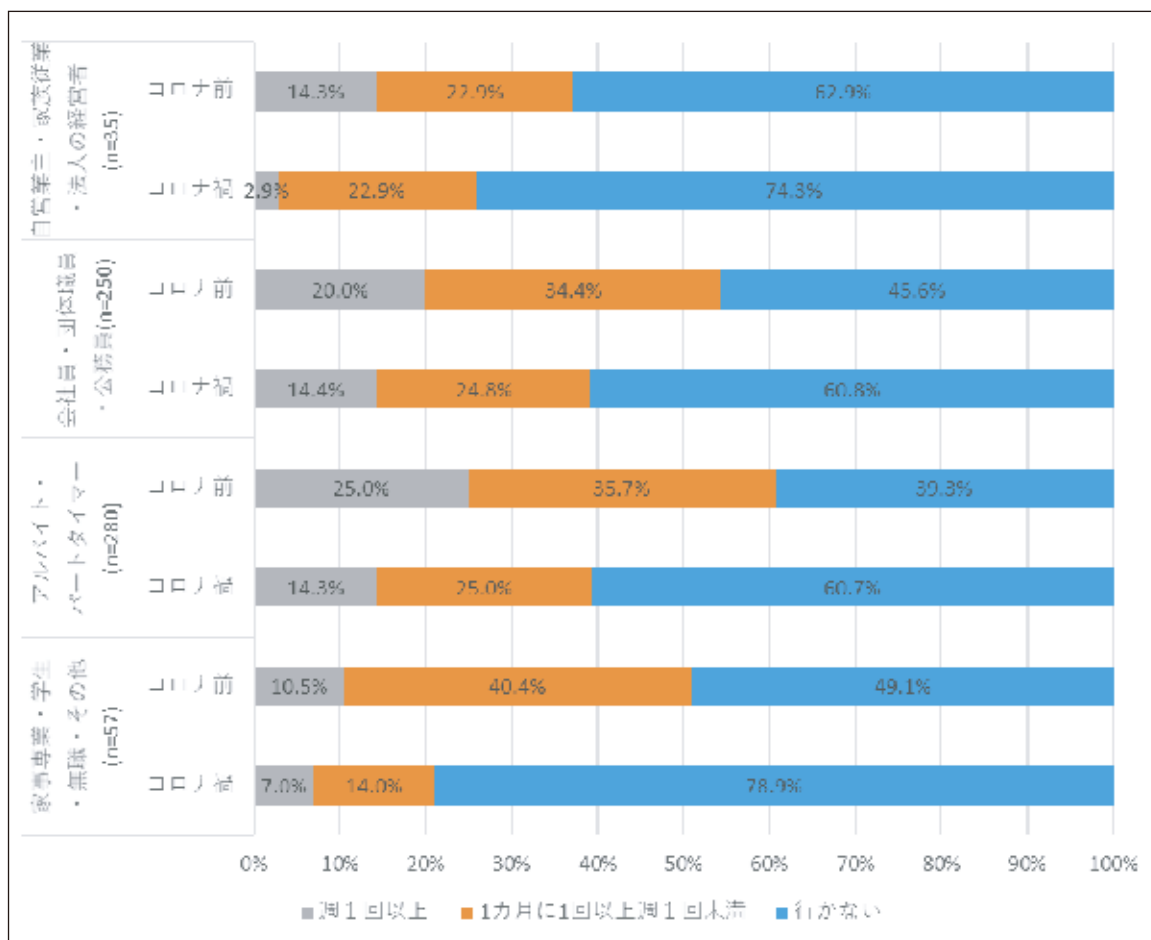
図表2-3-14 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「通勤」）



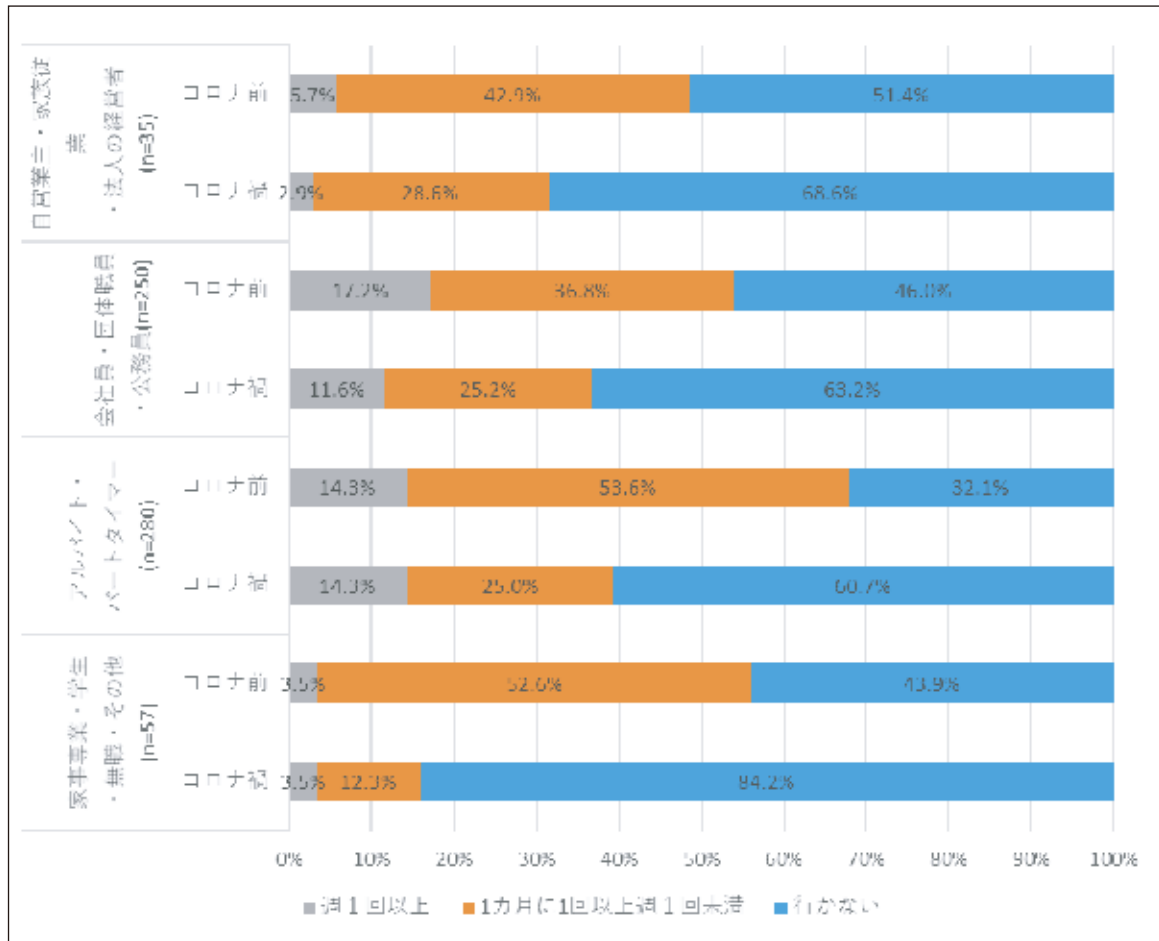
図表2-3-15 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
 (「通学」)



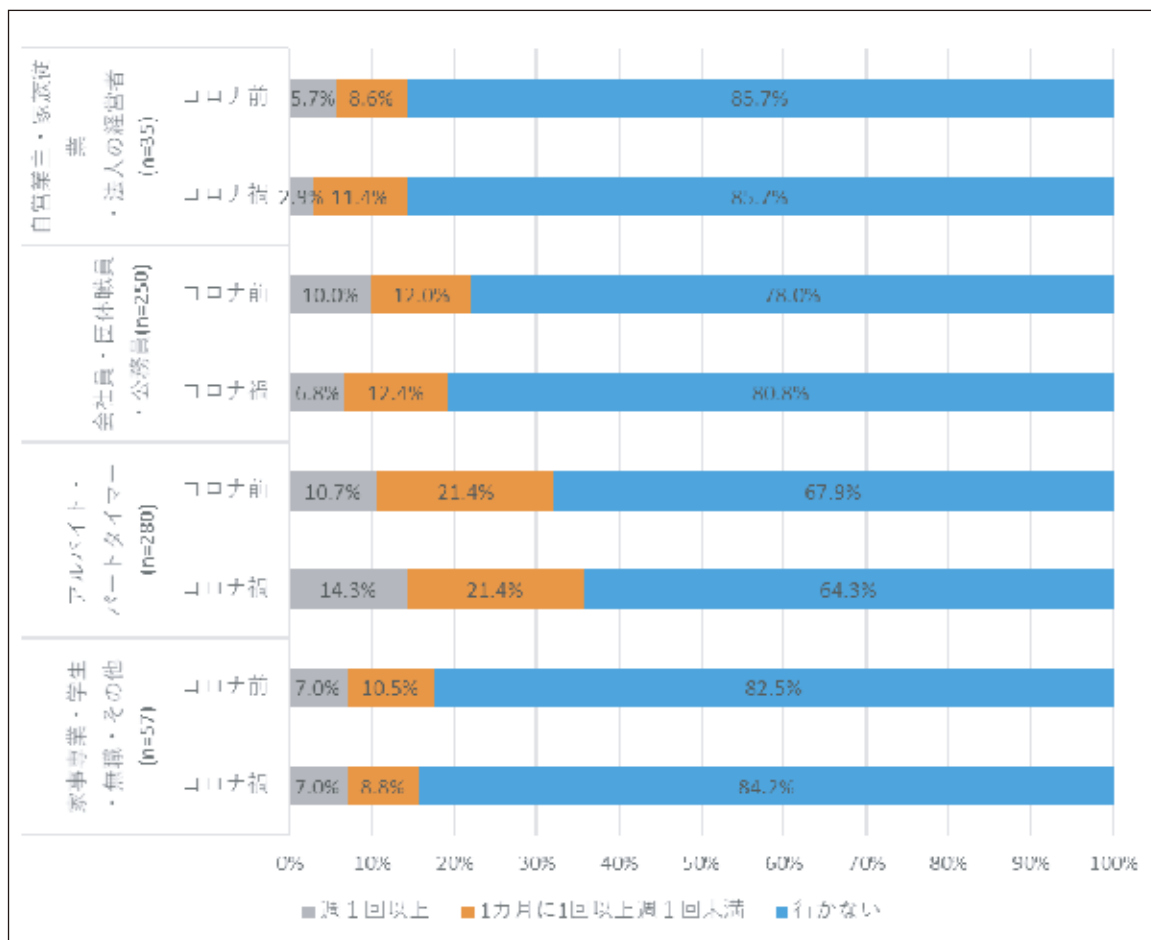
図表2-3-16 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「買い物」）



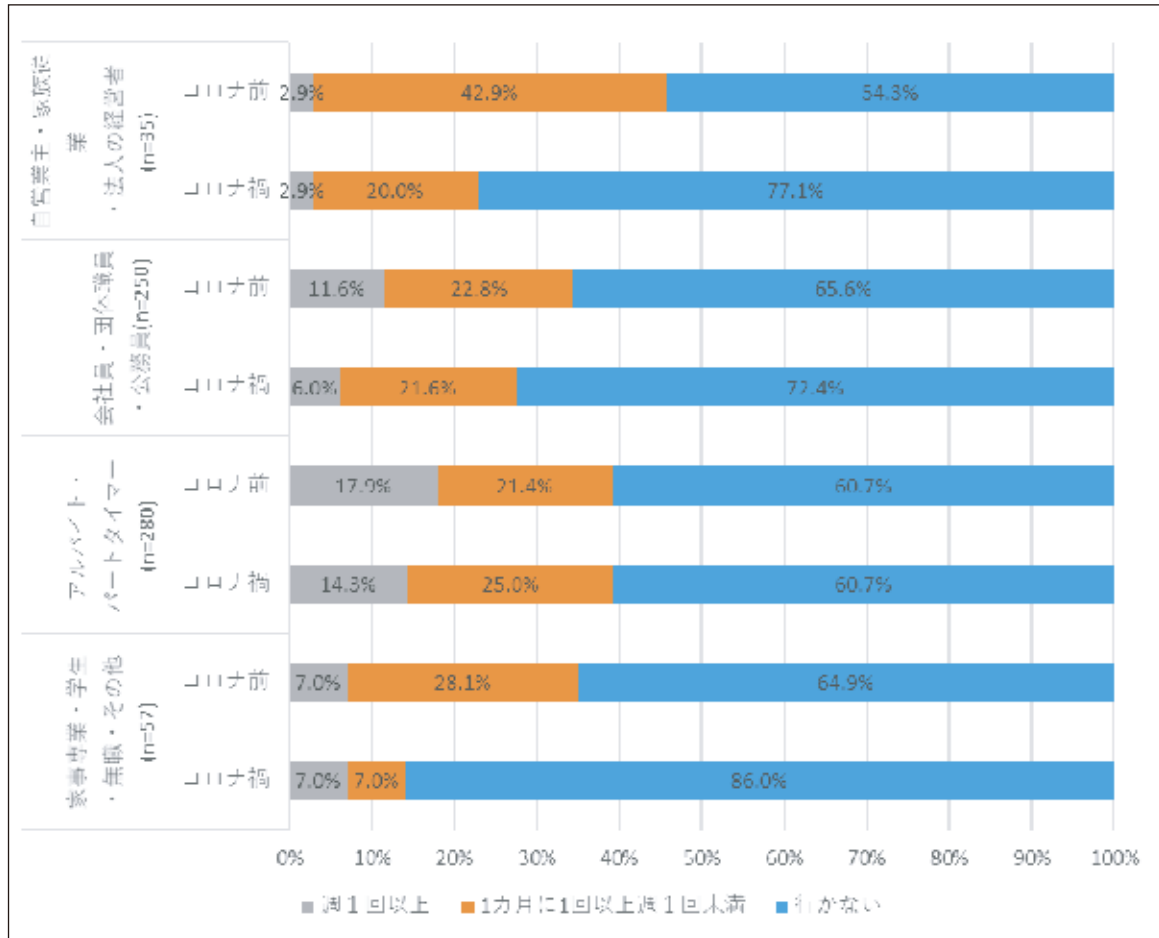
図表2-3-17 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「外食」)



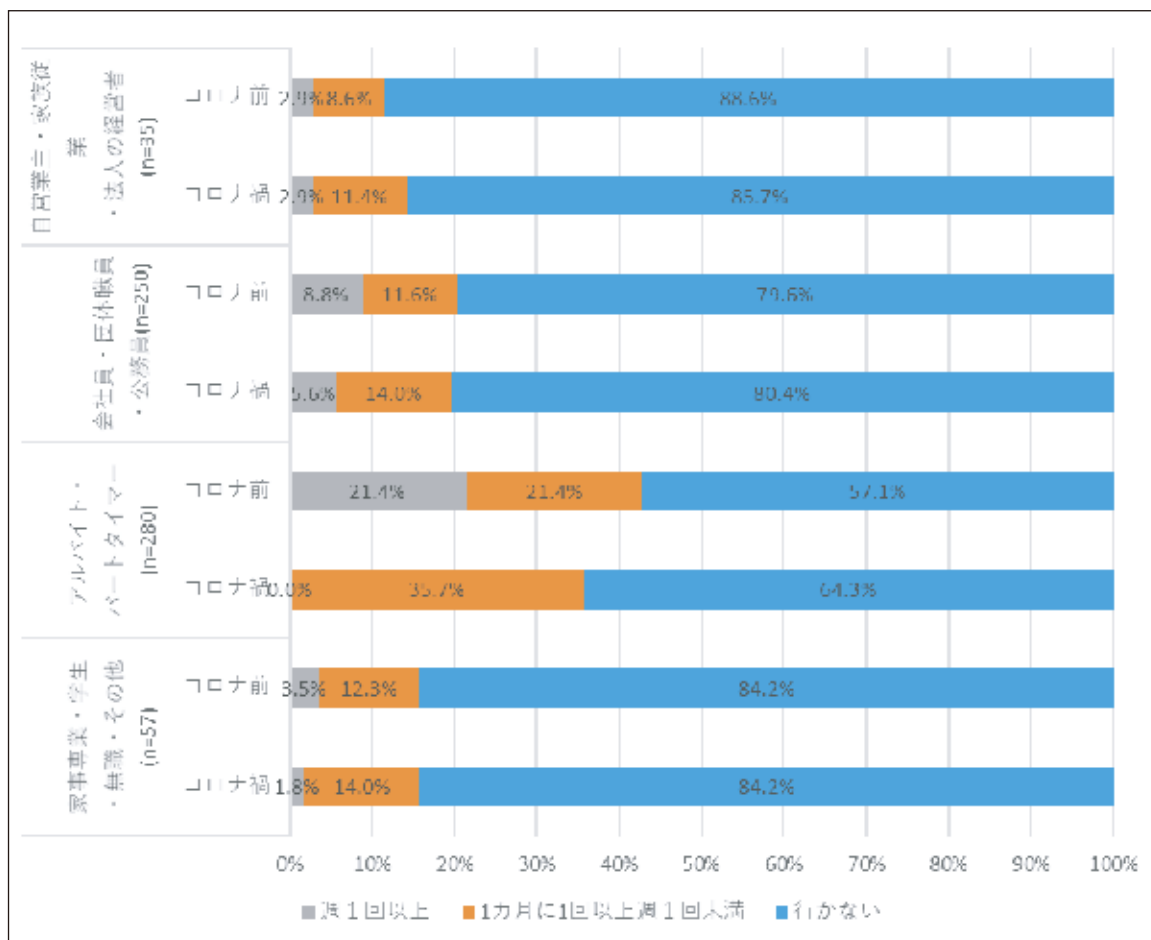
図表2-3-18 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「家族との面会」)



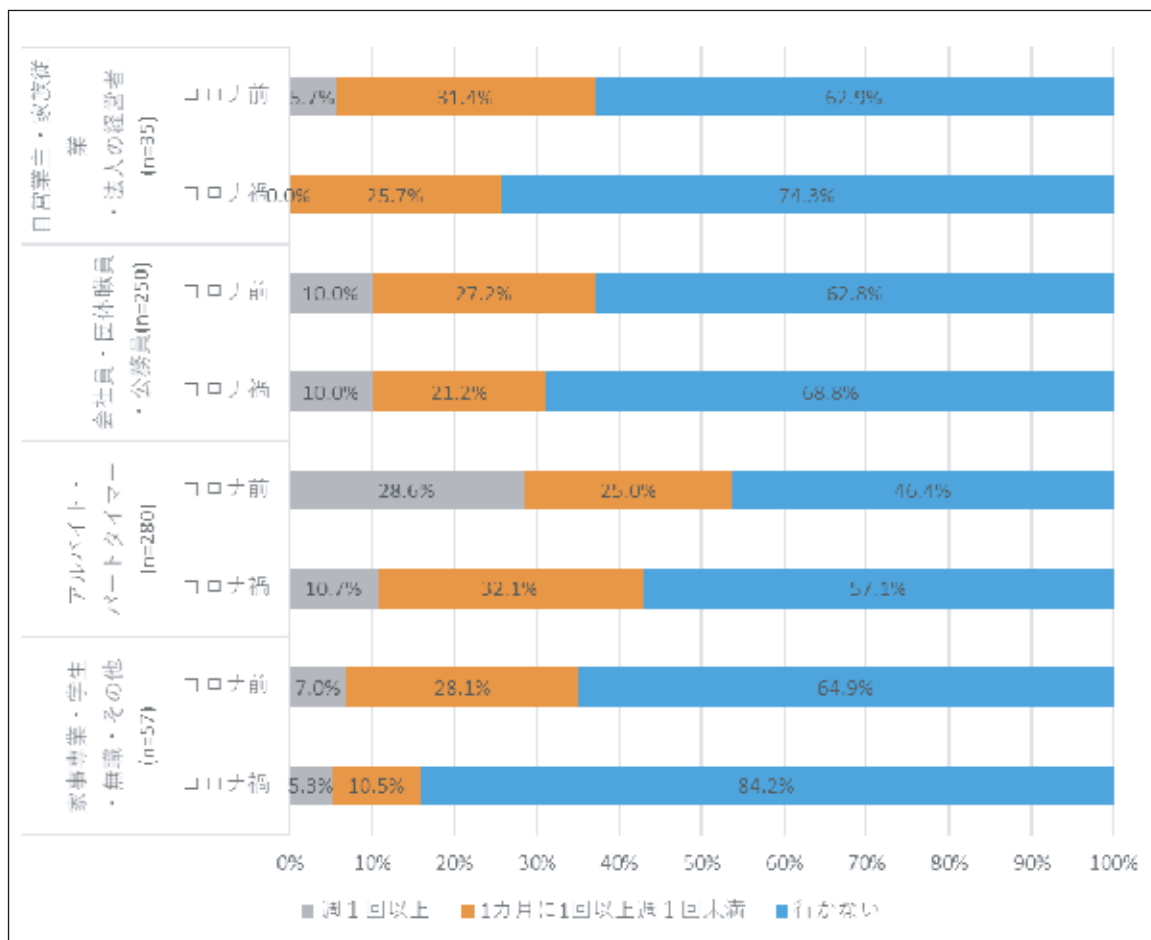
図表2-3-19 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「知人との面会」)



図表2-3-20 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「家族や知人の送迎」）



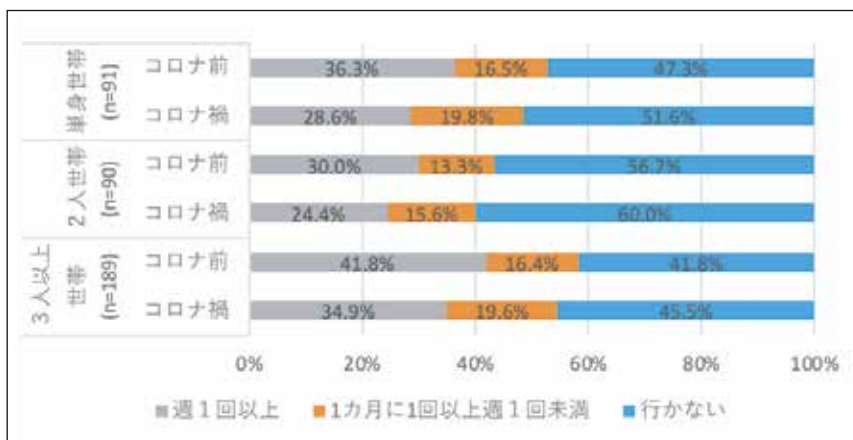
図表2-3-21 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「趣味、娯楽」)



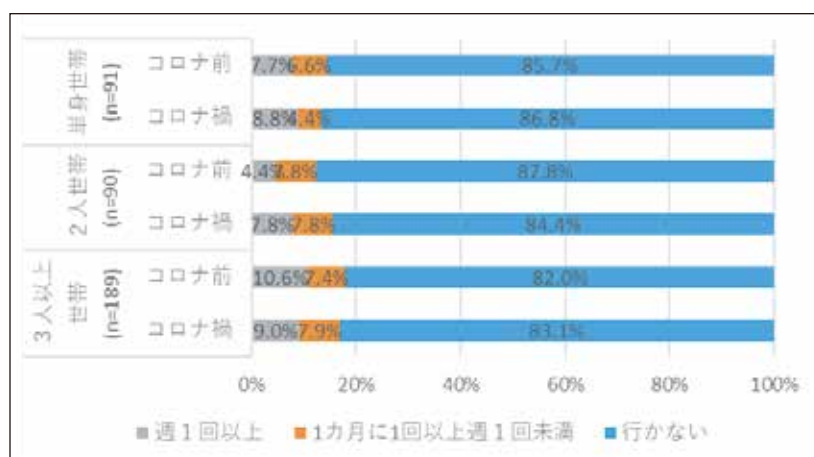
世帯員数にかかわらず「外食」「買い物」において2割程度来訪回数が減少

「1か月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を世帯員数別にみると、「外食」では世帯員数にかかわらず2割程度減少しており、また「買い物」では世帯員数にかかわらず2割弱減少している。ただし、「知人との面会」では世帯員数で差がみられ、単身世帯では5.5%、3人以上世帯では9.0%減少しているのに対し、2人世帯では16.7%減少し、減少の割合が大きい。

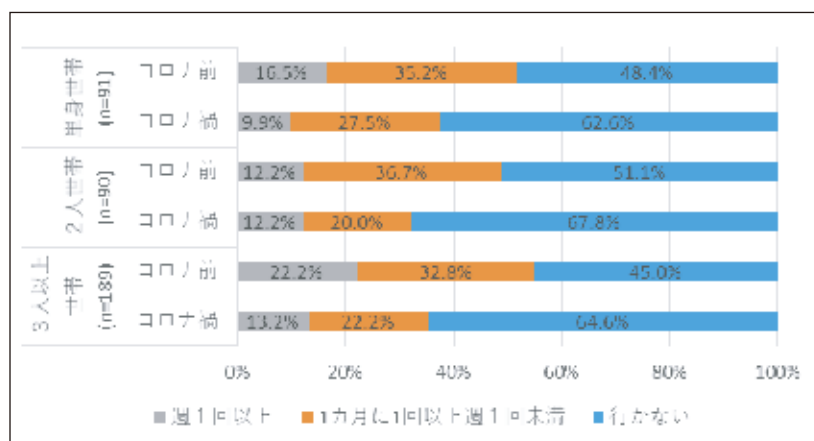
図表2-3-22 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「通勤」）



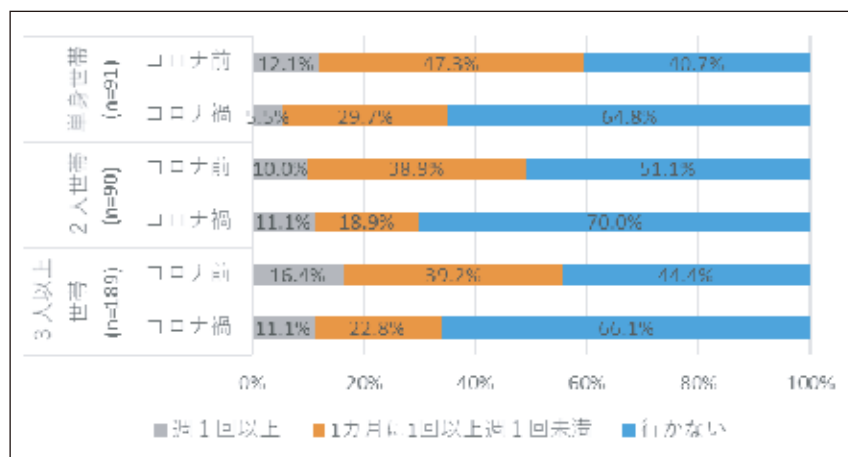
図表2-3-23 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「通学」）



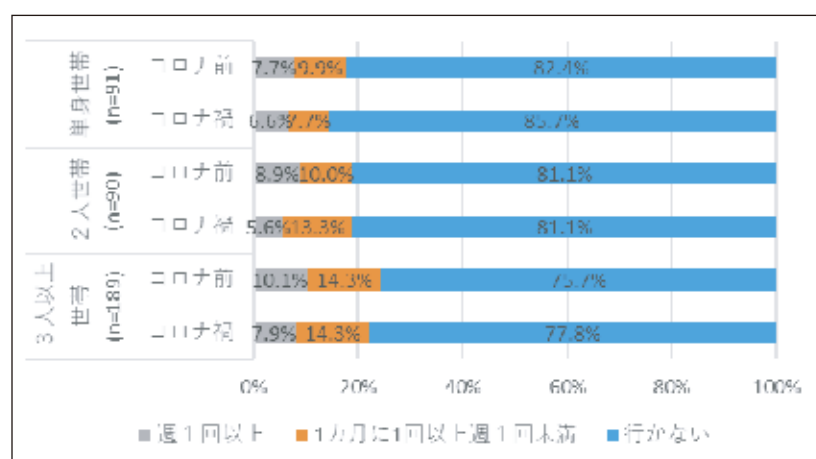
図表2-3-24 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「買い物」）



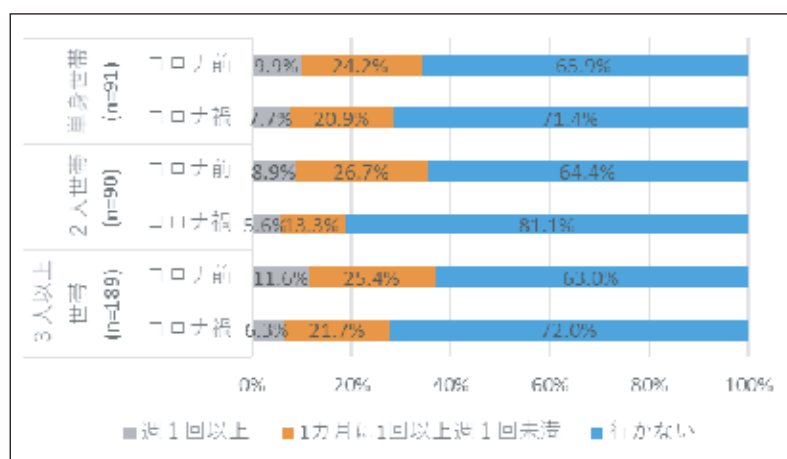
図表2-3-25 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「外食」）



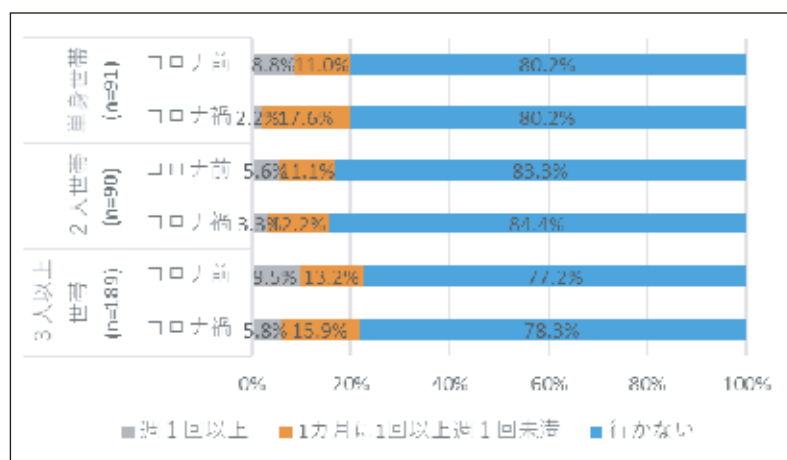
図表2-3-26 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「家族との面会」）



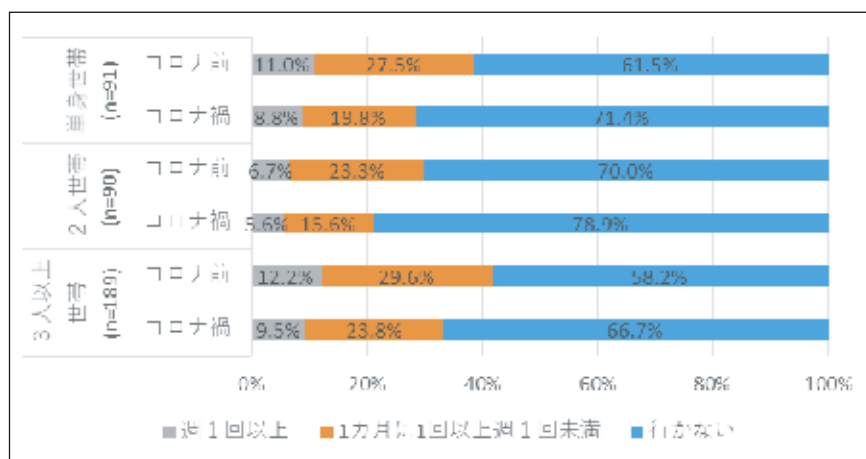
図表2-3-27 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
（「知人との面会」）



図表2-3-28 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「家族や知人の送迎」)



図表2-3-29 世帯員数別にみたコロナ前とコロナ禍の港区への来訪頻度の変化
(「趣味、娯楽」)



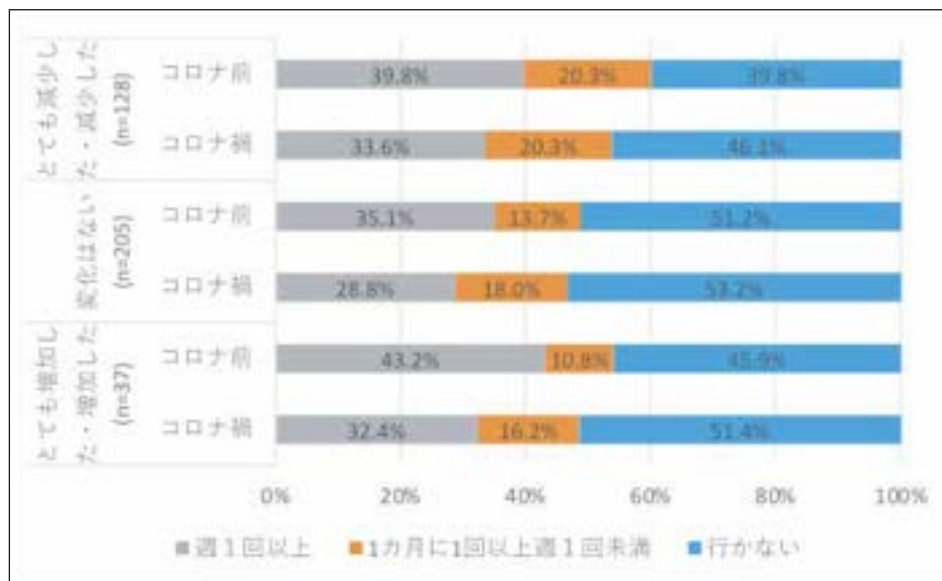
世帯収入の変化にかかわらず「外食」は減少

「買い物」は世帯収入の変化がない場合に頻度が減少し、

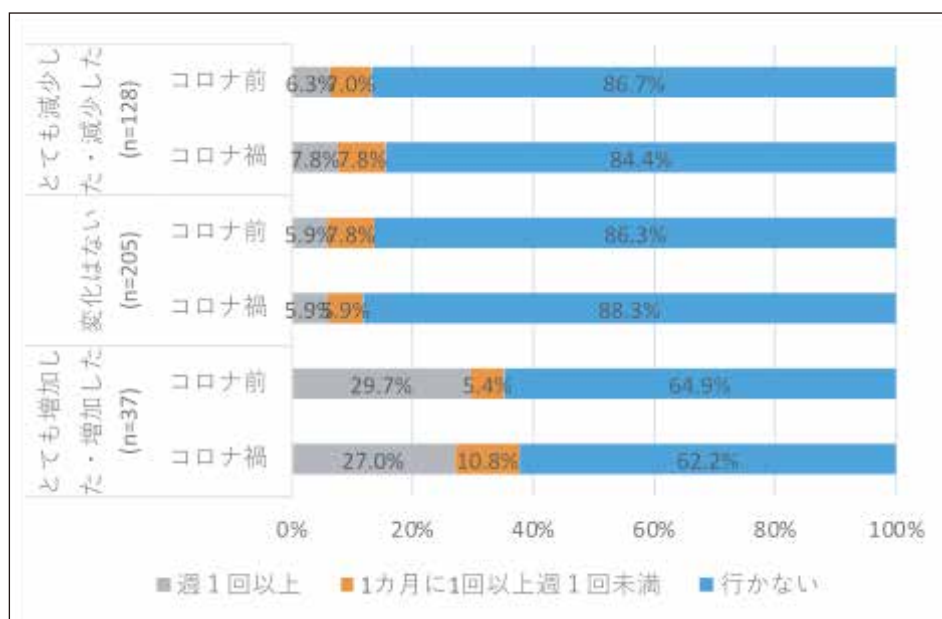
「知人との面会」は世帯収入が増加する、又は変化がない場合に減少する傾向

「1カ月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を世帯収入の変化別にみると、「外食」では世帯収入の変化にかかわらず2割程度減少している。ただし、「買い物」では「とても増加した・増加した」10.8%、「とても減少した・減少した」14.0%減少しているが、「変化はない」では21.0%とやや減少割合が大きい。また、「知人との面会」でも世帯収入の変化別で差がみられ、「とても増加した・増加した」10.8%、「変化はない」13.7%と1割程度減少しているが、「とても減少した・減少した」では3.9%でほとんど減少していない。

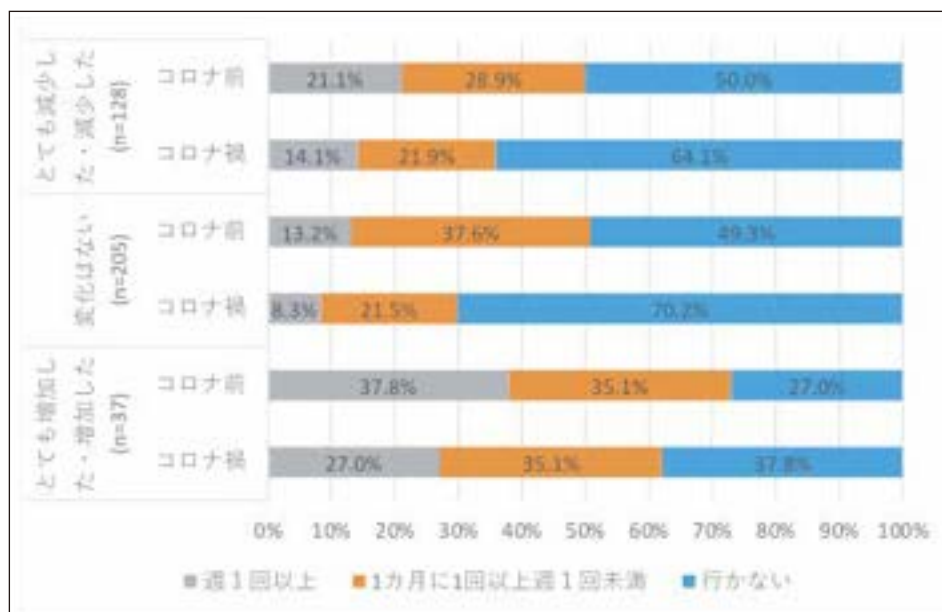
図表2-3-30 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
 (「通勤」)



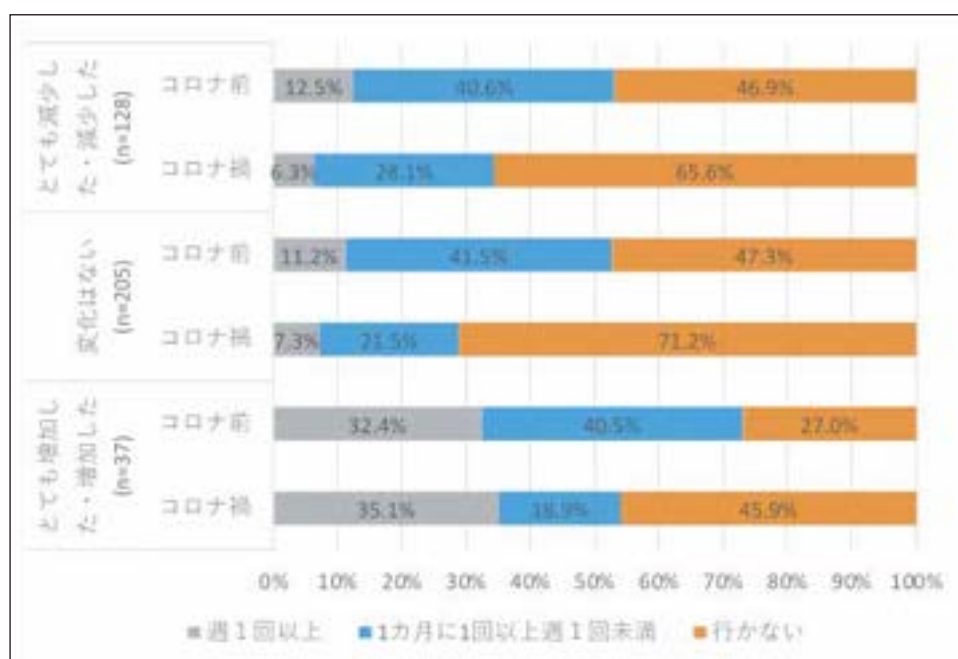
図表2-3-31 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
 (「通学」)



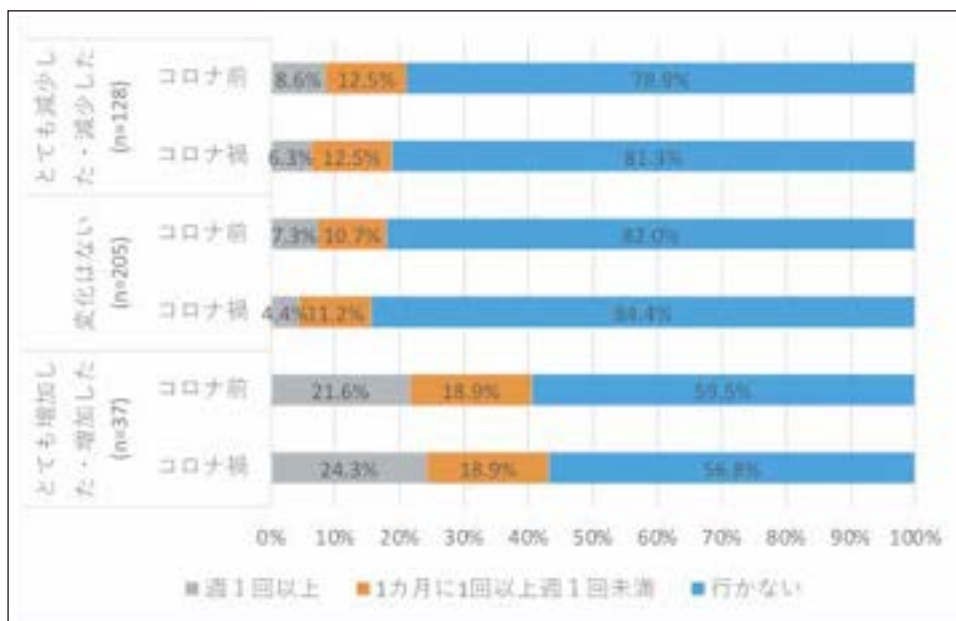
図表2-3-32 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「買い物」）



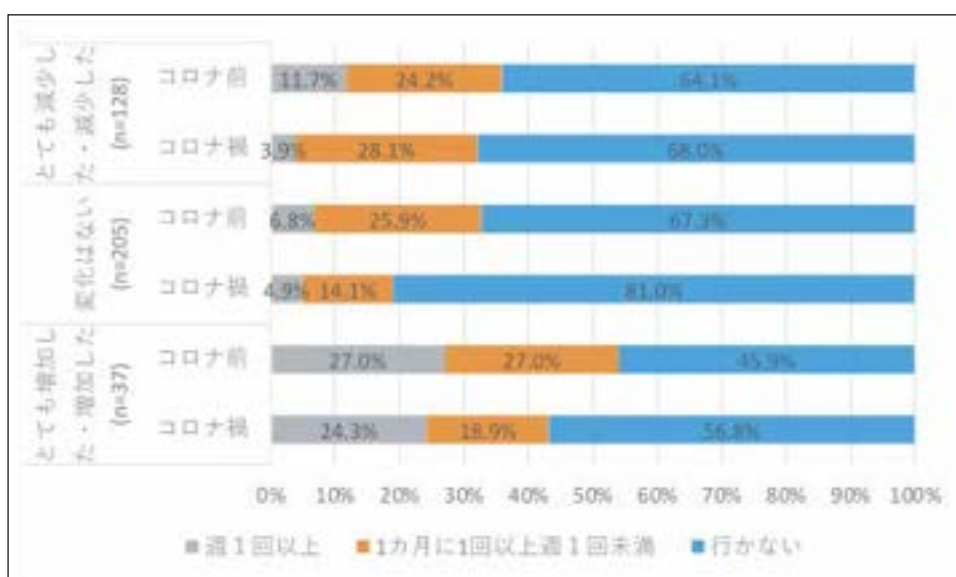
図表2-3-33 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「外食」）



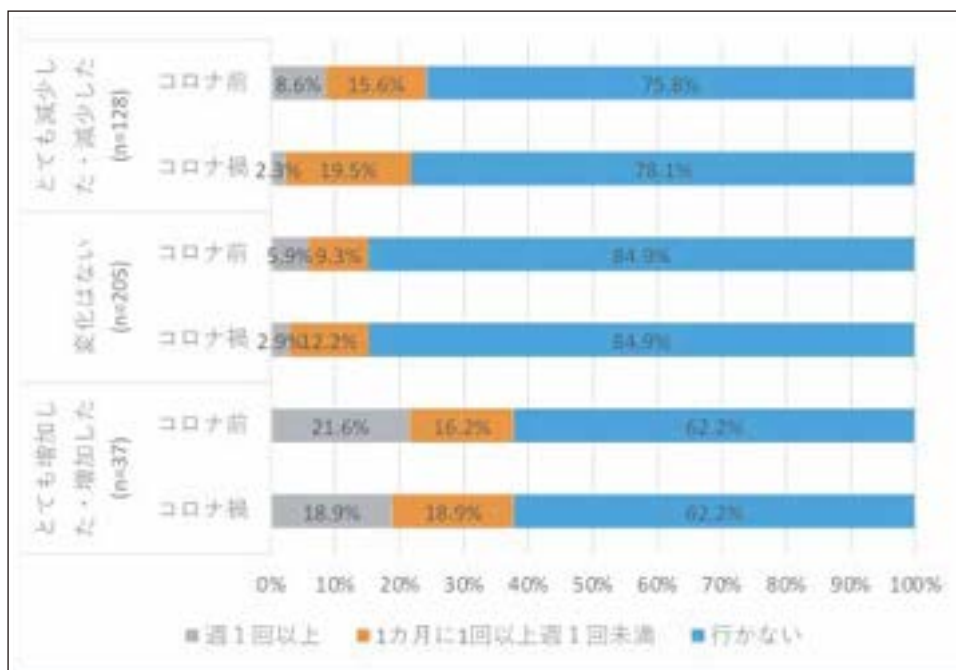
図表2-3-34 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
(「家族との面会」)



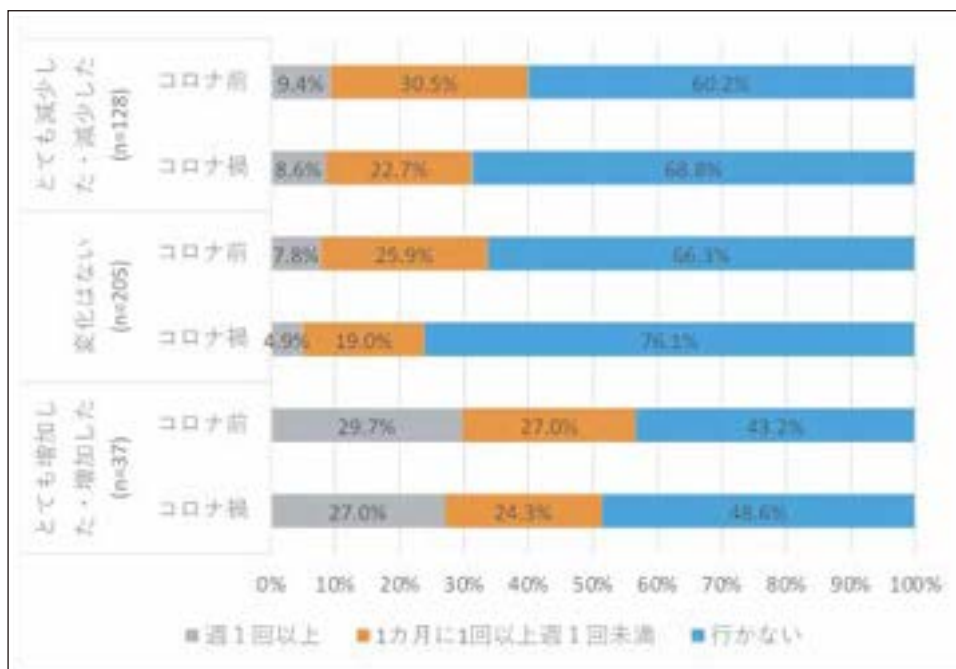
図表2-3-35 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
(「知人との面会」)



図表2-3-36 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「家族や知人の送迎」）



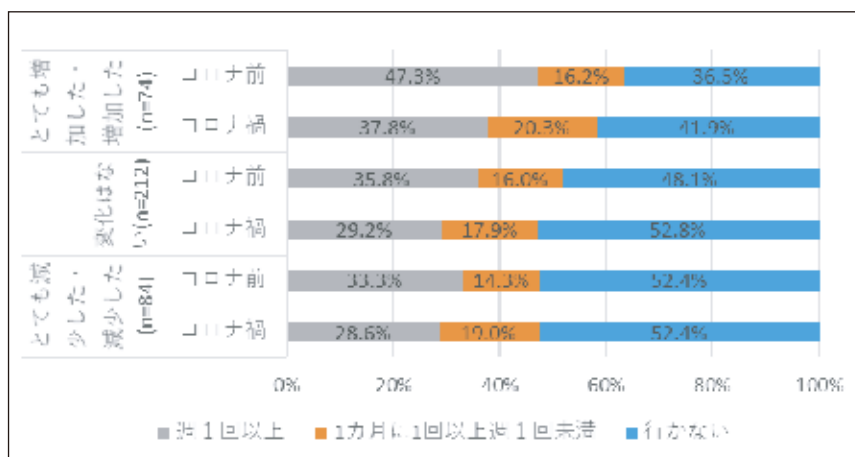
図表2-3-37 世帯収入の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「趣味、娯楽」）



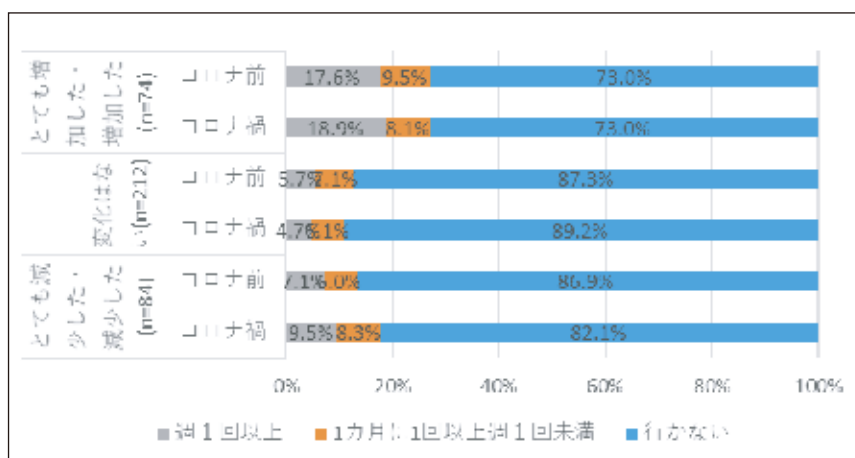
世帯支出が増加すると「外食」「買い物」「知人との面会」を目的とした来訪は減少

「1カ月に1回以上週1回未満」と「週1回以上」を併せた割合の変化を世帯支出の変化別にみると、「外食」では世帯支出が「とても増加した・増加した」した回答者では25.6%減少し、「変化はない」21.6%、「とても減少した・減少した」17.8%よりも来訪頻度の減少割合が高く、世帯支出が増加、すなわち家計が苦しい状況になっている可能性がある回答者では港区への来訪頻度が減少していることがうかがえる。この傾向は、「買い物」の「とても増加した・増加した」した回答者では22.9%減少し、「変化はない」16.9%、「とても減少した・減少した」14.2%の減少にとどまっている傾向と似通っている。なお、割合は小さいものの「知人との面会」でも「とても増加した・増加した」した回答者では16.2%減少し、「変化はない」7.5%、「とても減少した・減少した」10.7%と来訪頻度の減少割合が小さいことから、世帯支出が減少すると港区への来訪を控える傾向にあると考えられる。

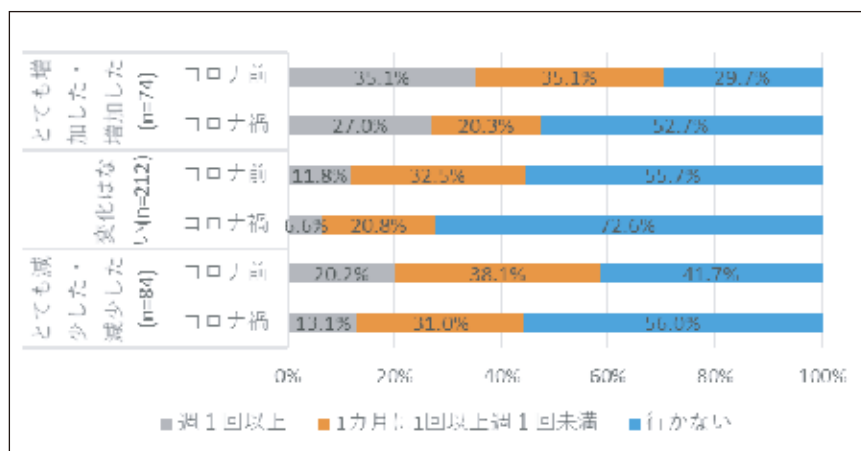
図表2-3-38 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「通勤」）



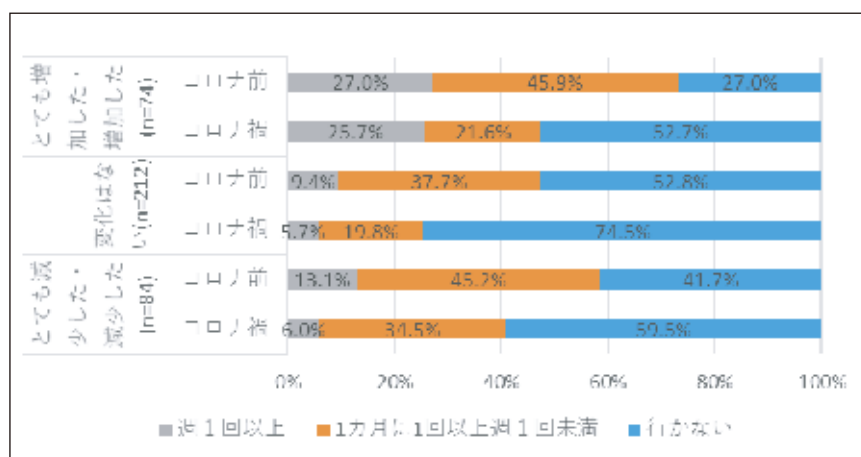
図表2-3-39 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「通学」）



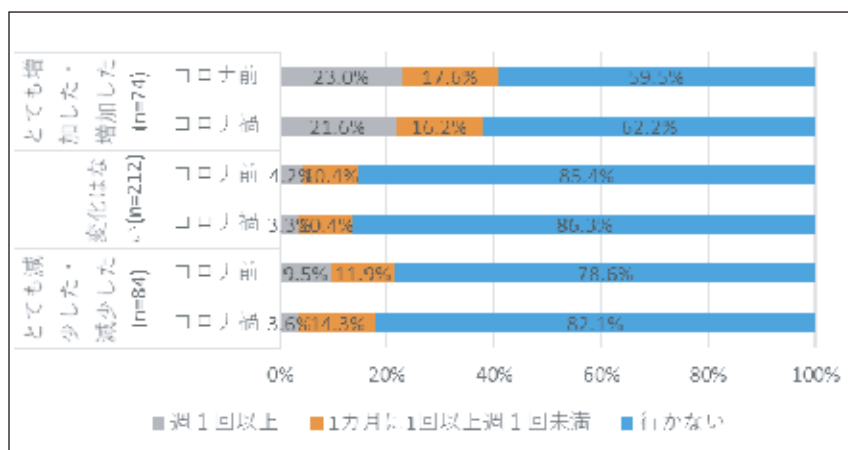
図表2-3-40 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「買い物」）



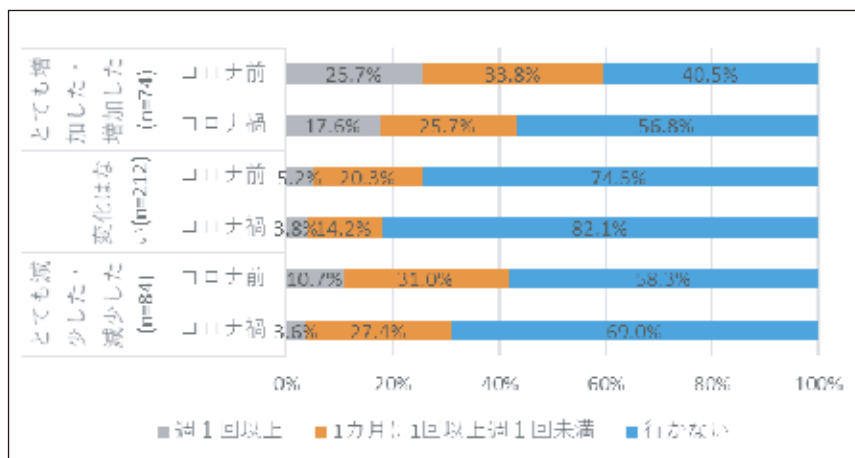
図表2-3-41 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「外食」）



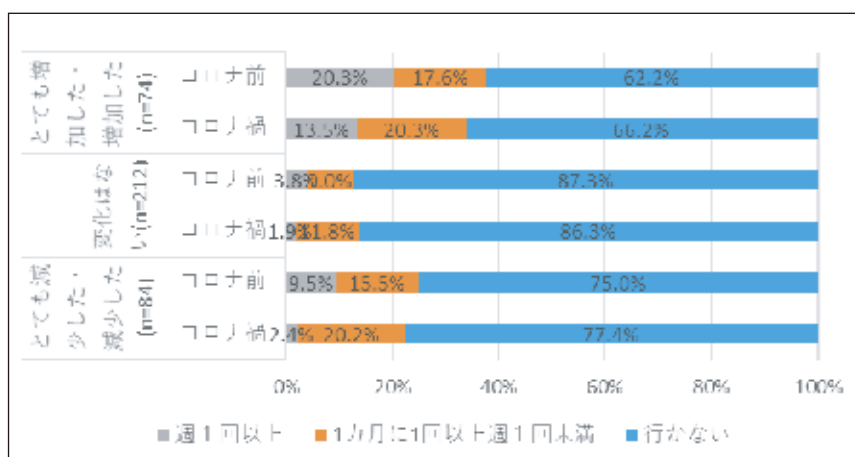
図表2-3-42 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
（「家族との面会」）



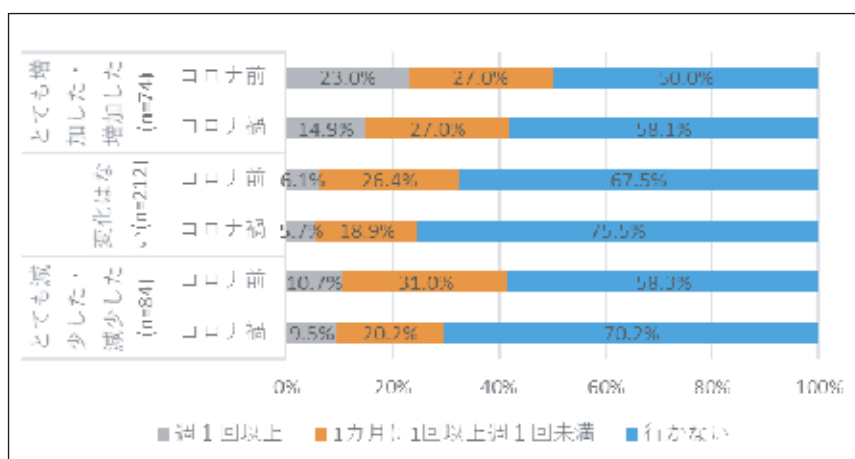
図表2-3-43 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
(「知人との面会」)



図表2-3-44 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
(「家族や知人の送迎」)



図表2-3-45 世帯支出の変化別にみたコロナ前とコロナ禍を比較した来訪回数の変化
(「趣味、娯楽」)

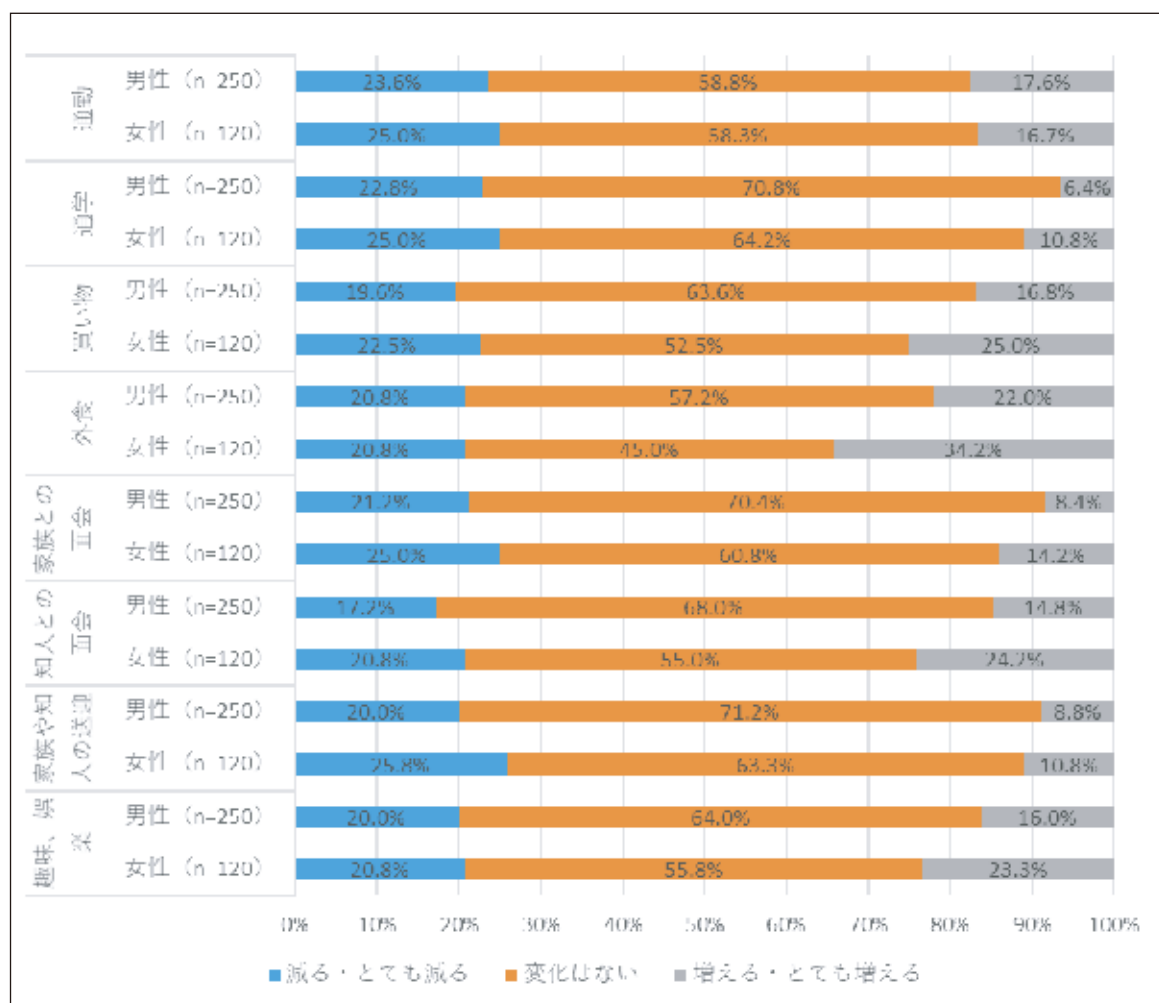


イ コロナ収束後の来訪回数の見通しと回答者属性の関係

女性で来訪頻度が「増える・とても増える」の割合が大きい
なかでも「外食」「知人との面会」「買い物」で女性の来訪増加意向が大きい

男女別では通勤を除くすべての項目で男性に比較して女性で来訪頻度が「増える・とても増える」の割合が大きい。なかでも「外食」「知人との面会」「買い物」について女性では「増える・とても増える」の割合が男性に比較して大きい。

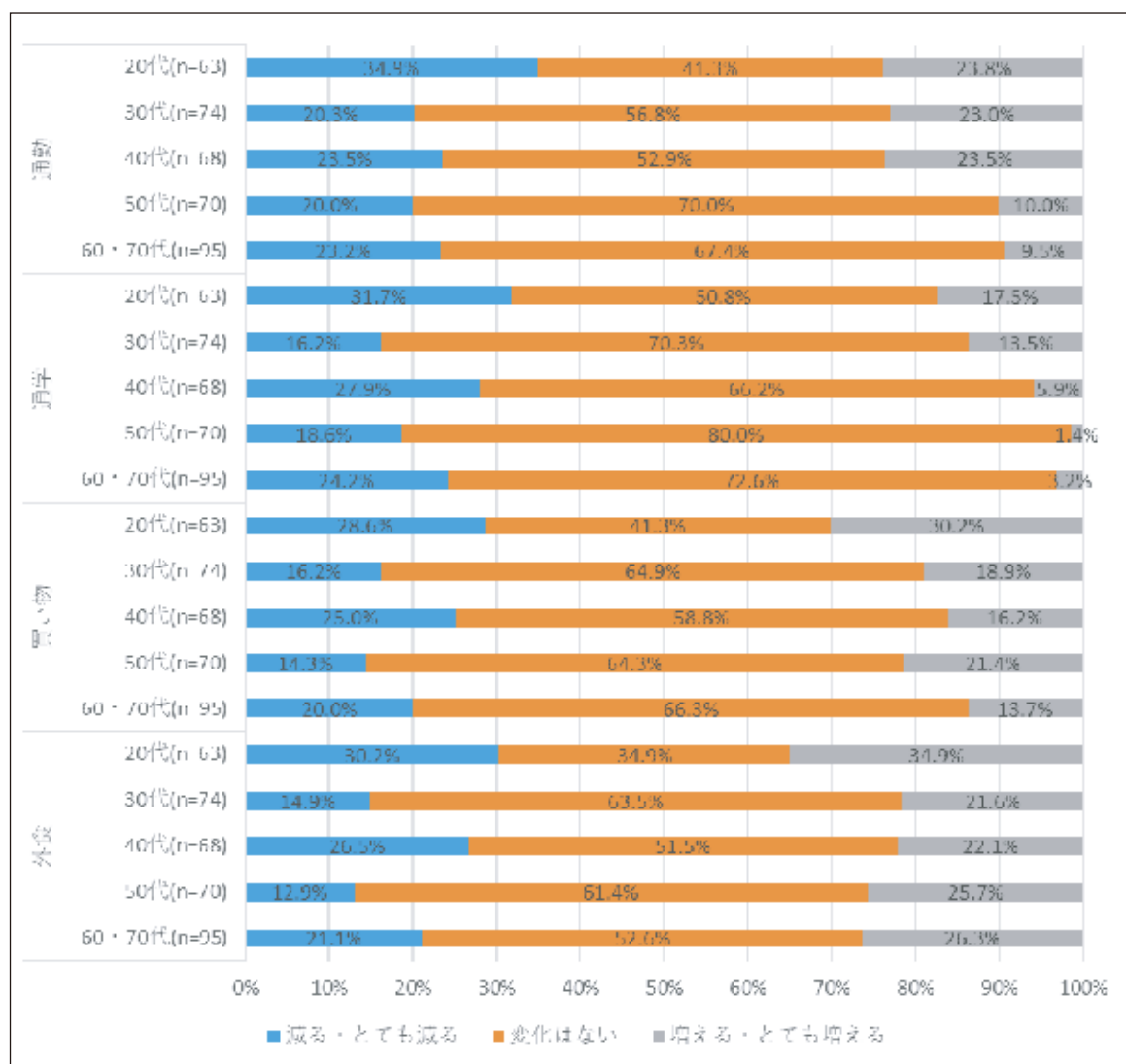
図表2-3-46 男女別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し



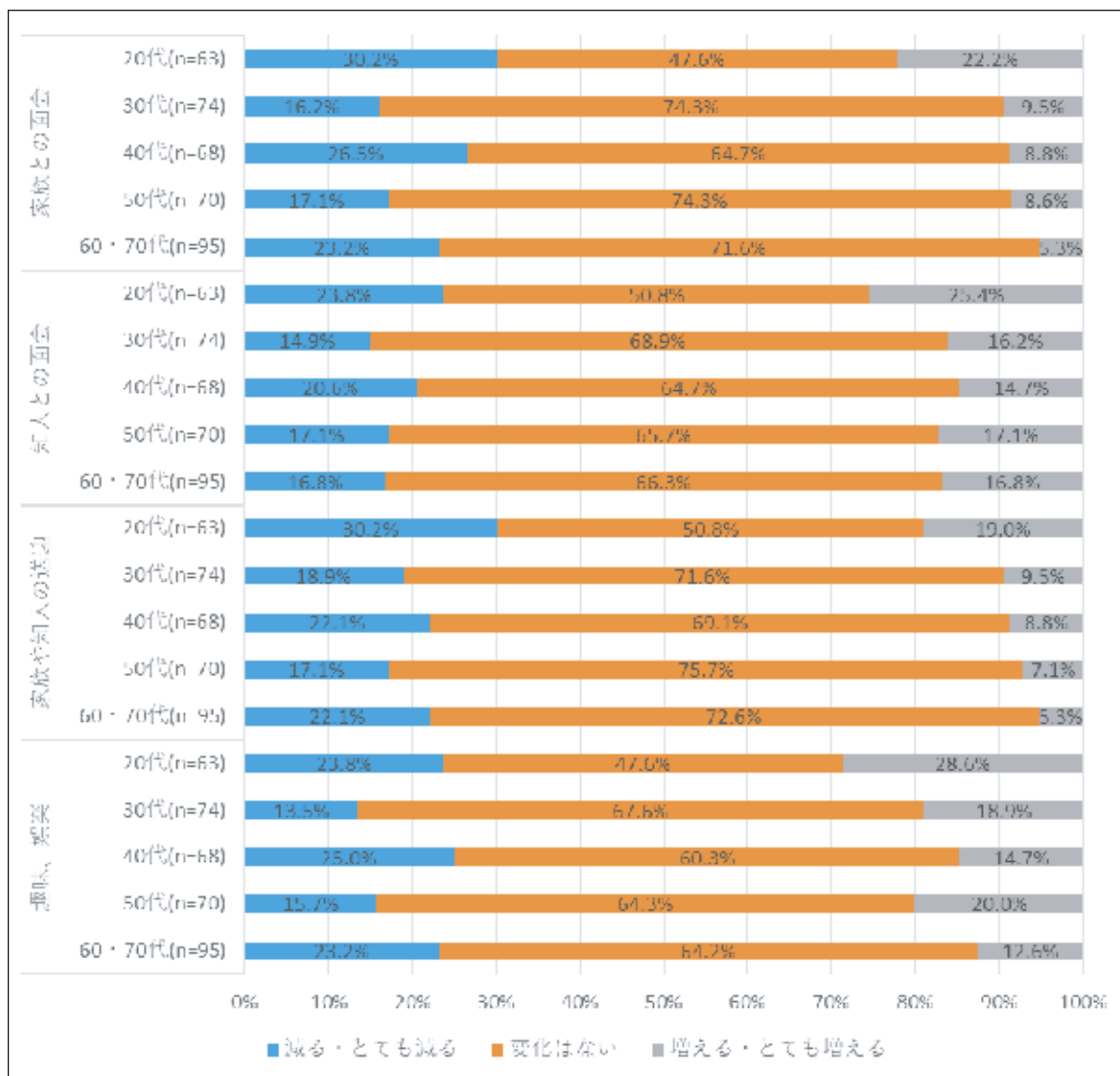
すべての項目で20代の「増える・とても増える」の割合が大きい
なかでも「外食」「買い物」では、
収束後の来訪意向が「増える・とても増える」回答者が3割を占める

すべての項目で20代の「増える・とても増える」の割合が大きい。なかでも「外食」では34.9%、「買い物」では30.2%の来訪増加意向がみられ、コロナ収束後に20代の来訪意向の回復が期待される。

図表2-3-47 年代別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し
(「通勤」「通学」「買い物」「外食」)



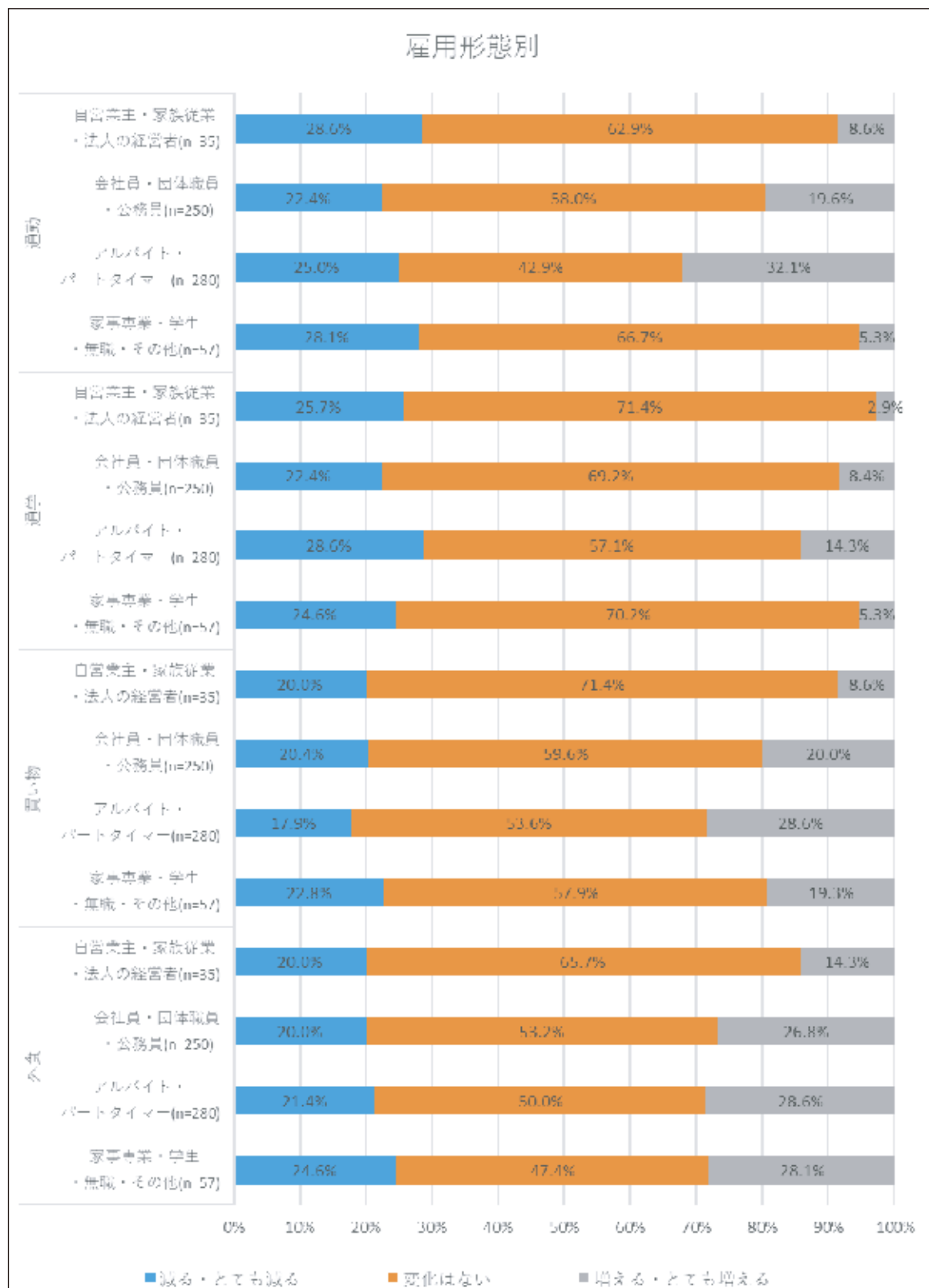
図表2-3-48 年代別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し
 (「家族との面会」「知人との面会」「家族や知人の送迎」「趣味、娯楽」)



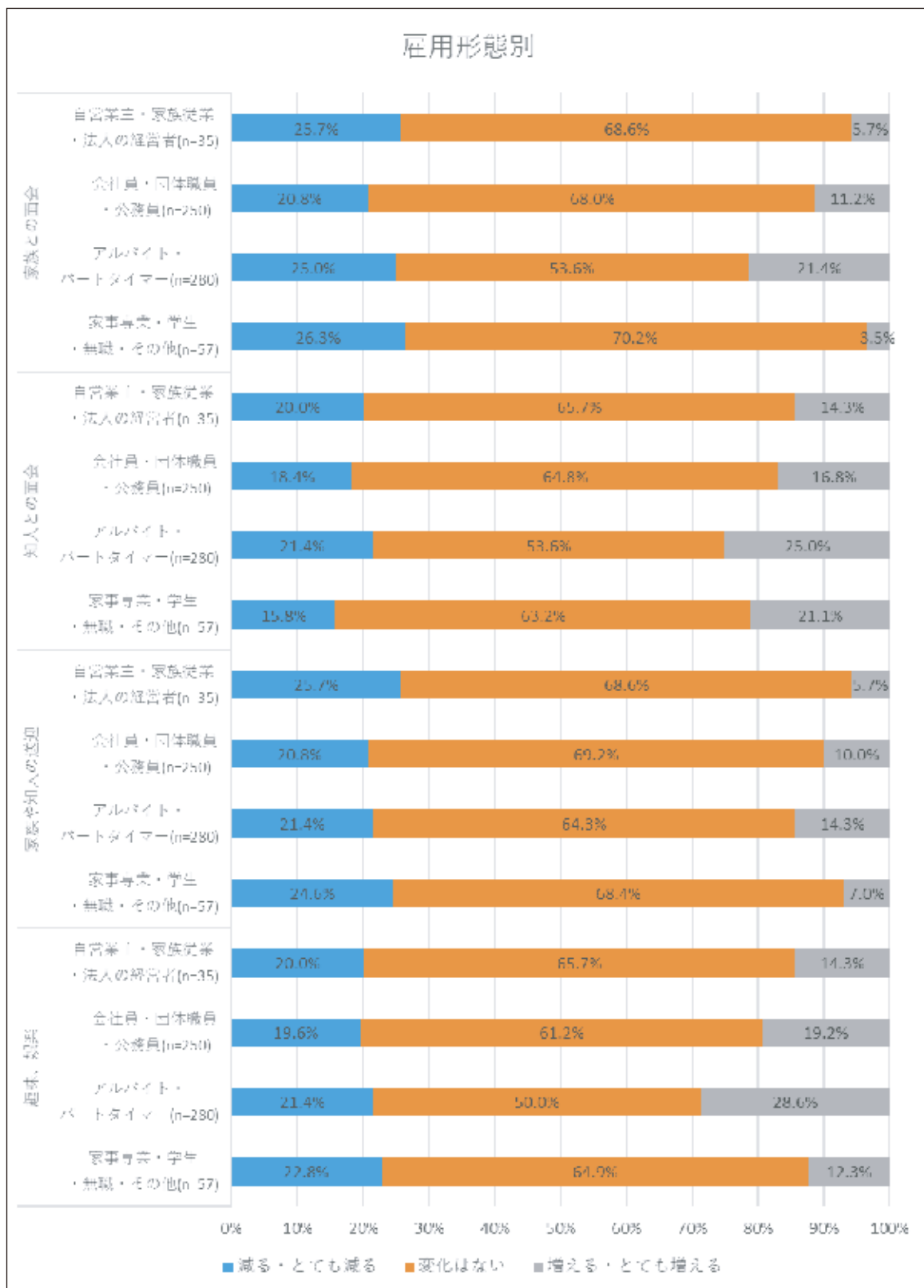
すべての項目でアルバイト・パートタイマーの「増える・とても増える」の割合が大きいなかでも「通勤」「買い物」「外食」「趣味、娯楽」で回復が期待できる

すべての項目でアルバイト・パートタイマーの「増える・とても増える」の割合が大きい。なかでも「通勤」では32.1%、「買い物」「外食」「趣味、娯楽」では28.6%と仕事を目的とした港区への来訪と買い物や外食といったプライベートを目的とした港区への来訪もアルバイト・パートタイマーでは回復することが期待できる。

図表2-3-49 雇用形態別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し
 (「通勤」「通学」「買い物」「外食」)



図表2-3-50 雇用形態別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し
 (「家族との面会」「知人との面会」「家族や知人の送迎」「趣味、娯楽」)

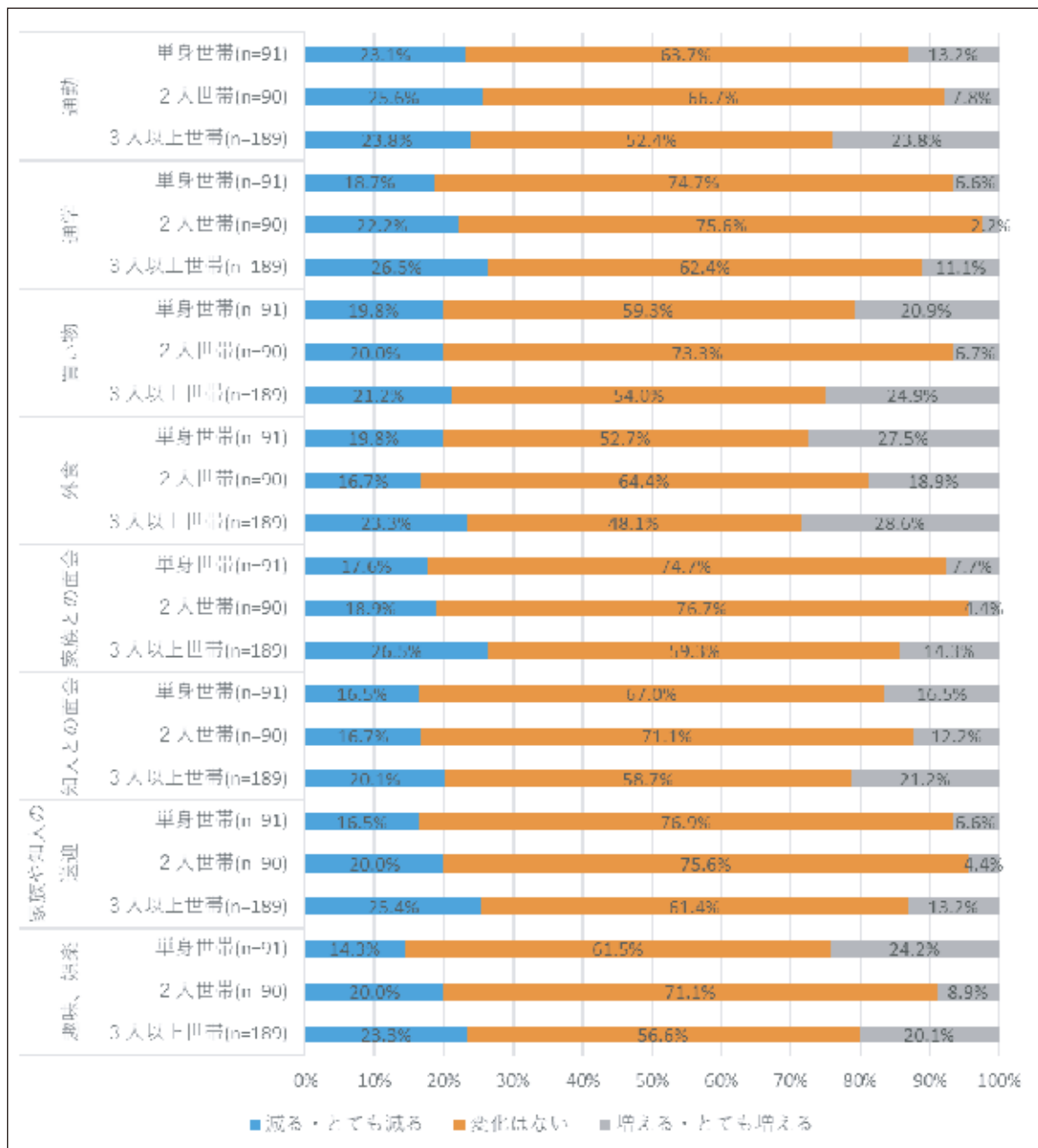


ほとんどの項目で3人以上世帯における来訪増加意向が高い

世帯員数別では「趣味、娯楽」を除くすべての項目で3人以上世帯における「増える・とても増える」の割合が高く、コロナ禍において他の世帯員と居住していると、来訪頻度を意識して減らすことが考えられるため、コロナ収束後の来訪増加意向が3人以上世帯で高くなる可能性が考えられる。

なお、「趣味、娯楽」においては単身世帯で24.2%で、3人以上世帯の20.1%、2人世帯の8.9%より高い。

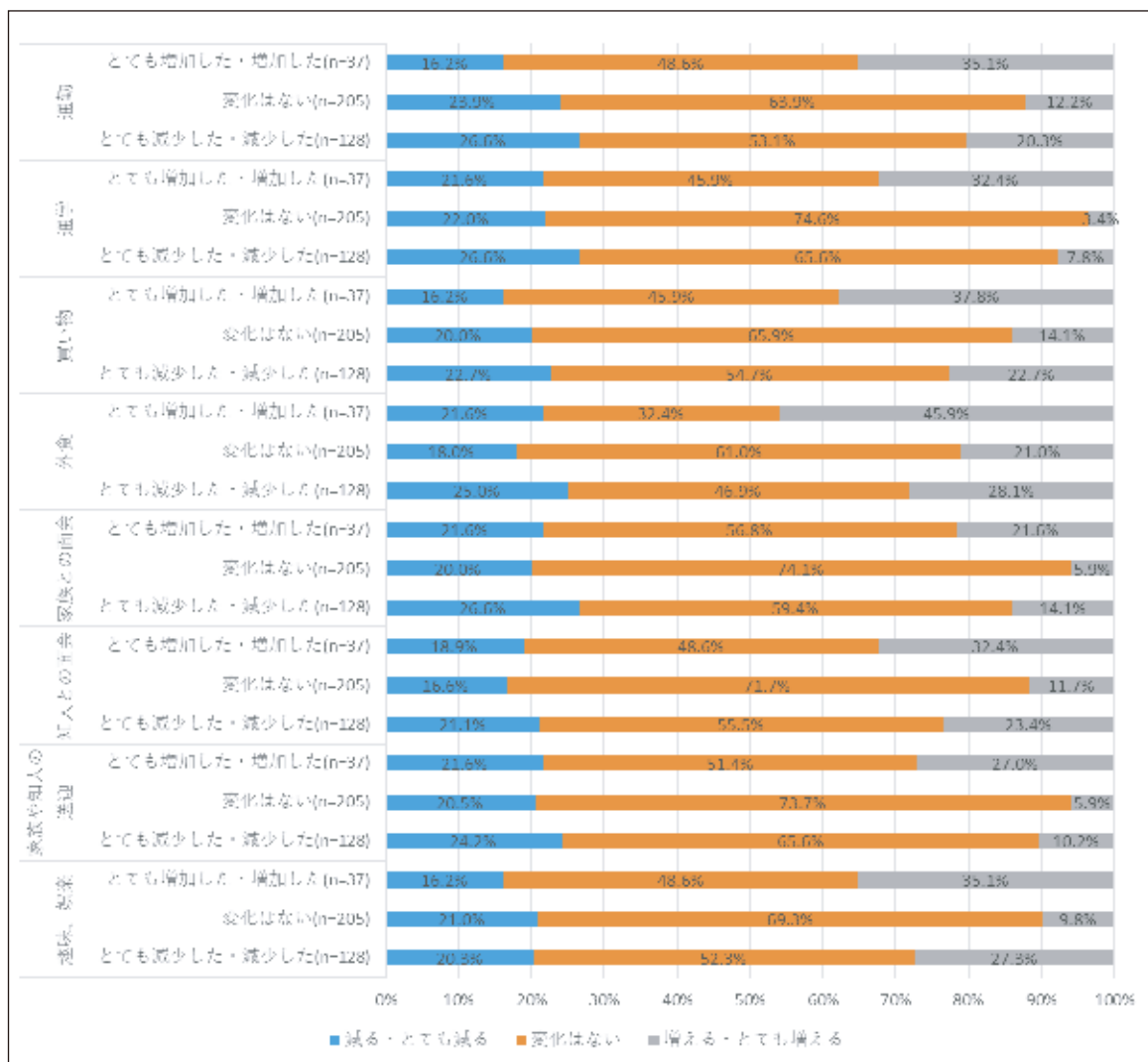
図表2-3-51 世帯員数別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し



コロナで世帯収入が増加した回答者はコロナ収束後に港区への訪問意向が強い

世帯収入の変化別にみると、すべての項目で世帯収入がコロナによって増加した回答者では、収束後の訪問意向として「増える・とても増える」の割合が大きい。

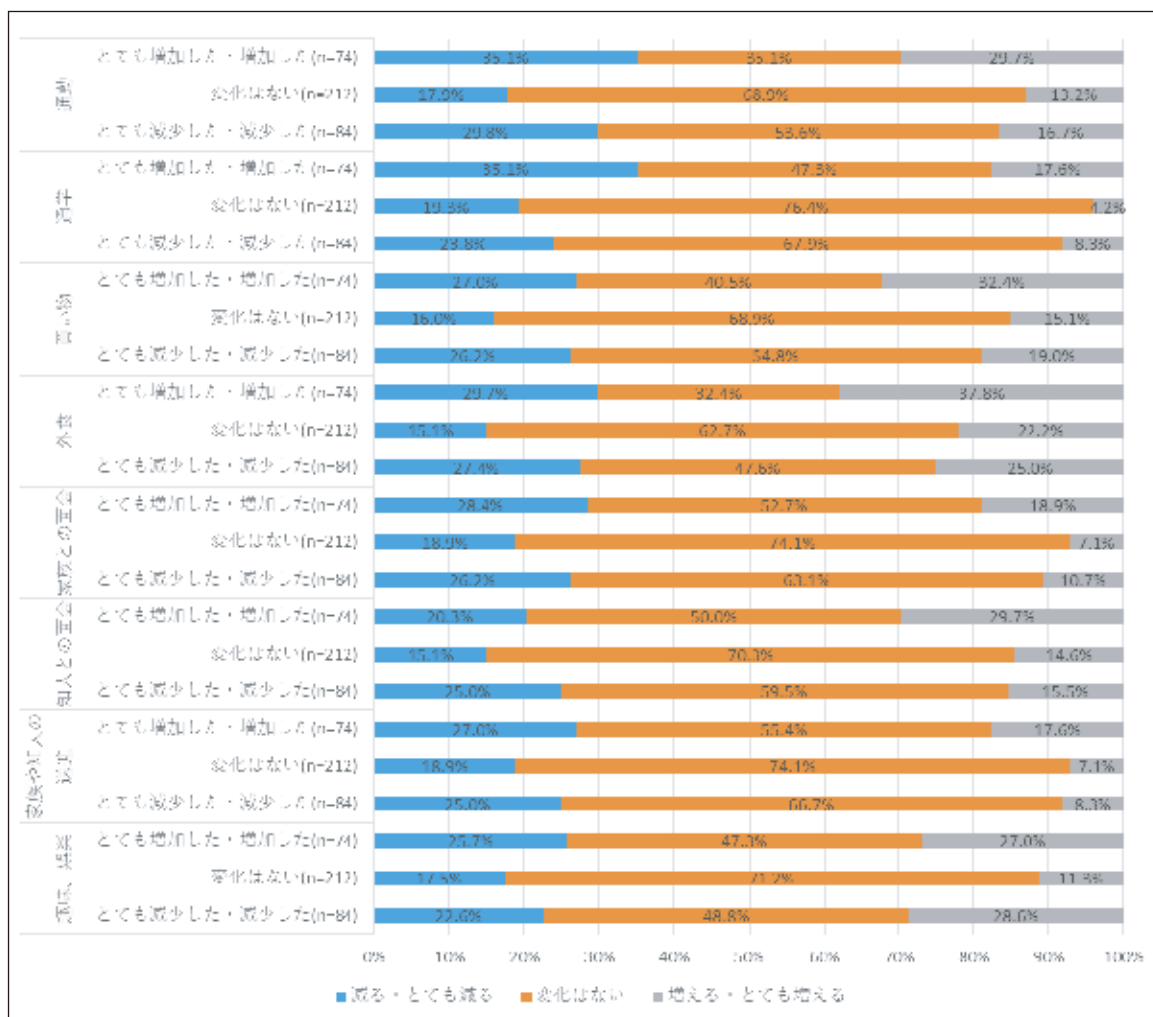
図表2-3-52 世帯収入の変化別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し



ほとんどの項目において、コロナで世帯支出が増加した回答者はコロナ収束後に港区への訪問意向が強い

世帯支出の変化別にみると、ほとんどの項目で世帯支出がコロナによって増加した回答者では、収束後の訪問意向として「とても増加した・増加した」の割合が大きい。

図表2-3-53 世帯支出の変化別にみたコロナ収束後の来訪回数の見通し



(3) 詳細分析

ア 方法

来訪目的別の来訪頻度の変化と将来の来訪意向を把握

コロナ前及びコロナ禍の港区への来訪頻度について、通勤、通学、買い物、外食、趣味・娯楽の5つの来訪理由別に来訪回数を選択してもらい、1カ月あたりの平均回数を算出する。

コロナ収束後の将来の港区の来訪意向について「とても増えると思う」を5点、「増えると思う」を4点、「来訪回数に変化はない」を3点、「減ると思う」を2点、「とても減ると思う」を1点として平均点を算出する。

重回帰分析による将来の来訪意向の高い属性の分析

来訪目的別に来訪意向を被説明変数、来訪者属性を説明変数として重回帰分析を行い、来訪意向の高い昼間人口属性を明らかにする。

イ 結果及び考察

(ア) 年代別にみた来訪頻度の変化

全体ではコロナ前に比較してコロナ禍では来訪頻度が減少

全体をみると、通勤による港区への一週間あたりの来訪頻度は5.89回であったのに対し、4.16回に減少している。通勤以外にも通学、買い物、外食、趣味・娯楽のすべての来訪理由で訪問回数が減少している。

全体ではコロナ禍収束後、来訪回数に変化はない、又は減少する意向が多い

また、コロナ収束後の将来について「とても増えると思う」を5点から「とても減ると思う」を1点として平均点を算出したところ、すべての来訪理由で3点を下回っており、「来訪回数に変化はない」又は「減ると思う」に相当する水準となっている。

買い物、外食、趣味・娯楽ではコロナ禍で訪問回数が減少

来訪理由のうち、買い物、外食、趣味・娯楽では、すべての年代で来訪頻度が概ね減少している。ただし、来訪意向については20・30・50代でコロナ禍収束後に買い物、外食、趣味・娯楽といったことを目的として来訪者が回復する可能性が考えられる。

30代ではコロナ禍によって来訪回数が減少したものの収束後に回復する可能性がある

30代においては、買い物以外ではコロナ禍収束後の将来の来訪意向が増える傾向にある。

図表2-3-54 年代別にみたコロナ前とコロナ禍の一ヵ月あたりの
港区訪問頻度とコロナ収束後の将来の港区への来訪意向

	n	通勤				通学				買い物				外食				趣味・娯楽			
		コロナ前	コロナ禍	コロナ前・後の変化の程度	コロナ収束後の将来	コロナ前	コロナ禍	コロナ前・後の変化の程度	コロナ収束後の将来	コロナ前	コロナ禍	コロナ前・後の変化の程度	コロナ収束後の将来	コロナ前	コロナ禍	コロナ前・後の変化の程度	コロナ収束後の将来	コロナ前	コロナ禍	コロナ前・後の変化の程度	コロナ収束後の将来
全体	370	5.89	4.16	↓	2.86	1.08	0.98	→	2.70	2.29	1.62	↓	2.92	1.84	1.29	↓	2.96	1.38	1.17	↓	2.91
20代	63	4.67	4.41	→	2.76	2.76	2.56	→	2.75	3.35	2.65	→	3.00	2.75	2.59	→	2.97	2.46	2.67	→	3.03
30代	74	9.03	6.19	↓	3.08	2.24	1.54	↓	2.89	3.19	2.59	↓	2.96	2.62	1.99	↓	3.03	1.55	1.30	↓	3.04
40代	68	6.78	5.21	↓	2.99	0.46	0.94	→	2.63	2.38	1.74	↓	2.84	1.84	1.13	↓	2.87	1.68	1.26	↓	2.81
50代	70	6.49	4.17	↓	2.83	0.23	0.03	→	2.69	1.43	0.76	↓	3.04	1.29	0.71	↓	3.10	0.86	0.46	↓	2.99
60・70代	95	3.19	1.67	↓	2.69	0.13	0.22	→	2.57	1.45	0.73	↓	2.80	1.05	0.42	↓	2.88	0.72	0.54	↓	2.73

(イ) 雇用形態別にみた来訪頻度の変化

通勤ではすべての雇用形態で訪問頻度が減少

通勤では、すべての雇用形態で訪問頻度が減少しているが、なかでも会社員・団体職員・公務員の減少が著しい。

図表2-3-55 雇用形態別にみたコロナ前とコロナ禍の一カ月あたりの
港区訪問頻度とコロナ収束後の将来の港区への来訪意向

	n	通勤				通学				買い物				外食				趣味、娯楽			
		コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来
自営業主・家族従業員・法人の経営者	35	4.03	2.80	↓	2.63	0.11	0.17	↓	2.54	1.71	0.91	↓	2.80	1.29	0.63	↓	2.86	0.83	0.43	↓	2.86
会社員・団体職員・公務員	250	7.00	5.04	↓	2.95	1.09	1.02	↓	2.74	2.58	1.94	↓	2.94	2.05	1.56	↓	2.99	1.36	1.32	↓	2.93
アルバイト・パートタイマー	28	5.57	4.29	↓	2.93	0.64	1.29	↓	2.64	2.36	1.32	↓	2.96	1.82	1.25	↓	2.96	2.89	1.75	↑	3.04
専業主婦・学生・無職・その他	57	2.33	1.11	↓	2.58	1.82	1.14	↓	2.65	1.35	0.81	↓	2.89	1.30	0.51	↓	2.91	1.09	0.67	↓	2.77

(ウ) 引越し意向別にみた来訪頻度の変化

引越しを考えていない昼間人口では、コロナ収束後の港区への訪問に対して前向きな傾向

コロナ収束後の将来に着目すると、引越しを考えている又はどちらでもないと回答した昼間人口では、コロナ収束後の港区への来訪意向が2点台（「来訪回数に変化はない」3点～「減ると思う」2点程度）であるのに対し、引越しを考えていない昼間人口では3点台（「増えると思う」4点～「来訪回数に変化はない」3点程度）を示している。

これは、引越しを考えていない昼間人口はコロナ前の生活に戻る意向があり、港区への来訪も同様である可能性がある。

図表2-3-56 引越し意向別にみたコロナ前とコロナ禍の一カ月あたりの
港区訪問頻度とコロナ収束後の将来の港区への来訪意向

	n	通勤				通学				買い物				外食				趣味、娯楽			
		コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来	コロナ前	コロナ後	コロナの 前・ 後の変化 の程度	コロナ 収束後 の将来
転出を考えている	176	5.96	3.47	↓	2.76	0.54	0.53	↓	2.60	1.06	0.70	↓	2.78	0.93	0.61	↓	2.87	0.84	0.41	↓	2.75
どちらでもない	78	4.41	3.73	↓	2.77	1.24	1.40	↓	2.76	3.04	2.54	↓	2.95	2.14	1.74	↓	2.96	1.56	2.08	↓	2.92
転出を考えていない	116	6.78	5.51	↑	3.08	1.78	1.37	↓	2.81	3.66	2.40	↑	3.11	3.03	2.02	↑	3.11	2.09	1.71	↑	3.13

(エ) 来訪目的別にみた来訪意向と回答者属性の関係

通勤：小学生の子どもと同居している昼間人口が、将来、港区への訪問が減少する意向

同居の7～12歳の子どもがいる場合、負に有意な値であった。

買い物：世帯収入が増加した昼間人口が、将来、港区への訪問が増加する意向

世帯収入が増加した場合、正に有意であった。

外食：女性で世帯収入が増加した昼間人口が、将来、港区への訪問が増加する意向

女性や世帯収入が増加した場合、正に有意であった。

趣味・娯楽：未就学児や高校生と同居している昼間人口が、将来、港区への訪問が増加する意向 ただし、60・70代では港区への訪問が減少する意向

同居の0～6歳の子どもがいる場合や16～18歳の子どもがいる場合に正に有意、60・70代である場合に負に有意であった。

図表2-3-57 コロナ収束後の将来の港区への来訪意向と昼間人口属性の関係
(来訪理由別の将来の港区への来訪意向を被説明変数、
昼間人口属性を説明変数とした重回帰分析の結果)

	通勤		通学		買い物		外食		趣味・娯楽	
	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
20代	-0.023		-0.027		-0.013		-0.049		-0.005	
30代	0.089		0.000		-0.059		-0.030		-0.022	
40代	0.033		-0.055		-0.108		-0.096		-0.091	
60・70代	-0.079		-0.088		-0.117		-0.097		-0.129 *	
女性	-0.013		0.016		0.041		0.117 **		0.054	
同居の前期高齢者 有	0.074		0.039		0.052		0.009		0.059	
同居の後期高齢者 有	0.052		-0.107 **		0.005		0.040		-0.045	
同居の0～6歳の子ども 有	0.072		0.100 *		0.055		0.003		0.129 **	
同居の7～12歳の子ども 有	-0.127 **		-0.049		-0.048		-0.063		-0.025	
同居の13～15歳の子ども 有	0.087		0.014		0.083		0.051		-0.017	
同居の16～18歳の子ども 有	0.041		0.016		0.081		0.024		0.096 *	
世帯収入の増減	0.084		0.198 ***		0.123 **		0.137 **		0.006	
世帯支出の増減	0.012		-0.041		0.045		0.015		-0.024	
予想されるコロナ後の 平均勤務日数（月あたり）	0.073		0.013		0.057		0.084		0.027	
修正済み決定係数	0.023		0.037		0.011		0.010		0.012	

通勤では30代や引越し意向のない属性、イベント来訪では 世帯収入が増加した世帯や女性、子どもと同居している場合に来訪の回復が見込まれる

感染症が収束する将来の港区への来訪意向の傾向をまとめると、通勤による来訪は30代や引越し意向のない昼間人口で回復が見込まれる。他方、買い物、外食、趣味・娯楽といったイベント的な来訪はコロナの中でも世帯収入が増加した世帯や、女性、子どもと同居している場合に来訪意向が高く、来訪頻度が回復する可能性が考えられる。

4 在宅勤務の動向（問4）

問4 コロナ前（2020年2月以前）、コロナ禍（2020年3月～2021年現在）、コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）の平均した、勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）、自宅内での完全在宅勤務日数及び部分在宅勤務日数をお答えください。

なお、1日あたりの勤務時間数のうち、すべて自宅で勤務した場合は「完全在宅」、一部を自宅で勤務した場合は「部分在宅」とします。

（例えば、午前中は自宅で勤務し、午後は出社した場合を部分在宅とします。）

また、本設問の「勤務」には、賃金が発生しない家事・育児・介護は含みません。

【項目】

1. コロナ前（2020年2月以前）における平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）
2. コロナ前（2020年2月以前）における完全在宅の勤務日数
3. コロナ前（2020年2月以前）における部分在宅の勤務日数
4. コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）
5. コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における完全在宅の勤務日数
6. コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における部分在宅の勤務日数
7. コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）
8. コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における完全在宅の勤務日数
9. コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における部分在宅の勤務日数

1	0日	2	数か月に1回程度	3	1か月に1日程度	4	週1日程度	5	週2日程度
6	週3日程度	7	週4日程度	8	週5日程度	9	週6日程度	10	週7日程度在宅の勤務日数

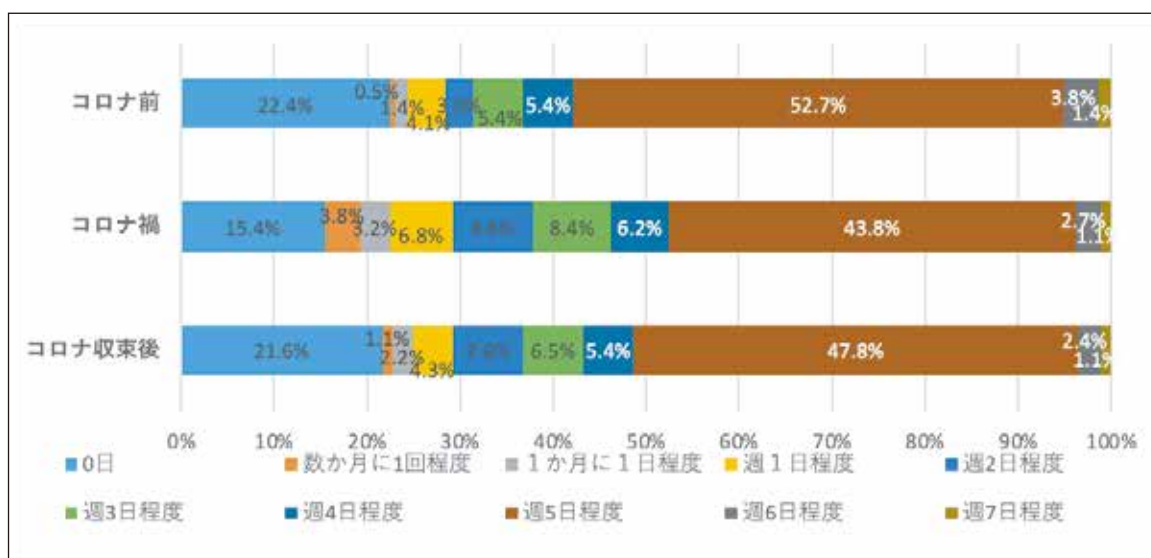
（1）基本集計結果

ア コロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数

コロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数、完全および部分在宅勤務日数

コロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数をみると、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、週5日程度が4～5割を占め、最も割合が高い。ただし、コロナ前は52.7%で半数以上が週5日であったのに対し、コロナ禍では43.8%と10ポイント程度減少している。そしてコロナ収束後の見通しとしては47.8%で、コロナ禍に比較して5ポイント程度回復する意向がうかがえる。

図表2-4-1 コロナ前・コロナ禍・コロナ収束後の平均勤務日数



イ コロナ前・コロナ禍・収束後の完全および部分在宅勤務日数

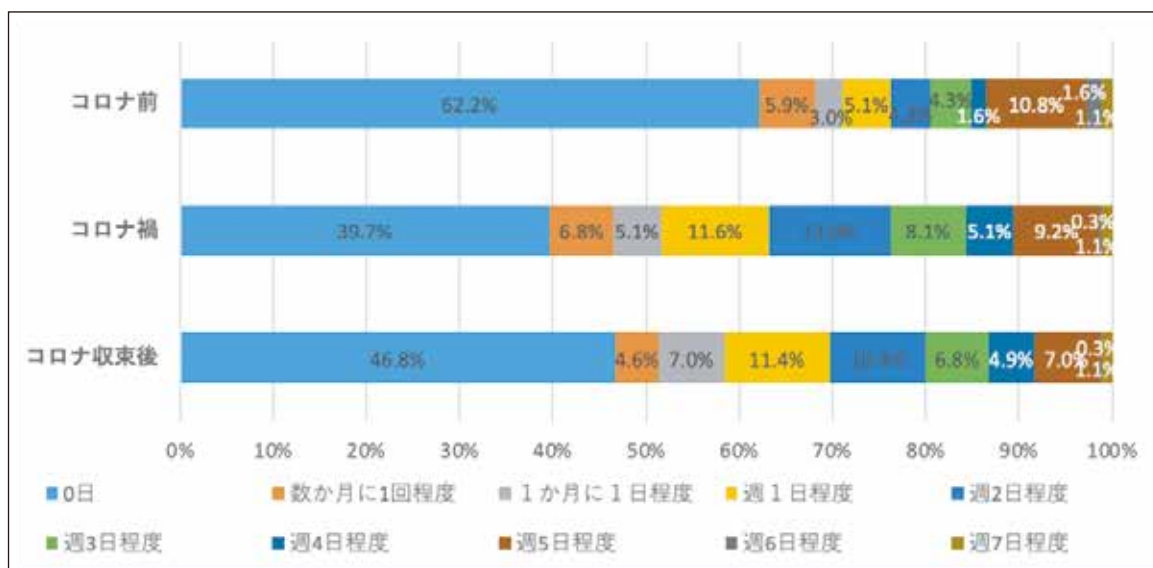
コロナ前では62.2%が完全在宅勤務の経験がなかったのに対し、
コロナ禍では39.7%に減少

コロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数をみると、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、0日の割合が最も大きい。ただし、コロナ前では62.2%が完全在宅勤務の経験がなかったのに対し（0日を選択しているのに対し）、コロナ禍では39.7%に減少し、在宅勤務が進んだことがうかがえる。なお、コロナ収束後の見通しでは46.8%と7ポイント程度増加しており、完全在宅勤務が継続し続けるとは言い難い。

さらに、0日以外のコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数をみると、コロナ前では週5日程度（10.8%）、コロナ禍では週2日程度（13.0%）、コロナ収束後では週1日程度（11.4%）が最も大きな値を示している。

これらのことから、在宅勤務についてコロナ前はほとんど普及しておらず、一部の職種のみで行われているが、コロナ禍においては週2日程度在宅勤務を行っており、コロナ前に比較して在宅勤務が進んだことは明らかと言える。ただし、コロナ収束後の見通しでは、完全在宅勤務日数が0日の割合が増加し、在宅勤務を希望している場合であっても週1日程度が最も大きな値を示していることから、在宅勤務がコロナ禍の水準を維持して継続するとは考えづらい。

図表2-4-2 コロナ前・コロナ禍・コロナ収束後の完全在宅勤務日数

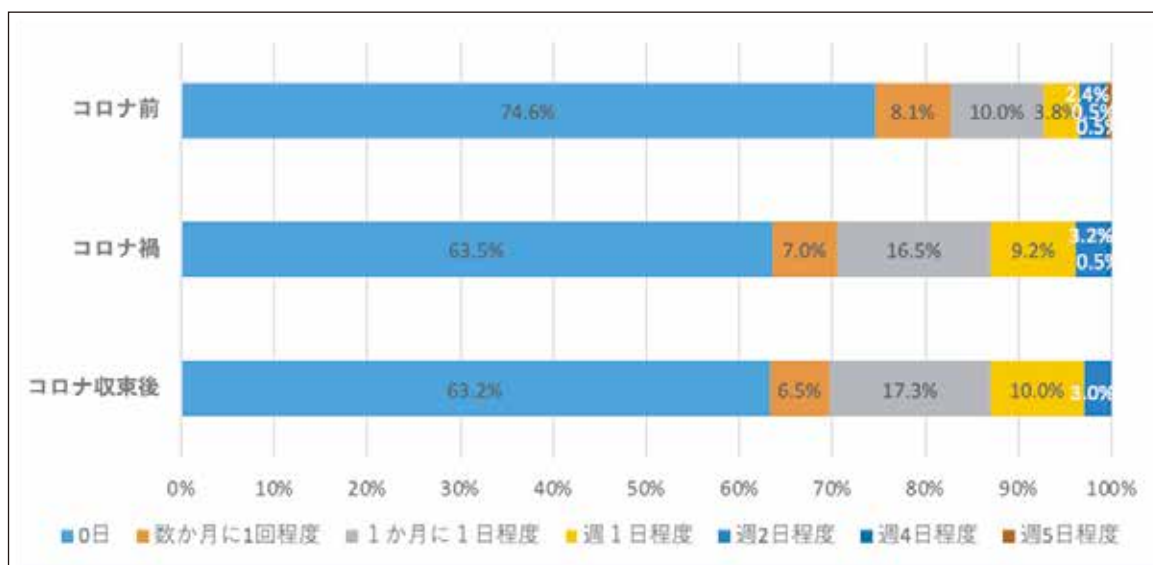


部分在宅勤務日数では「0日」が6～7割であったことから、完全在宅勤務に比較して部分在宅勤務は普及していない

コロナ前・コロナ禍・収束後の部分在宅勤務日数をみると、完全在宅勤務日数と同様にコロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、0日の割合が最も大きい。ただし、その割合は完全在宅勤務日数では4～6割程度であったのに対し、部分在宅勤務日数では6～7割であったことから、完全在宅勤務に比較して部分在宅勤務は普及していないことがうかがえる。

なお、完全在宅勤務はコロナ禍に比較してコロナ収束後に希望する日数が減少しているのに対し、部分在宅勤務はコロナ禍とコロナ収束後の間に大きな違いがみられないことから、完全在宅勤務に比較して普及は進んでいないものの、部分在宅勤務を経験した回答者は部分在宅勤務を継続する意向があると推察される。

図表2-4-3 コロナ前・コロナ禍・コロナ収束後の部分在宅勤務日数



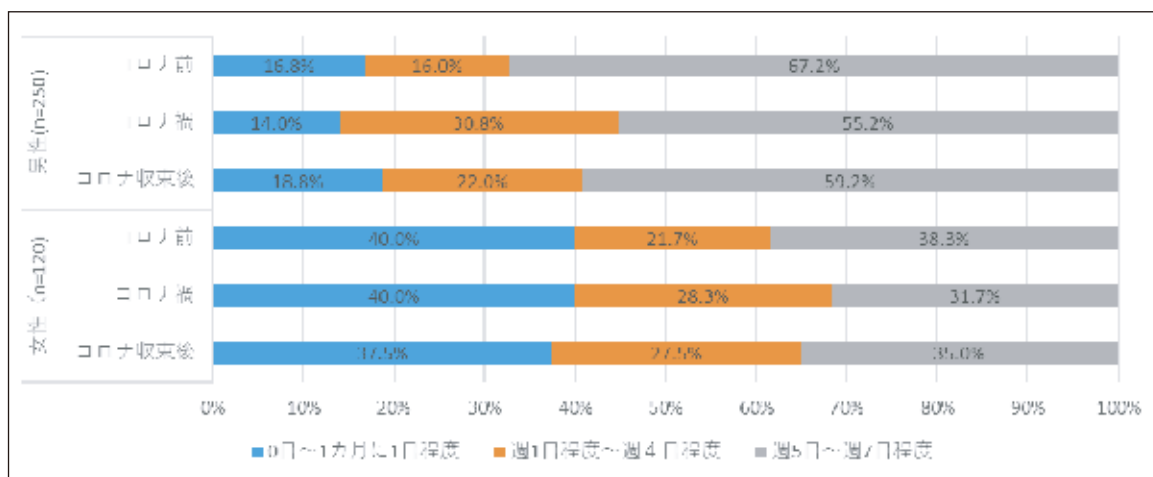
(2) クロス集計結果

ア コロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数と回答者属性の関係

女性に比較して男性の平均勤務日数が多い割合が高い

男女別では、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、女性に比較して男性の週5日～週7日程度の割合が20～30ポイント程度高い。

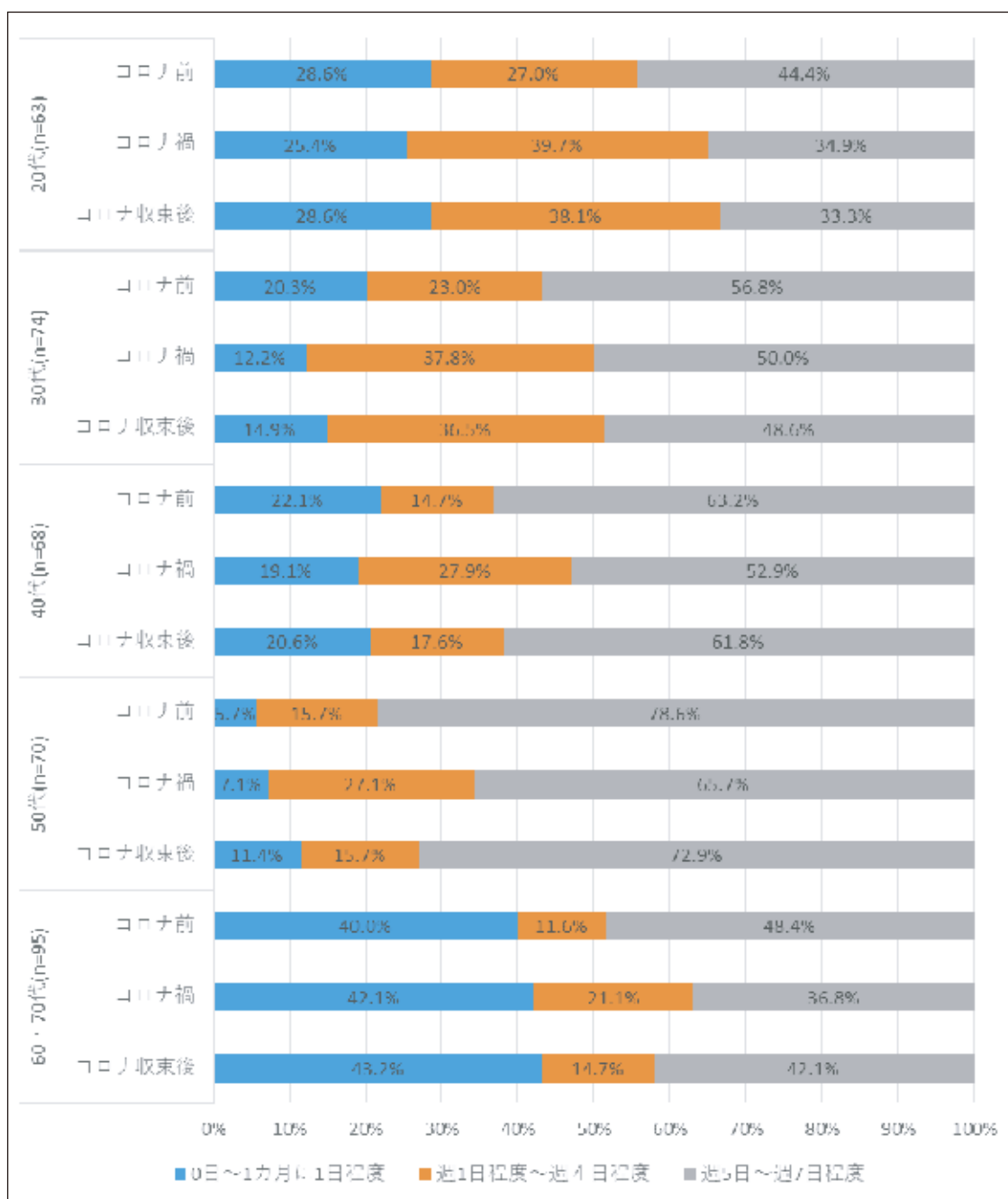
図表2-4-4 男女別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数



20代～50代までは年代が上がるにつれて平均勤務日数が多い割合が高くなる

年代別に週5日～週7日程度の割合をみると、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、20代から50代と年代が上がるにつれて割合が大きくなり、60・70代ではリタイア等による影響もあってか割合が小さくなる傾向がみられる。

図表2-4-5 年代別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数

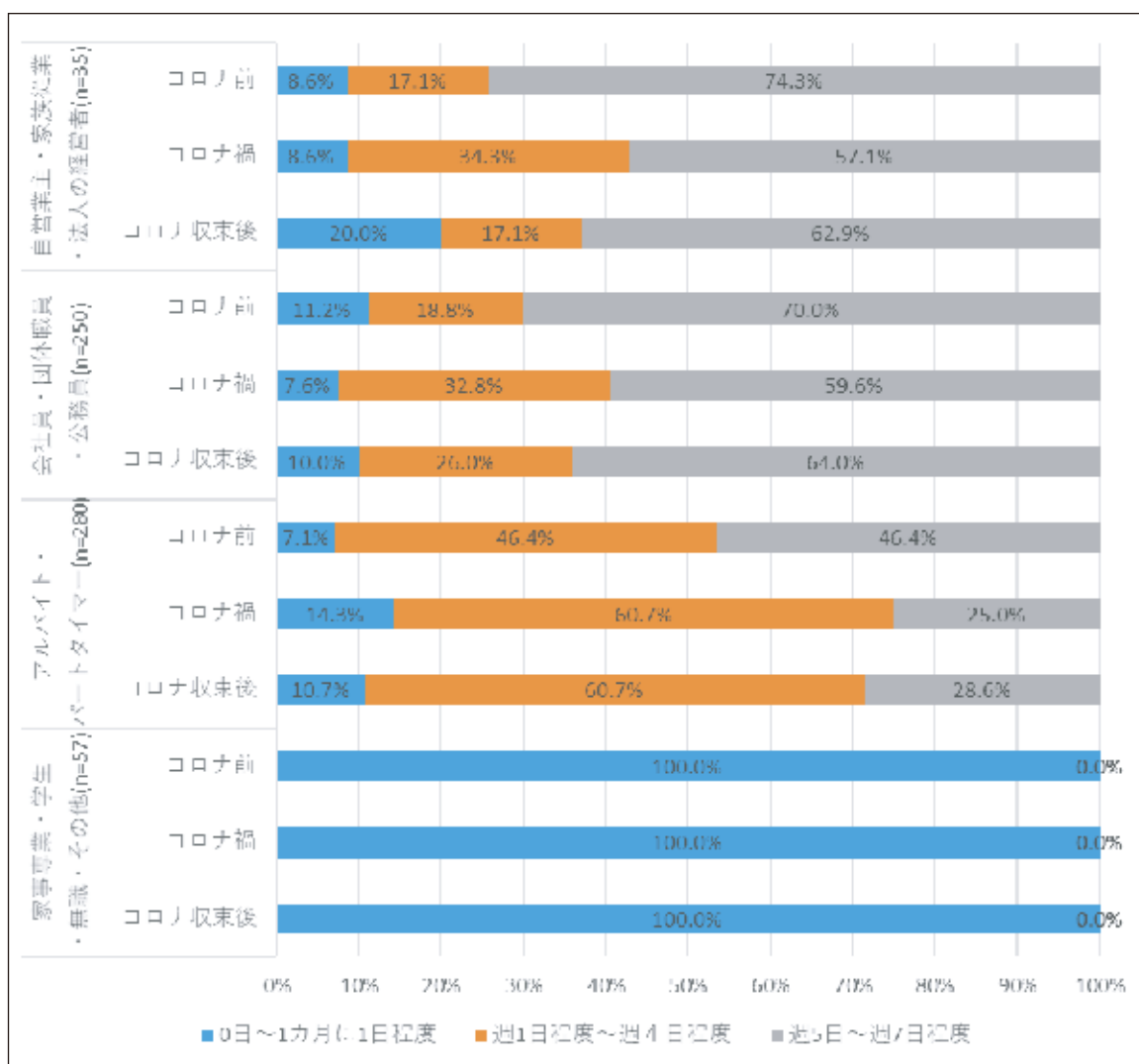


「自営業主・家族従業・法人の経営者」と「会社員・団体職員・公務員」は同様の平均勤務日数の割合を示す

雇用形態別では、「自営業主・家族従業・法人の経営者」と「会社員・団体職員・公務員」では同様の傾向がみられ、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず週5日～週7日程度の割合が最も高い。一方、「アルバイト・パートタイマー」では、コロナ前では週1日～週4日程度と週5日～週7日程度の割合が同じ割合を示し、コロナ前とコロナ収束後では週1日～週4日程度が6割程度で最も高い。

なお、「アルバイト・パートタイマー」ではコロナ禍とコロナ収束後で平均勤務日数の割合がほとんど変わっておらず、勤務日数に変化の希望がないことがうかがえる。

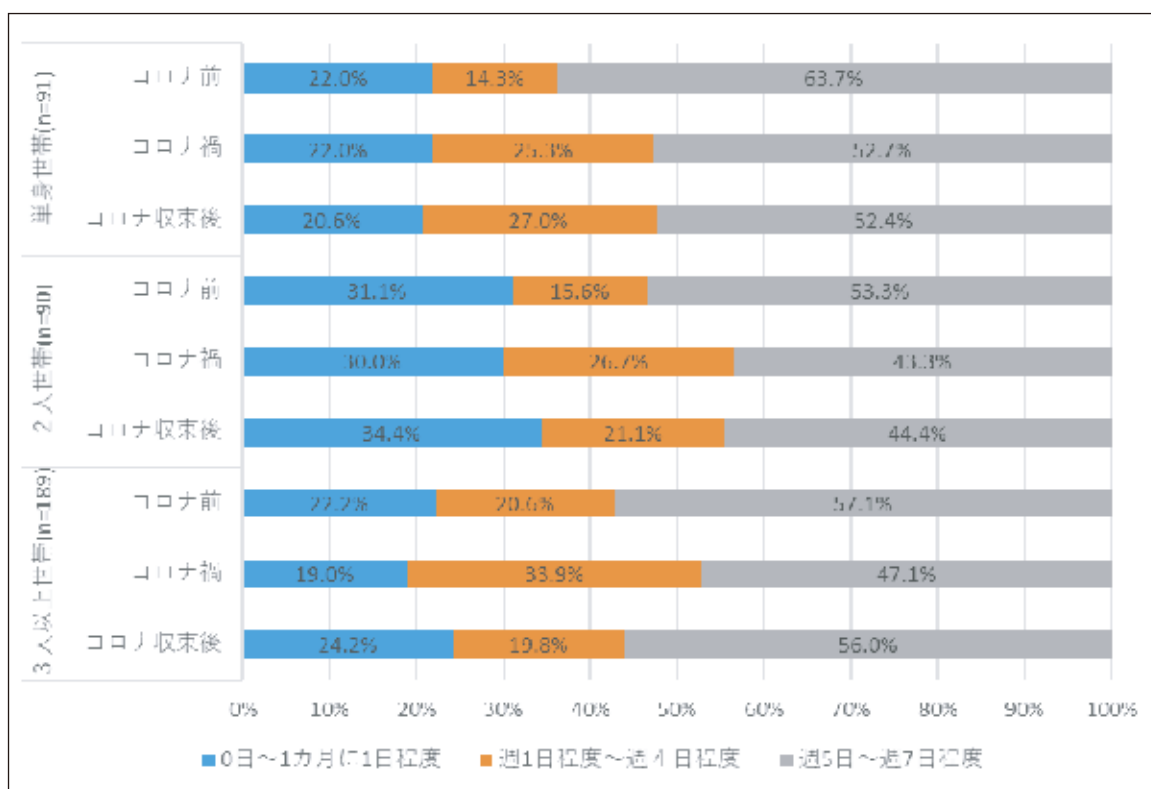
図表2-4-6 雇用形態別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数



世帯員数で大きな違いはみられない

世帯員数別では、コロナ前・コロナ禍・収束後にかかわらず、単身世帯や3人以上世帯に比較して2人世帯の週5日～週7日程度の割合が低い傾向がみられた。

図表2-4-7 世帯員数別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数



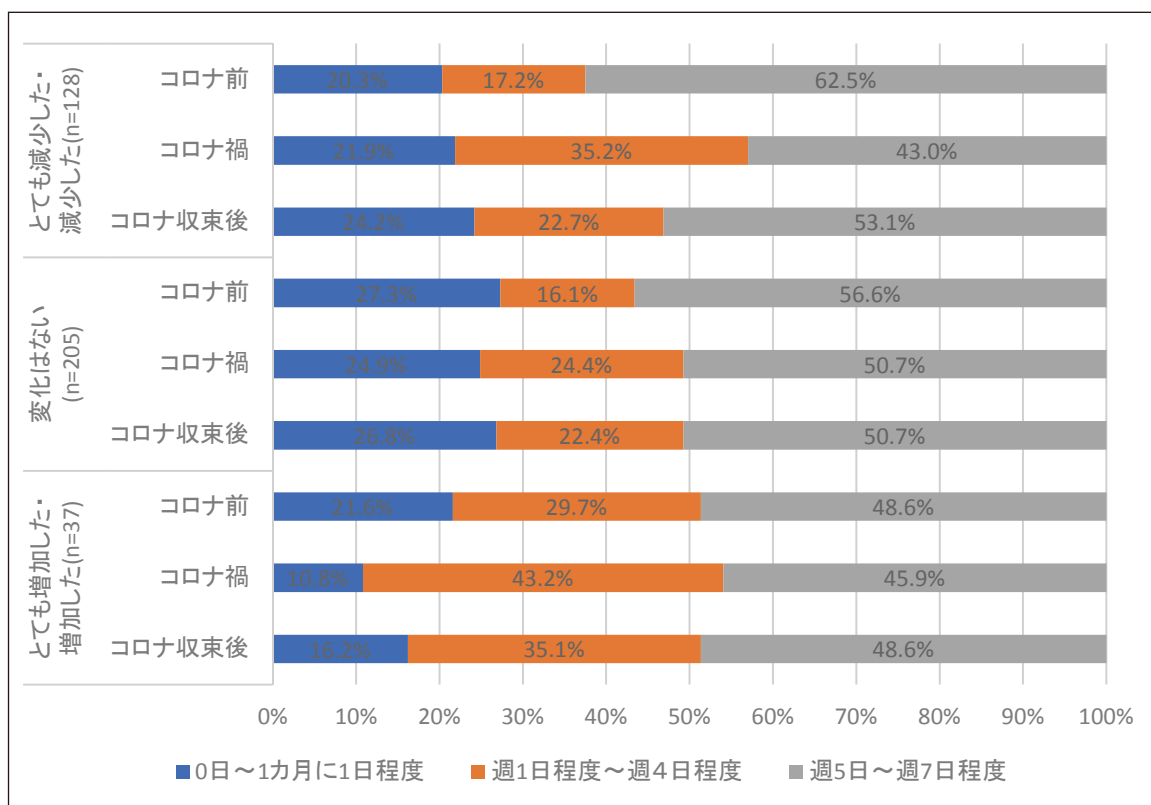
世帯収入が減少した回答者はコロナ前に5日～週7日程度勤務していた割合が高い

世帯収入の変化別に平均勤務日数の割合をみると、まず収入の変化はない回答者では、コロナ前の「週5日～週7日程度」の割合が56.6%だが、コロナ禍・収束後では50.7%であり、コロナによってやや勤務日数が減少していることがうかがえる。

次に世帯収入が増加した回答者では、世帯収入に変化のない回答者と同様に「週5日～週7日程度」の割合が高いものの、コロナ禍の「週1日～週4日程度」の割合が43.2%と他の期間および他の世帯収入が減少した回答者や変化のない回答者に比較して高い値を示している。

続いて世帯収入が減少した回答者では、コロナ前において「週5日～週7日程度」の割合が62.5%と最も高いが、コロナ禍において43.0%で減少している。そしてコロナ収束後においては53.1%とコロナ禍に比較して勤務日数を増加させることを希望していることがうかがえる。

図表2-4-8 世帯収入の変化別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数



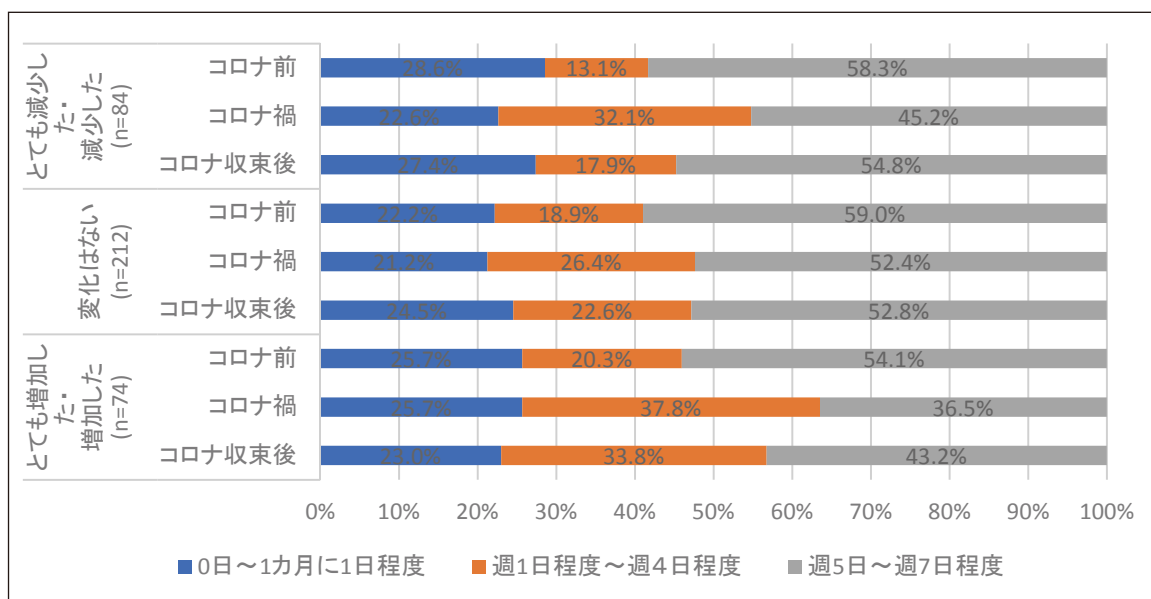
世帯支出が増加した回答者は、コロナ前に週5日～週7日程度勤務していた割合が高い

世帯支出の変化別に平均勤務日数の割合をみると、まず支出の変化のない回答者では、コロナ前・コロナ禍・収束後の「週5日～週7日程度」の割合が5割程度であり、勤務日数の大きな変化はみられない。

次に世帯支出が増加した回答者では、コロナ前は世帯収入の変化がない回答者と概ね同様の傾向がみられるが、コロナ禍において「週5日～週7日程度」よりも「週1日～週4日程度」が大きな値を示している。コロナ禍において世帯支出は増加し、勤務日数は減少していると解釈できる。なお、コロナ収束後では「週1日～週4日程度」が減少し、「週5日～週7日程度」が増加したことから、コロナ禍において世帯支出が増加した回答者であっても、今後は勤務日数を増加させる意向がうかがえる。

続いて世帯支出が減少した回答者では、コロナ前の「週5日～週7日程度」が58.3%と高く、コロナ禍に45.2%と減少し、コロナ収束後では54.8%に概ね回復している。

図表2-4-9 世帯支出の変化別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の平均勤務日数



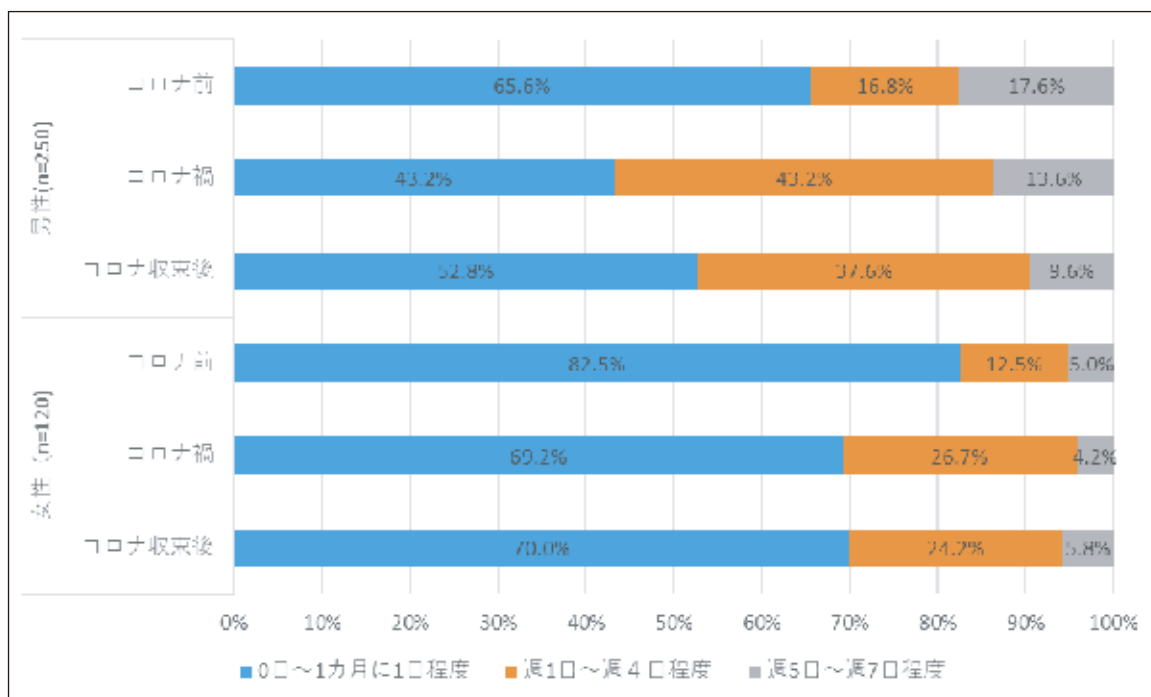
イ コロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数と回答者属性の関係

男女ともにコロナ禍で完全在宅勤務を導入している傾向あり

男性はコロナ収束後に完全在宅勤務が減少するが、女性は大きな変化があるとは考えにくい

性別でみると、男女ともにコロナ前に比較してコロナ禍では週1日～週4日程度、完全在宅勤務をする割合が大きくなっている。ただし、コロナ収束後において女性はコロナ禍の完全在宅勤務日数からほとんど変化がないのに対し、男性では週1日～週4日程度および週5日～週7日程度の割合が小さくなり、反対に0日～1カ月1回程度の割合が大きくなっており、コロナ収束後に女性に比較して男性は出勤する意向を持っている可能性が考えられる。

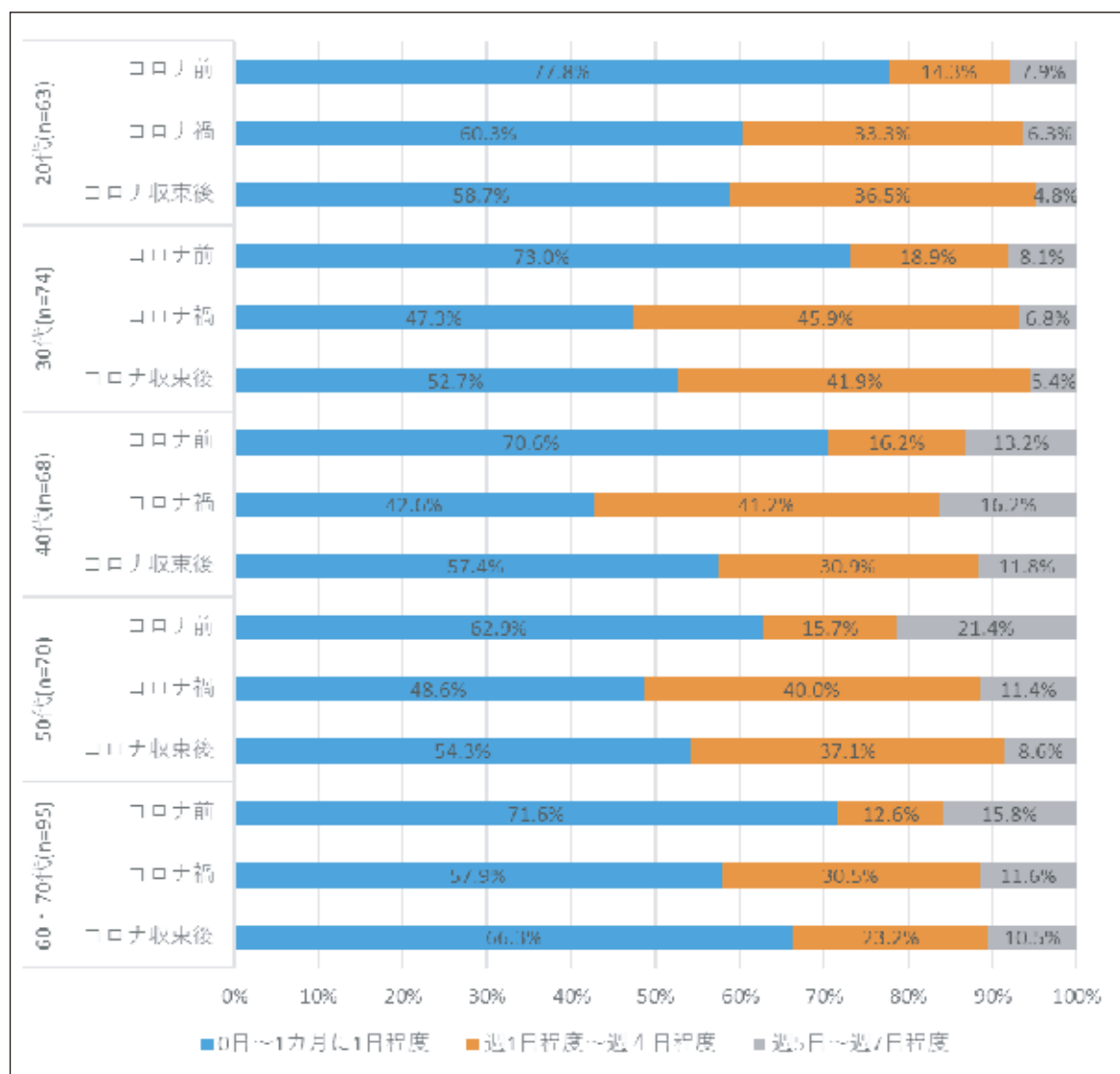
図表2-4-10 男女別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



30代～60・70代ではコロナ収束後に完全在宅勤務日数を減らす傾向がみられるが、20代ではコロナ禍の完全在宅勤務日数を概ね継続する傾向がみられる

すべての年代でコロナ前に比較してコロナ禍において完全在宅勤務日数が増加している傾向がみられる。ただし、コロナ収束後においては30代～60・70代で0日～1ヵ月に1日程度の割合が大きくなる、すなわち完全在宅勤務を減らす傾向がみられるのに対し、20代ではコロナ禍とコロナ収束後の割合に大きな違いはみられず、20代ではコロナ禍の完全在宅勤務状況が継続される様子が見える。

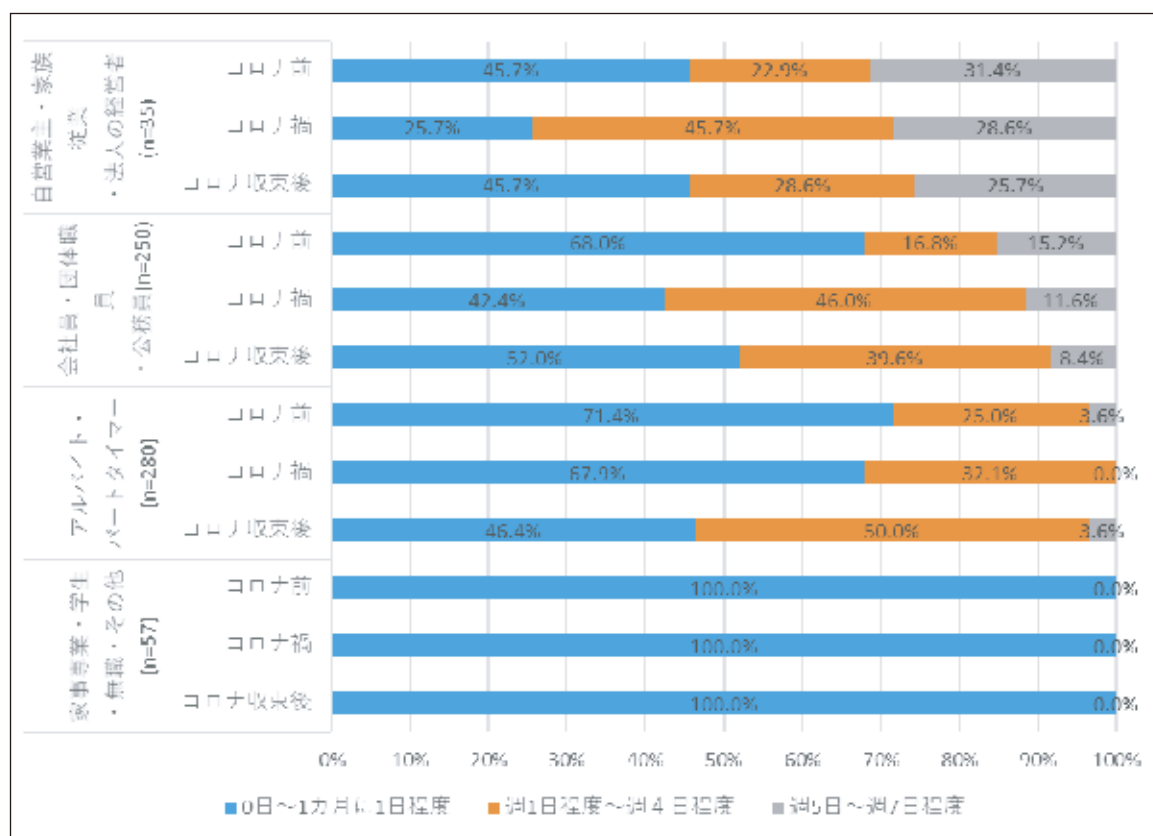
図表2-4-11 年代別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



自営業主・家族従業・法人の経営者と会社員・団体職員・公務員では、コロナ禍で完全在宅勤務日数が増えたが、アルバイト・パートタイマーでは完全在宅勤務日数に大きな変化はみられない

勤務形態別では自営業主・家族従業・法人の経営者と会社員・団体職員・公務員ではコロナ前に比較してコロナ禍で完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後では同日数が減少する傾向がみられる。それに対し、アルバイト・パートタイマーではコロナ前とコロナ禍で完全在宅勤務日数に概ね変化がないが、コロナ収束後には週1日程度～週4日程度の割合が20ポイント程度増えていることから、コロナ禍において完全在宅勤務日数に変化はなかったものの、コロナ収束後では同日数を増やしたい意向があることがうかがえる。

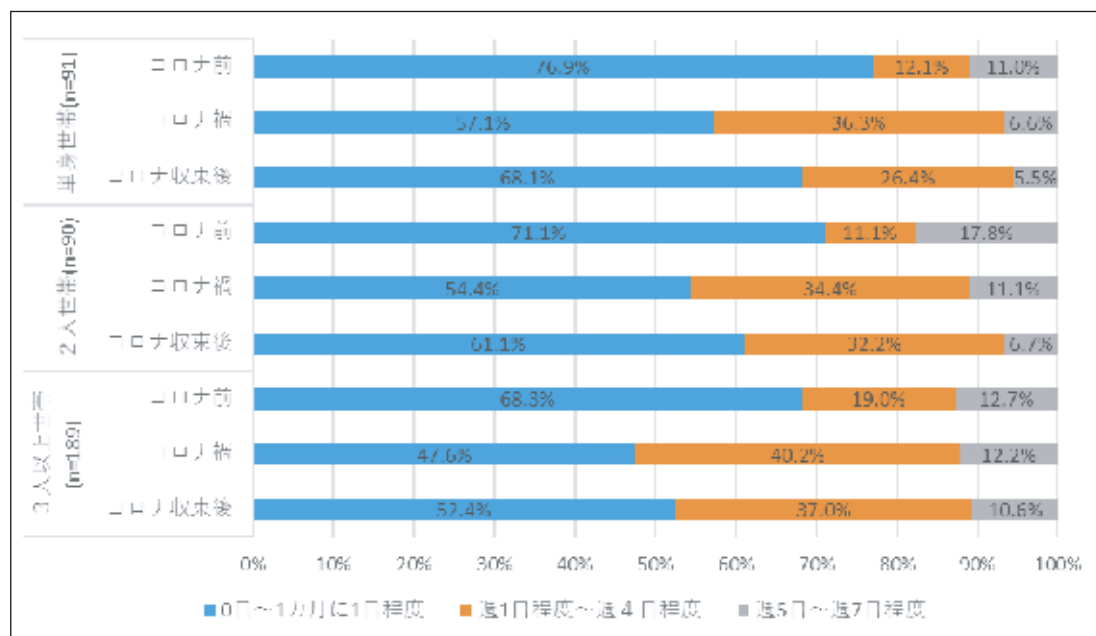
図表2-4-12 雇用形態別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



単身世帯・2人世帯・3人以上世帯のすべてでコロナ前に比較してコロナ禍で完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には減少する見通し

世帯員数別では区分した3つすべての世帯員数区分でコロナ前に比較してコロナ禍において完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には同日数を減少しようとする意向がうかがえる。

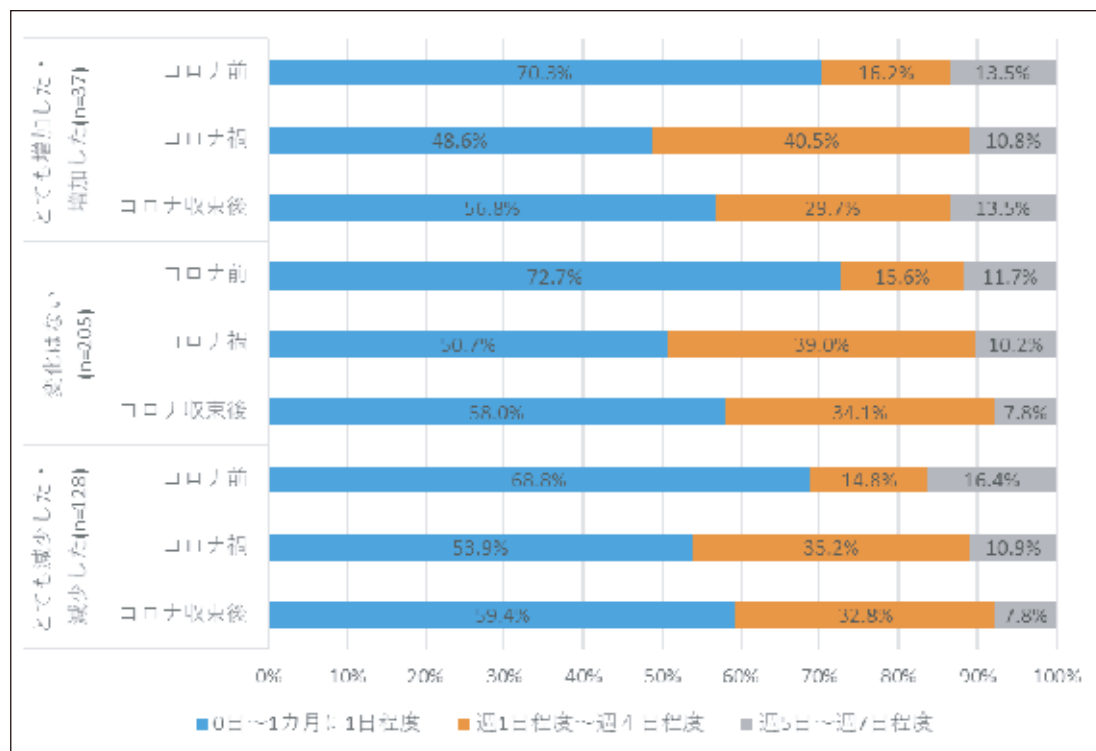
図表2-4-13 世帯員数別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



世帯収入の変化にかかわらず、コロナ前に比較してコロナ禍で完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には減少する見通し

世帯収入の変化別では、世帯収入の変化の増減にかかわらず、コロナ前に比較してコロナ禍において完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には同日数を減少しようとする意向がうかがえる。

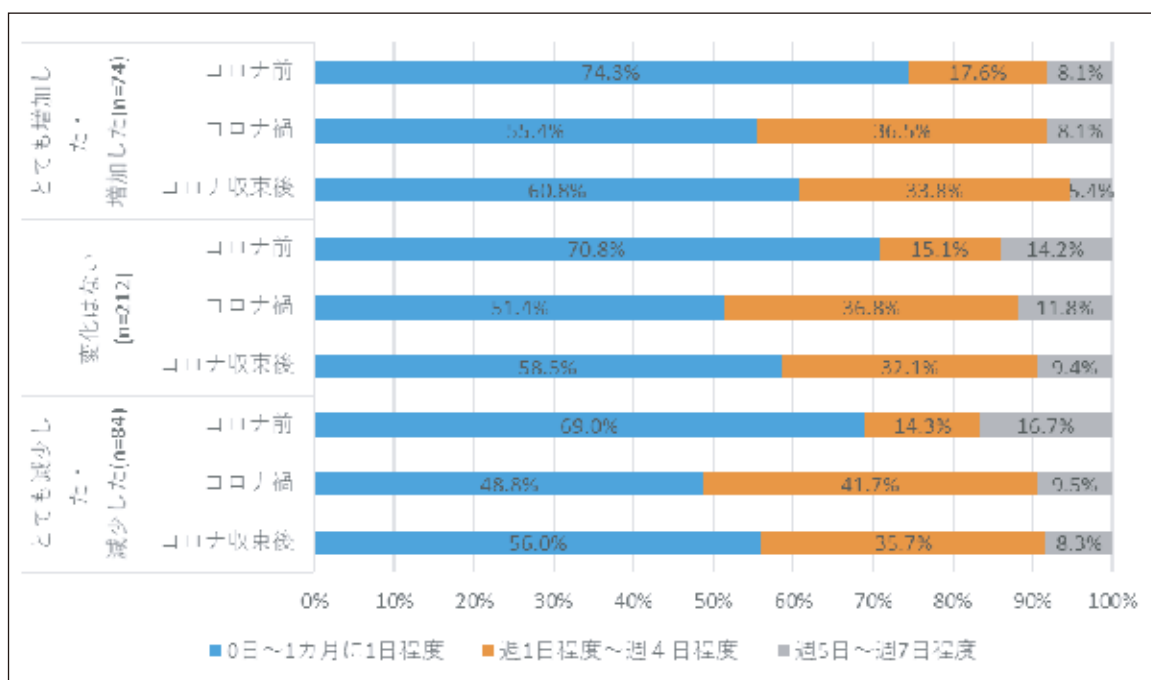
図表2-4-14 世帯収入の変化別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



世帯支出の変化にかかわらず、コロナ前に比較してコロナ禍で完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には減少する見通し

世帯収入の変化別では、世帯収入の変化の増減にかかわらず、コロナ前に比較してコロナ禍において完全在宅勤務日数が増加し、コロナ収束後には同日数を減少しようとする意向がうかがえる。

図表2-4-15 世帯支出の変化別にみたコロナ前・コロナ禍・収束後の完全在宅勤務日数



(3) 詳細分析

ア 結果及び考察

平均勤務日数、全在宅勤務日数と部分在宅勤務日数を把握

コロナ前・コロナ禍・コロナ収束後（予想）の平均勤務日数と完全在宅勤務日数と部分在宅勤務日数を「0日」から「週7日程度」から選択してもらった。

選択肢（「0日」から「週7日程度」）を月間勤務日数に変換し、在宅比率 = 在宅 / 勤務日数として算出する。なお、雇用形態の質問において家事専業・学生・無職を選択した回答者は分析から除外した。

図表2-4-16 勤務日数を変換した定義

勤務日数の選択肢	在宅勤務日数の変換値			在宅勤務日数 =完全在宅勤務日数 +部分在宅勤務日数
	平均 勤務日数	完全 在宅勤務日数	部分 在宅勤務日数	
1 0日	0	0	0	0
2 数か月に1回程度	0.5	0.5	0.25	0.75
3 1か月に1日程度	1	1	0.5	1.5
4 週1日程度	4	4	2	6
5 週2日程度	8	8	4	12
6 週3日程度	12	12	6	18
7 週4日程度	16	16	8	24
8 週5日程度	20	20	10	30
9 週6日程度	24	24	12	36
10 週7日程度	28	28	14	42

イ 結果及び考察

コロナ収束後の在宅勤務比率は現在よりも低くなる傾向

在宅勤務比率の全体の傾向はコロナ前30.2%、コロナ禍47.8%、コロナ収束後（予想）39.4%を示している。

コロナによって約半数は在宅勤務となっているが、コロナ収束後には在宅勤務の割合は減少する見通しといえる。ただし、完全にコロナ前（30.2%）に戻ることもないと推察される。

図表2-4-17 コロナ前・コロナ禍・コロナ収束後別にみた在宅勤務比率の変化

	n	コロナ前	コロナ禍	コロナ収束後	コロナ前・禍の在宅勤務比率の推移
有職者計	319	30.2%	47.8%	39.4%	
年代	20代	23.6%	44.9%	42.0%	
	30代	26.2%	47.5%	41.6%	
	40代	27.9%	50.8%	39.1%	
	50代	34.8%	43.0%	34.5%	
	60+70代	38.0%	52.9%	40.1%	
雇用形態	自営業主、家族従業、法人の経営者	47.3%	63.0%	44.0%	
	会社員、団体職員、公務員	29.0%	49.3%	39.9%	
	アルバイト、パートタイマー	21.4%	21.0%	31.3%	
転出予定	考えていない	30.9%	47.0%	36.6%	
	どちらでもない	33.7%	46.5%	42.5%	
	考えている	26.9%	49.9%	41.3%	

コロナ禍の時期には在宅勤務比率が半数程度みられたものの、 コロナ収束後には減少する見込み

就業者の合計では、コロナ前で30.2%、コロナ禍で47.8%と2人に1人は在宅勤務となっている様子がうかがえる。しかし、コロナ収束後（予想）では39.4%でコロナ禍に比較して10ポイント程度低い値を示していることから、コロナ収束後においても在宅勤務が継続、又は増加するとは言い難い。在宅勤務の利便性を踏まえて、コロナ前の在宅勤務比率の水準には戻らないものの、コロナ収束後は現在に比較して在宅勤務が減少する可能性がある。

年代にかかわらず4割程度が在宅勤務を継続する可能性がある

コロナ収束後の在宅勤務比率は年代にかかわらず4割程度であることが見込まれる。なお、年代では、コロナ前・コロナ禍ともに年代が上がるにつれて在宅勤務比率が上がる傾向がみられる。

コロナ前の在宅勤務比率が2～3割であることを踏まえると、コロナ収束後も4割が在宅勤務を継続することから、港区の昼間人口が減少する可能性がある。

会社員・団体職員・公務員ではコロナ収束後も在宅勤務が一定程度残る可能性

雇用形態では、自営業・家族従業・法人の経営者ではコロナ前においても47.3%と高い在宅勤務の実態がみられ、コロナ禍でも63.0%と高い。ただし、コロナ収束後では44.0%であることからコロナ収束後には在宅勤務比率はおおむねコロナ前に戻ると想定される。

一方、会社員・団体職員・公務員ではコロナ前に29.0%、コロナ禍で49.3%に上昇しているものの、コロナ収束後では39.9%となり、減少はするもののコロナ前の水準には戻らない可能性がある。

Ⅲ 昼間人口の動向を踏まえた今後の政策的課題

ここでは、昼間人口の維持・増大と区内での活動の活性化を目標として見据えた場合に、コロナ禍及びポストコロナ※における、港区の今後のまちづくりや行政サービスにおいて留意すべき課題を以下の通り整理する。

港区の優位性である飲食店の充実と国際性に係るブランドイメージの維持の必要性

昼間人口は、港区に対し「飲食店の充実」、「公共交通の利便性」、「国際性の豊かさ」といった側面をポジティブに評価している。これらのうち、公共交通の利便性については特にコロナ禍の影響は少ないと考えられるものの、飲食店の充実、国際性の豊かさについては、コロナ禍により魅力やメリットを実感できる機会が減少している可能性が高い。また、飲食店については、コロナ禍により2年以上、外出の自粛や飲食店の利用に関する制限があり、大きな悪影響を受けている。また、国際性については、コロナ禍発生以降外国人人口の減少が続いている。

こうした状況を踏まえ、昼間人口が評価する港区の魅力を維持するためには、飲食店への支援や国際交流に関する各種団体への支援や情報発信の充実など、質・量の両面での飲食店の充実と国際性に関するブランドイメージの維持に係る取組に留意することが必要と考えられる。

「落ち着いた環境」の充実度の維持とアピールも重要

因子分析により昼間人口の港区に対するイメージを分析したところ、上述の通り飲食店の充実度や交通利便性、国際性など「活気」に関する要素への評価が高い一方で、自然の豊かさや静けさ、環境への配慮など「落ち着いた環境」に関する要素への評価も高いことが把握された。また、重回帰分析による昼間人口の属性とイメージとの関係に関する分析では、20代において特にこの「落ち着いた環境」への評価が高いことが把握された。

このため、主に定住人口が重視するこうした要素は、若い世代を中心に昼間人口のニーズに対応する観点からも重要であることから、その維持・改善や充実度の内外へのアピールなどに係る取組に留意することが必要と考えられる。

昼間人口の転入促進の観点からも「落ち着いた環境」の充実度の維持とアピールが重要

昼間人口は、日常的に港区に訪れる機会が多いことから、港区への認知度、理解度が高く、港区への転入の可能性が比較的高いと想定される。こうした観点から、昼間人口の引越し可能性と引越しに当たっての地域選好要因について整理すると、引越し意向を有する人は31.4%を占めているとともにコロナ禍により重要度が上昇した引越し先の選択要因として、医療機関や買い物環境、治安、通信環境の良さ、魅力的な商店街や店舗、行政サービスのオンライン化進展度などがあげられている。これらは、上述の「落ち着いた環境」に加えて、在宅勤務の普及に伴い重視される事項といえる。実際に昼間人口の在宅勤務比率はコロナ禍において大きく上昇し、ポストコロナでもコロナ禍以前より高い水準となることが見込まれている。このため、昼間人口の転入促進に向けて、在宅勤務にも配慮した、静かで落ち着いた生活環境の維持・改善や充実度の内外へのアピールなどに係る取組に留意することが必要と考えられる。

※ コロナ禍後を指す。アフターコロナとも。

IV 自由記述による回答

ここでは、Web アンケート調査としてすべての設問を回答した後に、「調査に関連した意見」として自由記述による回答を求めた結果（有効回答20件）を示す。

原則として、港区や感染症に関連する意見のみを対象とし、Web アンケート調査に対する意見（「答えやすいアンケート調査だった」「質問項目が多い」等）や空欄を埋めるための回答（「特にない」「ありがとうございました」等）は対象外としている。また、意見については肯定的な意見も否定的な意見もすべて掲載し、一部の回答については誤字脱字の修正のみにとどめ、原文のまま掲載している。

（1）類型の結果

ア コロナ禍の社会について

感染症の状況を脱したい思いは大きいですが、感染症を受けて生活を見直す回答者もみられた

図表4-1 自由記述による意見（コロナ禍の社会について）

- ・ 40代女性 コロナ禍になってからの生活の変化を改めて振り返る事ができた。 コロナになってから家族で外食を全くしなくなったので寂しい。
- ・ 20代男性 港区について色々考える良いきっかけになりました。ありがとうございました。コロナワクチンの接種を早く終わらせて、安心安全な状態で東京都港区にも訪れたいと思います。コロナが早く終息し、より良い日本になることを切に願っております。この度はアンケートありがとうございました。
- ・ 40代男性 はやくコロナ禍の状況から抜け出したい。
- ・ 70代男性 コロナ禍の前後の行動や港区の印象を問われていますが、何よりも早く減少傾向に移行することを望むのみです。

イ ワクチンについて

ワクチンの有効性に対して懐疑的な意見もみられ、また摂取状況にも市区町村ごとに違いがあることを不満に思う回答者もみられた

図表4-2 自由記述による意見（ワクチンについて）

- ・ 70代男性 新たに開発されたワクチン、歴史も何もないワクチンを何故ここまで信用して接種しろというのか？ 将来後遺症が発覚した場合、政府は責任をとれるのか？
- ・ 40代男性 ワクチン接種でなぜ死者が出るのか教えて欲しい。
- ・ 50代女性 コロナによる感染者数が増えていますが、私が住む区では、ワクチンを受けたくても予約ができない現状です。その事について調べて回答して欲しいです

ウ 港区について

港区について上流階級などのイメージもあるが、イメージがわからない回答者や港区内でも地域ごとに異なる印象を持っている回答者もみられた

図表4-3 自由記述による意見（港区について）

- ・ 50代男性 港区へは通勤でしか行かないので細かいことはわかりません。
- ・ 60代男性 港区は新橋と品川しかあまり用がない。赤坂辺りに住めたら楽しいかもしれない。その点では興味深い調査ではあった。
- ・ 30代女性 港区のイメージがあまりわからなかったのが、参考になるかどうか、
- ・ 40代女性 港区といっても新橋から六本木、青山まで特色がちがう街のため一概には言えない。
- ・ 20代男性 港区に住む人間はごく一部の upper class にカギられるのでは。

エ コロナ禍の政策支援について

飲食業の再開、飲食業以外の支援を求める声がみられる

図表4-4 自由記述による意見（コロナ禍の支援策について）

- ・ 20代男性 少しでも早くコロナが落ち着いて早く平和にかつ安心して暮らせる時代が来てほしいと思った。全員で解決すべき問題であると感じた。港区の関連性はよくわからないが、高級レストランなどが休業している状況なので早く再開に向かってほしい。
- ・ 60代男性 飲食業以外の補助金も支給して欲しい。
- ・ 60代男性 長期的な見通しを知りたい。この状況が2、3年なのか、10年以上終息にかかるのかが知りたい。住みたい街もなにも行動の自由が制限される状況では検討しようがない。
- ・ 40代女性 不安はあるが、国や自治体、関係団体のみなさんがそれぞれ動いてくださっていると思うので、妨げることもないように行動していきたい
- ・ 70代女性 オリンピック開催せずにコロナ退治したらどうなったでしょう。金を獲得してるのを見ると…複雑な思いです。

オ その他

図表4-5 自由記述による意見（その他）

- ・ 50代男性 コロナ禍で大変なこともあると思いますが、「声なき声」を各方面に届けていただきたいと思います。
- ・ 50代女性 早くコロナがおさまりますように。
- ・ 60代女性 早く元の生活に戻れるよう願う

V 分析手法の解説

1 平均値の有意差の有無を確認する手法（t 検定）

異なる集団の母平均（母集団における平均値）に差があるかを調べる検定方法：t 検定

「比較するデータ母集団に意味がある差があるかどうか」を示す値「t 値」を算出。2つの群（昼間人口と定住人口）の平均値、標準偏差から標準誤差を求め、t 値を用いて母集団の2群の平均値に差があるかを調べる方法。

本報告書では有意水準をアスタリスク（*）で示しており、アスタリスクが多いほど有意差がある可能性が高い（* は10%水準、** は5%水準、*** は1%水準を示している）。統計的に有意差があれば（アスタリスクが付いていれば）、2つの群間に差があると解釈し、有意差がなければ（アスタリスクが付いていなければ）、2つの群間に差があるとは言えないと解釈される

・ t 検定の数式

$$t = \frac{\bar{x}_1 - \bar{x}_2}{\sqrt{\frac{S_1^2}{n_1} + \frac{S_2^2}{n_2}}}$$

2 重回帰分析

港区の総合イメージに影響を与える要因を明らかにする手法：重回帰分析

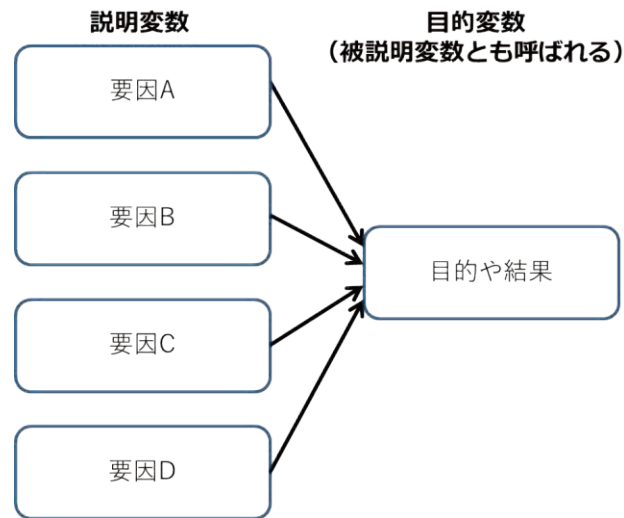
・ 重回帰分析：複数の説明変数を用いることで、他の要因も加味した場合の分析対象の指標（被説明変数という）と影響を与えている要因（説明変数という）の関係性を検出する手法。有意な説明変数（* が付された説明変数）は目的変数（被説明変数ともいう）に影響を与えていると解釈される。

・ 重回帰式

$$y = a + b_1x_1 + b_2x_2 + \cdots + b_kx_k$$

y：目的変数	a：切片
b1：1 番目の説明変数の回帰係数	x1：1 番目の説明変数の値
b2：2 番目の説明変数の回帰係数	x2：2 番目の説明変数の値
⋮	⋮
⋮	⋮
b _k ：最後の説明変数の回帰係数	x _k ：最後の説明変数の値

図表5-1 重回帰分析のイメージ



・言葉の意味（米谷（2018）、山本（2015）を基に作成。）

標準偏回帰係数：目的変数に対する影響度を説明する数値。

調整済決定係数：寄与率とも呼ばれる。説明変数により目的変数がどの程度説明できているかを意味する。常に0～1の間の値をとり、1に近ければ当てはまりがよいことを意味する。

※調整済決定係数が大きい方が望ましいが、実証分析では調整済決定係数に注目することは少なく、各説明変数の有意性に注目することが一般的

有意水準：「仮説」と「観測された結果」との差が誤差など偶然生じたものと言い切れないことを説明する水準。本報告書では有意水準をアスタリスク（*）で示しており、アスタリスクが多いほど説明力が高い（*は10%水準、**は5%水準、***は1%水準を示している）。各説明変数が統計的に有意であれば（アスタリスクが付いていれば）、被説明変数に影響を与えていると判断し、有意でなければ（アスタリスクが付いていなければ）、被説明変数に影響を与えているとは言えないと判断する。

3 因子分析

昼間人口の抱く港区のイメージの構造を分析：因子分析と重回帰分析の活用

港区に対して抱くイメージの構造を明らかにし、その特性を分析するため、個別イメージの評価度を用いて因子分析を行った。

・因子分析：回答者の潜在意識、潜在的能力など変数の背後にある要因（これを因子と呼ぶ）を明らかにする手法。因子は、実際に観測された変数とは別に仮定された変数であり、下記のような式で定義される。（例えば、国語や社会のテストの点数の背後には文系能力、算数や理科のテストの変数の背後には理系能力が作用している。この場合、文系能力や理系能力は測定されるものでなく、測定できるテストの点数から導き出される潜在的な能力となる。）

・ 因子分析式：

$$z_{ij} = a_{j1}f_{i1} + b_{j2}f_{i2} + \cdots + a_{jm}f_{im} + d_j u_{ij}$$

ここでm個の共通因子があることを想定し、mは因子数を示す。i 番目の観測対象者の j 番目の観測変数の標準化データの値。

z：観測された値（i 番目のデータの変数 j の値）

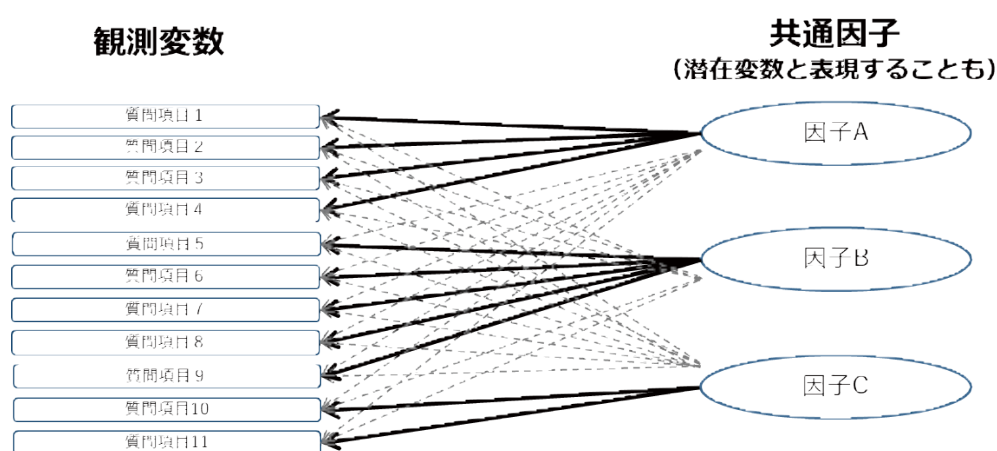
f：因子得点（個々のデータに対する共通因子の値のこと）

a：因子負荷量（共通因子にかかる係数のこと。何番目のデータでも同じ値になる）

u：独自因子（構成概念（共通因子）では説明しきれないデータのふるまい）

d：独自係数（観測変数が独自因子から受ける影響の程度の指標）

図表5-2 因子分析のイメージ



・ 言葉の意味（豊田（2016）を基に作成。）

共通因子：複数の観測変数に影響を与える仮想的変数。単に因子と呼ばれることもあり、本報告書の結果内では「因子」と表記する。

因子負荷：共通因子から観測変数への影響の強さの程度を表す指標。（上述の「因子分析のイメージ」の図中の←部分。）

共通性：当該の観測変数が共通因子から説明される割合。

固有値：大きいほどその因子と分析に用いた変数群との関係が強いことを表す。

累積寄与率：その因子がデータ全体を説明している割合を第一因子から順番に足した値。

クロンバックのα係数：内的整合性（各質問間の回答の一貫性の程度）を示す。0～1の間をとり、値が1に近い方が測定の信頼性が高いことを示す信頼性係数。

主因子法：第1因子から順に因子寄与が最大となるように因子を抽出する方法。

プロマックス回転：因子間に相関があってもいいという条件下で単純構造を目指して因子を変換すること。

VI 引用・参考文献

- ・東京新聞『「東京脱出」4月も止まらず…「一つの町に匹敵する人口」が減少』<https://www.tokyo-np.co.jp/article/101101>（2021年9月30日確認）
- ・大塚敬（2021）「コロナ禍の一年、東京一極集中から流出への人口動向の大転換～2020年度の東京都の人口動向を総括する～」、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング（https://www.murc.jp/report/rc/column/search_now/sn210614/）2021年10月参照
- ・豊田秀樹『因子分析入門』、中央経済社
- ・山本勲『実証分析のための計量経済学 正しい手法と結果の読み方』、東京図書

VII 資料

資料1 設問一覧

事前質問1	現在の居住地域を1つ選択してください。	1	東京都千代田区
		2	東京都中央区
		3	東京都港区
		4	東京都新宿区
		5	東京都文京区
		6	東京都台東区
		7	東京都墨田区
		8	東京都江東区
		9	東京都品川区
		10	東京都目黒区
		11	東京都大田区
		12	東京都世田谷区
		13	東京都渋谷区
		14	東京都中野区
		15	東京都杉並区
		16	東京都豊島区
		17	東京都北区
		18	東京都荒川区
		19	東京都板橋区
		20	東京都練馬区
		21	東京都足立区
		22	東京都葛飾区
		23	東京都江戸川区
		24	23区以外の都内（市・群・島部）
		25	神奈川県
		26	埼玉県
		27	千葉県
		28	その他
事前質問2	現在のあなたの年齢をお答えください。	1	18歳未満
		2	18～19歳
		3	20～24歳
		4	25～29歳
		5	30～34歳
		6	35～39歳
		7	40～44歳
		8	45～49歳
		9	50～54歳
		10	55～59歳
		11	60～64歳
		12	65～69歳
		13	70～74歳
		14	75～79歳
		15	80～84歳
		16	85～89歳
		17	90歳以上
事前質問3	性別をお答えください。	1	男性
		2	女性

事前質問4	コロナ前(2020年2月以前)の1年間程度において、港区にきた頻度の平均を選択してください。	1	週5回以上
		2	週3～4回程度
		3	週1～2回程度
		4	2週間に1～2回程度
		5	1か月に1回程度
		6	コロナ前において港区に行く習慣はなかった。
事前質問5	コロナ禍(2020年3月以降現在まで)において、港区にきた頻度の平均を選択してください。	1	週1回以上
		2	週3～4回程度
		3	週1～2回程度
		4	2週間に1～2回程度
		5	1か月に1回程度
		6	コロナ禍において港区に行く習慣はない。
事前質問6	現在のあなたのご職業で当てはまるものをお答えください。	1	自営業主・家族従業
		2	法人の経営者
		3	会社員・団体職員・公務員
		4	アルバイト・パートタイマー
		5	家事専業
		6	学生
		7	無職
		8	その他
事前質問7-1	現在の同居家族の人数及びそれぞれの同居人の状況をお答えください。(ご自身の人数は含めません)人数	1	0人
		2	1人
		3	2人
		4	3人
		5	4人
		6	5人
		7	6人
事前質問7-2	あなたとの関係	1	配偶者
		2	子ども
		3	親
		4	その他親族
		5	その他同居人
事前質問7-3	年齢(1～6人目)		0～120歳
事前質問7-4	性別(1～6人目)	1	男性
		2	女性
事前質問8	あなた自身、もしくはあなたの同居家族に次の方はいますか。	自分自身	1 就学前(0～5歳)の子ども
			2 小学生
			3 中学生
			4 高校生
			5 介護を受けている方
			6 左記に該当するものはいない
		同居家族	1 就学前(0～5歳)の子ども
			2 小学生
			3 中学生
			4 高校生
			5 介護を受けている方
			6 左記に該当するものはいない

事前質問9	現在のお住まいの所有形態をお答えください。		1	持家（一戸建）
			2	持家（マンション）
			3	借家（一戸建）
			4	民間の賃貸マンション・アパート
			5	都営住宅・区営住宅・区立住宅・特定公共賃貸住宅
			6	UR（旧公団）・公社の賃貸住宅
			7	社宅・公務員宿舎
			8	寮・寄宿舎・住み込み・間借り
			9	その他
事前質問10	新型コロナウイルス感染症の流行以前（2020年2月以前）と現在を比較して世帯としての収支状況に変化はありましたか。	世帯内の収入	1	とても増加した
			2	増加した
			3	変化はない
			4	減少した
			5	とても減少した
	世帯内の支出	1	とても増加した	
		2	増加した	
		3	変化はない	
		4	減少した	
5	とても減少した			
問1-1	あなたの思う「港区」のイメージをお答えください。		1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
問1-2	下記の項目について、あなたの抱く港区のイメージをお答えください。	住宅価格・家賃の水準	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		公共交通機関の利便性	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		道路交通の利便性	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		防災面における安全性	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		治安	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い

問1-2 続き	下記の項目について、あなたの抱く港区のイメージをお答えください。	まちのイメージ	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		景観・街並み	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		自然の豊かさ	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		飲食店の充実度	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		買い物のしやすさ	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		環境に配慮したまちづくり	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		地域コミュニティの活動	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		友人・知人・親族との近接性	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		通信環境の良さ(インターネットへのつながりやすさ)	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		IT・先端技術の普及	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い

問1-2 続き	下記の項目について、あなたの抱く港区のイメージをお答えください。	行政サービスのオンライン化の進展度	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		子育て支援の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		教育環境の充実 (幼稚園・小学校)	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		教育環境の充実 (中学校)	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		教育環境の充実 (高等学校)	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		生涯学習の機会の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		公園の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		スポーツ施設の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		博物館・美術館など文化施設の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		医療機関の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い

問1-2 続き	下記の項目について、あなたの抱く港区のイメージをお答えください。	高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		国際性の豊かさ	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		魅力的な商店街や店舗がある	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		地場産業が盛んである	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		歴史的・文化的である	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		地域の人がやさしさ、おもてなし	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		勤務地と居住地の近接性（近さ）	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		住居における静けさ	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
		その他（自由記入）	1	とてもよい
			2	よい
			3	どちらとも言えない
			4	悪い
			5	とても悪い
問2-1	将来、現在の居住地域から転出するご予定はありますか。		1	考えている
			2	やや考えている
			3	どちらでもない
			4	あまり考えていない
			5	考えていない

問2-2	予定する転出のきっかけとしてご自身やご家族の状況に当てはまるものをお答えください。	1	就職
		2	転勤
		3	転職
		4	退職
		5	進学・卒業
		6	住宅の購入
		7	広い家への住み替え
		8	建て替え・改築
		9	結婚
		10	離婚
		11	同居・同棲
		12	出産
		13	家族や親族から独立するため
		14	親や親族の介護
		15	住まいの賃貸契約の更新が近かった
		16	家計状況の好転（景気の好転）
		17	家計状況の悪化（景気の悪化）
		18	通院
		19	自身の健康上の理由
		20	特に理由はない
		21	リモートワークの普及、在宅勤務が可能になった
		22	人口密集地を脱したい
		23	騒音による住環境の悪化（具体的に： ）
		24	その他要因による住環境の悪化（具体的に： ）
		25	その他（ ）

問2-3	転出先として考えている場所をお答えください。		1	東京都千代田区
			2	東京都中央区
			3	東京都港区
			4	東京都新宿区
			5	東京都文京区
			6	東京都台東区
			7	東京都墨田区
			8	東京都江東区
			9	東京都品川区
			10	東京都目黒区
			11	東京都大田区
			12	東京都世田谷区
			13	東京都渋谷区
			14	東京都中野区
			15	東京都杉並区
			16	東京都豊島区
			17	東京都北区
			18	東京都荒川区
			19	東京都板橋区
			20	東京都練馬区
			21	東京都足立区
			22	東京都葛飾区
			23	東京都江戸川区
			24	23区以外の都内（市・群・島部）
			25	神奈川県
			26	埼玉県
			27	千葉県
			28	北海道
			29	東北（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）
			30	北関東（茨城県、栃木県、群馬県）
			31	信越・北陸（新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県）
			32	東海（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）
			33	近畿（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）
			34	中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）
			35	四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）
			36	九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）
			37	沖縄県
			38	海外
			39	分からない
問2-4	新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。	住宅価格・家賃の水準	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		公共交通機関の利便性	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった

問2-4 続き	新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。	道路交通の利便性	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		防災面における安全性	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		治安	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		まちのイメージ	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		景観・街並み	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		自然の豊かさ	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		飲食店の充実度	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		買い物のしやすさ	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		環境に配慮したまちづくり	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		地域コミュニティの活動	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった

問2-4 続き	新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。	友人・知人・親族との近接性	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		通信環境の良さ (インターネットへのつながりやすさ)	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		IT・先端技術の普及	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		行政サービスのオンライン化の進展度	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		子育て支援の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		教育環境の充実 (幼稚園・小学校)	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		教育環境の充実 (中学校)	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		教育環境の充実 (高等学校)	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		生涯学習の機会の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		公園の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった

問2-4 続き	新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。	スポーツ施設の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		博物館・美術館など文化施設の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		医療機関の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		高齢者・障害者向けの福祉環境の充実	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		国際性の豊かさ	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		魅力的な商店街や店舗がある	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		地場産業が盛んである	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		歴史的・文化的である	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		地域の人がやさしさ、おもてなし	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		勤務地と居住地の近接性（近さ）	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった

問2-4 続き	新型コロナウイルス感染症流行以前と比較して、住む場所を選ぶときに以下の項目について重要度が上がる、または下がることはありましたか。	住居における静けさ	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
		その他（自由記入）	1	とても重要度が上がった
			2	重要度が上がった
			3	変化はない
			4	重要度が下がった
			5	とても重要度が下がった
問3-1	コロナ前（2020年2月以前）の1年間程度において、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。	通勤	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		通学	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		買い物	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		外食	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		家族との面会	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		知人との面会	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった

問3-1 続き	コロナ前（2020年2月以前）の1年間程度において、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。	家族や知人の送迎	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		その他（自由記入）	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
問3-2	コロナ禍（2020年3月以降）において、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。	通勤	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		通学	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		買い物	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		外食	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった

問3-2 続き	コロナ禍（2020年3月以降） ににおいて、下記の理由で港区に訪問したことはありますか。来訪した場合はあてはまる頻度をお答えください。	家族との面会	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		知人との面会	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		家族や知人の送迎	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
		その他（自由記入）	1	週5回以上
			2	週3～4回程度
			3	週1～2回程度
			4	2週間に1～2回程度
			5	1か月に1回程度
			6	この理由で港区に行くことはなかった
問3-3	新型コロナウイルス感染症の流行が収束した未来についておききします。下記の理由において、将来、港区に来る頻度は変化すると思いますか。	通勤	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		通学	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		買い物	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う

問3-3 続き	新型コロナウイルス感染症の流行が収束した未来についておききします。下記の理由において、将来、港区に来る頻度は変化すると思いますか。	外食	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		家族との面会	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		知人との面会	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		家族や知人の送迎	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		趣味、娯楽（習い事、映画館、図書館等）	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
		その他（自由記入）	1	とても増えると思う
			2	増えると思う
			3	来訪回数に変化はない
			4	減ると思う
			5	とても減ると思う
問4	コロナ前（2020年2月以前）、コロナ禍（2020年3月～2021年現在）、コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後における予想）の平均した、勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）、自宅内での完全在宅勤務日数及び部分在宅勤務日数をお答えください。 なお、1日あたりの勤務時間数のうち、すべて自宅で勤務した場合は「完全在宅」、一部を自宅で勤務した場合は「部分在宅」とします。 （例えば、午前中は自宅で勤務し、午後は出社した場合を部分在宅とします。） また、本設問の「勤務」には、賃金が発生しない家事・育児・介護は含みません。	コロナ前（2020年2月以前）における平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度

問4 続き	コロナ前（2020年2月以前）、コロナ禍（2020年3月～2021年現在）、コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後における予想）の平均した、勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）、自宅内での完全在宅勤務日数及び部分在宅勤務日数をお答えください。 なお、1日あたりの勤務時間のうち、すべて自宅で勤務した場合は「完全在宅」、一部を自宅で勤務した場合を「部分在宅」とします。（例えば、午前中は自宅で勤務し、午後は出社した場合を部分在宅とします。） また、本設問の「勤務」には、賃金が発生しない家事・育児・介護は含みません。	コロナ前（2020年2月以前）における完全在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ前（2020年2月以前）における部分在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における完全在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ禍（2020年3月～2021年現在）における部分在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度

問4 続き	コロナ前（2020年2月以前）、コロナ禍（2020年3月～2021年現在）、コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後における予想）の平均した、勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）、自宅内での完全在宅勤務日数及び部分在宅勤務日数をお答えください。 なお、1日あたりの勤務時間のうち、すべて自宅で勤務した場合は「完全在宅」、一部を自宅で勤務した場合は「部分在宅」とします。（例えば、午前中は自宅で勤務し、午後は出社した場合を部分在宅とします。） また、本設問の「勤務」には、賃金が発生しない家事・育児・介護は含みません。	コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における 平均勤務日数（在宅および出社した日数を合計した日数）	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における 完全在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度
		コロナ後（新型コロナウイルス感染症の収束後の予想）における 部分在宅の勤務日数	1	0日
			2	数か月に1回程度
			3	1か月に1日程度
			4	週1日程度
			5	週2日程度
			6	週3日程度
			7	週4日程度
			8	週5日程度
			9	週6日程度
			10	週7日程度

昼間人口の区内の活動と意識に係るアンケート調査報告書 関係者名簿

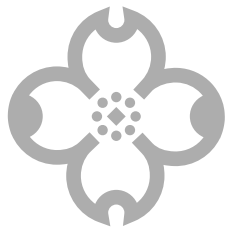
令和4年3月現在

【港区政策創造研究所】

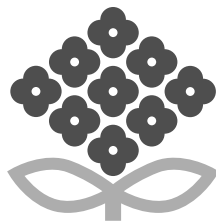
大塚 敬	港区政策創造研究所所長 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 自治体経営改革室長) [調査統括]
大澤 鉄也	港区政策創造研究所副所長 (港区企画経営部長)
西川 杉菜	港区政策創造研究所主任研究員 (港区企画経営部企画課長)
大森 崇広	港区政策創造研究所研究員 (港区企画経営部企画課政策研究担当係長)
大塚 真澄	港区政策創造研究所研究員 (港区企画経営部企画課政策研究担当)
玉木 志穂	港区政策創造研究所研究員 (東京農業大学大学院 博士(農業経済学))

港区「区の木・区の花」

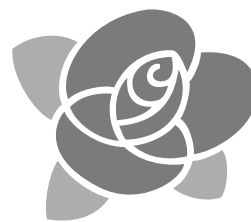
区の木 ハナミズキ



区の花 アジサイ



区の花 バラ



刊行物発行番号 2021244-5811

昼間人口の区内の活動と意識に係るアンケート調査報告書

令和4年（2022年）3月発行

発行 港区政策創造研究所（港区企画経営部企画課）

〒105-8511 東京都港区芝公園1-5-25

電話 03-3578-2111（代表）

